

令和6（2024）年度 共通科目シラバス

愛知みずほ短期大学

みずほ教養演習

更新日：2024/02/11 21:37:01

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A200100	授業コード	
担当教員	全常勤教員、加藤 佐千雄						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバ	1C111	授業形態	講義・演習	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	企業で人材開発たずさわり、現在も人材開発・組織開発コンサルタントを行っている講師により、企業人向けに行っている問題解決力向上プログラムの内容を、学生向けにわかりやすく再構成して、授業を行う。学生でも、社会人でも、共通して必要とされるスキルを学ぶ。					

授業概要

内容	2年間という短い学生生活を有効かつ有意義に過ごすため、早期に本学を知り、学校施設に慣れ、他の学生や教職員と良好な関係を築くことを目的とする。前半は調べ学習を含む自校教育と、本学の建学の精神に係る「赤十字救急法基礎講習」で構成している。後半のロジカルシンキングとは、「正しいすじみちで考える」ことである。生きていく上で出会う様々な困難や身の回りの問題にたいして、効果的な解決策を考えるため基本的な思考方法を学ぶ。
方法	授業前半（1回～9回）は講義、調べ学習、グループワークにより行います。授業後半（10回～15回）は、スライドによる講義と講義内容に沿った演習問題を行います。演習問題は全員に回答してもらいます。指名された人は、自分の考えを述べて下さい。授業の最後に「今回の課題」を出しますので、提出してください。毎回評価を行い、よいレポートは次の授業で全体共有します。

到達目標

1	本学の「建学精神」を理解し、それに対する自分の考えをまとめることができる。
2	課題に対して真剣に取り組み、まとめることができる。
3	グループワークにおいて、他者と協力して取り組むことができる。
4	学習した内容を理解して、その内容に沿って考えることができる。
5	自分の考えたことを、分かりやすく書いて伝える。
6	一見難しいと思うような事柄に対して粘り強く考える。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	20
到達目標②	課題作成	20
到達目標③	受講態度	10
到達目標④	ワークシート	15
到達目標⑤	ワークシート	20
到達目標⑥	ワークシート	15

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて随時、提示する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて随時、提示する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

(前半) 水野：s-mizuno@mizuho-c.ac.jp

(後半) 加藤：授業後（12：10～13：00） pteacher-tandai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

提出された課題などの回答や質問に対して、次回授業で時間をとって対応する。

課題に対するフィードバック

毎回10分程度で取り組める課題を、授業の最後10分間に出示します。

その内容を毎回評価し、良い内容については次の授業で共有します。自分の課題に対するフィードバックが欲しい人には個別に質問を受けつけます。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 短大での学びかた	予習：HPを見て、本学のことを確認する。 復習：学んだことを復習する。	
第2回	「建学の精神」を理解し、講義から感じたことを記述する	予習：HPを見て、本学の建学の精神を確認する。 復習：学んだことを復習する。	A
第3回	自校学習 「母子健康手帳」の理解	予習：母子健康手帳について調べる。 復習：学んだことを復習する。	A
第4回	テーマについて調べ学習	予習：母子健康手帳について深く調べる。 復習：まとめの準備をする。	A
第5回	調べたことをまとめる	予習：母子健康手帳についてレポートのまとめ方を考える。 復習：レポートにまとめる。	A
第6回	パソコンで入力し、原稿に仕上げる	予習：母子健康手帳についてレポートのまとめ方を考える。 復習：レポートにまとめる。	A
第7回	赤十字救急法基礎講習（講義）	予習：一時救命処置について調べる。 復習：学んだことを復習する。	A
第8回	赤十字救急法基礎講習（グループで実技講習）	予習：AEDの使い方について調べる。 復習：学んだことを復習する。	B
第9回	赤十字救急法基礎講習（グループで実技講習）	予習：心肺蘇生について調べる。 復習：学んだことを復習する。	B
第10回	ロジカルシンキングの大切さ学ぶ この授業の進め方を知る	予習：ロジカルシンキングとは何か調べてくる 復習：「考える」ことを意識的に行う	B
第11回	前回の課題のフィードバック ロジカルシンキング①目的を考える	予習：前回の授業をふり返る 復習：学習したことを意識的に使ってみる	B
第12回	前回の課題のフィードバック ロジカルシンキング②問題を明確にする	予習：前回の授業をふり返る 復習：学習したことを意識的に使ってみる	B
第13回	前回の課題のフィードバック ロジカルシンキング③原因を考える	予習：前回の授業をふり返る 復習：学習したことを意識的に使ってみる	B
第14回	前回の課題のフィードバック ロジカルシンキング④解決策を考える	予習：前回の授業をふり返る 復習：学習したことを意識的に使ってみる	B
第15回	前回の課題のフィードバック 総合演習：私たちの抱えている問題の解決策を考える	予習：前回の授業をふり返る 復習：学習したことを意識的に使ってみる	B
	実施せず		

みずほゼミⅠ《養護》

更新日：2024/02/28 15:03:15

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A200220	授業コード	
担当教員	丹下 洋吾、鷲野 嘉映、渡辺 美恵						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	2L211	授業形態	演習	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、現代的な健康課題の理解、資料作成やプレゼン発表などを通して、養護教諭として必要となる様々な力を身につけさせる授業を行う。この授業における学びは、卒業後、社会人として養護教諭として、伝達する力の発揮につながる。					

授業概要

内容	現代的な健康課題の理解を基盤に学びを深める。学習意欲・態度及び職業意識を涵養しながら、養護教諭として必要となる基礎基本となる学力、発表、伝達する力等を養う。
方法	学び方を学びながら現代的な健康課題をテーマにしたレポートの作成やプレゼンテーションを行う。

到達目標

1	短大での学び方（図書館の利用の仕方、レポートの作成ルールなど）を理解することができる。
2	多角的に情報を収集・分析してレポートを記述することができる。
3	レポートの内容を他者に分かりやすく説明することができる。
4	積極的に、授業に参加することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	中日春秋書き写しノート・授業に対する取組状況	26
到達目標②	成果物（レポート）	35
到達目標③	レポート内容の発表	24
到達目標④	授業に対する意欲と態度	15
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	学校保健実務必携	第一法規	学校保健・学校安全実務研究会編
2	学校保健の課題とその対応—令和2年度改訂—		日本学校保健会

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

【丹下】月曜日 9:00～12:00 1号館3階 研究室1

【鷲野】月曜日 12:10～12:55 研究室2-2

【渡辺】月曜日 9:00～12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

各回において、貸与パソコンを使用できるよう準備しておくこと。参考資料などの事前準備が必要な場合は、図書館を利用することを勧める。作成したレポートや資料については、指示した期限内での提出を必須とする。加えて、中日春秋書き写しノート（提出期限：第15回）を提出すること。

第5～11回：レポート作成にあたり事前に必要な資料等を準備して臨むこと。

課題に対するフィードバック

提出を求めるレポート等は、事前に提供されるルーブリックにより評価し、コメントを付けるなどして返却する。

授業計画

授業回	学修計画

	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	授業への取組Ⅰ 基礎ゼミⅠの進めかた スタディスキルズ	予習：シラバスを読み，授業内容をイメージする 復習：取り組みかたについて確認する	B
第2回	授業への取組Ⅱ 図書館の利用方法 ＊書籍やPCを活用し，資料を収集する	予習：図書館利用について，ハンドブックで確認する 復習：資料の収集方法について整理する	A
第3回	授業への取組Ⅲ レポートの書き方① ＊PCを活用し，レポートを作成する	予習：自身で準備したトピックスについて考えをまとめレポート作成に必要な資料を準備する 復習：資料の収集方法について整理する	A
第4回	授業への取組Ⅳ レポートの修正 ＊PCを活用し，レポートを修正する	予習：レポートの修正に必要な箇所を確認する 復習：レポート作成方法について整理する	A
第5回	現代的健康課題への対応について考えるⅠ レポート作成 【生活習慣の乱れ】 ＊PCを活用し，レポートを作成する	予習：レポート作成に必要な資料を準備する 復習：レポートを完成させ提出する	A
第6回	現代的健康課題への対応について考えるⅡ レポート修正 【生活習慣の乱れ】 ＊PCを活用し，レポートを作成する	予習：指導を受けた内容について加筆修正をする 復習：レポートを完成させ提出する	A
第7回	現代的健康課題への対応について考えるⅢ レポート作成 【メンタルヘルス】 ＊PCを活用し，レポートを作成する	予習：レポート作成に必要な資料を準備する 復習：レポートを完成させ提出する	A
第8回	現代的健康課題への対応について考えるⅣ レポート作成 【アレルギー疾患】 ＊PCを活用し，レポートを作成する	予習：レポート作成に必要な資料を準備する 復習：レポートを完成させ提出する	A
第9回	現代的健康課題への対応について考えるⅤ レポート作成 【性の問題行動】 ＊PCを活用し，レポートを作成する	予習：レポート作成に必要な資料を準備する 復習：レポートを完成させ提出する	A
第10回	現代的健康課題への対応について考えるⅥ レポート作成 【薬物乱用】 ＊PCを活用し，レポートを作成する	予習：レポート作成に必要な資料を準備する 復習：レポートを完成させ提出する	A
第11回	現代的健康課題への対応について考えるⅦ レポート作成 【感染症】 ＊PCを活用し，レポートを作成する	予習：レポート作成に必要な資料を準備する 復習：レポートを完成させ提出する	A
第12回	現代的健康課題への対応について考えるⅧ レポート作成 【ロコモティブシンドローム】 ＊PCを活用し，レポートを作成する	予習：レポート作成に必要な資料を準備する 復習：レポートを完成させ提出する	A
第13回	現代的健康課題への対応について考えるⅨ 発表資料の作成 ＊PCを活用し，発表資料を作成する	予習：第5～12回で作成したレポートを読み返す 復習：発表用のPPT資料を作成する	
第14回	現代的健康課題への対応について考えるⅩ 発表会① ＊PCを活用し発表する	予習：発表用資料と原稿を完成させる 復習：他の発表者からの学びをまとめる	B
第15回	現代的健康課題への対応について考えるⅪ 発表会② ＊PCを活用し発表する	予習：発表用資料と原稿を完成させる 復習：他の発表者からの学びをまとめる	B
	実施せず		

みずほゼミⅠ《オフィス》

更新日：2024/01/31 17:43:36

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A200220	授業コード	
担当教員	水野早苗、永井 靖人、矢野由紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	2L211	授業形態	演習	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	卒業後のさまざまな進路選択や希望職種の土台となる基礎力を身につける。コース内サークルなどのグループワークによりコミュニケーション力、構想力、行動力を養う。自らが主体的に取り組み、積極的に資格取得を目指す姿勢を身につける。						
方法	到達目標1は配布プリント、みずほドリル、到達目標2，3は中日新聞「中日春秋」ワークシートに授業時間内外で取り組み、毎週指定された日に提出する。授業では、毎回の課題について個人およびグループで情報収集、編集を行う。						

到達目標

1	卒業、就職試験に必要な基礎学力を確かなものにする
2	読み手を意識して簡潔な文章が書けるようになる
3	事実や考察(意見)などをわかりやすく伝えることができるようになる
4	自分の役割を果たしながら授業に参加できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題の取り組み	25
到達目標②	課題の取り組み	25
到達目標③	レポート・発表	25
到達目標④	グループワークの取り組み	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない。必要に応じて資料を配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない。必要に応じて資料を配布する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

永井：月・水曜日12:20～12:50 2号館2階研究室2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp
水野：金曜日9:00～12:00 2号館1階栄養調理研究室 メールアドレス s-mizuno@mizuho-c.ac.jp
矢野：月・火曜日9:00～10:30 2号館2階 研究室2-3 メールアドレス yano@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

個人およびグループワークには積極的に取り組んでほしい。個性豊かに、新しいことにチャレンジしてほしい。

課題に対するフィードバック

提出された課題は添削して順次返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	・オリエンテーション：前期授業のねらい（基礎学力とコ	予習：シラバスを読み、学習内容を理解する。	A、B、C、D

	コミュニケーション能力の重要性)と進め方の説明 ・自己紹介:自己紹介動画を作成する ・必要書類への記入	復習:自己紹介することをまとめる	
第2回	・自己紹介動画の作成 ・短大生活「Wi ll lから始まる短大生活」, 学生時代の人間関係, 高校と短大の違い, 消費者トラブル, SNSの使い方, アルバイトについて学ぶ	予習:動画を作成する、「Wi ll lから始まる短大生活」にの未記入欄に記入する 復習:動画を修正する、「Wi ll lから始まる短大生活」に追加, 修正する	A、B、C、D
第3回	自己紹介	予習:「Wi ll lから始まる短大生活」に記入する 復習:「Wi ll lから始まる短大生活」に追加, 修正する	A、B、C、D
第4回	業界研究・企業研究①:愛知中小企業家同友会の説明会への参加	予習:各社の事業内容を確認する 復習:振り返りレポートを作成する	A、B、C、D
第5回	業界研究・企業研究②:愛知中小企業家同友会の説明会への参加	予習:各社の事業内容を確認する 復習:振り返りレポートを作成する	A、B、C、D
第6回	自己理解①ブログ測定	予習:ブログとは何かを調べる 復習:得意・苦手分野を再確認する	A、B、C、D
第7回	業界・企業研究③:愛知中小企業家同友会就職セミナーに参加しての感想を発表し、意見交換する。	予習:愛知中小企業家同友会就職セミナーに参加した感想をレポートにまとめる 復習:授業での気づきをレポートにまとめる	C、D
第8回	・自己理解③関心のある業界・企業について調べたことを説明、発表する(PCで発表する, グループワーク) ・e-sportsなど新情報ビジネスの理解	予習:卒業後の仕事についての希望、理由など、発表できるように準備する 復習:授業での気づきを回答フォームに記入する	C、D
第9回	・自己理解④関心のある業界・企業について調べたことを説明、発表する(PCで発表する, グループワーク) ・e-sportsなど新情報ビジネスの体験	予習:卒業後の仕事についての希望、理由など、発表できるように準備する 復習:授業での気づきを回答フォームに記入する	A、B、C、D
第10回	・自己理解⑤:関心のある業界・企業について調べたことを説明、発表する(PCで発表する, グループワーク) ・e-sportsなど新情報ビジネスの実践	予習:卒業後の仕事についての希望、理由など、発表できるように準備する 復習:授業での気づきを回答フォームに記入する	A、B、C、D
第11回	・自己理解⑥:関心のある業界・企業について調べたことを説明、発表する(PCで発表する, グループワーク) ・e-sportsなど新情報ビジネスのまとめ	予習:卒業後の仕事についての希望、理由など、発表できるように準備する 復習:授業での気づきを回答フォームに記入する	A、B、C、D
第12回	資格取得への挑戦 ・秘書検定試験対策講座① ・日本情報処理検定協会関係①	予習:対策テキストに取り組む 復習:間違えた箇所のやり直し	A、B、C、D
第13回	資格取得への挑戦 ・秘書検定試験対策講座② ・日本情報処理検定協会関係②	予習:対策テキストに取り組む 復習:間違えた箇所のやり直し	A、B、C、D
第14回	資格取得への挑戦 ・秘書検定試験対策講座③ ・日本情報処理検定協会関係③	予習:対策テキストに取り組む 復習:間違えた箇所のやり直し	A、B、C、D
第15回	まとめ ・前期の学びの振り返り	予習:自己評価シートを記入する 復習:授業での気づきをレポートにまとめる	A、B、C、D
	実施せず		

みずほゼミⅠ ≪食栄≫

更新日：2024/02/21 11:12:10

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A200220	授業コード	
担当教員	荒川 直江、横山 洋子、高木恵美子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	2F211	授業形態	演習	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点	実習を行う回は、白衣、帽子、マスク、シューズを持参すること。忘れた場合は実習することができません。				
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として給食施設での給食管理業務や病院等での栄養食事指導の経験を活かして、実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、栄養士としてのテクニカルスキルを養う。					

授業概要

内容	<ul style="list-style-type: none">・栄養士の職務を理解し、資格取得のための基礎知識を修得する。・調理の基本技術を修得するとともに、グループワークを通して協調性・積極性を身につける。
方法	<ul style="list-style-type: none">・講義を中心に、DVDも使用して進める。・栄養士の職務や役割を理解するために、外部講師（卒業生）を招いての講話を実施する。・レポートは、Microsoft Teamsの「課題」機能を使って提出する。

到達目標

1	課題に対して自分なりの考えを持ち、まとめることができる。
2	学んだことを振り返り、将来への生かし方をまとめることができる。
3	授業にまじめに取り組むことができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	60
到達目標②	振り返りシート	30
到達目標③	小テスト	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日 9:30~11:30
2号館1階「研究室2-1」

学生へのメッセージ

積極的に参加し、楽しみながら学ぶことを望みます。

課題に対するフィードバック

振り返りシートおよびレポートは、添削の上返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	オリエンテーション 食物栄養専攻での学び みずほドリルについて レポートの書き方、自己評価シート	予習：シラバスを読み、授業内容を理解する 復習：学んだことをまとめる	A
第2回	栄養士の歴史と職務について 基礎力テスト（入学前学習課題の確認）	予習：栄養士の歴史について調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第3回	栄養士の職務の理解（DVD）	予習：栄養士の職務について調べる 復習：学んだことをまとめ、レポート提出する	A
第4回	栄養士の社会的役割と将来性について（外部講師）	予習：病院栄養士の職務について調べる 復習：講話の内容をまとめ、レポート提出する	A
第5回	栄養士に必要な栄養素のはなし（1） エネルギー源になる栄養素	予習：三大栄養素について調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第6回	栄養士に必要な栄養素のはなし（2） 体の調子をととのえる栄養素	予習：ビタミン、ミネラルについて調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第7回	食材の廃棄率を理解する	予習：廃棄率の計算方法を予習する 復習：課題についてレポート提出する	A
第8回	栄養バランスの取れた献立の作成	予習：自分の食事内容を記録しておく（3日分程度） 復習：学んだことをまとめる	A
第9回	調理実習	予習：調理実習の内容を確認しておく 復習：学んだことをまとめる	A
第10回	ジェネリックスキルについて（プログ報告）	予習：コンピテンシーとリテラシーの考え方を理解する 復習：自分の強みと弱みを振り返る	A
第11回	栄養士に必要な人体のはなし（1） 消化器系	予習：人体の構造と働きについて調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第12回	栄養士に必要な人体のはなし（2） 循環器系、内分泌系	予習：人体の構造と働きについて調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第13回	食中毒のはなし	予習：食中毒の予防方法について考える 復習：学んだことをまとめる	A
第14回	栄養士に必要な簡単な計算	予習：計算の仕方について復習する 復習：計算問題を復習する	A
第15回	振り返りシート	予習：学んだことを振り返る 復習：学んだことをまとめ、レポート提出する	A
	実施せず		

みずほゼミ I <<現代>>

更新日：2024/02/29 14:19:00

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A200220	授業コード	
担当教員	谷口良美、長谷中崇志、鈴木安由美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	2Y211	授業形態	演習	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	この授業では、短大生活に必要な学修スキルを身に付けることを目標とする。また、子どもの興味関心や発達に則した保育内容や教材研究を行う。
方法	グループワーク、プレゼンテーション

到達目標

1	身近な社会事象に興味・関心をもち、自分の意見をもつ。
2	グループワークを通して、他者と共同することの大切さを理解する。
3	自分の意見を言語化したり、思考を表現したりすることで、保育者として必要な文章能力や表現力を身に付ける。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題への取り組み	40
到達目標②	発表への取り組み	30
到達目標③	課題レポートの達成度	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	わかる・書ける・使える 保育の基本用語	わかば社	長島和代 編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

各教員による：授業開示時に一覧表を配布し、周知を図る。

学生へのメッセージ

この授業を通して、大学生生活の学びを支える基礎学力を身につけ、自分の興味関心のあることを深めてほしい。

課題に対するフィードバック

教員と学生が共に振り返りを行い、次回の課題を見つけていく。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	前期オリエンテーション 授業の目的、進め方など	予習：シラバスを熟読する 復習：授業内容を整理する	
第2回	短大生活の基礎 授業の受け方・課題の取り組み方など	予習：短大生活ナビを熟読する 復習：授業の内容を整理する	A

第3回	ノートパソコンの基本操作（1） Outlookのメール送受信・Teamsの会議参加	予習：パソコンを充電し、操作の練習をする 復習：授業の内容を整理する	
第4回	ノートパソコンの基本操作（2） Wordの文章作成	予習：パソコンを充電し、操作の練習をする 復習：授業の内容を整理する	
第5回	ノートパソコンの基本操作（3） PowerPointの共同編集	予習：パソコンを充電し、操作の練習をする 復習：授業の内容を整理する	B
第6回	PROG測定報告会	予習：前回のPowerPoint内容を読み返す 復習：PROGの結果を今後どう活かすか考えをまとめる	A
第7回	文章読解	予習：子ども・保育に関わる記事を探し、読む 復習：授業の内容を整理する	C
第8回	文章記述	予習：子ども・保育に関わる記事を探し、読む 復習：授業の内容を整理する	B
第9回	みずほ・げんキッズ（1） 趣旨説明・計画・グループ分け	予習：過去のげんキッズの様子を調べる 復習：グループの企画をまとめる	B
第10回	みずほ・げんキッズ（2） 試作・報告会準備	予習：グループの企画をまとめる 復習：報告会の準備を整える	B
第11回	みずほ・げんキッズ（3） 試作報告会・振り返り	予習：報告会の練習をする 復習：改善案をまとめる	D
第12回	みずほ・げんキッズ（4） 改善案の試作・ブース準備	予習：改善案をまとめる 復習：リハーサルのために必要なことを準備する	B
第13回	みずほ・げんキッズ（5） 直前リハーサル	予習：リハーサルのために必要なことを準備する 復習：本番の流れを確認する	B
第14回	みずほ・げんキッズ（6） 運営	予習：自分の役割の内容を再確認する 復習：反省点を振り返る	D
第15回	みずほ・げんキッズ（7） 振り返り	予習：みずほ・げんキッズ当日の様子を振り返り反省点を見つける 復習：授業全体の振り返りをする	D
	実施せず		

みずほゼミⅡ ≪養護≫

更新日：2024/02/28 15:04:01

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A200230	授業コード	
担当教員	丹下 洋吾、鷲野 嘉映、渡辺 美恵						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	4L212	授業形態	演習	期待される学習成果	4		
コース別 必修・選択必修等	必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、資料作成やプレゼン発表、掲示物作成などを通して、養護教諭として必要となる様々な力を身につけさせる授業を行う。この授業における学びは、卒業後、社会人として養護教諭として、伝達する力、協調・協働・連携する力、指導力等の発揮につながる。					

授業概要

内容	学習意欲・態度及び職業意識を涵養しながら、養護教諭として必要となる基礎基本となる学力、発表、伝達する力、意思疎通と協調・協働・連携する力、自己管理・指導力等を養う。
方法	仲間と協力して学校環境衛生の事後措置をテーマにしたプレゼンテーション資料を作成する。また、「見て、触れて、学ぶ」を意識した保健室掲示物を制作する。それぞれの成果物については発表の機会をもつ。

到達目標

1	他の人に伝える際に必要な情報を選択することができる。
2	資料作成及び発表を養護教諭の行う活動として関連づけることができる。
3	ペアワークで自己の役割を果たしながら協調することができる。
4	積極的に授業に参加することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	成果物（プレゼンテーション資料）・取組状況	30
到達目標②	成果物（保健室掲示物）・発表	30
到達目標③	成果物（プレゼンテーション資料）・取組状況	15
到達目標④	授業に対する意欲と態度	15
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	学校保健実務必携	第一法規	学校保健・学校安全実務研究会編
2	学校環境衛生180のギモン解決レシピ	東山書房	東京都学校薬剤師会編
3	看護研究こころえ帳 研究の基本からプレゼンテーションまで	医歯薬出版株式会社	李節子

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

【丹下】木曜日 10:40～14:00 1号館3階 研究室1

【鷲野】月曜日 12:10～12:55 研究室2-2

【渡辺】金曜日 9:00～12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

毎授業回、貸与パソコン使用できるよう準備しておくこと。資料などの事前準備が必要な場合は、図書館を利用することを勧める。作成した資料や作品については、指示した期限内での提出を必須とする。

第1～6回：ペアワークを含むのでお互いに協力し積極的に参加すること。

第14～15回：国語辞典（電子辞書可）を持参するとよい。

課題に対するフィードバック

提出を求めるレポート等は、事前に提供されるループリックにより評価し、コメントを付けるなどして返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	伝える技術について考えるⅠ 学校環境衛生についての復習 ＊PCを活用し、資料を作成する	予習：学校環境衛生の事後措置について復習する 復習：プレゼン資料を作成する項目について復習する	C
第2回	伝える技術について考えるⅡ PowerPointで資料作成① ＊PCを活用し、資料を作成する	予習：プレゼン資料の作成準備をしておく 復習：プレゼン資料の作成を進める	C
第3回	伝える技術について考えるⅢ PowerPointで資料作成② ＊PCを活用し、資料を作成する	予習：プレゼン資料の作成を進める 復習：プレゼン資料の作成を進める	C
第4回	伝える技術について考えるⅣ PowerPointで資料作成③ ＊PCを活用し、資料を作成する	予習：プレゼン資料の作成を進める 復習：発表用資料と原稿を完成させる	C
第5回	伝える技術について考えるⅤ プレゼンテーション発表① ＊PCを活用し、発表する	予習：ペアで発表の練習をしておく 復習：他の発表者からの学びをまとめる	C
第6回	伝える技術について考えるⅥ プレゼンテーション発表② ＊PCを活用し、発表する	予習：ペアで発表の練習をしておく 復習：他の発表者からの学びをまとめる	C
第7回	「見て、触れて、学ぶ」保健室掲示物を作るⅠ ＊書籍やPCを利用し、資料を収集する	予習：保健室掲示物について調べる 復習：作成する掲示物について必要な情報を収集する	D
第8回	「見て、触れて、学ぶ」保健室掲示物を作るⅡ ＊必要に応じてPCを活用する	予習：実際に作成するために必要なものを準備する 復習：掲示物の作成を進める	
第9回	「見て、触れて、学ぶ」保健室掲示物を作るⅢ ＊必要に応じてPCを活用する	予習：掲示物の作成を進める 復習：掲示物の作成を進める	
第10回	「見て、触れて、学ぶ」保健室掲示物を作るⅣ ＊必要に応じてPCを活用する	予習：掲示物の作成を進める 復習：掲示物を完成させ、工夫点をまとめる	
第11回	「見て、触れて、学ぶ」保健室掲示物を作るⅤ ＊必要に応じてPCを活用する	予習：掲示物の作成を進める 復習：掲示物を完成させ、工夫点をまとめる	
第12回	「見て、触れて、学ぶ」保健室掲示物を作るⅥ 交流会①	予習：作成した掲示物の紹介ができるようにしておく 復習：交流会における学びをまとめる	B
第13回	「見て、触れて、学ぶ」保健室掲示物を作るⅦ 交流会②	予習：作成した掲示物の紹介ができるようにしておく 復習：交流会における学びをまとめる	B
第14回	卒業研究デザインⅠ 卒業研究レポートとは 文献の読み方	予習：卒業研究レポート作成についてイメージする 復習：自身のテーマに近づくためのキーワードを絞る	A
第15回	卒業研究デザインⅡ 参考文献の検索方法 ＊インターネットを活用して文献検索を行う	予習：卒業研究レポート作成についてイメージをもつ 復習：検索した参考文献を読み、まとめる	A
	実施せず		

みずほゼミⅡ《オフィス》

更新日：2024/03/01 14:41:20

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A200230	授業コード	
担当教員	水野 早苗、永井 靖人、矢野由紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	4L212	授業形態	演習	期待される学習成果	4		
コース別 必修・選択必修等	必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	卒業後のさまざまな進路選択や希望職種の土台となる基礎力を身につける。コース内サークルなどのグループワークによりコミュニケーション力、構想力、行動力を養う。自らが主体的に取り組み、積極的に資格取得を目指す姿勢を身につける。		
方法	到達目標1は配布プリント、みずほドリル、到達目標2，3は中日新聞「中日春秋」ワークシートに授業時間内外で取り組み、毎週指定された日時に提出する。授業では、毎回の課題について個人およびグループで情報収集、編集を行う。		

到達目標

1	卒業、就職試験に必要な基礎学力を確かなものにする
2	読み手を意識して簡潔な文章が書けるようになる
3	事実や考察(意見)などをわかりやすく伝えることができるようになる
4	自分の役割を果たしながら授業に参加できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題の取り組み	25
到達目標②	課題の取り組み	25
到達目標③	レポート・発表	25
到達目標④	グループワークの取り組み	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない。必要に応じて資料を配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない。必要に応じて資料を配布する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

永井：月・水曜日12:20～12:50 2号館2階研究室2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp

水野：金曜日9:00～12:00 メールアドレス s-mizuno@mizuho-c.ac.jp

矢野：月・火曜日 9:00～10:30 2号館2階 研究室2-3 メールアドレス yano@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

個人およびグループワークには積極的に取り組むこと。「中日春秋」書き写しノートの提出を求めるが、提出期限は授業で知らせる。

課題に対するフィードバック

提出された課題は添削して順次返却する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	・後期の授業の進め方	予習：シラバスを確認する	A、B、C、D

	・新商品開発企画の概要説明	復習：具体的な新商品開発を調べる	
第2回	自己理解⑤：ブログ測定のふりかえり	予習：ブログ測定について整理する 復習：授業での気づきをレポートにまとめる	A、B、C、D
第3回	新商品開発①：コンセプトの創出	予習：さまざまな商品アイデアを調べる 復習：企画を修正する	A、B、C、D
第4回	新商品開発②：コンセプトの加除修正	予習：さまざまな商品アイデアを調べる 復習：企画を修正する	A、B、C、D
第5回	新商品開発③：具体案の作成	予習：さまざまな商品アイデアを調べる 復習：企画を修正する	A、B、C、D
第6回	新商品開発④：具体案の修正	予習：アイデアをスライド、動画にする 復習：スライド、動画を修正する	A、B、C、D
第7回	新商品開発⑤：中間発表の準備	予習：コンセプト、実現可能性、効果スライド、動画を修正する 復習：スライド、動画をさらに修正する	A、B、C、D
第8回	新商品開発⑥：中間発表	予習：コンセプト、実現可能性、効果スライド、動画を修正する 復習：スライド、動画をさらに修正する	A、B、C、D
第9回	新商品開発⑦：中間発表の修正	予習：コンセプト、実現可能性、効果、スライド、動画を修正する 復習：スライド、動画をさらに修正する	A、B、C、D
第10回	「卒業生就職相談会」への参加①	予習：参加するブースの内容を確認する 復習：振り返り用紙に記入する	A、B、C、D
第11回	「卒業生就職相談会」への参加②	予習：参加するブースの内容を確認する 復習：振り返り用紙に記入する	A、B、C、D
第12回	新商品開発⑧：発表会	予習：効果、スライド、動画を修正する 復習：自分の発表を振り返る	A、B、C、D
第13回	新商品開発⑨：学びの共有	予習：自分の実践全体を振り返る 復習：新商品開発企画から学んだことを言語化する	A、B、C、D
第14回	就職活動の準備：①2年生から就活アドバイスを聞く、尋ねる、②各種イベントに関するオリエンテーション、求人サイトへの登録	予習：就職活動について、2年生に聞きたいことを挙げる 復習：就職活動への意気込みを言語化する	A、B、C、D
第15回	まとめ： ・後期の学びの振り返り	予習：ゼミの1年間を振り返る 復習：未記入箇所に入力する	A、B、C、D
	実施せず		

みずほゼミⅡ ≪食栄≫

更新日：2024/02/21 10:54:02

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A200230	授業コード	
担当教員	荒川 直江、横山 洋子、高木恵美子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	4F212	授業形態	演習	期待される学習成果	4		
コース別 必修・選択必修等	必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点	実習を行う回は、白衣、帽子、マスク、シューズを持参すること。忘れた場合は実習することができません。				
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として給食施設での給食管理業務や病院等での栄養食事指導の経験を活かして、実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、栄養士としてのテクニカルスキルを養う。					

授業概要

内容	栄養士職の理解を深め、就職に向けての意識を高める。また、最新の厨房施設を見学し、2年次の学びへとつなげる。
方法	・栄養士業務を具体的に理解するために、現場で働く栄養士（卒業生）を招いての講話やディスカッションを行う。 ・レポートは、Microsoft Teamsの「課題」機能を使って提出する。

到達目標

1	課題に対して自分なりの考え方をもち、まとめることができる。
2	学んだことを振り返り、将来への生かし方をまとめることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	70
到達目標②	振り返りシート	30
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

水曜日 9:30~11:30
2号館1階「研究室2-1」

学生へのメッセージ

積極的に参加し、楽しみながら学ぶことを望みます。

課題に対するフィードバック

振り返りシートおよびレポートは、添削の上返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 20代について考える	予習：「Willから始める短大生活」を読んでくる 復習：大学で学ぶことと社会が繋がることを理解する	A
第2回	自分の持ち味や強みを知る	予習：半年間で変化した力を知る	A

		復習：自分の特徴を理解する	
第3回	災害時の備蓄食	予習：備蓄食について調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第4回	栄養士の仕事（1） 卒業生の講話を聴く（老人福祉施設）	予習：栄養士の仕事（老人福祉施設）について調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第5回	栄養士の仕事（2） 卒業生の講話を聴く（病院）	予習：栄養士の仕事（病院）について調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第6回	短大生調査 みずほドリル	予習：短大生活を振り返る 復習：今後の課題について考える	A
第7回	自己PR作成	予習：自分の特徴を理解する 復習：自分の視座を考える	A
第8回	真空調理を学ぶ	予習：真空調理について調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第9回	卒業生との話（就職相談会）（1） 卒業生の講話を聴く	予習：卒業生への質問内容を考える 復習：学んだことをまとめる	A, D
第10回	卒業生との話（就職相談会）（2） 卒業生への質問	予習：卒業生への質問内容を考える 復習：学んだことをまとめる	A, D
第11回	最新給食施設見学（1） 講義および見学	予習：大量給食の厨房機器について調べる 復習：学んだことをまとめる	A, D
第12回	最新給食施設見学（2） 質問およびまとめ	予習：大量給食の厨房機器について調べる 復習：学んだことをまとめる	A, D
第13回	献立作成	予習：真空調理器・スチコンを使用した調理を考えておく 復習：学んだことをまとめる	A
第14回	スチコンを使った調理実習	予習：調理実習の献立内容を把握しておく 復習：学んだことをまとめる	A
第15回	2年生次の計画立案 振り返りシート、授業評価	予習：適性や志向に合わせた進路を考える 復習：学んだことをまとめる	A
	実施せず		

みずほゼミ II <<現代>>

更新日：2024/02/28 17:41:18

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A200230	授業コード	
担当教員	杉山 佳菜子、丹羽 裕紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	4Y212	授業形態	演習	期待される学習成果	4		
コース別 必修・選択必修等	必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	この授業では、学生を小グループに分け、各教員の指示の下、子どもの興味関心や発達に即した保育内容や教材研究を行い、乳幼児向けの保育イベントを開催する。イベントの開催を通して、保育者として自分の課題を考察し、レポートにまとめる。		
方法	グループディスカッション、プレゼンテーションなど、授業の内容に応じて適宜適切な方法を取り入れる。		

到達目標

1	子どもの興味関心のある内容について、調査し整理できる。
2	保育イベントの計画立案をし、それを実行できる。
3	保育イベントの省察を行い、自分の課題に向き合うことができる。
4	到達目標③を要約し、レポートにまとめることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内での課題やレポート	10
到達目標②	イベント参加態度	40
到達目標③	授業内での課題やレポート	10
到達目標④	授業内での課題やレポート	40
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	保育系学生のための日本語表現トレーニング	三省堂	渡辺弥生・平山祐一郎・藤枝静暁

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業内で適宜、紹介する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

各教員による：授業開示時に一覧表を配布し、周知を図る。

学生へのメッセージ

- ゼミはグループ学習を中心とした授業を展開しますのでリーダーの役割とそれをサポートする学習集団の形成が必要です。欠席が多いと学習が成立しませんので注意が必要です。
- 普段から子どもの遊びについて関心を持ち、情報収集することも心掛けてください。

課題に対するフィードバック

教員と学生がともに振り返りを行い、次回の課題を見つけていく。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション（この授業の目的、ゼミの進め方）	予習：シラバスをよく読む 復習：ゼミ目的などを理解する	

第2回	子どもの興味関心や発達に即した保育実践に関する資料を集めて、乳幼児の発達を理解する。	予習：乳幼児の発達の目安を調べる 復習：エピソード記録	
第3回	子どもの興味関心や発達に即した保育実践に関する資料を集めて、乳幼児の発達を理解する。また、現場で活躍する保育者の話を聞く。	予習：幼・保・子ども園の特性を知る 復習：話を聞いて自分を振り返る	
第4回	保育イベントのテーマ設定	予習：乳幼児向けイベントについて調べる 復習：エピソード記録	B
第5回	保育イベントの計画立案	予習：自分の計画を発表できるように準備する 復習：ゼミグループの計画を練り直す	B
第6回	保育イベントの役割分担を決める	予習：自分のできることとできないことを把握する 復習：エピソード記録	B
第7回	保育イベントの準備①使用する道具を決める。	予習：イベントの計画を確認して必要なものをチェックする 復習：エピソード記録	B
第8回	保育イベントの準備②台本作り	予習：台本作りのポイントを調べる 復習：エピソード記録	B
第9回	進路について考える	予習：保育者養成課程の進路先について調べる 復習：自分の進路についてイメージを固める	
第10回	保育イベントの準備④本番に向けての最終確認	予習：自分の台本暗記状況を確認しておく 復習：エピソード記録	B
第11回	保育イベントのリハーサル	予習：自分の役割をリハーサルする 復習：リハーサルを振り返る	D
第12回	保育イベントの実施	予習：本番で失敗しないように準備する 復習：エピソード記録	D
第13回	保育イベントの省察	予習：保育イベントを振り返り気づきを整理する 復習：まとレポートを練り直す	A
第14回	保育イベントのまとめレポート	予習：まとレポートを練り直す 復習：まとめレポート作成を振り返る	A
第15回	半期の振り返り	予習：半期の取り組みを振りかえる 復習：自分の課題を保育者としてどのように活かすか考える	D
	実施せず		

みずほゼミⅢ ≪養護≫

更新日：2024/02/28 15:02:40

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A200320	授業コード		
担当教員	丹下 洋吾、鷺野 嘉映、渡辺 美恵							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー		授業形態	演習	期待される学習成果	6			
コース別 必修・選択必修等	卒業必修	授業時間+自習時間						
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、学生自らが選択・設定した学校保健に関する課題・テーマでの研究についての指導を行う。この授業における学びは、卒業後、社会人として養護教諭として、科学的思考を身に付けた研究能力の発揮につながる。						

授業概要

内容	目指す養護教諭像を明確にし、教員採用試験に向けて意欲的に取り組むとともに、自らが選択・設定した課題・テーマについての卒業研究レポートの作成に向けて資料を活用する力を発揮する。
方法	ゼミ方式にて卒業研究レポートの作成に取り組む。また、教員採用試験対策として面接や実技を行う。

到達目標

1	教員採用試験に向けて教員としての生き方・在り方を設計することができる。
2	自分の興味関心のある問題について具体的に述べることができる。
3	学校教育や地域社会の発展に貢献する高い志と情熱や誇りを持つことができる。
4	積極的に授業に参加することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	採用試験への取組状況	30
到達目標②	卒業研究レポート作成への取組状況	40
到達目標③	採用試験への取組状況・成果物（保健指導資料）	15
到達目標④	授業に対する意欲と態度	15
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	看護研究ころえ帳 研究の基本からプレゼンテーションまで	医歯薬出版株式会社	李節子
2	学校保健の課題とその対応—令和2年度改訂—		日本学校保健会
3	保健室利用状況に関する調査報告書 平成28年度調査結果		日本学校保健会

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて、資料を配布または紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

- 【丹下】月曜日 9:00～12:00 1号館3階 研究室1
【鷺野】月曜日 12:10～12:55 研究室2-2
【渡辺】月曜日 9:00～12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

卒業研究は、担当教員による個別指導を中心に、必要に応じて合同ゼミ形式をとる。積極的に取り組むこと。各回において、注意事項があるので必ず確認をして臨むこと。

第2～3回：自分が受験する都道府県、市の教員採用試験願書と要項を準備すること。

第4、8～11回：教員採用試験の受験にふさわしい服装と髪型、身なりで参加すること。

第5～7回：教材づくりに必要な材料を準備すること。

第1、12～15回：卒業研究をすすめるにあたって、担当教員に積極的に指導を受けること。

課題に対するフィードバック

提出を求める制作物や課題については、事前に提供されるループリックにより評価し、コメントを付けるなどしてフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	卒業研究デザインIII 研究の概要の交流	予習：研究の概要をまとめ、説明できるよう準備する 復習：研究の概要を修正する	B
第2回	キャリアデザインⅠ 自己PR	予習：採用試験願書と要項を読む 復習：自己PRを完成させる	
第3回	キャリアデザインⅡ 志望動機、目指す養護教諭像	予習：志望動機、目指す養護教諭像について考える 復習：願書等を完成させる	
第4回	教員採用試験対策Ⅰ 専門・実技〔演習〕	予習：これまでの実技試験の内容や方法を調べる 復習：実技試験の練習をする	D
第5回	健康教育指導用教材づくりⅠ 性に関する指導教材の作成① ＊PCを活用し、指導教材を調べる	予習：教材作成のイメージをもつ 復習：作成に必要な材料を準備する	D
第6回	健康教育指導用教材づくりⅡ 性に関する指導教材の作成②	予習：作成に必要な材料を準備する 復習：作成に必要な材料を準備する	D
第7回	健康教育指導用教材づくりⅢ 性に関する指導教材の完成・模擬指導	予習：完成の見通しをもつ 復習：教材を利用した健康教育の実施を考える	D
第8回	教員採用試験対策Ⅱ 個人面接〔演習〕	予習：これまでの個人面接の質問内容や方法を調べる 復習：個人面接の練習をする	D
第9回	教員採用試験対策Ⅲ 集団面接〔演習〕	予習：これまでの集団面接の質問内容や方法を調べる 復習：集団面接の練習をする	D
第10回	教員採用試験対策Ⅳ 集団討論〔演習〕	予習：これまでの集団討論のテーマや方法を調べる 復習：集団討論の練習をする	D
第11回	教員採用試験対策Ⅴ 場面指導〔演習〕	予習：これまでの場面指導のテーマや方法を調べる 復習：場面指導の練習をする	D
第12回	卒業研究デザインⅣ 研究方法等の交流 ＊PCを活用して、概要をまとめる	予習：研究方法について説明できるよう準備する 復習：資料等を収集し、研究を進める	B
第13回	卒業研究デザインⅤ 中間発表の準備 ＊PCを活用して、概要をまとめる。	予習：研究の進捗状況について交流できるよう準備する 復習：研究を進める	B
第14回	卒業研究デザインⅥ 中間発表 ＊PCを活用して、概要の発表をする。	予習：研究レポートの概要を発表できるよう準備する 復習：研究を進める	B
第15回	卒業研究デザインⅦ 中間発表、相互評価	予習：研究レポートの概要を発表できるよう準備する 復習：相互評価を参考に概要を修正し完成させる	B
	実施せず		

みずほゼミⅢ ≪オフィス≫

更新日：2024/02/22 09:16:54

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A200320	授業コード		
担当教員	水野早苗、永井靖人、矢野由紀子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー		授業形態		期待される学習成果	7			
コース別 必修・選択必修等		授業時間+自習時間	60+30					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	コミュニケーション能力を高めながら、個人およびグループとして制作活動に取り組み、社会人として必要な知識、スキルを身につける。
方法	半年間を通して、複数のメディア制作、プログラミング、調査活動に取り組む。その成果は随時発表しながら、年度末の発表会でも披露する。

到達目標

1	他者を惹きつけるメディア制作、プログラミング、調査を行うことができる
2	他者と教え合いながら制作や調査に取り組むことができる
3	主体的に就職活動できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	制作物、調査の完成度、プレゼンテーション	33
到達目標②	受講態度	34
到達目標③	調査内容、プレゼンテーション	33
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	資料を紹介する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	資料を紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

永井：月・水曜日12:20～12:50 2号館研究室 2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp
水野：金曜日9:00～12:00 2号館研究室 2-1 メールアドレス s-mizuno@mizuho-c.ac.jp
矢野：月・火曜日 9:00～10:30 2号館 研究室 2-3 メールアドレス yano@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

複数のテーマに取り組んでほしい。教え合ってほしい。楽しんで活動してほしい。

課題に対するフィードバック

提出された制作物について、随時助言する

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション：ゼミのねらいと進め方を知る	予習：シラバスを確認する 復習：制作の構想	D
第2回	・業界研究・企業研究：志望企業、ライバル社、業界の動向を調べる	予習：企業・業界情報を調べる 復習：新たに得た情報をリストに追加する、検定に向けた	D

	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得への挑戦：秘書検定、日本情報処理検定協会関係、簿記検定など みずほドリル 	トレーニング	
第3回	制作、調査・集計・分析①	予習：参考動画を視聴する、制作を進める 復習：制作物の修正	D
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 業界研究・企業研究：志望企業、ライバル社、業界の動向を調べる 資格取得への挑戦：秘書検定、日本情報処理検定協会関係、簿記検定など みずほドリル 	予習：企業・業界情報を調べる 復習：新たに得た情報をリストに追加する、検定に向けたトレーニング	D
第5回	制作、調査・集計・分析②	予習：参考動画を視聴する、制作を進める 復習：制作物の修正	D
第6回	<ul style="list-style-type: none"> 業界研究・企業研究：志望企業、ライバル社、業界の動向を調べる 資格取得への挑戦：秘書検定、日本情報処理検定協会関係、簿記検定など みずほドリル 	予習：企業・業界情報を調べる 復習：新たに得た情報をリストに追加する、検定に向けたトレーニング	D
第7回	制作、調査・集計・分析③	予習：参考動画を視聴する、制作を進める 復習：制作物の修正	D
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 業界研究・企業研究：志望企業、ライバル社、業界の動向を調べる 資格取得への挑戦：秘書検定、日本情報処理検定協会関係、簿記検定など みずほドリル 	予習：企業・業界情報を調べる 復習：新たに得た情報をリストに追加する、検定に向けたトレーニング	D
第9回	制作、調査・集計・分析④	予習：参考動画を視聴する、制作を進める 復習：制作物の修正	D
第10回	<ul style="list-style-type: none"> 業界研究・企業研究：志望企業、ライバル社、業界の動向を調べる 資格取得への挑戦：秘書検定、日本情報処理検定協会関係、簿記検定など みずほドリル 	予習：企業・業界情報を調べる 復習：新たに得た情報をリストに追加する、検定に向けたトレーニング	D
第11回	制作、調査・集計・分析⑤	予習：参考動画を視聴する、制作を進める 復習：制作物の修正	D
第12回	<ul style="list-style-type: none"> 業界研究・企業研究：志望企業、ライバル社、業界の動向を調べる 資格取得への挑戦：秘書検定、日本情報処理検定協会関係、簿記検定など みずほドリル 	予習：企業・業界情報を調べる 復習：新たに得た情報をリストに追加する、検定に向けたトレーニング	D
第13回	制作、調査・集計・分析⑥	予習：参考動画を視聴する、制作を進める 復習：制作物の修正	D
第14回	<ul style="list-style-type: none"> 業界研究・企業研究：志望企業、ライバル社、業界の動向を調べる 資格取得への挑戦：秘書検定、日本情報処理検定協会関係、簿記検定など みずほドリル 	予習：企業・業界情報を調べる 復習：新たに得た情報をリストに追加する、検定に向けたトレーニング	D
第15回	まとめ ・学びの振り返り	予習：自己評価シートを記入する 復習：授業での気づきをレポートにまとめる	D
	実施せず		

みずほゼミⅢ ≪食栄≫

更新日：2024/02/21 13:55:23

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A200320	授業コード		
担当教員	荒川 直江, 横山 洋子, 高木 恵美子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー		授業形態	演習	期待される学習成果	6			
コース別 必修・選択必修等	卒業必修	授業時間+自習時間						
		履修条件・留意点	実習を行う回は、白衣、帽子、マスク、シューズを持参すること。忘れた場合は実習することができません。					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として給食施設での給食管理業務や病院等での栄養食事指導の経験を活かして、実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、栄養士としてのテクニカルスキルを養う。						

授業概要

内容	高齢者の食事等について深く学び、栄養士としての実践力を身につける。また、グループで食の問題について考え、アイデアを出しあうことで、協調性・積極性を身につける。
方法	<ul style="list-style-type: none">・栄養士の活躍の場を深く理解するため、外部講師による講話を導入する。・グループワークでは、プレゼンテーション用資料を作成し、プレゼンテーションを行う。・レポートは、Microsoft Teamsの「課題」機能を使って提出する。

到達目標

1	課題に対して自分なりの考えを持ち、まとめることができる。
2	学んだことを振り返り、将来への生かし方をまとめることができる。
3	自分の考えをまとめ、分かりやすく伝えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	50
到達目標②	振り返りシート	30
到達目標③	プレゼンテーション	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日 9:30~11:30
研究室2-1

学生へのメッセージ

積極的に参加し、楽しみながら学ぶことを望みます。

課題に対するフィードバック

振り返りシートおよびレポートは、添削の上返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	オリエンテーション 校外実習の心がまえ、みずほドリル	予習：シラバスを読み、内容を確認する 復習：学習した内容をまとめる	A
第2回	企業を知る、業務内容を知る	予習：企業の求める人材像を考える 復習：学習した内容をまとめる	A
第3回	企業説明会（栄養士採用企業）	予習：栄養士の仕事を調べる 復習：学習した内容をまとめる	A
第4回	乳幼児食の意義と進め方	予習：乳幼児食の意義を考える 復習：学習した内容をまとめる	A
第5回	高齢者の食事の特徴（調理実習）	予習：高齢者の食事の献立を考える 復習：学習した内容をまとめる	A、B
第6回	栄養指導の可能性を考える（1） 栄養補助飲料について（外部講師）	予習：栄養補助飲料について調べる 復習：学習した内容をまとめ、レポート提出する	A
第7回	栄養指導の可能性を考える（2） 治療用特殊食品について（外部講師）	予習：濃厚流動食について調べる 復習：学習した内容をまとめ、レポート提出する	A
第8回	栄養指導の可能性を考える（3） 嚥下調整食について（寒天の応用）（外部講師）	予習：寒天について調べる 復習：学習した内容をまとめ、レポート提出する	A
第9回	食の問題への取り組み（1） 説明・計画	予習：食の問題について考える 復習：説明を理解し、今後の計画を考える	A、B
第10回	食の問題への取り組み（2） 計画・試作準備	予習：課題について考える 復習：計画を完成させる	A、B
第11回	食の問題への取り組み（3） 試作	予習：試作の手順を予習する 復習：試作について改善点を考える	A、B
第12回	食の問題への取り組み（4） 試作	予習：改善点について確認する 復習：課題についてまとめる	A、B
第13回	食の問題への取り組み（5） プレゼンテーション準備	予習：課題についてまとめる 復習：プレゼンに向けて考えをまとめる	A、B
第14回	食の問題への取り組み（6） プレゼンテーション	予習：プレゼンの準備をする 復習：課題について振り返る	A、D
第15回	振り返りシート	予習：学んだことを振り返る 復習：学んだことをまとめ、レポート提出する	A
	実施せず		

みずほゼミⅢ <現代>

更新日：2024/01/29 18:54:07

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A200320	授業コード	
担当教員	杉山佳菜子、谷口良美、長谷中崇志、鈴木安由美、丹羽裕紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー		授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修、保必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	この授業では、自分の興味と関心に応じて、研究や実践の主題を設定し、その主題について知識を深めていく。研究主題については文献検索や実施調査を自らが率先して行う。 ゼミの配置については主題に応じて、担当指導教員を選択し、論文指導や実践を行う。 自ら選択した主題については1年を通じて研究を行うが、この科目の最後には中間報告を行う。						
方法	フィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション						

到達目標

1	自分の興味や関心のある問題を研究・実践課題として理解し整理できる。
2	文献や資料の検討・要約し、それを研究レポート等にまとめられる。
3	研究レポート等の発表を通して、質疑応答や討論ができるようになる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題や実践への取り組み	40
到達目標②	研究レポート等の達成度	40
到達目標③	発表への取り組み	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	教員ごとに適宜指示する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	教員ごとに適宜指示する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

各教員による：授業開示時に一覧表を配布し、周知を図る。

学生へのメッセージ

この科目は自ら積極的に課題を解決していくことが求められています。意欲的に参加してください。

課題に対するフィードバック

授業内で教員と学生がともに振り返りを行い、次回の課題を見つけていく。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション（ゼミの目的、進め方など）	予習：シラバスを読んでおく 復習：これからのゼミの課題について考える	
第2回	テーマを決めて、指導教員を確定する。（以後、担当教員	予習：興味関心のあるテーマを考えておく。	

	別の指導となる)	復習：テーマの具体的内容を考えておく。	
第3回	保育実践のテーマの候補の検討	予習：自分のテーマについて構想を具体化する。 復習：立案に向けた流れ・内容を考えておく。	B
第4回	保育実践のテーマ決定・構想	予習：自分のテーマについて構想を具体化する。 復習：立案に向けた流れ・内容を考えておく。	B
第5回	保育実践のテーマ、構想に基づく役割分担と立案	予習：自分のテーマについて事前学習を行う。 復習：分担にもとづいて具体的な立案を行う。	B
第6回	保育実践の具体的な流れの検討、教材研究・準備	予習：分担にもとづいた準備等を考えておく。 復習：教材研究・準備を完了しておく。	B
第7回	保育実践のリハーサル・環境構成	予習：実践のイメージをもって準備しておく。 復習：振り返って反省点・改善点をまとめる。	B
第8回	保育実践	予習：準備・環境構成を完了しておく。 復習：個人的な振り返りを行う。	D
第9回	保育実践の振り返り	予習：自分の反省点・改善点をまとめる。 復習：実践全体を総括する。	B
第10回	個々・グループの研究・実践テーマを検討する	予習：自分のテーマについて事前学習を行う。 復習：取り組む具体的な内容を考えておく。	B
第11回	研究・実践テーマのための調査方法の検討	予習：テーマに取り組む方法を構想する。 復習：方法を具体的な手順として考えておく。	B
第12回	研究・実践テーマのための計画作成	予習：取り組みのスケジュールを考えておく。 復習：調査計画としてまとめる。	
第13回	中間報告会の準備	予習：取り組みのスケジュールを考えておく。 復習：調査計画としてまとめる。	
第14回	中間報告会①前半グループの発表	予習：取り組みのスケジュールを考えておく。 復習：調査計画としてまとめる。	
第15回	中間報告会②後半グループの発表	予習：取り組みのスケジュールを考えておく。 復習：調査計画としてまとめる。	
	実施せず		

みずほゼミⅣ《オフィス》

更新日：2024/02/21 12:52:23

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A200330	授業コード	
担当教員	水野 早苗、永井 靖人、矢野由紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー		授業形態		期待される学習成果	7		
コース別 必修・選択必修等				授業時間+自習時間	60+30		
				履修条件・留意点			
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	コミュニケーション能力を高めながら、個人およびグループとして制作活動に取り組み、社会人として必要な知識、スキルを身につける。
方法	半年間を通して、複数のメディア制作、プログラミング、調査活動に取り組む。その成果は随時発表しながら、年度末の発表会でも披露する。

到達目標

1	他者を惹きつけるメディア制作、プログラミング、調査を行うことができる
2	他者と教え合いながら制作や調査に取り組むことができる
3	制作物のよさ、調査の概要を他者にわかりやすく伝えることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	制作物、調査の完成度	33
到達目標②	受講態度	33
到達目標③	プレゼンテーション	34
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	資料を授業ホームページで紹介する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	資料を授業ホームページで紹介する		

オープンな教育リソース

複数のテーマに取り組んでほしい。教え合ってほしい。楽しんで活動してほしい。

オフィスアワー

永井：月・水曜日12:20～12:50 2号館 研究室2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp
水野：金曜日9:00～12:00 2号館 研究室2-1 メールアドレス s-mizuno@mizuho-c.ac.jp
矢野：月・火曜日 9:00～10:30 2号館 研究室2-3 メールアドレス yano@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

提出された制作物について、随時助言する

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション：ゼミのねらいと進め方を知る	予習：シラバスを確認する 復習：制作の構想	D
第2回	制作、調査・集計・分析①	予習：参考動画を視聴する、制作の構想、打ち合わせ等の準備	D

		復習：制作物の修正	
第3回	制作，調査・集計・分析②	予習：参考動画を視聴する，制作の構想，打ち合わせ等の準備 復習：制作物の修正	D
第4回	制作，調査・集計・分析③	予習：参考動画を視聴する，制作を進める 復習：制作物の修正	D
第5回	制作，調査・集計・分析④	予習：参考動画を視聴する，制作を進める 復習：制作物の修正	D
第6回	制作，調査・集計・分析⑤	予習：参考動画を視聴する，制作を進める 復習：制作物の修正	D
第7回	制作，調査・集計・分析⑥	予習：参考動画を視聴する，制作を進める 復習：制作物の修正	D
第8回	制作，調査・集計・分析⑦	予習：参考動画を視聴する，制作を進める 復習：制作物の修正	D
第9回	制作，調査・集計・分析⑧	予習：参考動画を視聴する，制作を進める 復習：制作物の修正	D
第10回	制作，調査・集計・分析⑨	予習：参考動画を視聴する，制作を進める 復習：制作物の修正	D
第11回	制作，調査・集計・分析，資料作成⑩	予習：参考動画を視聴する，制作を進める 復習：制作物の修正	D
第12回	制作，調査・集計・分析，資料作成⑪	予習：参考動画を視聴する，制作を進める 復習：制作物の修正	D
第13回	制作，調査・集計・分析，資料作成⑫	予習：参考動画を視聴する，制作を進める 復習：制作物の修正	D
第14回	卒業制作発表会	予習：発表会の準備 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる	D
第15回	まとめ：学びの振り返り	予習：可能な箇所に入力する 復習：未記入の箇所に入力する	D
	実施せず		

みずほゼミⅣ ≪現代≫

更新日：2024/01/29 18:53:54

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A200330	授業コード	
担当教員	杉山佳菜子、谷口良美、長谷中崇志、鈴木安由美、丹羽裕紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー		授業形態	演習	期待される学習成果	8		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修、保必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	みずほゼミⅢで設定した研究や実践の主題について、研究や実践をすすめる。この科目では、実際に調査や実践を複数回行い、研究レポートとしてまとめる作業を行う。最終回には、各自の主題について、1年間の研究・実践の成果を発表する。
方法	フィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

到達目標

1	自分の興味や関心のある問題を研究・実践課題として理解し整理できる。
2	文献や資料の検討・要約し、それを研究レポート等にまとめられる。
3	研究レポート等の発表を通して、質疑応答や討論ができるようになる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題や実践への取り組み	20
到達目標②	研究レポート等の達成度	60
到達目標③	発表への取り組み	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	教員ごとに適宜指示する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	教員ごとに適宜指示する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

各教員による：授業開示時に一覧表を配布し、周知を図る。

学生へのメッセージ

みずほゼミⅢと同じ教員から指導を受けます。この科目は自ら積極的に課題を解決していくことが求められています。意欲的に参加してください。

課題に対するフィードバック

授業内で教員と学生がともに振り返りを行い、次回の課題を見つける。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション（ゼミの進め方などの確認）	予習：シラバスを確認する。 復習：授業内容をまとめておく。	
第2回	文献・資料の収集と整理	予習：テーマに関する文献・資料を探しておく。 復習：文献・資料の該当箇所を読んでおく。	

第3回	調査方法に向けての検討	予習：調査したい事柄を考えておく。 復習：調査実施に向けて準備を進める。	
第4回	一次的調査の実施準備	予習：調査実施に向けて準備を進める。 復習：調査の準備を完了させておく。	B
第5回	一次的調査の実施	予習：調査の準備を完了させておく。 復習：調査の手順や方法を記録しておく。	D
第6回	一次的調査結果の検討・まとめ	予習：調査結果を検討しておく。 復習：調査結果をまとめておく。	B
第7回	二次的調査の実施準備	予習：調査実施に向けて準備を進める。 復習：調査の準備を完了させておく。	B
第8回	二次的調査の実施	予習：調査の準備を完了させておく。 復習：調査の手順や方法を記録しておく。	D
第9回	進路について考える	予習：就職後に向けて、疑問点や不安を整理する。 復習：就職後の自己の課題について考える。	B
第10回	PROGの結果から自己を振り返る	予習：自己の長所と短所について整理する。 復習：PROGの結果を今後にどのように活かすか考える。	B
第11回	研究レポート等の指導・作成（全体の構想）	予習：全体の構想を考えておく。 復習：構成を決めて整理する。	
第12回	研究レポート等の指導・作成（調査結果の文章化）	予習：各項目の具体的内容を検討する。 復習：文章化してまとめておく。	
第13回	研究レポート等の指導・作成（全体の修正・確認）	予習：文章化してまとめておく。 復習：最終的な確認と修正を行う。	C
第14回	最終発表会 プレゼンテーション（前半）	予習：報告会の練習をする。 復習：発表会で学んだ内容をまとめておく。	
第15回	最終発表会 プレゼンテーション（後半）	予習：報告会の練習をする。 復習：学修内容の振り返りを行う。	
	実施せず		

みずほゼミⅣ ≪養護≫

更新日：2024/02/28 15:04:56

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A200330	授業コード		
担当教員	丹下 洋吾、鷺野 嘉映、渡辺 美恵							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー		授業形態		期待される学習成果	8			
コース別 必修・選択必修等	卒業必修	授業時間+自習時間						
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、学生自らが選択・設定した学校保健に関する課題・テーマでの研究についての指導を行う。この授業における学びは、卒業後、社会人として養護教諭として、科学的思考を身に付けた研究能力の発揮につながる。						

授業概要

内容	2年間の学びをもとに、自らが選択・設定した課題・テーマについて卒業研究発表を通して、卒業後、社会で活躍する覚悟を養う。
方法	ゼミ方式にて卒業研究レポートの作成に取り組む。卒業研究発表会で、研究レポートについてプレゼン資料を作成し、発表する。

到達目標

1	自分の興味関心のある問題を、研究課題としてレポートで結論することができる。
2	卒業研究レポートの発表会で、自分の結論を説明することができる。
3	地域社会（学校教育を含む）の発展に貢献する高い志と誇りを持つことができる。
4	積極的に授業に参加することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	成果物（卒業研究レポート）	60
到達目標②	卒業研究レポートの発表	15
到達目標③	卒業研究レポート作成への取組状況	10
到達目標④	授業に対する意欲と態度	15
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	看護研究ころえ帳 研究の基本からプレゼンテーションまで	医歯薬出版株式会社	李節子
2	学校保健の課題とその対応一令和2年度改訂一		日本学校保健会
3	保健室利用状況に関する調査報告書 平成28年度調査結果		日本学校保健会

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて、資料を配布または紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

【丹下】木曜日 10:40～14:00 1号館3階 研究室1
【鷺野】月曜日 12:10～12:55 研究室2-2
【渡辺】月曜日 9:00～12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

卒業研究は、担当教員による個別指導を中心に行い、必要に応じて合同ゼミ形式をとる。積極的に取り組むこと。各回において、注意事項があるので必ず確認をして臨むこと。

卒業研究をすすめるにあたっては、担当教員に積極的に指導を受けること。

課題に対するフィードバック

事前に提供されるルーブリックにより評価し、コメントを付けるなどしてフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画

	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	みずほドリル確認テスト 卒業研究レポートⅠ はじめにの書き方 ＊P Cを活用して，レポートを作成する	予習：みずほドリルを進めておく レポートの作成を進める 復習：指摘事項を踏まえてレポートの修正，作成を進める	A
第2回	卒業研究レポートⅡ 先行研究，論文の引用の仕方 ＊P Cを活用して，レポートを作成する	予習：研究の概要に沿ってレポート作成を進める 復習：指摘事項を踏まえてレポートの修正を進める	A
第3回	卒業研究レポートⅢ 研究方法の検討 ＊P Cを活用して，レポートを作成する	予習：研究の概要に沿ってレポート作成を進める 復習：指摘事項を踏まえてレポートの修正を進める	A
第4回	卒業研究レポートⅣ 研究方法の書き方 ＊P Cを活用して，レポートを作成する	予習：研究の概要に沿ってレポート作成を進める 復習：指摘事項を踏まえてレポートの修正を進める	A
第5回	卒業研究レポートⅤ 倫理的配慮について ＊P Cを活用して，レポートを作成する	予習：研究の概要に沿ってレポート作成を進める 復習：指摘事項を踏まえてレポートの修正を進める	A
第6回	卒業研究レポートⅥ 結果の取り扱い方 ＊P Cを活用して，レポートを作成する	予習：研究の概要に沿ってレポート作成を進める 復習：指摘事項を踏まえてレポートの修正を進める	A
第7回	卒業研究レポートⅦ 結果の書き方 ＊P Cを活用して，レポートをまとめる	予習：研究の概要に沿ってレポート作成を進める 復習：指摘事項を踏まえてレポートの修正を進める	A
第8回	卒業研究レポートⅧ 分析の方法と結果の読み取り方 ＊P Cを活用して，レポートをまとめる	予習：研究の概要に沿ってレポート作成を進める 復習：指摘事項を踏まえてレポートの修正を進める	A
第9回	卒業研究レポートⅨ 考察の書き方 ＊P Cを活用して，レポートをまとめる	予習：研究の概要に沿ってレポート作成を進める 復習：指摘事項を踏まえてレポートの修正を進める	A
第10回	卒業研究レポートⅩ 参考文献の記し方 ＊P Cを活用して，レポートをまとめる	予習：研究の概要に沿ってレポート作成を進める 復習：指摘事項を踏まえてレポートの修正を進める	A
第11回	キャリアデザインⅢ 労働者の権利について [講話（キャリアセンター）]	予習：配付する参考書を読む 復習：授業内容を整理する	A
第12回	キャリアデザインⅣ ビジネスマナー [講話（キャリアセンター）]	予習：社会人としての心構えを考える 復習：授業内容を実践する	
第13回	卒業研究レポート発表会Ⅰ ＊P Cを活用して，卒業研究の概要を発表する [プレゼンテーション]	予習：PowerPointを使って発表できるよう準備する 復習：他の発表者からの学びをまとめる	B
第14回	卒業研究レポート発表会Ⅱ ＊P Cを活用して，卒業研究の概要を発表する [プレゼンテーション]	予習：PowerPointを使って発表できるよう準備する 復習：他の発表者からの学びをまとめる	B
第15回	キャリアデザインⅤ 2年間のまとめ	予習：2年間のみずほゼミでの学びをまとめる 復習：感想を書いて提出する	
	実施せず		

みずほゼミⅣ ≪食栄≫

更新日：2024/02/21 13:58:59

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A200330	授業コード	
担当教員	荒川 直江、横山 洋子、高木恵美子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー		授業形態	演習	期待される学習成果	8		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修	授業時間+自習時間					
		履修条件・留意点	実習を行う回は、白衣、帽子、マスク、シューズを持参すること。忘れた場合は実習することができません。				
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として給食施設での給食管理業務や病院等での栄養食事指導の経験を活かして、実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、栄養士としてのテクニカルスキルを養う。					

授業概要

内容	主な病気の食事について深く学び、栄養士としての実践力を身につける。また、グループワークを通して協調性・積極性を身につけるとともに、「卒業研究」で食の問題を考えることにより、健康社会に貢献できる力を身につける。
方法	<ul style="list-style-type: none">講義とグループワークで構成する。グループワークでは、プレゼンテーション用資料を作成し、プレゼンテーションを行う。レポートは、Microsoft Teamsの「課題」機能を使って提出する。

到達目標

1	課題に対して自分なりの考えを持ち、まとめることができる。
2	日本の食の問題とそれに対する取り組み方を考え、分かりやすく伝えることができる。
3	学んだことを振り返り、将来への生かし方をまとめることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	50
到達目標②	卒業研究	30
到達目標③	振り返りシート	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

水曜日 9:30~11:30
研究室2-1

学生へのメッセージ

積極的に参加し、楽しみながら学ぶことを望みます。

課題に対するフィードバック

振り返りシートおよびレポートは、添削の上返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	栄養指導に生かす、病気と栄養の理解 (1) メタボリックシンドローム *みずほドリル確認テスト	予習：メタボリックシンドロームについて調べる 復習：学んだことをまとめ、レポート提出する	A
第2回	栄養指導に生かす、病気と栄養の理解 (2) 骨粗鬆症	予習：骨粗鬆症について調べる 復習：学んだことをまとめ、レポート提出する	A
第3回	栄養指導に生かす、病気と栄養の理解 (3) 脂質異常症	予習：脂質異常症について調べる 復習：学んだことをまとめ、レポート提出する	A
第4回	栄養指導に生かす、病気と栄養の理解 (4) 糖尿病	予習：糖尿病について調べる 復習：学んだことをまとめ、レポート提出する	A
第5回	行事食の立案	予習：年間行事と食事について調べる 復習：学んだことをまとめ、行事食の献立を提出する	A、B
第6回	行事食の調理	予習：実習献立を確認しておく 復習：学んだことまとめる	A、B
第7回	ジェネリックスキルについて (プログ測定) *短大生調査	予習：大学で学ぶことと社会が繋がることを理解する 復習：短大生活を振り返る	A
第8回	卒業研究 (1) 説明、課題決定、計画	予習：研究課題を考える 復習：研究課題について、今後の計画を確認する	A、B
第9回	卒業研究 (2) 試作準備	予習：計画を完成させる 復習：試作準備について確認する	A、B
第10回	卒業生の話しを聴く (卒業生と在学生の交流会)	予習：卒業生への質問を考える 復習：学んだことをまとめ、レポート提出する	A、B
第11回	卒業研究 (3) 試作・評価	予習：試作手順を確認する 復習：改善点を考える	A、B
第12回	卒業研究 (4) 発表準備	予習：研究内容をまとめる 復習：研究内容について振り返る	A、B
第13回	卒業研究 (5) 発表	予習：発表の練習をする 復習：発表内容について振り返る	A、B
第14回	職業倫理について (外部講師) (愛知県栄養士会)	予習：栄養士の役割について調べる 復習：学んだことをまとめてレポート提出する	A
第15回	まとめ 振り返りシート、授業評価	予習：学んだことを振り返る 復習：卒業までにやるべきことを考える	A
	実施せず		

英語コミュニケーション

更新日：2024/02/25 23:58:51

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	3A200510	授業コード	
担当教員	久野 靖洋						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース, 短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	4C123, 4C124	授業形態	演習	期待される学習成果	4		
コース別 必修・選択必修等	選択, 教職必修, 幼保必修			授業時間+自習時間	30+60		
				履修条件・留意点			
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	英語 4 技能（「読む」「聴く」「書く」「話す」）習得を前提とし、理解⇒トレーニング⇒アクティブラーニングのサイクルを展開する。4 技能習得のための各種音声トレーニングに加え、毎回の授業のアクティブラーニングにおいて、互いに助け合い果敢に英語でコミュニケーションする姿勢の育成を目指す。
方法	英語 4 技能を「正確性」と「積極性」の両面から育成する。毎回の確認テストでは英語 4 技能習得のための「正確性」、授業内のアクティブラーニングでは間違いを恐れぬ「積極性」をそれぞれ追求する。また英語を使うことを通して、毎回テーマとするコミュニケーション方略をペアワークにより実践・評価する。

到達目標

1	協調的姿勢で、間違いを恐れず、英語でのコミュニケーションに果敢に挑戦できる
2	より正確なインプットとアウトプットをするための英語の仕組みを理解している
3	英語 4 技能を鍛える音声トレーニングの方法がわかり、自助努力で進められる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ワークシートの記入と提出	30
到達目標②	毎回の確認テスト（口頭チェック）	40
到達目標③	課題提出	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	自作のプリントを使用		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	例文で覚える中学英単語・熟語1800	学研プラス	学研
2	中学英語をもう一度ひとつひとつわかりやすく。改訂版	学研プラス	山田 暢彦

オープンな教育リソース

授業で適宜紹介する。

オフィスアワー

1号館3階「非常勤講師室」 授業前後15分。

学生へのメッセージ

日常的にインターネットや様々なリソースを適切に用い英語に触れることを習慣化していくこと。また細切れ時間を利用しインプット・アウトプットをするよう努めること。具体的な方法については適宜授業内で説明する。

課題に対するフィードバック

確認テストは主に教員との口頭チェックで行う。課題の取り組み方と評価の仕方は随時授業で説明し、提出後はフィードバックを与える。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	授業の進め方、音声トレーニング例文1-4 英語学習の体験	復習：英文の音声トレーニング例文1-4+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第2回	音声トレーニング例文5-8、英語表現のアウトプット①	予習：英文の音声トレーニング例文5-8 復習：英文の音声トレーニング例文5-8+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第3回	音声トレーニング例文9-12、英語表現のアウトプット②	予習：英文の音声トレーニング例文9-12 復習：英文の音声トレーニング例文9-12+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第4回	音声トレーニング例文13-16、英語表現のアウトプット③	予習：英文の音声トレーニング例文13-16 復習：英文の音声トレーニング例文13-16+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第5回	音声トレーニング例文17-20、英語表現のアウトプット④	予習：英文の音声トレーニング例文17-20 復習：英文の音声トレーニング例文17-20+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第6回	音声トレーニング例文今までの総復習、英語表現のアウトプット⑤	予習：英文の音声トレーニング例文1-20 復習：英文の音声トレーニング例文1-20+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第7回	音声トレーニング例文21-24、英語表現のアウトプット⑥	予習：英文の音声トレーニング例文21-24 復習：英文の音声トレーニング例文21-24+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第8回	音声トレーニング例文25-28、英語表現のアウトプット⑦	予習：英文の音声トレーニング例文25-28 復習：英文の音声トレーニング例文25-28+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第9回	音声トレーニング例文29-32、英語表現のアウトプット⑧	予習：英文の音声トレーニング例文29-32 復習：英文の音声トレーニング例文29-32+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第10回	音声トレーニング例文33-36、英語表現のアウトプット⑨	予習：英文の音声トレーニング例文33-36 復習：英文の音声トレーニング例文33-36+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第11回	音声トレーニング例文総復習、英語表現のアウトプット⑩	予習：英文の音声トレーニング例文1-36 復習：英文の音声トレーニング例文1-36+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第12回	音声トレーニング例文37-40、英語表現のアウトプット⑪	予習：英文の音声トレーニング例文37-40 復習：英文の音声トレーニング例文37-40+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第13回	音声トレーニング例文41-44、英語表現のアウトプット⑫	予習：英文の音声トレーニング例文41-44 復習：英文の音声トレーニング例文41-44+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第14回	音声トレーニング例文45-48、英語表現のアウトプット⑬	予習：英文の音声トレーニング例文45-48 復習：英文の音声トレーニング例文45-48+意味復習・暗唱	ペアワーク グループワーク
第15回	総復習と今後の学習計画		ペアワーク グループワーク
	実施せず		

英語コミュニケーション

更新日：2024/02/21 09:11:56

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A200510	授業コード		
担当教員	榊原 アイリン							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	4C124	授業形態	演習	期待される学習成果	4			
コース別 必修・選択必修等	教職必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	英語の授業では、聞いて話すだけでなく、読んで書くという4つの能力をバランスよく習得出来る事を目指す。 世界各地の文化を学びながら、英会話が楽しめるよう学習していく。 授業で学んだ表現を活用して英語でコミュニケーションが出来る事を目標にする。
方法	テキスト内容を理解後、ペアワークやロールプレイをする。

到達目標

1	授業に真剣に取り組み、課題を確実に提出する
2	英語でプレゼンテーションができる
3	英語で外国についてリサーチできる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業への取り組み方、提出物等	70
到達目標②	発表	20
到達目標③	レポート	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	English Missions! Starter	Kinseido	Robert Hickling

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

後期 金曜日 12:15~12:40 非常勤講師室

学生へのメッセージ

楽しく英語を学ぼう。英和辞書を持ってくること。

課題に対するフィードバック

授業内容の確認+英語発表は口頭で伝える。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	英語について	予習：自己紹介の準備 復習：自己紹介の復習を翌週提出	B・C
第2回	テキスト UNIT 1 Welcome to Vancouver	予習：教科書を事前に予習 復習：教科書内容について整理しておく。	B・C

第3回	テキスト UNIT 2 Ryo Loves San Francisco	予習：教科書を事前に予習 復習：教科書内容について整理しておく。	B・C
第4回	テキスト UNIT 3 A British City in Canada	予習：教科書を事前に予習 復習：教科書内容について整理しておく。	B・C
第5回	テキスト UNIT 4 L.A. Style	予習：教科書を事前に予習 復習：教科書内容について整理しておく。	B・C
第6回	Review	予習：Unit 1-4 復習：レポートの準備	B・C
第7回	テキスト UNIT 5 The Canadian Rockies	予習：教科書を事前に予習 復習：教科書内容について整理しておく。	B・C
第8回	テキスト UNIT 6 The Grand Canyon	予習：教科書を事前に予習 復習：教科書内容について整理しておく。	B・C
第9回	テキスト UNIT 7 T.O. - Toronto, Ontario	予習：教科書を事前に予習 復習：教科書内容について整理しておく。	B・C
第10回	テキスト UNIT 8 Big Texas	予習：教科書を事前に予習 復習：教科書内容について整理しておく。	B・C
第11回	Review	予習：Unit 5-8 復習：レポートの段取り	B・C
第12回	テキスト UNIT 9 Ottawa - The Capital	予習：教科書を事前に予習 復習：教科書内容について整理しておく。	B・C
第13回	Prepare for presentation	予習：Presentationの準備 復習：Presentationの内容について整理しておく。	B
第14回	Prepare for presentation	予習：Presentationの準備 復習：Presentationの内容について整理しておく。	B
第15回	Presentation *授業内容は諸事情により変更する場合も有る	予習：Presentationの準備 復習：Presentationを振り返る。	D
	実施せず		

情報リテラシー

更新日：2024/02/29 11:43:28

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A200610	授業コード	
担当教員	姚 静雅						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1C111	授業形態	演習	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修, 教職必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点	毎回の授業で説明した課題（成果物）が提出されていない場合は減点します。				
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	社会で求められる情報リテラシー（情報活用能力）の基盤要素である「問題を発見し解決を思考する枠組み」、「情報社会の有効性と問題点を認識し、主体的に判断するための知識や態度」、「情報通信技術に関する科学的な理解や技能」を身に着ける。また、このための手段として、PC操作やOffice系ソフトの操作に慣れる。
方法	Teamsにアップロードされる講義資料、ならびにパソコン操作の個人ワークから重要性や各要点を理解する。

到達目標

1	コンピュータの知識・情報倫理を学習するとともに、基本的情報処理技術を修得できる。
2	オフィス系ソフトでレポートを作成することができる。
3	収集情報から考えをまとめ、オフィス系ソフトを使ってプレゼンテーションをすることができる。
4	オフィス系ソフトで表計算を使い、基礎的な数値解析ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	受講態度、成果物	25
到達目標②	受講態度、成果物	25
到達目標③	受講態度、成果物	25
到達目標④	受講態度、成果物	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	情報リテラシー アプリ編 Windows10, Office2019対応	FOM出版	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

姚：yaojingya@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

情報リテラシーを実践できる人になってください。また、「PCを使ってできること」を1つでも増やしてほしいです。

課題に対するフィードバック

- ・自学自習課題について授業内で発表し、学生間や教員との情報や意見の交換をおこなう。
- ・疑問点があれば随時対応する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	Windows PC	予習：Windows PCの設定でやりたいことを抽出する	A

	基礎知識と基本操作	復習：上記やりたいことのブラッシュアップと実践	
第2回	Word① 基本操作	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：操作に慣れておく	A
第3回	Word② 図や表を含む文書	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当文書を作成する	A
第4回	Word③ レポート作成の基本	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当文書を作成する	A
第5回	Word④ ビジネス文書の作成	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当文書を作成する	A
第6回	Word⑤ オリジナルレポートの作成	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当文書を作成する	A
第7回	Excel① 基本操作	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：操作に慣れておく	A
第8回	Excel② 絶対参照・相対参照	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当エクセルファイルを完成する	A
第9回	Excel③ グラフの作成	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当エクセルファイルを完成する	A
第10回	Excel④ データベース機能の利用	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当エクセルファイルを完成する	A
第11回	Excel⑤ 関数の利用	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：該当エクセルファイルを完成する	A
第12回	PowerPoint① 基本操作	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：操作に慣れておく	A
第13回	PowerPoint② オリジナルスライド原稿の作成	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：パワポ原稿を作成する	A
第14回	PowerPoint③ パワポを使った発表のコツ	予習：教科書の該当箇所を予習する 復習：パワポ原稿を作成する	A
第15回	PowerPoint④ 最終発表	予習：今までの授業内容を振り返る 復習：印象に残った知識または技術を記録する	A
	実施せず		

笑い与健康

更新日：2024/02/29 08:41:05

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A200700	授業コード	
担当教員	西田 元彦						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	2C112	授業形態	講義・演習	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点	①履修人数を20人までとしており、制限人数を超えた場合は、抽選により受講者を決定します。②学部生も受講します。③テキストは必ず購入し、毎回忘れずに持参してください。				
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	笑いの医学的効能を科学的に実証している現役医師による授業である。この授業における学びは、卒業後、様々な分野で、社会人として健康生活を維持する力、伝達する力、推進する力に生かすことができる。					

授業概要

内容	「笑い」が人間に与える影響についてこれまで様々な研究されている。その中でも近年「笑い」が健康によい効果を与えることが判明している。「上手に笑う」ことで、対人関係が改善するだけでなく、免疫力が向上し、痛みやストレスの改善するなどの研究事例を学び、「笑い」を上手に日常生活の中に取り入れ、より良い人間関係や健康を高める方法を修得する。	
方法	パワーポイントを利用した講義が中心となるが、笑いヨガの体験、笑い声の出し方のボイストレーニング、素敵な笑顔を作る微笑み筋トレーニングの実習も取り入れていく。	

到達目標

1	笑いの種類と意味、幼児から小児の笑いの特徴を説明できる。
2	笑いが脳に及ぼす影響を説明できる。
3	笑いがストレスに与えるメカニズムを説明できる。
4	笑いが実際の病気の改善にどのような影響を与えているか説明できる。
5	人に対して良い印象を与える笑顔の作り方を学び実践できる。
6	笑いの人間に与える影響を知りどう活用していくかを説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト	10
到達目標②	小テスト、レポート	10
到達目標③	小テスト	5
到達目標④	小テスト、レポート	10
到達目標⑤	小テスト、レポート	10
到達目標⑥	まとめテスト	55

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	笑いの健康学 TEXT BOOK	シンプリブックス	西田元彦

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業のある日の授業後17：40～18：00 非常勤講師室

学生へのメッセージ

笑いや笑顔がもたらす健康効果を理解し、「笑顔メイク」「笑顔の作り方」「笑いヨガ体験」の実習を通して、実際の社会で活用してほしい。

課題に対するフィードバック

提出された課題、小テストに対し、次回講義冒頭で解説、意見交換、講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	笑い学総論 【9月26日（木）4限目】	予習：身の回りにおける笑いの種類を調べる 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	
第2回	笑いとの関係（内分泌系） 【9月26日（木）5限目】	予習：脳の基本的な役割をまとめておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	A
第3回	笑いとの関係（神経系） 【10月3日（木）4限目】	予習：脳の基本的な役割をまとめておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	A
第4回	笑いとの関係（ストレス） 【10月3日（木）5限目】	予習：自分が感じたストレスの経験をまとめておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	
第5回	微笑み筋マッサージ（人から好かれる笑顔メイク） ゲストスピーカー：佐藤由美（話し方、メイクコーディネーター） 【10月10日（木）4限目】	予習：笑う時に使われる筋肉について調べておく 復習：鏡をみて上手な笑顔ができるよう練習する	A、C
第6回	笑顔トーク（人から好かれる話し方） ゲストスピーカー：佐藤由美（話し方、メイクコーディネーター） 【10月10日（木）5限目】	予習：自分の日頃の話し方が相手にどのような印象をもたらせるか、相手に伝わりやすいかを考えておく。 復習：学んだことを実際の会話に取り入れる	A、B
第7回	作り笑い、素敵な笑顔の効能、効果 【10月17日（木）4限目】	予習：楽しい時の笑いと作り笑いの違いを調べておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	
第8回	作り笑い、素敵な笑顔の作り方 【10月17日（木）5限目】	予習：健康に良い作り笑いについて調べておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	A
第9回	落語から学ぶコミュニケーション術 ゲストスピーカー：微笑亭さん太（落語家、新作落語作家） 【10月24日（木）4限目】	予習：これまでの授業で学んだことを見直しておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	A
第10回	乳児から小児の笑い 【10月24日（木）5限目】	予習：これまでの授業で学んだことを見直しておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	
第11回	笑いの健康効果1（認知症、がん等） 【10月31日（木）4限目】	予習：認知症やがんの基本的なことを調べておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	
第12回	笑いの健康効果2（高血圧、糖尿病等） 【10月31日（木）5限目】	予習：高血圧や糖尿病の基本的なことを調べておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	A
第13回	笑いヨガの理論と体験 体育館集合 ゲストスピーカー：比嘉美香（笑いヨガトレーナー） 【11月7日（木）4限目】	予習：これまでの授業で学んだことを見直しておく 復習：笑いヨガの効果と体感した感覚をまとめておく	A、B
第14回	笑い学まとめ 【11月7日（木）5限目】	予習：これまでの授業で学んだことを見直しておく 復習：授業で学んだことを理解してまとめる	
第15回	生活の中に笑いを取り入れるために 後半はまとめテストを行います。 【11月14日（木）5限目】	予習：これまで学んだことを見直してまとめる 復習：笑いをこれからの生活にどのように取り入れるかまとめる	
	実施せず		

暮らしのなかの憲法

更新日：2024/02/05 12:32:21

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	3A200900	授業コード	
担当教員	柴垣 直哉						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1C123, 1C124	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	選択, 教職必修, 幼保必修			授業時間+自習時間	30+60		
				履修条件・留意点			
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	日本国憲法は、日本の最高法規でありながら、小中高教育では触れることは乏しく、大学で初めて触れる人が大半です。その上、中身も抽象的な規定が多く、具体的なイメージが湧きにくいという特徴があります。加えて、同法に定められている「自由権」「平等権」「社会権」といった人権も、「日本国」という国家や「国会」「内閣」「裁判所」といった国の組織も、皆さんが生まれたときから当たり前存在であるが故に、関心を抱きにくいのもやむを得ないところです。 この授業では、皆さんが日本国憲法を勉強すべき動機付けからスタートし、同法の制定経緯、人権の特徴、日本国の統治制度を確認して、暮らしの中に日本国憲法を根拠とする沢山の事象・制度があることを理解して頂き、皆さん一人一人の主権者意識を涵養します。
方法	予習範囲を中心に講義を行い、講義中は判例事例を用いて学生に質問し、ディスカッションを行います。 教職員採用試験過去問等を参照し、知識のアウトプットによる定着を図ります。

到達目標

1	社会における近代憲法の役割を理解できている
2	日本国憲法が保障する人権の内容を理解できている
3	日本国の統治構造と三権の役割が理解できている

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	40
到達目標②	定期試験	30
到達目標③	定期試験	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	スタディ憲法（第2版）	法律文化社	曾我部真裕＝横山真紀編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	あたらしい憲法のはなし	岩波文庫	高見勝利編

オープンな教育リソース

e-gov法令検索 (<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=321CONSTITUTION>)
衆議院Webサイト (http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_annai.nsf/html/statics/shiryo/dl-constitution.htm)
文部省「あたらしい憲法のはなし」 (https://www.aozora.gr.jp/cards/001128/files/43037_15804.html)

オフィスアワー

毎回の授業後に時間を設ける。

学生へのメッセージ

・日本国憲法の条文については、教科書巻末資料を参照するのが簡便ですが、「オープンな教育リソース」に掲載したe-gov法令検索や衆議院Webサイトでも確認することができます。
・授業開始に先立って、参考書（23-75頁）ないし「オープンな教育リソース」掲載の「あたらしい憲法のはなし」の通読を推奨します（参考書のほうが新字体で多少読みやすい）。

課題に対するフィードバック

毎回の授業冒頭において、前回授業内容の振り返りを行い、学生の理解度を確認してから次の授業内容を進める。
試験結果については、採点実感を公表する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス1：日本国の構成員（国民・天皇）	（予習） 日本国憲法1～8条、教科書第1・3章。 （復習） 配布レジュメ熟読	B
第2回	ガイダンス2：大日本帝国憲法と日本国憲法の違い	（予習） 日本国憲法前文・9条、教科書第2章。 （復習） 配布レジュメ熟読	B
第3回	統治機構1：日本国の組織構成①（国会）	（予習） 日本国憲法41～64条、教科書第4章。 （復習） 配布レジュメ熟読。	B
第4回	統治機構2：日本国の組織構成②（内閣）	（予習） 日本国憲法65～75条、教科書第5章。 （復習） 配布レジュメ熟読	B
第5回	統治機構3：日本国の組織構成③（裁判所）	（予習） 日本国憲法76～82条、教科書第6章。 （復習） 配布レジュメ熟読	B
第6回	統治機構4：日本の組織構成④（地方自治体）	（予習） 日本国憲法92～95条、教科書第7章。 （復習） 配布レジュメ熟読	B
第7回	基本的人権1：人権とは何か（総論）	（予習） 日本国憲法10～11条、教科書第8章。 （復習） 配布レジュメ熟読	B
第8回	基本的人権2：平等権	（予習） 日本国憲法14条・24条、教科書第10章。 （復習） 配布レジュメ熟読	B
第9回	基本的人権3：思想・良心の自由、信教の自由	（予習） 日本国憲法19～20条、教科書第11章。 （復習） 配布レジュメ熟読	B
第10回	基本的人権4：表現の自由、学問の自由	（予習） 日本国憲法21条・23条、教科書第11章。 （復習） 配布レジュメ熟読	B
第11回	基本的人権5：居住移転の自由・職業選択の自由・財産権の保障	（予習） 日本国憲法22条・29条、教科書第12章。 （復習） 配布レジュメ熟読	B
第12回	基本的人権6：身体の自由と刑事手続上の権利・国務請求権	（予習） 日本国憲法17～18条・31～40条、教科書第13章。 （復習） 配布レジュメ熟読	B
第13回	基本的人権7：幸福追求権・新しい人権	（予習） 日本国憲法13条、教科書第10章。 （復習） 配布レジュメ熟読	B
第14回	基本的人権8：生存権・教育を受ける権利・労働基本権（社会権）	（予習） 日本国憲法25～28条、教科書第14章。 （復習） 配布レジュメ熟読	B
第15回	基本的人権9：参政権	（予習） 日本国憲法15～16条、教科書第15章。	B

	(復習) 配布レジュメ熟読	
定期試験	筆記試験 (穴埋択一問題・事例問題に対する論述)	

暮らしのなかの心理学

更新日：2024/01/31 17:50:28

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A201010	授業コード	
担当教員	永井 靖人						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1C123	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	人間の思考や行動・状態や特性をさまざまな観点から捉え、科学的思考力、批判的思考を育み、心豊かな人間になるための教養を養う。
方法	授業内容の説明の前後に、話し合い、調べ学習、Office365（Forms, Whiteboard, Teams）を用いた振り返りや知識の共有などのグループワーク、アクティブラーニングを行う。

到達目標

1	人間の心理、行動に関する課題について深く考え、意見を表明することができる
2	自己の生活経験を心理学に基づいて考察することができる
3	よりよい人生を築くための行動指針を立てることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	討論、発表の内容、参加度	33
到達目標②	ポートフォリオ	33
到達目標③	受講態度、課題の遂行状況	34
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

日本心理学会『心理学って何だろう』https://psych.or.jp/interest/lecture_hs/

オフィスアワー

月・水曜日12:20～12:50 2号館2階研究室2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

授業では簡単には答えが出ない哲学的な問題について考える機会を設けています。自分なりの考えを持つ、他者の意見に心を傾ける経験を通して、共同知を築いていきましょう。

また、授業内で参考資料等を紹介するので、興味を持ったトピックについては、自分なりに調べ学習を深めてください。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対して、Teamsで回答、共有します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニン

			グの実施方法
第1回	心理学とは：朝ご飯を食べると成績が上がるの？	予習：「早寝早起き朝ごはん」について調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第2回	発達①：遺伝か環境か、それとも運？	予習：「アルバート坊や」について調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第3回	発達②：不老不死を選びますか？	予習：「人生100年」について調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第4回	性格①：血液型で性格がわかる？	予習：血液型について調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第5回	性格②：わたしはだれ？	予習：「テセウスの船」について調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第6回	経済①：思わず買ってしまった...	予習：「アンカリング効果」について調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第7回	経済②：どうやって利益を上げる？	予習：「ハロー効果」について調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第8回	感情①：イイね！がほしい？	予習：「承認欲求」について調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第9回	感情②：それっておいしい？	予習：舌のつくりについて調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第10回	学習①：クラスに誕生日が同じ人はいる？	予習：クラスに誕生日が同じ人はいる確率について調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第11回	学習②：私を覚えてます？	予習：「長期記憶」について調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第12回	学習③：決めつけないで！	予習：「確証バイアス」について調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第13回	社会①：助けてほしいですか？	予習：「援助行動」について調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第14回	社会②：正義とは？	予習：「最大多数の最大幸福」について調べる 復習：自分の考えと他者の考えを比較して振り返る	A、B
第15回	まとめ	予習：質問するための疑問点を整理する 復習：ポートフォリオを整理する	A、B
	実施せず		

身近な科学

更新日：2024/02/21 13:20:50

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A201300	授業コード		
担当教員	鷺野 嘉映							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	1C111	授業形態	講義	期待される学習成果	1			
コース別 必修・選択必修等	選択、養護教諭コース必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	現在の私たちの豊かな生活は、科学によって支えられている。限りある地球を守りながら、未来にわたってより豊かな人間社会を実現するためには、科学の中心である化学や生物を理解していくことは必須である。本科目では、生理学・生化学・環境科学につながる、特に化学に関する基礎的な内容を中心とした講義を行う。科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
方法	教科書もしくは資料に基づき講義を行う。 各授業においては、授業内容に関して、高校までの学習内容に基づき常にQ&Aにより授業を進行する。なお、回答においては、「分かりません」や安易な回答は認めません。

到達目標

1	身近な物質のしくみや性質を説明できる。
2	化学・生物と現代社会がどのように関わり合っているのかを説明できる。
3	科学技術に対する関心を高める態度で積極的に授業に参加できる。
4	生活の中の科学に対して関心をもち、その解決を図ることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	30
到達目標②	定期試験	30
到達目標③	授業態度	20
到達目標④	レポート・プレゼンテーション	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	楽しく学ぶ 暮らしの化学	化学同人	瀬瀬守

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月曜日 12:10~12:55 研究室2-2

提示したオフィスアワーでの対応に加えて、メールwashino@mizuho-c.ac.jp (#を@に変更) で事前に予約することで適宜対応します。

学生へのメッセージ

毎回予習復習に努めて、講義中での積極的な質問を期待します。

授業時における他の学生の授業を妨げる態度はマイナス評価となるので注意してください。

授業中に突っ伏して寝る等、体調不良が考えられる場合は、保健室での休養をお願いします。

授業の進行状況によっては、シラバスの内容に変更が生じる場合がありますが、その際は事前に通知します。

課題に対するフィードバック

授業時間中に口頭で多くの質問を課し、意見交換を行うとともに、講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	化学の基礎1 (物質の成り立ちと構成) (1.貴金属の化学、10.金属と文明の化学)	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：授業内容につき、整理しまとめを作成する。教科書の1,10章をまとめるとともに練習問題に取り組む。	A
第2回	化学の基礎2 (化学結合：総論・イオン結合・共有結合・金属結合)	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：授業内容につき、整理しまとめを作成する。教科書の1,10章をまとめるとともに練習問題に取り組む。	A
第3回	化学の基礎3 (酸と塩基、酸化還元反応)	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：授業内容につき、整理しまとめを作成する。教科書の1,10章をまとめるとともに練習問題に取り組む。	A
第4回	化学の基礎4 (酵素反応と酸塩基平衡)	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：授業内容につき、整理しまとめを作成する。教科書の1,10章をまとめるとともに練習問題に取り組む。	A
第5回	化学の基礎5 (有機化合物) (2.香料、化粧品化学、3.繊維、衣類化学、4.石けん、洗剤化学、15.石油とプラスチックの化学)	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：授業内容につき、整理しまとめを作成する。教科書の2,3,4,15章をまとめるとともに練習問題に取り組む。	A
第6回	食の化学1 (6.栄養化学① 炭水化物、たんぱく質)	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：授業内容につき、整理しまとめを作成する。教科書の6章をまとめるとともに練習問題に取り組む。	A
第7回	食の化学2 (7.栄養化学② 脂質、核酸、ミネラル、ビタミン、5.味覚化学)	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：教科書の5,7章をまとめるとともに練習問題に取り組む。	A
第8回	地球の成り立ち：ビデオ視聴とレポート作成 (9.水の化学)	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：ビデオ内容を自らの言葉でまとめておく。教科書の9章をまとめるとともに練習問題に取り組む。	A
第9回	化石燃料の概要 (15.石油とプラスチックの化学)	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：ビデオ内容を自らの言葉でまとめておく。教科書の15章をまとめるとともに練習問題に取り組む。	A
第10回	化石燃料の環境影響・生体影響	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：授業内容につき、整理しまとめを作成する。教科書の15章をまとめるとともに練習問題に取り組む。	A
第11回	光・放射線の基礎 (12.色と光の化学)	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：授業内容につき、整理しまとめを作成する。教科書の12章をまとめるとともに練習問題に取り組む。	A
第12回	放射線の健康影響	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：授業内容につき、整理しまとめを作成する。日本における放射線問題につき、整理しまとめを作成する。	A
第13回	環境保全とSDGs (13.家電と日用品の化学、14.電気と電池の化学)	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：授業内容につき、整理しまとめを作成する。授業内容につき、整理しまとめを作成する。現在の環境問題につき、整理しまとめを作成する。	A
第14回	クスリの化学 (11.薬と毒の化学)	予習：学習内容に関連する高校の化学基礎・生物基礎の項目についてまとめておく。 復習：授業内容につき、整理しまとめを作成する。教科書の11章をまとめるとともに練習問題に取り組む。	A
第15回	身近な科学に関するレポート発表	予習：課題についてインターネットや成書によりまとめ、レポート及びパワーポイント資料を作成する。 復習：授業内で提起された課題について自らの言葉でまとめておく。	A,D
	定期試験		

健康・スポーツ科学

更新日：2024/01/15 14:28:32

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A201510	授業コード	
担当教員	刑部 純平						
備考							
担当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	1C124	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	選択, 教職必修、幼保必修			授業時間+自習時間	15+30		
				履修条件・留意点			
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	運動やスポーツは、生涯にわたる健康維持・増進を目指すうえで重要な意義を持ちます。生活習慣病や運動器疾患等の健康問題について、運動やスポーツの実践がどのように役立つのかを科学的知見を基に解説します。
方法	PowerPointを活用して講義を行います。 毎回、授業内で課題を提示します。課題に対する意見をリアクションペーパーに記入してください。 なお、授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらいます。 また、授業終盤に確認問題を実施します。

到達目標

1	現代社会の健康問題について、基礎知識を説明することができる
2	日常生活における身体活動増進の重要性について理解している
3	グラフや図などの情報を分析し、考察することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	40
到達目標②	定期試験	30
到達目標③	レポート	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	スライド資料を配布します。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

本授業では復習用教材として、授業動画のアーカイブ配信を行います。
アーカイブ配信動画の視聴方法については、授業内で説明します。

オフィスアワー

後期 木 10時40分～12時10分（この時間以外は応相談）
1号館 3階 研究室 4

※事前予約が必要（必ずメールで事前予約をしてください）
osakabe@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

運動やスポーツを実践することの意義を理解し、今後の生活に役立ててください。

課題に対するフィードバック

授業内の課題（リアクションペーパーのコメント）に関しては、授業内で解説をします。
また、授業終盤で実施する確認問題に関しては、確認問題終了時に解説をします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	運動による生活習慣病の予防と改善①（肥満）	予習：生活習慣病と肥満について予習してください。 復習：配布資料およびアーカイブ動画を活用してください。	A
第2回	運動による生活習慣病の予防と改善②（高血圧・高脂血症）	予習：高血圧と高脂血症について予習してください。 復習：配布資料およびアーカイブ動画を活用してください。	A
第3回	運動による生活習慣病の予防と改善③（糖尿病）	予習：糖尿病について予習してください。 復習：配布資料およびアーカイブ動画を活用してください。	A
第4回	運動による運動器疾患の 予防と改善（変形性膝関節症・骨粗鬆症）	予習：変形性膝関節症と骨粗鬆症について予習してください。 復習：配布資料およびアーカイブ動画を活用してください。	A
第5回	運動による認知能力の維持と改善（認知機能・抑うつ）	予習：認知機能とうつ病について予習してください。 復習：配布資料およびアーカイブ動画を活用してください。	A
第6回	運動によるがんの予防	予習：がんについて予習してください。 復習：配布資料およびアーカイブ動画を活用してください。	A
第7回	フレイル・サルコペニア対策	予習：フレイル・サルコペニアについて予習してください。 復習：配布資料およびアーカイブ動画を活用してください。	A
第8回	健康のための睡眠	予習：睡眠について予習してください。 復習：配布資料およびアーカイブ動画を活用してください。	A
第9回	定期試験		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

スポーツ

更新日：2024/02/24 22:24:47

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	3A201610	授業コード	
担当教員	高山 伸也						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	2C123, 2C124	授業形態	実技	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	選択, 教職必修、幼保必修			授業時間+自習時間	30+15		
				履修条件・留意点			
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	スポーツを通じて、健康・体力づくりのための運動方法を体得する スポーツを安全に実施するためにルールの理解や社会性、健康管理の認識を高め、他者と協働する力のほか、主体性・思考力・判断力を深める力を養う。						
方法	練習を自分たちで考え行う。試合についてはチームでの作戦も考える						

到達目標

1	基本的ルールを理解している。
2	試合を進めることが出来る。
3	スポーツの本質を理解している。
4	チームメイトと時間を共有する。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	試合に参加	15
到達目標②	審判を行える	15
到達目標③	駆け引きを楽しめる	30
到達目標④	試合で協力しあえる	40
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業前30分

学生へのメッセージ

スポーツの面白さを感じると共に、体を動かす楽しさを感じてほしい

課題に対するフィードバック

シュート練習など自分たちで考え行い、より良い方法などアドバイスをする

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	ガイダンス 授業の進め方、評価方法、体育館の使い方	予習：	
第2回	バドミントン ①ルールの学習	予習：ルールを予習する 復習：ルールの確認をする	
第3回	バドミントン ②基本技術	予習：フォアハンド、バックハンド持ち方について予習する 復習：フォアハンド、ダックハンド打ち方について復習する	B
第4回	バドミントン ③試合	予習：試合に勝てるように作戦を考える 復習：足りなかった部分の検証をする	B
第5回	卓球 ①ルールの学習	予習：ルールを予習する 復習：ルールの確認をする	
第6回	卓球 ②基本技術	予習：打ち方、サーブの仕方を予習する 復習：上手く打つ方法を考える	B
第7回	卓球 ③試合	予習：試合に勝てるように作戦をたてる 復習：足りなかった部分の検証をする	B
第8回	フットサル ①ルール	予習：ルールを予習する 復習：ルールの確認をする	
第9回	フットサル ②基本技術	予習：ボールの色々な蹴り方を予習する 復習：ボールを蹴って練習する	B
第10回	フットサル ③シュートと試合	予習：シュート練習を考える 復習：シュートの練習をする	B
第11回	フットサル ④試合	予習：試合に勝つ為の作戦を考える 復習：作戦遂行出来たか検証する	B
第12回	バスケットボール ①ルール	予習：ルールを予習する 復習：ルールの確認をする	
第13回	バスケットボール ②基本技術と試合	予習：パスの方法を考える 復習：パス練習する	B
第14回	バスケットボール ③シュートと試合	予習：シュート練習を考える 復習：シュート練習をする	B
第15回	バスケットボール ④試合	予習：試合に勝つ為の作戦を立てる 復習：足りなかった部分を検証する	B
	実施せず。		

市民社会論

更新日：2024/03/01 10:32:53

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A201700	授業コード	
担当教員	浅野 健、鶴飼 哲矢						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	—	
科目ナンバー	2C124	授業形態	演習	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点	1) パソコンを毎回持参すること。2) フィールドワークを行う科目で、不参加者には原則、単位を与えない。3) フィールドワークを行うため受講人数制限を行う（大学生と合わせ40人まで）。4) 出席確認時に不在の場合は、欠席として扱う。				
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	グローバル化がますます進展し社会が複雑化する中、市民が主役的に地域づくりに参加し取り組む「市民社会」について、仕組みや制度、地域の動向、調査方法を体系的に学ぶ。
方法	市民社会の仕組みや制度について、自分の住む街や大学周辺、愛知・東海エリアなど身近な情報や事例に学び、現地調査による体験も踏まえて理解を深めるようにする。

到達目標

1	演習を通じて社会の仕組みや制度、地域の動向を学び、地域や社会の様々なことに関心を持ち、自ら考えて行動するための基礎知識を身に付けることができる。
2	フィールドワークを通じて演習だけでは得られない地域の実情を見て体験し、市民社会についての理解をさらに深めることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	パソコンを活用した演習レポート	70
到達目標②	フィールドワークを通じたレポート	30
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

愛知県総合型地理情報システム「マップあいち」<https://maps.pref.aichi.jp/>
名古屋市都市計画情報提供サービス<http://www.tokei-gis.city.nagoya.jp/>
総務省統計局統計データの紹介ページ<https://www.stat.go.jp/data/index.html>

オフィスアワー

火曜日 10:30～11:00程度（授業終了後30分程度）、非常勤講師室

学生へのメッセージ

意外と知らない自分の生活圏のことや地域社会のことを、パソコンを有効に活用したりフィールドワークなどの演習を通じて楽しく学んでいきましょう。

課題に対するフィードバック

演習を通じた到達点を確認するため課題を7回程度出し、提出内容に対して評価コメントをフィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	市民社会論 概論 市民社会論で学ぶ内容、市民社会の概要について知る。	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習：市民社会の概要を確認する	A
第2回	市民社会と国・地方自治体 市民社会を学ぶ上で不可欠な国や基礎的団体である地方自治体の役割について知る。	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習・課題：自分が住む地域の地方自治体の将来計画を調べる	A
第3回	地域を知る－税金の種類と使い道－ 市民社会の一員である私達が社会に出て働くようになった時に納税の義務が発生する。税金の種類や使い道について学ぶ	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習：税金の種類と使い道を確認する	A
第4回	地域を知る－地理情報の活用－ 地域の情報を知るのに有用な地理情報の種類を学ぶとともに、地理情報を使って自分が住んでいるまちの状況を知る。	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習・課題：地理情報を活用してまちへの理解を深める	A
第5回	地域を知る－統計情報の活用－ 統計の種類を学ぶとともに、統計情報を調べて自分が住んでいるまちの状況を知る。	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習：統計情報を活用してまちへの理解を深める	A
第6回	地域を知る－産業と地域－ ものづくりで発展した東海地方を中心に産業の発展と地域との関係を知る。	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習・課題：産業に関する統計情報を活用して地域の理解を深める	A
第7回	建築都市設計の事例1	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習：建築都市設計の事例への理解を深める	A
第8回	建築都市設計の事例2	予習：シラバスを読み、授業内容をイメージする 復習：建築都市設計の事例への理解を深める	A
第9回	地域を知る－商業地・商店街の変遷－ 地域で暮らしていく上で必須となる商業地・商店街の変遷について知る。	予習：これまでにまなんだ地理情報を活用して商業地や商店街のことを調べてみる 復習・課題：大学周辺の統計情報や地理情報を事前に調べておく	A
第10回	地域を知る－大学周辺の街歩き－ 大学周辺には全国有数の企業やそれらの立地を背景とした商店街が形成されており、その現在を知る。	予習：大学周辺の統計情報や地理情報を調べておく 校外学習：現地を歩いて気づいたことをまとめる ※この日はパソコン不要 復習：現地見学の内容を振り返る	D
第11回	地域を知る－街歩きの結果取りまとめ－ 前回行った大学周辺の街歩きの結果をグループごとに取りまとめて発表する。	予習：現地見学の内容を振り返る 復習・課題：街歩きの結果をもとに各自が考察を深める	B
第12回	地域を知る－災害と地域－ 地震や風水害などの自然災害の歴史と地域との関係、災害時に機能する自治組織について知る。	予習：地理情報を活用して災害についての授業内容をイメージする 復習：災害と地域について理解を深める	A
第13回	子どもの視点に立った地域づくり 子育て、子どもを育む地域づくりは、少子化が進む我が国では継続的な課題であり、国・地方自治体・地域の取り組みについて知る。	予習：子育てに関する国・地方の取り組みについて新聞などの身近な情報からイメージする 復習・課題：子育てに関する取り組みの中で気になった事例を取り上げて理解を深める	A
第14回	市民主体の地域づくり－市民セクターやエリアマネジメント－ 持続的に市民社会を形成していく上で必要なNPOなど市民主体の地域づくりや、新たなカタチとして注目される「エリアマネジメント」について知る。	予習：市民主体の地域づくりについての授業内容をイメージする 復習：市民主体の地域づくりについて理解を深める	A
第15回	市民社会論のまとめ これまでの授業内容の中から関心があるものについて深掘りし、市民社会についてグループごとに考えまとめる。	予習：これまでの授業内容を参考に市民社会論の全体像をイメージする 復習・課題：市民主体の地域づくりについて気になった事例を取り上げて理解を深める	B
	実施せず		

日本語表現

更新日：2024/01/31 09:37:38

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A201800	授業コード	
担当教員	丹下 洋吾						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	4C111	授業形態	講義	期待される学習成果	4		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	日本語の特徴を理解した上で、適切な日本語表現を「書くこと」を中心に学ぶ。併せて日本語の基盤となる日本文化についても学ぶ。また、語彙力向上を目指し、一般常識としての語句や文法についても学ぶ。						
方法	講義と演習の両形式で展開。語彙力の定着を図るために毎回小テストを実施する。また、既習事項の定着を図るための確認テストを随時実施する。後半の授業では説明文や意見文を実際に作成し、添削を経て完成させたものを用いて全員が発表を行い、それをもとに意見交換を行う。						

到達目標

1	場面に応じた適切な日本語表現を理解し、身につけることができる。						
2	語彙力を向上・定着させることができる。						
3	意見文を中心に適切な文章が作成できる。						
4	自らの意見を的確に発表するとともに、他の意見も傾聴し、討論することができる。						

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート・演習・確認テスト	25
到達目標②	演習・小テスト	25
到達目標③	レポート	25
到達目標④	発表・討論	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	ステップアップ 日本語講座 中級	東京書籍	日本語検定委員会
2	日本語検定 必勝単語帳 入門編	東京書籍	東京書籍編集部

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて、資料を配布または紹介する。		

オープンな教育リソース

文化庁が「国語施策の紹介」として公開している動画をはじめとして、講義内容の理解を深めるためのYouTube動画を随時紹介する。

オフィスアワー

月曜日 9:00~12:00 1号館3階 研究室1

学生へのメッセージ

実践を通して「日本語表現」を基礎から学び、大学生活や社会人としての生活に必要なとされる日本語運用能力を身につけることを目標とする。課題に真面目に取り組むことで必ず力がつくので、根気強く真剣に臨むことを期待する。

課題に対するフィードバック

提出された各課題は、添削しコメントをつけるなどして返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	オリエンテーション、日本語の特徴、文章の種類と文体 自己紹介文作成	予習：シラバス記述事項の確認 復習：日本語の特徴に関するレポート作成	A
第2回	敬語①「敬語とは」・「尊敬語」・「謙譲語①」	予習：漢字の学習（「書き」） 復習：敬語に関する演習問題	A
第3回	敬語②「謙譲語②」・「丁寧語①」「丁寧語②」	予習：漢字の学習（「書き」） 復習：敬語に関する演習問題	A
第4回	敬語③「状況に合わせた敬語の使い分け」「第三者を交えた敬語」	予習：漢字の学習（「書き〈同音異字〉」） 復習：敬語に関する演習問題	A
第5回	敬語④「電話や手紙における敬語」・「誤った敬語の使い方」	予習：漢字の学習（「書き〈同音異字〉」） 復習：敬語に関する演習問題	A
第6回	敬語⑤「さまざまな敬意表現」・「敬語の学習のまとめ」	予習：漢字の学習（「書き〈同訓異字〉」） 復習：敬語に関する演習問題	A
第7回	文法①「用言の活用と接続」・「可能動詞・受身と使役」・「文のねじれ」	予習：漢字の学習（「書き〈同訓異字〉」） 復習：文法に関する演習問題	A
第8回	文法②「接続語」・「助動詞」・「助詞」	予習：漢字の学習（「読み」） 復習：文法に関する演習問題	A
第9回	語彙「言葉と言葉の関係」・「類義語」・「対義語」 言葉の意味「多義語」・「言葉の使い方」・「慣用句」	予習：漢字の学習（「書き〈送り仮名〉」） 復習：語彙・言葉の意味に関する演習問題	A
第10回	表記「漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り」 漢字「熟語の構成」・「形の似た漢字」・「同音異義語」 「同音異字・同訓異字」・「四字熟語とその適切な使い方」	予習：対義語 復習：表記・漢字に関する演習問題、総合問題	A
第11回	文章表現の基礎①「文・文章・段落」・「句読点」・「文体の統一」・「原稿用紙の使い方」	予習：慣用句 復習：文章表現に関する復習課題	A, D
第12回	文章表現の基礎②「目的と対象」・「内容と構成」・「わかりやすさ」・「推敲」 説明文の作成	予習：慣用句 復習：文章表現に関する復習課題	A, D
第13回	意見文の作成「テーマの設定」・「立場の表明」・「根拠の主張」 「予想される反論とそれに対する考え」・「結論」	予習：ことわざ 復習：意見文の作成に関する復習課題	A, D
第14回	意見文の完成「説得力のある文章を書くには」	予習：四字熟語 復習：意見文の作成に関する復習課題	A, D
第15回	総合振り返り 意見文の発表と意見交換	予習：振り返り 復習：「総合振り返り」の反省	D
	実施せず		

身近な統計学

更新日：2024/02/21 14:27:05

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A201900	授業コード	
担当教員	姚 静雅						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3C111, 3C112	授業形態	演習	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	基礎的な統計学の知識を学ぶことで、今後の社会生活で必要不可欠な数理的思考や分析・活用能力を身につける。
方法	毎回、基礎的な統計学の用語について解説する。基礎的な統計学の値を算出する練習問題に取り組む。練習問題の掲載・提出はTeamsを使用する。練習問題はパソコンを使用して算出し、結果をアップロードする。

到達目標

1	平均や標準偏差といった基礎的な統計学の用語が理解できる
2	基礎的な統計学の値を算出できる
3	日常的に用いられる統計を理解し、分析方法や活用の仕方を修得する
4	得られた統計データの意味を理解し、それを活用することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	毎回の練習問題への取り組み	25
到達目標②	毎回の練習問題への取り組み	25
到達目標③	毎回の練習問題への取り組み	25
到達目標④	毎回の練習問題への取り組み	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

フリー統計ソフト『js-STAR_XR+』

<https://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/index.htm>

オフィスアワー

姚：yaojingya@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

次の授業の冒頭でフィードバックし、解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション：身近な統計、データサイエンスとは、統計検定の紹介	予習：日常生活で統計が使われている場面を探す 復習：授業内容を整理する	A

第2回	基礎1：分数と割り算、平均など	予習：分数と割り算、平均について学んでおく 復習：授業内容を整理する	A
第3回	基礎2：割合と百分率など	予習：割合と百分率について学んでおく 復習：授業内容を整理する	A
第4回	度数の分布：度数分布表、ヒストグラム、相対度数と累積度数など	予習：度数分布表、ヒストグラム、相対度数と累積度数について学んでおく 復習：授業内容を整理する	A
第5回	代表値：平均値、中央値、最頻値など	予習：平均値、中央値、最頻値について学んでおく 復習：授業内容を整理する	A
第6回	四分位数と箱ひげ図：四分位数、五数要約、箱ひげ図など	予習：四分位数、五数要約、箱ひげ図について学んでおく 復習：授業内容を整理する	A
第7回	分散と標準偏差：分散、標準偏差など	予習：分散、標準偏差について学んでおく 復習：授業内容を整理する	A
第8回	データの変換：標準化得点、偏差値など	予習：標準化得点、偏差値について学んでおく 復習：授業内容を整理する	A
第9回	散布図と相関係数：散布図、共分散、相関係数など	予習：散布図、共分散、相関係数について学んでおく 復習：授業内容を整理する	A
第10回	回帰分析：回帰直線、決定係数など	予習：回帰直線、決定係数について学んでおく 復習：授業内容を整理する	A
第11回	標本調査：全数調査、標本調査、無作為抽出、乱数など	予習：全数調査、標本調査、無作為抽出、乱数について学んでおく 復習：授業内容を整理する	A
第12回	確率と確率分布：確率、確率変数、確率分布など	予習：確率、確率変数、確率分布について学んでおく 復習：授業内容を整理する	A
第13回	確率と確率分布：二項分布、正規分布など	予習：二項分布、正規分布について学んでおく 復習：授業内容を整理する	A
第14回	推測統計：仮説検定、区間推定など	予習：仮説検定、区間推定について学んでおく 復習：授業内容を整理する	A
第15回	まとめ	予習：これまで学んだ知識を整理する 復習：レポート課題に取り組む	
	実施せず		

身近な統計学

更新日：2024/02/28 11:25:30

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A201900	授業コード	
担当教員	杉山 佳菜子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3C112	授業形態	演習	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	基礎的な統計学の知識を学ぶことで、今後の社会生活で必要不可欠な数理的思考や分析・活用能力を身につける。
方法	毎回、基礎的な統計学の用語について説明を受け、各自授業ノートを作成する。基礎的な統計学の値を算出する練習問題に取り組む。練習問題の掲載・提出はTemasを使用する。練習問題はパソコンを使用して算出し、結果をアップロードする。

到達目標

1	平均や標準偏差といった基礎的な統計学の用語が理解できる
2	基礎的な統計学の値を算出できる
3	日常的に用いられる統計を理解し、分析方法や活用の仕方を修得する
4	得られた統計データの意味を理解し、それを活用することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	毎回の授業ノートへの取り組み	25
到達目標②	毎回の練習問題への取り組み	25
到達目標③	定期試験	25
到達目標④	定期試験	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

フリー統計ソフト『js-STAR_XR+』
<https://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/index.htm>

オフィスアワー

火曜日の5時限（1号館3階研究室）

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

次の授業の冒頭でフィードバックし、解説する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション：身近な統計、データサイエンスとは、統計検定の紹介	予習：日常生活で統計が使われている場面を探す 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	

第2回	基礎1：分数と割り算、平均など	予習：分数と割り算、平均について学んでおく 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	A
第3回	基礎2：割合と百分率など	予習：割合と百分率について学んでおく 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	A
第4回	度数の分布：度数分布表、ヒストグラム、相対度数と累積度数など	予習：度数分布表、ヒストグラム、相対度数と累積度数について学んでおく 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	A
第5回	代表値：平均値、中央値、最頻値など	予習：平均値、中央値、最頻値について学んでおく 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	A
第6回	四分位数と箱ひげ図：四分位数、五数要約、箱ひげ図など	予習：四分位数、五数要約、箱ひげ図について学んでおく 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	A
第7回	分散と標準偏差：分散、標準偏差など	予習：分散、標準偏差について学んでおく 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	A
第8回	データの変換：標準化得点、偏差値など	予習：標準化得点、偏差値について学んでおく 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	A
第9回	散布図と相関係数：散布図、共分散、相関係数など	予習：散布図、共分散、相関係数について学んでおく 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	A
第10回	回帰分析：回帰直線、決定係数など	予習：回帰直線、決定係数について学んでおく 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	A
第11回	標本調査：全数調査、標本調査、無作為抽出、乱数など	予習：全数調査、標本調査、無作為抽出、乱数について学んでおく 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	A
第12回	確率と確率分布：確率、確率変数、確率分布など	予習：確率、確率変数、確率分布について学んでおく 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	A
第13回	確率と確率分布：二項分布、正規分布など	予習：二項分布、正規分布について学んでおく 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	A
第14回	推測統計：仮説検定、区間推定など	予習：仮説検定、区間推定について学んでおく 復習：ノートを見直し、授業内容を整理する	A
第15回	まとめ、事例検討	予習：これまで学んだ知識を整理する 復習：定期テストに向けて知識を定着させる	
	定期試験		

クリエイティブデザイン

更新日：2024/01/31 17:46:30

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	3A202000	授業コード	
担当教員	鈴木 安由美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3C111, 3C112	授業形態	演習	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	身近にあるデザインに注目し、デザインとは何か、生活をよりよくするためのデザインについて考えを深める。順序立てて考え試行錯誤しながら発想し、問題解決能力を養う。						
方法	授業回ごとのテーマに沿って、アイデアを形に表す。ワークシート。						

到達目標

1	ものづくりや身近なデザインに関心を持ち、意欲的に授業に取り組むことができる。						
2	生活をよりよくするデザインを考えることができる。						
3	授業ごとのテーマの内容を理解し、アイデアを形に表すことができる。						

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業への取り組み	20
到達目標②	作品課題・小レポート	40
到達目標③	作品課題	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜 2 時限（1 号館 2 階研究室）
a-suzuki@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

私たちの生活は「デザイン」に溢れています。頭を柔らかくして、楽しく考えましょう。
筆記用具を持参してください。

課題に対するフィードバック

提出された課題についての質問事項は個別に対応し、受講者全員で共有する必要がある場合は次回の授業で解説する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介のデザイン	予習：シラバスを読む。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A,C
第 2 回	頭の柔軟体操	予習：授業で与えられたテーマについて事前調査をする。	A,B

		復習：授業の内容を振り返り、まとめる。	
第3回	生活のデザインⅠ 文字デザイン	予習：フォントについて調べる。 復習：授業の内容を振り返り、プリントをまとめる。	A
第4回	問題解決のデザインⅠ ロジックツリー	予習：ロジックツリーについて調べる。 復習：別のテーマでロジックツリーに取り組む。	A
第5回	生活のデザインⅡ 紋のデザイン	予習：家紋の柄について調べる。 復習：授業の内容を振り返り、プリントをまとめる。	A
第6回	生活のデザインⅢ 人の顔	予習：人の顔を描く練習する。 復習：授業の内容を振り返り、プリントをまとめる。	A
第7回	課題解決のデザインⅡ マインドマップ	予習：マインドマップについて調べる。 復習：別のテーマでマインドマップに取り組む。	A
第8回	生活のデザインⅣ ペン画	予習：ペン画について調べ、必要なペンを準備する。 復習：授業の内容を振り返り、プリントをまとめる。	A
第9回	生活のデザインⅤ イラストマニュアル	予習：家の中にある「取扱説明書」を読む。 復習：授業の内容を振り返り、プリントをまとめる。	A
第10回	生活のデザインⅥ スケジュールアイコン	予習：自分の予定を確認できるものを用意する。 復習：授業の内容を振り返り、プリントをまとめる。	A
第11回	相手に伝えるデザインⅠ コンセプト考案	予習：授業で与えられたテーマについて事前調査をする。 復習：授業の内容を振り返り、まとめる。	A
第12回	相手に伝えるデザインⅡ ポスター制作	予習：前時の内容について、アイデアを整理する。 復習：作品を完成させる。	A
第13回	生活のデザインⅦ ユニバーサルデザイン	予習：ユニバーサルデザインについて調べる。 復習：授業の内容を振り返り、まとめる。	A
第14回	生活のデザインⅦ 季節のカード	予習：絵はがきやメッセージカードについて調べる。 復習：授業の内容を振り返り、プリントをまとめる。	A
第15回	授業のまとめ 日常に溶け込むデザインを考え直す	予習：これまでの授業を振り返る。 復習：授業内で出された課題に取り組む。	A
	実施せず		

ESD入門

更新日：2024/02/21 13:06:54

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A202100	授業コード	
担当教員	曾我 幸代						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科, 短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3C121,3C111	授業形態	講義・演習	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	選択、保育士選択必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	気候変動、経済格差の拡大、異文化対立など、グローバルな諸課題は「どこかにいる誰かの問題」ではなく、私たち一人ひとりにも関わっている。ESDはこうした諸問題を通して自然や他者との関わりを通して人間存在を問うとともに、私たち一人ひとりの生き方やあり方を捉え直す教育である。本授業ではESDおよびSDGsについて学び、グローバルな諸課題と自分自身、および身近な環境との関係性について確認し、持続可能な社会づくりにつながる自らの行動について考えることを狙いとしている。
方法	パワーポイントを用いて講義を行い、随時、個人ワークやディスカッションをしながら、持続可能な開発の必要性について学ぶ。提示する課題にはフィールドワーク・グループワークを行い、各班、プレゼンテーションする。

到達目標

1	ESDおよびSDGsの基礎的な知識を身につけている。
2	日常生活をふり返りながら、グローバルな諸課題と自分自身との関係について認識できるようになる。
3	自身の考え方や行動を顧みるとともに、他者との意見交換を重ね、多角的な視野を持てるようになる。
4	他者と協力して、新たな提案をすることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	リアクションペーパー	20
到達目標②	小レポート	20
到達目標③	フィールドワーク・グループ活動	30
到達目標④	プレゼンテーション	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『新たな時代のESD サステナブルな学校を創ろう：世界のホールスクールから学ぶ』	明石書店	永田佳之・曾我幸代

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

集中講義期間（8月14日（水）～16日（金）1～4限、8月19日（月）1～3限）、1号館3階「非常勤講師室」

学生へのメッセージ

グループワーク、ディスカッションなどの話し合いや調べ学習などに主体的にかつ積極的に参加すること。

課題に対するフィードバック

提出されたリアクションペーパー、プレゼンテーションにはフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	オリエンテーション～ESDで社会を変える～	教科書をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第2回	ESDのこれまでを振り返る	教科書をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第3回	ESDのいま	教科書をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第4回	持続可能な開発がなぜ必要??	教科書をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第5回	SDGsと私の暮らし（1）世界の諸課題と消費者である「私」との関わり	配布資料をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第6回	SDGsと私の暮らし（2）「私」ができること	配布資料をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第7回	気候変動と私たちの生活（1）食	配布資料をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B、C
第8回	気候変動と私たちの生活（2）ごみ	配布資料をよくよみ、この授業で取り組む内容を予習すること。予習した内容はノートにまとめておくこと。	B
第9回	持続可能な社会と私たちの学び舎（1）キャンパスの調査	キャンパス内をフィールドワークする。	D
第10回	持続可能な社会と私たちの学び舎（2）観察	フィールドワークからデータを得る。	D
第11回	持続可能な社会と私たちの学び舎（3）分析	フィールドワークで得たデータをもとに分析する。	B
第12回	持続可能な社会と私たちの学び舎（4）考察	調査結果をもとに考察する。	B
第13回	持続可能な社会と私たちの学び舎（5）キャンパスをサステイナブルに！	プレゼンテーションの準備をする。	B
第14回	学生発表：各グループのESD実践案のプレゼンテーション	各班によるプレゼンテーションを行う。	D
第15回	まとめ：SDGs達成に向けた私たちのかかわり	授業内容を振り返り、小レポートを書く。	
	実施せず		

データサイエンス

更新日：2024/02/21 14:25:40

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3A202200	授業コード		
担当教員	姚 静雅							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	1C111	授業形態	演習	期待される学習成果	1			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点	毎回の授業で説明した課題（成果物）が提出されていない場合は減点します。					
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	IoTやAI、データサイエンスは第4次産業革命とも呼ばれる技術革新であり、社会を大きく変える可能性を秘めている。中でもデータサイエンスは、単なる情報解析ではなく、様々な社会問題の解決や、新しい価値の創造に資することが期待されている。本科目では、短大周辺や身の回りの課題解決をテーマとして、データサイエンスの基礎を実践的に身につける。						
方法	講義と演習で重要性や各要点を理解する。Teamsにアップロードされる講義資料、ならびに個人ワークおよびグループワークにより、チームとして大学周辺や身の回りの課題の発見から解決策の提案までを行う。授業では、パソコンを使用した課題の作成と提出、アンケートの回答も行う。						

到達目標

1	社会におけるデータ・AI活用を理解し説明できる
2	データを正しく活用するための方法や留意点を理解し説明できる
3	データ処理や統計解析の基本を理解し説明できる
4	日常生活でデータサイエンスの活用を考えることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	受講態度、成果物	25
到達目標②	受講態度、成果物	25
到達目標③	受講態度、成果物	25
到達目標④	受講態度、成果物	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	データサイエンス講義	オライリージャパン	Rachel Schutt, Cathy O'Neil
2	データサイエンスの基礎	講談社	浜田 悦生
3	絵と図でわかる データサイエンス	技術評論社	上藤 一郎

オープンな教育リソース

リテラシーレベル教材（数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム）、東京大学 数理・情報教育研究センター、http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html

オフィスアワー

姚：yaojingya@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

文理関係なくデータサイエンスに興味関心を持ち、自ら考えて実践できるようになるよう期待します。

課題に対するフィードバック

- ・自学自習課題について授業内で発表し、学生間や教員との情報や意見の交換をおこなう。
- ・疑問点があれば随時対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	健康社会におけるデータサイエンスの重要性	予習：シラバスを確認する 復習：データサイエンスの重要性を記録する	A
第2回	短大周辺や身の回りの課題の発見	予習：問題と課題の違いを確認する 復習：発見した課題を精査する	B,C
第3回	研究計画書	予習：勉強と研究の違いを確認する 復習：研究計画書（仮）を作成する	B,C
第4回	ビッグデータ	予習：ビッグデータの利活用事例を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第5回	IoTとIoB	予習：IoTやIoBの利活用事例を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第6回	AI	予習：AIやディープラーニングの利活用事例を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第7回	情報倫理、情報セキュリティ	予習：情報倫理やセキュリティを確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第8回	データを知る	予習：量的データと質的データを確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第9回	データを読む	予習：集計データのグラフを確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第10回	データを分類する	予習：分類のための分析手法を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第11回	データから予測する	予習：回帰分析を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第12回	プログラミングのメリット	予習：プログラミングを習得するメリットを確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第13回	課題演習と発表①	予習：研究計画書からプレゼン資料を作成する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第14回	課題演習と発表②	予習：研究計画書からプレゼン資料を作成する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる	B,C
第15回	フィードバックとまとめ	予習：研究計画書を仕上げる 復習：報告書（仮）を作成する	
	実施せず		

人間と社会

更新日：2024/02/13 18:25:29

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A202300	授業コード	
担当教員	高瀬 慎二						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	4C111	授業形態	講義	期待される学習成果	4		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	人は社会的な生物であると言われます。それでは、この「社会」とは、いったい何ものでしょうか。この授業では身近な「社会」に関わるテーマを取り上げ、社会現象の実態やメカニズムについて学び、人間がこうした社会で健康に生きることについて考えていきます。
方法	教科書とパワーポイントを利用し講義を進めます。また、ワークや他者との意見交換も行き、協力することで理解を深めていきます。

到達目標

1	社会現象の実態を理解し、文章として示すことができる。
2	人間と社会の関係について理解し、自分の意見をまとめることができる。
3	人間や社会現象に関する他者との意見交換、ワークで自分の意見を述べられる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題・レポート	30
到達目標②	課題・レポート	30
到達目標③	授業への取り組み	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	基礎ゼミ 社会学	世界思想社	工藤保則・大山小夜・笠井賢紀

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業内で適宜紹介する		

オープンな教育リソース

必要に応じて、授業内で紹介します。

オフィスアワー

授業の初回に指示します。

学生へのメッセージ

積極的な授業参加を期待します。

課題に対するフィードバック

各回、振り返り課題を実施する。課題のフィードバックは次回の授業時に行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	授業概要：人間と社会とは自己と他者の関係	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第2回	家族と社会	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B

第3回	福祉と教育	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第4回	地域社会	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第5回	組織と職場	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第6回	文化	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第7回	メディア	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第8回	ジェンダーとセクシュアリティ	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第9回	エスニシティ	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第10回	社会的格差	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第11回	社会問題	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第12回	社会運動	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第13回	自然環境と科学技術	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第14回	政治的社会化	予習：教科書の該当箇所を読み、まとめを行う 復習：振り返り課題を行う	A,B
第15回	授業の振り返りとまとめ	予習：これまでの配布資料を読み、まとめを行う 復習：授業を振り返り総まとめをおこなう	A,

現代社会のマネジメント

更新日：2024/03/05 11:14:45

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3A290100	授業コード	
担当教員	水野 清文						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	8C123	授業形態	講義	期待される学習成果	8		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点	関連する新聞記事やニュースには関心を持つように心掛けること。				
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	ビジネスに必要な経営に関する基礎的な知識や考え方を修得させ、経営の仕組みや概念を理解させるとともに、経営を主体的に考える能力と態度を身につけさせる。具体的には会社の形態の種類と特徴、株主・経営者の権利と義務について解説した上で、商店経営を取り上げ、小売業の社会的・経済的な役割と機能、小売業の形態と特性、商品に関する知識、商品管理、販売・経営管理、資金調達、店舗設備計画の立て方など、経営の理論を実務と照らし合わせながら理解させる。						
方法	事例を取り上げながらの講義である。理解を深めるため授業内ミニレポートを書いてもらうことがある。						

到達目標

1	経営学に必要な基本概念、および基礎知識を説明することができる。
2	経営学全般を理解し、それを経営実務につなげることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内ミニレポート	30
到達目標②	定期試験	70
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	現代経営学の本質 ※2023年版 ISBN978-4-86434-166-0 まもなく発刊される2024年改訂版ではありません。	五紘舎	高木直人・水野清文編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業内で指示する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

8:40-9:00, 10:30-11:00

3階非常勤講師室

pteacher-tandai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

自主的な学びにより、独自の考えを生み出してくれることを期待する。

課題に対するフィードバック

授業内ミニレポートに対しては、翌週コメントをする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	今学期の授業指針および授業内容の概略説明、経営学の登場	経営の意義、経営学の意義について予習・復習すること。	
第2回	経営学の登場	所有と経営の分離について予習・復習すること。	
第3回	企業形態	企業形態の分類と特徴について予習・復習すること。	
第4回	企業の社会的責任	企業の存在意義について予習・復習すること。	
第5回	経営学節 (1)	科学的管理法、フォードシステムなどを予習・復習すること。	
第6回	経営学節 (2)	欲求階層説、複雑人モデルなどを予習・復習すること。	
第7回	経営戦略	PPM、競争優位、コア・コンピタンスについて予習・復習すること。	
第8回	企業文化	企業文化の構成要素について予習・復習すること。	
第9回	経営組織	組織の諸形態について予習・復習すること。	
第10回	生産管理	生産形態の分類と手順について予習・復習すること。	
第11回	人的資源管理	人的資源管理の制度について予習・復習すること。	
第12回	日本の経営	日本の経営の特徴と制度について予習・復習すること。	
第13回	商業	商業の誕生と発展について予習・復習すること。	
第14回	マーケティング	マーケティング、マーケティング・ミックスについて予習・復習すること。	
第15回	企業とキャッシュフロー	CSR、CSR経営の実際について予習・復習すること。	
第16回	定期試験	第1回～第15回までの学修内容について復習すること。	

令和6（2024）年度 生活学科教職科目 シラバス

愛知みずほ短期大学

教師論

更新日：2024/02/21 10:55:20

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3K100100	授業コード	
担当教員	丸橋 唯郎						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1T311	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	教職必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	公立小学校教員として教育現場で勤務していた経験をもとに、教育相談や児童福祉の現状に即した実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後に教育相談、健康相談活動の推進に生かすことができる。					

授業概要

内容	1. 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 2. 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 3. 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 4. 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。					
方法	各回のプリントを用いて、授業を進めていく。事前に予習・準備した事柄について、各自の考えを発表・記述する。教育に関するテーマについて自己の考えを表現する。各回の授業のまとめとして、確認テスト(小テスト)、レポートを実施して学習内容の理解と定着を確認する。					

到達目標

1	教職の意義、教員の役割・資質能力、職務内容等について述べるができる。
2	教職教養・一般教養に関する問題を解くことができるようになる。
3	自分の適性を確認し、教職への進路選択を目指す取組ができるようになる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	確認テスト(小テスト)、レポート	20
到達目標②	定期試験	70
到達目標③	まとめ確認テスト(小テスト)、まとめレポート	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	中学校学習指導要領(平成30年3月)	東山書房	文部科学省

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	高等学校学習指導要領(平成30年3月)	東山書房	文部科学省
2	1 Pass Line突破シリーズ 23年度教職教養30日完成	時事通信社	
	2 Pass Line突破シリーズ 23年度一般教養30日完成	時事通信社	

オープンな教育リソース

オフィスアワー

前期 水曜4限。後期 火曜4限。

学生へのメッセージ

与えられたテーマに対する各自の考え方やそれを言葉や文章で表現する力を身に付けるため、誤り、ミスを恐れず積極的に取り組んでください。確認テスト(小テスト)、レポートの解説、記述問題の要点について説明します。パソコンを活用したレポートの提出は、授業時に指示する様式でメール送付してください。

課題に対するフィードバック

毎回の授業の確認テスト(小テスト)、レポートで授業内容の定着を確認し、受講科目の評価として加点します。また、配付プリントはファイルに確実に保存しておくこと。思考力・表現力の向上をめざすため、各自の考えの発言や文章の記述による思考力・表現力を重視します。

授業計画

授業回	学修計画

	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	教職の意義Ⅰ－公教育の目的と目標－	予習：日本国憲法第26条及び教育基本法第5条を調べる 復習：日本国憲法第26条及び教育基本法第5条を調べる	
第2回	教職の意義Ⅱ－教員のあり方、優れた教員の条件、教職の専門性－	予習：前回の配付プリントを復習して来る 復習：優れた教員の条件をまとめておく。	
第3回	教職の意義Ⅲ－教職の職業的特徴（他の職業との比較から）－	予習：教員の仕事にはどんなことがあるか調べて来る 復習：専門職としての教師について整理しておく。	
第4回	教員の役割Ⅰ－教職の変遷からみた、教育の動向－	予習：配付プリントを復習して来る 復習：教師観の変遷と時代背景を整理しておく。	
第5回	教員の役割Ⅱ－学校をとりまく社会の変化－	予習：学校教育に関わる報道、新聞記事等を具体的に調べて来る 復習：戦後教育改革期から現代までの教師観を整理しておく。	A
第6回	教員の役割Ⅲ－教員に求められる資質－	予習：教員に関わる報道、新聞記事等を具体的に調べて来る 復習：教科指導と生徒指導についてまとめておく	
第7回	教員の役割Ⅳ－教員に求められる能力と役割－	予習：配付プリントを復習して来る 復習：学習指導要領についてまとめておく	A
第8回	職務内容Ⅰ－教員の職務－	予習：配付プリントを復習して来る 復習：地方公務員法、教育公務員特例法の主な条文を暗記する	
第9回	職務内容Ⅱ－研修の意義及び研修の制度－	予習：「OJT」について調べ、配布プリントを復習して来る 復習：教員の職務の特殊性についてまとめておく	
第10回	職務内容Ⅲ－法規を基に、服務上・身分上の義務及び身分保障の理解－	予習：学校教育に関わる報道、新聞記事等を具体的に調べて来る 復習：公務員の不祥事と法令違反について確認しておく	B
第11回	職務内容Ⅳ－具体的事例から（懲戒や学校安全の実例を基に）－	予習：学校事故に関わる報道、新聞記事等を具体的に調べて来る 復習：学校安全の危機管理について整理しておく	B
第12回	チーム学校運営への対応Ⅰ－専門スタッフの参画による指導体制の充実－	予習：学校教育に関わる報道、新聞記事等を具体的に調べて来る 復習：教員以外の学校業務従事者についてまとめておく	B
第13回	チーム学校運営への対応Ⅱ－地域社会、家庭、地域人材との連携・協働－	予習：自己の居住する市町村の図書館、博物館等の行事を調べて来る 復習：地域の人材活用のありかたについてまとめておく	
第14回	チーム学校運営への対応Ⅲ－学校マネジメント－	予習：配付プリントを復習して来る 復習：学校経営への参画意識の向上について整理しておく	B
第15回	チーム学校運営への対応Ⅳ－教育活動の更なる充実に向けて－	予習：配付プリントを復習して来る 復習：業務の効率化とメンタルヘルス、働き方をまとめておく	
	定期試験		

教育原理

更新日：2024/02/21 11:21:19

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3K100200	授業コード	
担当教員	丸橋 唯郎						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	1T311	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	教職必修	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	公立小学校教員として教育現場で勤務していた経験をもとに、教育相談や児童福祉の現状に即した実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後に教育相談、健康相談活動の推進に生かすことができる。					

授業概要

内容	私たちが生まれ、育ち、そしてその生涯を終えるまで、「教育」は常に私たちの生活のそばにあり、切り離すことができない。その「教育」はなぜ必要なのか、どのような社会的役割や期待を担っているのか、そもそも教育とは何なのか、そのような教育の意義や目的を考えることを入口に、人間の成長・発達と教育の関係、教育理念や思想の歴史的な議論の積み重ね、教育制度の変遷や現状等について、その基本的な事項を確認していきながら、多様な観点をもって現在の教育のあり方について考察していきたい。どのような分野であれ、教育に携わる者が、よりよく教育すること、教育を充実させることに専心するためには、限らない人間的成長を自覚的に己に課していく必要がある。共に学び、共に考え、共に成長していくことを期待している。	
方法	講義プリントやパワーポイント等を基に講義を行う。適宜パソコンを使った調べ学習を取り入れる。本授業は、教育学に係る学問諸領域の根幹であるため、毎回小レポートにて、受講者自身の意見を提出してもらう。	

到達目標

1	教育に関わる者としての意識を構築し、設定した研究課題を究明する。
2	教育に関し自らの意見を文章化して主張することができるようになる。
3	教育に関する基礎教養を身に付ける。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	30
到達目標②	定期試験・小レポート	30
到達目標③	定期試験・小レポート	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜、講義プリントを配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	最新 よくわかる教育の基礎	学文社	湯川次義編

オープンな教育リソース

オフィスアワー

前期 水曜4限。後期 火曜4限。

学生へのメッセージ

教員免許の取得に必須であることを自覚し、それにふさわしい誠実な態度で授業に臨むこと。

課題に対するフィードバック

レポート等の内容について、授業の中で解説する。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	

第1回	教育の意義： 公教育ならびに私教育に期待される社会的役割について、その概念を考察する。	予習：シラバスを読み、授業の概要を把握するとともに、教育の意義について考えておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、教育の意義や公教育の役割について整理しておく。	
第2回	発達と教育： 子供の成長発達を通して、教育の本質及び目標を理解する。	予習：子供の発達段階に関する諸説について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、子供の成長発達の特徴と教育の在り方について整理しておく。	
第3回	教育目的論： 社会上に形成された教育の目的を規定する思想の変遷を学び、家庭や子供にかかわる多様な教育の理念を理解する。	予習：教育の目的や目標について考えておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、教育の目的の歴史の変遷と学校教育における教育の理念と目標について整理しておく。	
第4回	教育史大要Ⅰ： 日本教育史を通して、近代教育制度の成立と展開を理解する。	予習：日本の教育の歴史について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、近代教育制度の成立過程と、現在の教育制度について整理しておく。	A
第5回	教育課程概論： 学習指導要領を中心とした教育課程の変遷を通して、学校教育における諸課題の本質を理解する。	予習：学習指導要領の変遷について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、教育課程の変遷と、学校教育の課題について整理しておく。	B
第6回	道徳教育にかかわる教育思想： 道徳教育にかかわる知識を身に付け、家庭教育や人格教育の在り様を歴史的な視点から理解する。	予習：道徳の教科化について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、道徳教育の変遷と、道徳教育の目標や進め方について整理しておく。	B
第7回	学校運営と教育法規：日本国憲法および教育基本法ならびに学校教育法など根本的な教育諸法に対する理解を基礎に、学校や学習方法にかかわる民主主義教育の本質を考察する。	予習：教育にかかわる法規について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、教育にかかわる諸法と、法令を遵守した教育活動の在り方について整理しておく。	B
第8回	教育史大要Ⅱ： 教育方法にかかわる西洋および近現代日本教育史を通して、代表的な教育思想を確認・理解する。	予習：西洋の教育思想について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、代表的な教育思想や教育方法について整理しておく。	
第9回	定期試験		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

教育行政

更新日：2024/02/21 11:23:19

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3K100300	授業コード	
担当教員	丸橋 唯郎						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	3T312	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	教職必修	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	小中学校での教員、管理職での経験を生かして授業を展開する。学校現場の状況を踏まえて教育行政について学べるように配慮し、学校教育を担う力量を育む。					

授業概要

内容	公教育は、行政と法によって動いている。本授業では、教育行政にかかわる原理原則を理解し、実際にはどのような制度設計と運用がなされているのかを学ぶ。一方、社会課題の複雑化とともに、行政改革は常に深化している。社会に開かれた学校の実現が広く求められる現在、学校教育と教育行政の実態についても考究していく。
方法	講義プリントやパワーポイント等を基に講義を行う。毎回小レポートにて、受講者自身の意見を提出してもらう。

到達目標

1	① 教育行政にかかわる諸課題に対して科学的思考で究明する。
2	② 教育行政に関し自らの意見を文章化して主張することができるようになる。
3	③ 教育行政に関する専門的知識を理解する。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	30
到達目標②	定期試験・小レポート	30
到達目標③	定期試験・小レポート	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜、講義プリントを配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜、講義プリントを配布する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

前期 水曜4限。 後期 火曜4限。

学生へのメッセージ

教員免許の取得に必須であることを自覚し、それにふさわしい誠実な態度で授業に臨むこと。

課題に対するフィードバック

レポート等の内容について、授業の中で解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	公教育行政論概要： 公教育ならびに教育行政の原則を学び、公教育制度の理念を理解する。	予習：シラバスを読み、授業の概要を把握する。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、教育行政の概念と、教育行政改革について整理しておく。	
第2回	教育法規と法令遵守：	予習：教育に関わる法令違反の事例について調べておく。	

	教育法規を理解するための基本原理を学ぶことを通して、法令遵守の重要性を理解する。	復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、人事行政に関わる教育法規と、法令遵守の重要性について整理しておく。	
第3回	教育行財政の構造： 教育行政の組織と構造を学び、教育行財政における課題を理解する。	予習：家庭で負担している教育費の内容について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、教育行政の組織と構造、教育行財政の課題について整理しておく。	
第4回	学校教育行政改革論： 学校教育をとりまく近年の行政改革を整理し、学校教育がどのように対応しているのかその事例を学ぶ。	予習：学校の改革について関心のある内容について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、近年の教育課程行政改革と学校の対応について整理しておく。	A
第5回	特色ある学校と学校評価： 特色ある学校づくりと年間計画の実例を基に、PDCAサイクルと学校評価制度を考察する	予習：特色ある学校づくりの事例を調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、特色ある学校づくりの在り方や、学校評価制度の概要について整理しておく。	B
第6回	生涯学習と社会学融合： 生涯学習社会と学校教育の接続について学び、学校と地域との連携の意義を理解する。	予習：身近な社会教育施設について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、生涯学習社会に向けた教育行政の取組について整理しておく。	B
第7回	安全教育事例研究Ⅰ： 安全教育および安全管理の概念を学び、学校危機管理マニュアルを中心に学校における危機管理の実践と課題を理解する。	予習：学校において起こりうる危機について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、学校における危機管理の在り方について整理しておく。	B
第8回	安全教育事例研究Ⅱ：公の施設である学校の安全に関する課題を整理し、児童生徒の日常生活の場でもある学校の安全が推進されなければならないことを理解する。	予習：学校安全について関心のある内容を調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、学校における安全に関する課題と対応の仕方について整理しておく。	
第9回	定期試験		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

教育心理学

更新日：2024/03/01 14:49:08

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3K100400	授業コード	
担当教員	永井 靖人						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1T311	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	教職必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	発達支援センター・学生相談室勤務経験をもとに、教育・保育現場の現状に即した実践的な演習課題等を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後に教員として子どもの発達理解に生かすことができる。					

授業概要

内容	この講義は「発達」と「学習」の2つの領域に分けられる。「発達」の領域ではおもに身体、認知（ものごとのとらえ方）、社会性の発達について学ぶ。「学習」の領域では、記憶、知能、学習、さらにはアクティブラーニングの基礎を学ぶ。「発達」「学習」のどちらの領域も児童生徒の実例をもとに、学校での教育実践を想定して学ぶ。		
方法	電子教科書に基づいてPowerPoint, OneNoteを用いて講義を行う。随時グループや教員と討論、発表を行う。		

到達目標

1	教育心理学の知見を深め、実践へと広げようとすることができる
2	教師が児童生徒に求める真摯な態度で討論や発表に取り組むことができる
3	教育心理学の重要事項を理解、説明できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業課題，ポートフォリオ	33
到達目標②	討論・発表の内容，参加度	33
到達目標③	期末課題	34
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	実践につながる教育心理学	八千代出版	谷口 篤・豊田弘司

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない。必要に応じて資料を配布する。		

オープンな教育リソース

日本心理学会『心理学って何だろう』https://psych.or.jp/interest/lecture_hs/

オフィスアワー

月・水曜日12:20~12:50 2号館2階研究室2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

授業では簡単には答えが出ない哲学的な問題について考える機会を設けています。自分なりの考えを持つ、他者の意見に心を傾ける経験を通して、共同知を築いていきましょう。

また、授業内で参考資料等を紹介するので、興味を持ったトピックについては、自分なりに調べ学びを深めてください。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対して、Teamsで回答、共有します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	発達の概念及び教育における発達の代表的な理論を理解す	・予習：シラバスで学習内容を確認する。発達の基礎理論	A、B

	る	に関する用語の意味を調べる ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	
第2回	生得的要因と環境要因、相互作用が子供の発達に与える影響を理解する	・予習：基礎理論の動画を視聴する ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
第3回	身体発達、認知発達の基礎的内容を理解する	・予習：ピアジェの認知発達理論を要約する ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
第4回	社会性・道徳性発達の具体的内容を理解する	・予習：基礎理論の動画を視聴する ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
第5回	各発達段階における発達課題の具体的内容を理解する	・予習：ハヴィガーストの発達課題理論を要約する ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
第6回	類型論にもとづいた児童生徒理解の基礎的理論を理解する	・予習：代表的な性格類型論の一つを取り上げ、概要をまとめる ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
第7回	特性論にもとづいた児童生徒理解の基礎的理論を理解する。	・予習：代表的な性格特性論の一つを取り上げ、概要をまとめる ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
第8回	条件づけ、洞察等、行動変容に関する基礎的理論を理解する	・予習：学習の基礎理論に関する用語の意味を調べる ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
第9回	記憶の基礎的な理論を理解する。	・予習：基礎理論の動画を視聴する ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
第10回	知能の基礎的な理論と測定法を理解する	・予習：知能とは何か、どう測るのかをまとめる ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
第11回	個別指導，集団指導を中心とした学習指導に関する基礎的理論を理解する	・予習：代表的な学習塾、通信教育の一つを選び、指導方法を要約する ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
第12回	学習意欲を動機づけ理論にもとづいて理解する	・予習：学習意欲を測定する質問紙尺度に回答する ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
第13回	学級、集団と個人、教師と子供の関係に関する基礎的理論を理解する	・予習：学級適応感を測定する質問紙尺度に回答する ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
第14回	教育評価の基礎的な理論を理解する	・予習：ルーブリック評価について概要をまとめる ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
第15回	情報機器の活用等，主体性、対話性を重視した学習、アクティブラーニングの基礎的理論を理解する	・予習：アクティブラーニングとは何か、概要をまとめる ・復習：振り返り，さらに知りたくなったこと，教育にどう活用するかをまとめる	A、B
	実施せず		

教育課程論

更新日：2024/02/21 11:24:22

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3K100710	授業コード	
担当教員	丸橋 唯郎						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	3T312	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	教職必修	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	小中学校での教員、管理職経験並びに教育委員会での実務経験を生かして授業を展開する。学校現場の状況を踏まえて教育課程について学べるように配慮し、学校教育を担う力量を養う。					

授業概要

内容	教育成果の質は、学校が教育目標を達成するために計画する教育課程に大きく依存する。それは単なる経営計画の作業ではなく、教育活動に対する教員や学校全体の研究成果である。本授業では教育課程とカリキュラムの違いを基礎に、教育課程の構造と事例研究を通して、学校教育を担う専門的力の獲得を目指していく。
方法	講義プリントやパワーポイント等をもとに講義と演習を行う。

到達目標

1	教育課程の学習にかかわる研究成果として、教育課程の構造を理解する。
2	学習指導案作成演習等に、主体的に参画する。
3	教育課程にかかわる学習を通して、授業・経営を基礎とする学校教員としての専門性を身につける。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験・小レポート	40
到達目標②	演習内容及び参加態度等	20
到達目標③	定期試験・小レポート	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜、講義プリントを配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜、講義プリントを配布する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

前期 水曜4限。 後期 火曜4限。

学生へのメッセージ

教員免許の取得に必修であることを自覚し、それにふさわしい誠実な態度で授業に臨むこと。

課題に対するフィードバック

レポート等の内容に関して、授業の中で解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	教育課程の概念と学習指導要領の法的拘束性：教育課程とカリキュラムの違いを理解し、教育内容にかかわる課題を考察する。加えて、学習指導要領の法的性格性を理解する。	予習：シラバスを読み、授業の概要を把握するとともに、教育課程の基本概念について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、教育課程	

		の概念や学習指導要領の法的拘束性について内容を整理しておく。	
第2回	学習指導要領改訂の変遷： 教育課程の基準としての学習指導要領改訂の変遷を理解し、学校教育における教育計画の実例を学ぶ。	予習：学習指導要領改訂の変遷について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、学習指導要領改訂の変遷について内容を整理しておく。	
第3回	教科課程から教育課程へ変化した学校教育における社会的期待： 教育課程編成における社会的要請の吟味を通して、その現代的特徴について考察する。	予習：教科課程と教育課程の違いについて調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、「開かれた教育課程」等の社会的要請を踏まえた内容を整理しておく。	
第4回	教育課程を具体化させる教育方法の研究： 教育課程の構成要素を理解し、教育方法の開発にどのように接続するのかについて考察する。	予習：教育方法の歴史について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、教育課程の構成要素や教育方法について内容を整理しておく。	B
第5回	教育課程の類型： 教育内容の選択と組織化についての基礎原理を理解し、教育課程の類型を整理する。	予習：教育課程の類型について調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、教育課程の類型の内容や事例について内容を整理しておく。	B
第6回	学力観と育成すべき資質・能力に関する検討：コンピテンシーを育成する授業論を検討し、カリキュラムデザイナーとしての教師像を考察する。加えて、単元指導計画の作成要領を学び、単元を通して育む資質や能力目標を考察する。	予習：自身が関心のある単元について、その構成を調べておく。 復習：授業で学んだことを振り返り、単元を通して育む資質・能力や単元指導計画について考察し、内容を整理しておく。	B
第7回	子どもの成長と学校改善： カリキュラム・マネジメントの必要性和概念を理解し、その具体化の実例を学ぶ。	予習：カリキュラム・マネジメントについて、その基本概念を調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、カリキュラム・マネジメントの理解を深めるとともに、学校経営の改革について考察し、内容を整理しておく。	B
第8回	教育評価と教育課程評価： 教育評価と教育課程評価を理解し、その実際的な方法を学ぶ。	予習：教育評価と教育課程評価について、その基本概念を調べておく。 復習：授業プリント等をもとに授業を振り返り、評価について内容を整理しておく。	
第9回	定期試験		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

教職実践演習(養護教諭)

更新日：2024/02/28 15:06:28

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3K100900	授業コード		
担当教員	渡辺 美恵							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	8T324	授業形態	演習	期待される学習成果	8			
コース別 必修・選択必修等	教職必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、学校現場ですぐに必要とされる教育実践力を高めるための演習を多く扱う。この授業における学びは、卒業後、養護教諭として行う教育活動に生かすことができる。						

授業概要

内容	学校現場においてすぐに必要とされる力である。これまでに専門科目、教職科目および養護実習において得られた知識や技術をさらに深く追求し、養護教諭としての教育実践力を高める。
方法	グループ討議やグループワークなどの演習を中心として行う。また、保健室経営計画や保健指導案を作成するとともに模擬授業を行う。

到達目標

1	課題を発見し、解決に向けたマネジメントについて工夫することができる。
2	習得した知識・技術を活用し、養護教諭としての適切な実践を行うことができる。
3	養護教諭の職務や役割について具体的に述べることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業プリント	40
到達目標②	成果物	35
到達目標③	授業プリント・授業に対する意欲と態度	25
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論—理論と実践—	東山書房	岡田加奈子他
2	養護教諭の活動の実際 第3版	東山書房	静岡県養護教諭研究会編
3	新版・養護教諭 執務のてびき 第10版	東山書房	石川県養護教育研究会編
4	学校組織で取り組む「危機管理」	東山書房	静岡県養護教諭研究会編
5	学校保健実務必携	第一法規	学校保健・学校安全実務研究会編
6	保健室利用状況に関する調査報告書 平成28年度調査結果		日本学校保健会

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日 9:00~12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

この授業において演習を充実させるためには、一人一人の積極的な参加や準備が大切になる。また、毎授業回、養護実習記録ファイル、貸与パソコンを準備すること。

課題に対するフィードバック

授業内で作成する課題や、提出を求めた授業プリント等には、コメントを付けるなどしてフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画

	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 教職実践演習の目的と内容 養護教諭として（卒業生の講話）	予習：シラバスを読み，授業内容をイメージする 復習：授業プリントを整理する	B
第2回	養護実習からの学び	予習：養護実習について振り返る 復習：授業プリントを整理する	B
第3回	教職の意義や教員の役割，児童生徒に対する責任	予習：教職の意義や職務について考える 復習：授業プリントを整理する	B
第4回	保護者，地域社会，関係機関との連携と対応	予習：連携先や連携の内容、方法について考える 復習：授業プリントを整理する	B
第5回	児童生徒の健康課題（卒業生の講話）	予習：発達段階における児童生徒の健康課題について考える 復習：授業プリントを整理する	D
第6回	保健室経営計画の作成Ⅰ 作成方法 ＊P Cを利用して保健室経営計画を作成する	予習：保健室経営計画の作成方法について復習する 復習：授業プリントを整理する	D
第7回	保健室経営計画の作成Ⅱ 完成 ＊P Cを活用して保健室経営計画を作成する	予習：保健室経営計画の作成方法について復習する 復習：保健室経営計画を作成する	D
第8回	学校における健康教育の実践（卒業生の講話）	予習：現職養護教諭へのインタビュー内容を考える 復習：授業プリントを整理し，提出する	D
第9回	保健指導の指導案の作成Ⅰ 題材の設定 ＊P Cを活用して指導略案を作成する	予習：保健指導案や教材の作成方法を復習する 復習：授業プリントを整理する	B・D
第10回	保健指導の指導案の作成Ⅱ 指導案の作成 ＊P Cを活用してPowerPointの指導教材を作成する	予習：保健指導案や教材の作成を進める 復習：保健指導略案，指導教材を作成する	B・D
第11回	保健指導の指導案の作成Ⅲ 指導教材の作成 ＊P Cを活用してPowerPointの教材教材を作成する	予習：模擬保健指導の実施準備をする 復習：保健指導略案，指導教材を完成させて提出する	B・D
第12回	健康教育の実践 ＊作成した指導教材を用いた模擬授業を行う	予習：児童館で行う保健指導の準備をする 復習：授業プリントを整理する	B・D
第13回	学校安全と危機管理への対応	予習：学校における危機管理について考える 復習：授業プリントを整理する	B
第14回	学校で遭遇する様々な事例検討	予習：事例検討法について復習する 復習：授業プリントを整理する	C
第15回	目指す養護教諭像	予習：目指す養護教諭像について考える 復習：授業プリントを完成させて提出する	B
	実施せず		

教職実践演習（栄養教諭）

更新日：2024/02/21 10:41:38

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3K101000	授業コード	
担当教員	林 紫						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	7T324	授業形態	演習	期待される学習成果	7		
コース別 必修・選択必修等	栄養教諭必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	栄養教諭として学校現場で勤務した経験をもとに、実践的な演習を取り入れた授業を行う。					

授業概要

内容	これまでの学修を振り返りながら、栄養教諭としての資質を身に付けることを目的とする。また栄養教諭として自身の課題を把握し、必要に応じて不足している知識や技能を補い、実践的指導力を定着させる。
方法	必要な情報をプリントやPPで示し講義を進めていく。指導案の作成は個人またはグループワークとし、作成した指導案に基づき模擬授業を行い、研究協議におけるグループ討議で完成度の高いものに手直ししていく。個別的な相談指導では、児童生徒のアセスメントを行なった上で指導計画を立てプレゼンを行う。提出された指導案は事前に添削・返却し、授業内で解説していく。

到達目標

1	予習、復習によって学習課題ができる
2	指導案をもとに模擬授業ができる
3	食の課題をアセスメントし個別的な相談指導に積極的に取り組む
4	授業のねらいや食育の視点をもとに指導案を作成することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	30
到達目標②	模擬授業	30
到達目標③	プレゼンテーション	20
到達目標④	指導案	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	食に関する指導の手引-第二次改訂版-平成31年3月	建学社	文部科学省

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日 16時10分～16時30分 非常勤講師室

学生へのメッセージ

予習と復習を必ず行い、レポートおよび指導案は提出すること
予習の中には調べ学習もあるのでよく調べてレポートにまとめること

課題に対するフィードバック

提出された指導案は添削して返却する

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	教育実習の振り返り、自己評価レポート作成	予習：教育実習で学んだ内容の振り返りをしてレポートに	B

		まとめて提出する 復習：授業をレポートにまとめて提出する	
第2回	教育実習中の教材分析、教材開発力についてグループ討議及び自身の振り返り	予習：教材について教育実習の振り返りをしてレポートにまとめて提出する 復習：グループで出た意見をレポートにまとめて提出する	B
第3回	個別的な相談指導	予習：配布した資料を読んでおく 復習：授業内容をレポートにまとめて提出する	B
第4回	個別的な相談指導（小学生の肥満指導）	予習：次回の学習内容をふまえて指導計画の構想をレポートにまとめて提出する 復習：他のグループ発表を見て自分の指導計画の改善案をレポートにまとめて提出する	B,D
第5回	個別的な相談指導（中学生の偏食指導）	予習：次回の学習内容をふまえて指導計画の構想をレポートにまとめて提出する 復習：他のグループ発表を見て自分の指導計画の改善案をレポートにまとめて提出する	B,D
第6回	生きた教材としての献立作成	予習：次回の学習内容をふまえて教材となる献立内容をレポートにまとめて提出する 復習：作成した献立の教材研究をしておく	B
第7回	第6回で作成した献立を教材とした指導案作成	予習：作成した献立をもとに指導案の構成をまとめて提出する 復習：指導案を作成しておく	C
第8回	模擬授業と研究協議	予習：授業を想定して練習しておく 復習：他の発表を聞きながら自分の指導案を修正する	B,D
第9回	模擬授業と研究協議	予習：授業を想定して練習しておく 復習：他の発表を聞きながら自分の指導案を修正する	B,D
第10回	地場産物を教材とした食に関する指導について	予習：地場産物には何があるか調査しレポートにまとめて提出する 復習：次回発表する内容をレポートにまとめて提出する	B
第11回	第10回で検討した食に関する指導についてグループ発表と研究協議	予習：地場産物を教材とした食に関する指導計画をまとめて提出する 復習：授業内容をレポートにまとめて提出する	B,D
第12回	ICTを活用した食に関する指導について（小学校 学級活動）	予習：配布した資料を読んでおく 復習：指導案を作成して提出する	B
第13回	模擬授業と研究協議	予習：授業を想定して練習しておく 復習：他の発表を聞きながら自分の指導案を修正する	B,D
第14回	ICTを活用した食に関する指導について（中学校 学級活動）	予習：配布した資料を読んでおく 復習：指導案を作成して提出する	B
第15回	模擬授業と研究協議 まとめ	予習：授業を想定して練習しておく 復習：他の発表を聞きながら自分の指導案を修正する	B,D
	実施せず		

生徒指導の理論と実践

更新日：2024/02/21 09:14:33

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3K101120	授業コード	
担当教員	永田 勲						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	3T311	授業形態	演習	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	教職必修	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	小中学校での教員経験を生かした授業を展開する。様々な生徒の実態を知り、課題を持った生徒に適した指導方法を学ぶことで、学校を支える一因としての実践力を養う。					

授業概要

内容	生徒指導に関する基本的な指導上の諸問題を理解する。特に具体的な実践事例を分析しながら、いじめ、荒れを具体的に検討し、その背後に潜む家庭及び発育の課題や現代社会の有り様を学ぶ。またそうした青年期の発達課題を知った後に、生徒理解に基づく指導方法を構想する。
方法	授業プリントに基づき講義と演習を行う。場面に応じて自らの指導法または感想をレポート形式で提出する。

到達目標

1	生徒指導の理論について、基本的事項を理解することができる。
2	生徒を取り巻く様々な状況を的確に把握することができる。
3	意見交換やレポート発表等により、自らの児童生徒生徒観、指導法に反映させることができる。
4	自らの指導方法について説明（紙上）することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	10
到達目標②	レポート	15
到達目標③	グループワーク、実習、レポート	25
到達目標④	定期試験	50
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	改訂版「生徒指導提要」	文科省	

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日 5限授業の前後の時間

学生へのメッセージ

学校での「教科指導」も含め、教師の指導の大部分を占めるものが「生徒指導」に関連している。今までの「生徒指導」のイメージを打破し、様々な事例と自分自身の体験から「生徒指導」の在り方を学習する。講義を受けるだけでなく、自ら考え、意見を交わし、学校現場の現状を把握し、より良い指導、相談の在り方を模索したりする。

課題に対するフィードバック

授業内の課題については、授業内で発表し情報や意見交換を行う。レポート課題については評価し次時の講義で解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	○オリエンテーション「生徒指導」とは何か？ ・生徒指導の意義・構造・方法	自分が抱いていた「生徒指導のイメージ」と本時に学習した「生徒指導」との差異についての感想をまとめる。	

	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の構造 生徒指導の方法と取組上の留意点 	<p>予習：生徒指導のイメージを想起 復習：本来の生徒指導についての感想を記録しておく</p>	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の発達を支える教育課程 教科の指導と生徒指導 道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導 	<p>中学・高校時代の生徒指導に関する事例を想起し、生徒指導の意義について自分なりの考えを持つ。 予習：各教科の学習で思いつく生徒指導の内容をまとめておく 復習：学校教育全体での生徒指導についてまとめておく</p>	B
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の心理と児童生徒理解 生徒指導における児童生徒理解の重要性 児童生徒理解に必要な資料と解釈、収集方法 	<p>該当する実践事例（資料配布あり）を読み、生徒理解における資料の選別と方法を考える。 予習：人を観た時の第一印象とはどんなものかを考えておく 復習：資料収集の方法をまとめておく</p>	D
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 児童期・青年期の発達 自己概念の発達 自己評価の発達 自己制御と感情制御の発達 自信の獲得と低下 道徳性の発達 	<p>資料を基に児童生徒の発達段階における行動の特徴を把握し、整理してまとめる。 予習：自分の小・中・高時代の姿を想起しておく 復習：中学・高校生の心の状態についてまとめる</p>	A
第5回	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭が行う教育相談 学校における教育相談の利点 教育相談がもたらす生徒指導の利点 問題を未然に防ぐ予防的教育相談 	<p>生徒理解のための具体的な手段と学校現場を思い浮かべ自分なりの資料収集の方法・寄り添い方を考える。 予習：学校の保健室のイメージをメモしておく 復習：教育相談の仕方をまとめる</p>	B
第6回	<ul style="list-style-type: none"> 個別の課題に対する生徒指導 未然防止・早期発見・対応 関連機関との連携体制 	<p>教育相談から実際に指導に移行する段階を、資料の事例をもとに考える。 予習：身近にある教育相談ができる機関を調べる 復習：教育相談ができる機関をまとめておく</p>	C
第7回	<ul style="list-style-type: none"> 個別の課題に対する生徒指導 いじめ・暴力行為・少年非行・児童虐待 	<p>該当する項目（資料配布）について、それぞれの特徴と対処法をまとめる。 予習：児童虐待とはどんな状態なのかを考えておく 復習：各課題に対する生徒指導の内容をまとめる</p>	B
第8回	<ul style="list-style-type: none"> 個別の課題に対する生徒指導 不登校・インターネットに関わる問題・性に関する課題 	<p>該当する項目（資料配布）について、それぞれの特徴と対処法をまとめる。 予習：インターネット犯罪について調べる 復習：個別の課題に対する指導の仕方についてまとめる</p>	A
第9回	定期試験		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

教育相談の理論と実践

更新日：2024/03/01 14:49:48

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3K101200	授業コード	
担当教員	永井 靖人						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	4T312	授業形態	講義	期待される学習成果	4		
コース別 必修・選択必修等	教職必修	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	公立学校教員、心の教室相談員、児童虐待対応協力員として学校と福祉の現場で勤務していた経験をもとに、学校教育や児童福祉の現状に即した実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、養護教諭として生徒指導や学校保健の推進に生かすことができる。					

授業概要

内容	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。 幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける
方法	講義だけでなく、体験学習やグループワーク等を適宜実施する。

到達目標

1	教育相談の知見を深め、実践へと広げようとすることができる
2	教師が児童生徒に求める真摯な態度で討論や発表に取り組むことができる
3	教育相談学の重要事項を理解、説明できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業課題、ポートフォリオ	33
到達目標②	討論・発表の内容、参加度	33
到達目標③	期末課題	34
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	学校で役立つ教育相談	八千代出版	谷口篤・丸山真名美

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない。必要に応じて資料を配布する。		

オープンな教育リソース

- ・大分県教育庁チャンネル https://www.youtube.com/watch?v=nP_5PqsiW-A
- ・いじめをノックアウトNHK for School https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005170366_00000
- ・日本心理学会『心理学って何だろう』 https://psych.or.jp/interest/lecture_hs/

オフィスアワー

月・水曜日12:20～12:50 2号館2階研究室2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

教員免許の取得に必修であることを自覚してほしい。ノートは丁寧に書く、Office365を活用する、積極的に話し合うなど、誠実な態度で授業に臨むこと。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対して、Teamsで回答、共有します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	学校における教育相談の意義と役割、生徒指導における位置づけを理解する	予習：学校における教育相談について自身のイメージを記述する	A、B
第2回	教育相談に関わるカウンセリング心理学の理論を理解し、児童・生徒が発するサインに気付けるようにする	予習：カウンセリングとは何かを参考書等で調べる 復習：カウンセリング心理学の理論についてまとめる	A、B
第3回	カウンセリングマインドに基づく相談技法：模擬カウンセリング（グループワーク）を通じて対面方法、積極的傾聴、質問の仕方を身に付ける	予習：カウンセリングマインドとは何かを調べる 復習：自他のロールプレイングをふり返る	A、B
第4回	社会的スキル訓練（SST）やアサーション（AT）の技法を実施し（体験学習、グループワーク）、3領域の教育相談の機能を把握する	予習：「大分県教育庁チャンネル」で予防的・開発的教育相談の実践例を視聴する 復習：上述の3領域の教育相談についてまとめる	A、B
第5回	担任、教育相談担当教員、養護教諭、管理職、カウンセラー、ソーシャルワーカーをメンバーとする教育相談委員会等の組織・体制の必要性と機能および学校外部の専門機関との連携について理解する	予習：学校内の教育相談体制について参考書等で調べる 復習：右記の各構成メンバーの役割および学校外部の専門機関との連携についてまとめる	A、B
第6回	子どもの諸問題（不登校、いじめ、非行、発達障害等）への対応法について把握する	予習：「いじめをノックアウトNHK for School」の「いじめが起きにくいクラスって？」を視聴する 復習：子どもの諸問題に対応する際のポイントをまとめる	A、B
第7回	子育てと家族の問題（児童虐待等）への対応法を理解する	予習：児童虐待の予防と対応法について参考書等で調べる 復習：子育てと家族の問題への対応法についてまとめる	A、B
第8回	総括	予習：これまでの授業内容について振り返り、各回の重要なポイントを列挙する	A、B
第9回	実施せず		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

教育方法

更新日：2024/02/21 11:05:33

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3K101500	授業コード	
担当教員	丸橋 唯郎						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	4T323	授業形態	演習	期待される学習成果	4		
コース別 必修・選択必修等	教職必修	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	公立小学校教員として教育現場で勤務していた経験をもとに、教育相談や児童福祉の現状に即した実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後に教育相談、健康相談活動の推進に生かすことができる。					

授業概要

内容	教師という専門職には、自己の教育技術・方法を常に見つめ直し、同僚などとの研鑽にも取り組む姿勢が求められる。この授業では、基本的な教育技術である板書に加え、ICTの活用、授業の設計・実施・分析・評価・改善の方法など、教師が学校現場で成長していくために必要な内容を取り扱う。
方法	概要の説明の前後に、話し合い、調べ学習、Office365（Forms, Whiteboard, Teams）を用いた振り返りや知識の共有などのグループワーク、アクティブラーニングを行う。

到達目標

1	情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルにのっとり効果的に活用することができる
2	教師が児童生徒に求める真摯な態度で討論や発表に取り組むことができる
3	授業実践を教育学の理論に基づいて理解し、説明することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	討論・発表の内容	33
到達目標②	授業課題，ポートフォリオ	33
到達目標③	定期試験	34
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない		

オープンな教育リソース

文部科学省『小学校を中心としたプログラミング教育ポータル』

オフィスアワー

前期 水曜4限。 後期 火曜4限。

学生へのメッセージ

教員免許の取得に必修であることを自覚してほしい。資料は適切に管理する、Office365を活用する、積極的に話し合うなど、誠実な態度で授業に臨むこと。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対して、次回授業時で時間をとって対応します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	教育方法の歴史の変遷と現代の教育への影響を理解する	予習：発見学習についてまとめる 復習：発見学習についてまとめる	

第2回	アクティブラーニングの視点と育みたい資質・能力目標を理解する。	予習：「主体的・対話的で深い学び」についてまとめる 復習：さらに興味関心を持ったことを調べる	B
第3回	児童生徒，教師，教室，教材の多様性と共通性を理解し，授業の将来像を考える	予習：オープンスクールという建築方法についてまとめる 復習：さらに興味関心を持ったことを調べる	B
第4回	学力評価の基礎理論を理解する。	予習：相対評価について調べる 復習：さらに興味関心を持ったことを調べる	B
第5回	教師がおこなう授業づくりの過程，話法，教材提示の技法を理解する。	予習：過去に作成した指導案を修正する 復習：さらに興味関心を持ったことを調べる	B
第6回	「目標，評価基準，教材，児童生徒の学習活動，教師の指導」で構成される指導案を作成する。	予習：ルーブリック評価とは何かを調べる 復習：さらに興味関心を持ったことを調べる	B
第7回	ICTを活用した授業案，教材を作成する。	予習：プログラミング教育に関する動画を視聴する 復習：さらに興味関心を持ったことを調べる	B
第8回	教育の情報化に求められる教師，児童生徒の資質，能力を理解する。	予習：遠隔教育に関する動画を視聴する 復習：さらに興味関心を持ったことを調べる	
第9回	定期試験		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

養護実習（事前・事後指導を含む。）

更新日：2024/02/28 15:07:02

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3K101600	授業コード	
担当教員	渡辺 美恵						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	4	
科目ナンバー	8T323	授業形態	実習	期待される学習成果	8		
コース別 必修・選択必修等	養護必修	授業時間+自習時間	150+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として養護実習生を指導してきた経験をもとに、事前指導として実習の意義や目標、実習に臨む姿勢や教材研究等の指導を行う。また、事後指導として研究課題を捉えた実習のまとめの指導を行う。この授業における学びは、卒業後、教育現場においての養護活動に生かすことができる。					

授業概要

内容	実習先の学校において、保健室の機能や養護教諭の専門性を生かした養護活動がどのように行われているのかを学ぶ。学内で学習した理論を基盤として、学校保健活動及び養護教諭の職務を教育活動の一環として捉え、保健室のあり方及び養護教諭の果たすべき役割を理解する。
方法	事前指導では、保健だよりの作成や保健指導略案の作成と模擬指導を行う。また、2年生による養護実習の報告会に参加する。事後指導では、グループでのプレゼンテーションにより養護実習の報告を行うとともに、研究課題レポートの作成を行う。養護実習中は、担当教員を中心に、学科の専任教員の協力を得ながら各実習校を訪問し、実習生への指導を行う。

到達目標

1	養護実習に対する自主的・自律的な態度を養うことができる。
2	養護実践において必要な知識、技術を実習の場で実践することができる。
3	今後研鑽すべき研究課題を捉え、具体的に述べるることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	養護実習記録	20
到達目標②	養護実習評価	50
到達目標③	研究課題レポート・実習報告会への取組と発表	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	改訂 養護実習ハンドブック	東山書房	大谷尚子他

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月曜日 9:00~12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

これまでの履修内容を復習し、3週間の養護実習に臨むこと。事前・事後指導の欠席は認めない。毎授業回には、教科書、養護実習記録ファイル、ノートPCを準備しておくこと。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートやプレゼンテーションについては、事前に提供されるループリックにより評価しフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	【事前指導】	予習：教科書第1章、第2章を熟読する	

	実習ガイダンス（意義と目的・諸注意など）	復習：養護実習要項を読む	
第2回	【事前指導】 2年生による養護実習の報告会への参加 ＊PCを活用した、プレゼンテーションを視聴する	予習：養護実習要項を読む 復習：養護実習の報告会に参加し、実習のイメージをもつ	D
第3回	【事前指導】 保健だよりの作成 ＊図書館及びPCを利用して情報収集する	予習：教科書P68-169を読む 復習：保健だよりを完成させる（提出メ切11月末日）	
第4回	【事前指導】 保健だよりの評価	予習：保健だよりを完成させる 復習：評価をもとに修正する	B
第5回	【事前指導】 5分間保健指導略案の作成	予習：健康診断の実施について復習する 復習：手立てや内容を検討し、指導略案を作成する	D
第6回	【事前指導】 5分間保健指導の模擬指導	予習：模擬保健指導に必要な資料を準備する 復習：模擬保健指導の実施による学びを整理する	D
第7回	【事前指導】 学級活動等における保健指導Ⅰ ＊PCを活用し、保健指導案を作成する	予習：保健指導案を読み指導のイメージをもつ 復習：指導案作成のための題材を決定する	D
第8回	【事前指導】 学級活動等における保健指導Ⅱ ＊PCを活用し、保健指導案を作成する	予習：保健指導案作成の準備をする 復習：保健指導案を完成させる（提出メ切1月末日）	D
第9回	【事前指導】 実習記録の書き方や取り扱いの注意、 お礼状の書き方、養護実習に向けての準備	予習：教科書P37-44を読む 復習：実習記録の記録可能な箇所を確認し、充実させる	
第10回	【事後指導】 養護実習での学びの交流と振り返り	予習：養護実習における学びについてまとめる 復習：実習報告会をイメージして内容を整理する	B
第11回	【事後指導】 養護実習での学びのまとめⅠ ＊PCを活用し、プレゼンテーションを作成する	予習：実習報告会をイメージして内容を整理する 復習：グループで養護実習における学びのまとめを行う	B・D
第12回	【事後指導】 養護実習での学びのまとめⅡ ＊PCを活用し、プレゼンテーションを作成する	予習：実習報告会をイメージして内容を整理する 復習：グループで養護実習における学びのまとめを行う	B・D
第13回	【事後指導】 養護実習レポートの作成 ＊PCを活用し、レポートを作成する	予習：教科書P203-206の課題のうち、2課題を選択する レポート作成に必要な資料を収集する 復習：養護実習レポートを作成する（提出メ切1月末日）	A
第14回	【事後指導】 養護実習の報告会 ＊PCを活用し、プレゼンテーション発表をする	予習：プレゼンテーションの練習をする 復習：発表の内容から他の学生の学びを共有する	B・D
第15回	【事後指導】 養護実習のまとめと今後に向けての課題	予習：養護実習レポートを用いた発表の準備をする 復習：今後の課題を明確に持つ	A
	実施せず		

栄養教育実習（事前・事後指導を含む。）

更新日：2024/02/21 10:57:42

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3K101700	授業コード		
担当教員	上原 正子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	7T323	授業形態	実習	期待される学習成果	7			
コース別 必修・選択必修等	栄養教諭必修	授業時間+自習時間	60+30					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	学校現場で勤務していた経験をもとに、児童・生徒の食に関する問題点を確認させ、より良い実習をするための授業を行う。						

授業概要

内容	義務教育小中学校において1週間、栄養教諭としての教育実習を行う。教育実習を軸として、事前指導によって栄養教諭実習に必要な知識及び児童・生徒、教職員とのコミュニケーションの取り方を具体的に習得し、教育実習では児童・生徒の食の課題を捉える方法と指導方法を身に付け、事後指導によって多くの体験の自己評価や振り返りを行うことで児童・生徒を深く理解する。
方法	プリントによって講義と演習を行う。 第5回にプレゼンテーション、第12回、13回、14回、15回にグループ討議を行う。

到達目標

1	予習、復習をして栄養教諭実習に向けて真剣に取り組むことができる
2	実習ノートを適切に記録することができる
3	栄養教諭実習を適切な態度で実習できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	15
到達目標②	実習ノート	35
到達目標③	実習評価	50
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜紹介する		

オープンな教育リソース

<https://www.youtube.com/watch?v=m8fUpP5ChBE> ～あなたの学校に栄養教諭はいますか～（文部科学省）

オフィスアワー

授業後に教室において質問を受け付けます。

学生へのメッセージ

栄養教諭の資格取得のための実習である。熱意を持って取り組むこと。
予習、復習を必ず行い、指導案が書けるようにすること。
事前授業は、実習ノートを常に持参し、教材作成できるように文具を揃えておくこと。
事後指導は、実習ノートの中を確認して持参すること。
実習中は、目的を持って臨むこと。

課題に対するフィードバック

授業で作成した指導案は、添削して返却する

授業計画

授業回	学修計画

	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	〈事前指導〉栄養教育実習の意義と目的と心構え (問題点を基に指導案の作成方法含む)	予習：実習ノートの内容確認、実習準備をする 児童・生徒の食に関する問題点を探してレポートに まとめて提出する 復習：テーマを決めて指導案1を書いて提出する	
第2回	〈事前指導〉栄養教育実習の指導案作成 (指導案1、2の見直しをする)	予習：テーマを決めて指導案2を書いて提出する 復習：指導案の見直しをして提出する	
第3回	〈事前指導〉栄養教育実習の指導案、板書計画作成（見直 した指導案を基に板書計画を見直す）	予習：板書計画を作成して提出する 復習：指導案と板書計画の見直しをして提出する	
第4回	〈事前指導〉栄養教育実習の授業構成・教材研究（模擬授 業の教材を考える）	予習：模擬授業準備（教材準備） 復習：教材作成及び模擬授業指導案の修正	
第5回	〈事前指導〉模擬授業 (話し方、板書の方法、教材等の見直し)	予習：教材の用意をして練習しておく 復習：話し方、板書の方法、教材等を見直しをする	D
第6回	〈事前指導〉栄養教育実習の諸注意 (実習で学びたいことの確認)	予習：実習ノートの内容確認をしておく 実習で学びたいことをレポートにまとめて提出する 復習：実習内容及び持ち物の確認をする	
第7回	栄養教育実習	予習：実習内容の確認と予習及び指導案の確認をしておく 復習：1日の実習の振り返りをしてノートにまとめる	
第8回	栄養教育実習	予習：実習内容の確認と予習及び指導案の手直しをする 復習：1日の実習の振り返りをしてノートにまとめる	
第9回	栄養教育実習	予習：実習内容の確認と予習及び指導案の手直しと教材準 備をする 復習：1日の実習の振り返りをしてノートにまとめる及び研 究授業の練習をする	
第10回	栄養教育実習	予習：実習内容の確認と予習及び研究授業の練習をしてお く 復習：1日の実習の振り返りをしてノートにまとめる及び指 導練習をする	
第11回	栄養教育実習	予習：実習内容の確認と予習及び研究授業の練習をしてお く 復習：1週間の実習の振り返りをしてノートにまとめ提出の 準備をする	
第12回	〈事後指導〉栄養教育実習の反省 (実習体験発表)	予習：実習の反省及びまとめをして発表の準備をする 復習：他の人の実習内容から自身の実習を振り返りまとめ を提供する	
第13回	〈事後指導〉栄養教育実習の分析 (ペアワークにより自分自身の実習を分析する)	予習：実習の問題点の抽出をしてレポートにまとめ提出す る 復習：自身の実習の問題点のまとめをしてレポートで提出 する	C
第14回	〈事後指導〉栄養教育実習の自己評価、実習記録、実習レ ポートの総合評価 (実習を総合的に見直す)	予習：実習の自己評価、実習レポートの総合評価をしてレ ポートで提出する 復習：発表に向けての準備をする	C
第15回	〈事後指導〉栄養教育実習のまとめ (今後の課題のまとめと発表準備)	予習：今後の課題のまとめをしてレポートで提出する 復習：発表に向けての準備をする	
	実施せず		

特別支援教育概論

更新日：2024/02/28 11:32:31

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3K101800	授業コード	
担当教員	杉山 佳菜子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	3T311	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	教職必修	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	<p>障害をはじめ生活困難や文化の違いなどからくる、学習上及び生活上の特別なニーズをもつ幼児・児童・生徒について理解し、特別なニーズ保育・教育の制度・政策並びに具体的な支援のあり方について理解することを通して、それらの子どもたちの困難に共感し寄り添うことのできる感性と人間性を備えた人材の育成を目指す。そのために、以下の3つのテーマの設定のもとに取り組む。</p> <p>①障害のある（疑われる）幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みについて。・発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的的特性及び学習の過程について。・視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱、重症心身障害児等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難についての基礎的な知識について。 <p>②障害のある（疑われる）幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について。・「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容について。・特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法について。・特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性について。 <p>③ 障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。</p> <p>母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性について。</p>
方法	講義が中心となるが、グループ討議を適宜実施する。また、毎回の授業の終わりに授業内容を振り返る簡単な課題を課す。この課題もレポート課題と同様、最終評価に反映される。

到達目標

1	障害のある（疑われる）幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。
2	障害のある（疑われる）幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。
3	障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	60
到達目標②	授業時に提出するレポート課題小テスト	20
到達目標③	グループ討議での取り組み	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

火曜日の5時限（1号館3階研究室）

学生へのメッセージ

特別支援教育は教育の原点です。一人一人の子どもに寄り添える教育者を目指してほしいと思います。

課題に対するフィードバック

提出されたレポート等の回答や質問に関して、次回授業で時間をとって説明します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	特別支援教育の制度と理念	予習：シラバスを読んでおく。 復習：特別支援教育の理念について整理しておく。	
第2回	通常学級における特別支援教育の実際（1）－発達障害・軽度知的障害の子どもの理解と支援	予習：前回配布した次回の授業資料に目を通しておく。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	
第3回	通常学級における特別支援教育の実際（2）－発達障害・軽度知的障害以外の障害児の理解と支援	予習：前回配布した次回の授業資料に目を通しておく。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	
第4回	通常学級における特別支援教育の実際（3）－障害以外の特別な支援を必要とする子どもの理解と支援	予習：前回配布した次回の授業資料に目を通しておく。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	
第5回	特別支援学級における教育の実際（1）－子どもの理解と個別指導計画・教育課程の作成	予習：前回配布した次回の授業資料に目を通しておく。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	B
第6回	特別支援学級における教育の実際（2）－一人ひとりに見合った授業づくりと支援	予習：前回配布した次回の授業資料に目を通しておく。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	B
第7回	特別支援学校における教育の実際	予習：前回配布した次回の授業資料に目を通しておく。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	
第8回	特別支援教育における学校と保護者・関係機関との連携・協働－特別支援教育コーディネーターの役割と協力体制	予習：前回配布した次回の授業資料に目を通しておく。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	
第9回	定期試験		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の理論

更新日：2024/02/28 15:49:09

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3K101900	授業コード	
担当教員	上井 靖						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	4T311	授業形態	講義	期待される学習成果	4		
コース別 必修・選択必修等	教職必修	授業時間+自習時間	30+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	ファシリテーションを活用した授業を展開する。					

授業概要

内容	この授業は学校教育で行う道徳教育、特別活動および総合的な学習（探究）の時間に関する基礎的な知識や素養について扱います。これらの学習の場や内容がどうして生まれたのか、時代の背景とともに探ります。
方法	動画視聴、個人ワーク、グループワークが中心となります。

到達目標

1	毎時の授業内容を理解し、説明できる
2	道徳教育、特別活動と総合的な学習（探究）の時間の内容等に関して理解し、説明できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業ごとのふりかえりシートの収穫&感想	60
到達目標②	振り返りレポート	40
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	レジュメを配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	レジュメを配布する		

オープンな教育リソース

学習指導要領及びその解説は文部科学省のウェブページで見ることができます。つぎのURLから、見たい校種・領域のものをみてください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

オフィスアワー

必要に応じて時間調整しますので事前にE-mailで、uwai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

教職に対する熱意をもって受講してくださることを望みます。

グループワークには、積極的に参加してください。

レポートは、active portalにて提出していただきます。

課題に対するフィードバック

ふりかえりシートにフィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス 「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」の違い	復習：振り返りシートの整理	B,C

第2回	教育の歴史から、「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」の変遷を見つめる①	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第3回	教育の歴史から、「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」の変遷を見つめる②	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第4回	道徳教育と道徳科の目標と内容 道徳の本質 道徳性の発達	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第5回	道徳教育の歴史と現代の道徳教育の課題等について	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第6回	教育課程における特別活動の位置等について	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第7回	学級・ホームルーム活動の意義と特質等について	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第8回	児童会・生徒会活動の意義と特質等について	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第9回	学校行事の意義と特質等について	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第10回	学習指導要領における総合的な学習の時間の目標と学校での目標・内容	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第11回	総合的な学習の時間の指導計画①年間指導計画	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第12回	総合的な学習の時間の指導計画②主体的・対話的で深い学びと単元構成	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第13回	総合的な学習の時間における資質・能力の育成と教科等横断的な視点	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第14回	総合的な探究の時間 自らの問いの重要性	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	B,C
第15回	全体振り返りレポート作成	予習：振り返りシートの確認 復習：振り返りシートの整理	
試験	実施せず		

令和6(2024)年度 現代幼児教育学科

シラバス

愛知みずほ短期大学

保育原理

更新日：2024/02/26 13:40:45

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E100100	授業コード	
担当教員	谷口 良美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1Y211	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修, 保必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	保育士、保育園長として勤務していた経験をもとに実践的な授業を行う。卒業後、保育施設において保育者として活かすことができる。					

授業概要

内容	保育・幼児教育の思想と歴史をふりかえり、その本質と目的、制度に関して学ぶ。 また「保育所保育指針」をふまえて、発達過程に応じ、乳幼児期にふさわしい環境を通じた保育活動と保育内容・方法の概要を習得します。さらに保育者の専門性、職業倫理、子育て支援などに関して理解を深める。		
方法	講義形式 適宜、調べ学習や発表を行う。		

到達目標

1	①	保育に関する、歴史、理念、計画、役割といった基礎的な知識を得る。
2	②	保育を巡る現状と課題を理解し、自分の考えを持つ。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	70
到達目標②	レポート	30
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	新・保育を支える保育の原理	福村出版	吉田貴子・水田聖一・生田貞子

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	最新保育資料集	ミネルヴァ書房	大豆生田啓友・三谷大紀
2	保育所保育指針解説（平成30年3月）	フレーベル館	厚生労働省
3	幼稚園教育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	文部科学省
4	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	内閣府

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜1限 研究室1-5

E-mail: taniguchi@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

子どもを取り巻く環境の変化を敏感に感じ取り、幼児教育の基本原理について学んでほしい。

課題に対するフィードバック

授業内で全体にフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	保育の意義と理念	予習：教科書第1章を読む 復習：ノートをまとめる	
第2回	日本の保育の現状と課題	予習：教科書第2章を読む 復習：ノートをまとめる	
第3回	保育制度の現状と課題	予習：教科書第3章を読む 復習：ノートをまとめる	
第4回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と発達過程を踏まえた保育	予習：教科書第4章を読む 復習：ノートをまとめる	
第5回	保育の特性と保育実践	予習：教科書第5章を読む 復習：ノートをまとめる	
第6回	子どもをとりまく環境の変化と保育者の役割	予習：教科書第6章を読む 復習：ノートをまとめる	
第7回	保育の目標	予習：教科書第7章を読む 復習：ノートをまとめる	
第8回	保育内容と方法	予習：教科書第8章を読む 復習：ノートをまとめる	
第9回	保育の計画・実践・評価	予習：教科書第9章を読む 復習：ノートをまとめる	
第10回	保育所に期待される連携	予習：教科書第10章を読む 復習：ノートをまとめる	B
第11回	倫理観に裏付けられた保育者の専門性	予習：教科書第11章を読む 復習：ノートをまとめる	
第12回	保育思潮の変遷と子ども観（近代以降）	予習：教科書第12章を読む 復習：ノートをまとめる	B
第13回	保育思潮の変遷と子ども観（科学的教育学の時代へ）	予習：教科書第13章を読む 復習：ノートをまとめる	B
第14回	保育思潮の変遷と子ども観（日本）	予習：教科書第14章を読む 復習：ノートをまとめる	B
第15回	保育の社会的役割	予習：教科書第15章を読む 復習：ノートをまとめる	
	定期試験		

教育基礎論

更新日：2024/02/21 10:52:59

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E100200	授業コード	
担当教員	丸橋 唯郎						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1Y211	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修, 保幼必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	公立小学校教員として教育現場で勤務していた経験をもとに、教育相談や児童福祉の現状に即した実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後に教育相談、健康相談活動の推進に生かすことができる。					

授業概要

内容	教育の意義や本質、教育思想の歴史的展開、とりわけ近代教育思想について学び、幼児教育の思想的特性など幼児教育の基礎とその歴史・思想を理解する。さらに、幼児教育に焦点を当てながら公教育制度の原理や構造及び法体系や教育行政の仕組みを知り、日本と外国の幼児教育制度の発展過程について概要を理解する。また日本の保育所・幼稚園・認定こども園の制度を理解しながら、幼児教育における社会的・現代的課題、家庭や地域との連携、保幼小連携と接続の課題、学校安全（学校事故・災害など）など現代的課題についての理解を深める。		
方法	講義および指導計画作成に必要な資料を配付し、それに基づき講義する。		

到達目標

1	幼児教育についての思想の流れを理解し、幼児教育の基本哲学についての理解を深め、説明できる
2	幼児教育制度の発展過程について理解を深め、概要を説明できる
3	幼稚園(幼児教育)制度の現況と課題について自らも探求し、課題解決を提案できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト及びレポート	30
到達目標②	小テスト及びレポート	30
到達目標③	レポート	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	幼稚園教育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	文部科学省
2	保育所保育指針解説（平成30年3月）	フレーベル館	厚生労働省
3	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	内閣府

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜紹介する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

前期 水曜4限。 後期 火曜4限。1号館 2階 研究室1

学生へのメッセージ

疑問は次に持ち越さず質問し解決すること。受け身にならず積極的な参加を。

課題に対するフィードバック

内容によるが、次の回にコメントする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	幼児教育の基本概念 一本質、目標、関連学術用語の理	予習：「教育」について事典で調べておく	

	解からー	復習：「教育」についてよく考えてみる。	
第2回	幼児教育思想の歴史	予習：「教育思想」を事典で調べておく 復習：配付資料を精読し、不明な点を書き出す	
第3回	近代幼児教育制度の誕生と発展過程	予習：今回はとくになし 復習：配付資料を精読し、不明な点を書き出す	
第4回	教育理論・思想の理解を図るために	予習：事前に配付する資料のわからない語句を辞書で調べておく 復習：配付資料を精読し、不明な点を書き出す	
第5回	公教育の原理及び理念についてー歴史的発展過程と現代日本における当面課題ー	予習：「公教育」を事典で調べておく 復習：配付資料を精読し、不明な点を書き出す	
第6回	主要関連法規についてー憲法、教育基本法、学校教育法、児童福祉法等ー	予習：教育に関係する法律にはどのようなものがあるか、「教育小六法」などで目次を調べておく 復習：配付資料を精読し、不明な点を書き出す	A
第7回	教育行政の理念と仕組みー関連法規(特に学校教育法、同施行規則)のコンメンタールを活用しながら。ー	予習：前回と同様 復習：配付資料を精読し、不明な点を書き出す	
第8回	家庭や子どもにかかわる幼児教育思想について	予習：特になし 復習：講義内で発表された他グループの内容をまとめる	B
第9回	幼児教育施設及び地域との連携・協働、家庭との連携	予習：自分の住んでいる地域にある施設を調べておく 復習：他の地域との違いについてノートにまとめる	B
第10回	日本の幼児教育の発展過程及び現代社会における発展課題	予習：新聞等資料から課題を見つけておく 復習：発表できるように資料を自分なりにまとめる	
第11回	現代社会における幼児教育の現代的課題ー幼保一元化、子育て支援、幼小連携等ー	予習：新聞等資料から課題を見つけておく 復習：発表できるように資料を自分なりにまとめる	B
第12回	幼児教育の教育制度問題ー幼保一元化、幼小連携教育、早期教育、待機児童問題等から考察する。ー	予習：新聞等資料から課題を見つけておく 復習：発表できるように資料を自分なりにまとめる	
第13回	幼稚園・認定こども園・保育施設における家庭・地域連携ーシステムの実際と当面課題ー	予習：それぞれの施設の違いについて自分なりにまとめる 復習：配付資料等を使い、ノートにまとめる	
第14回	地域との連携を基礎として展開されてきた、開かれた幼児教育施設・学校づくり実践ーその実例に学ぶとともに、発展課題について考察する。ー	予習：実例をインターネット等を使用して調べる 復習：発表された他の意見等をノートにまとめる	
第15回	幼児教育施設にかかわる学校事故、学校災害及び事件ーその実際、取り組み実情を事例を基に学習し、危機管理、安全管理の必要性と対応策について考究する。ー	予習：事例をインターネット等を使用して調べる 復習：発表された他の意見等をノートにまとめる	
	実施せず		

子ども家庭福祉

更新日：2024/02/21 16:09:20

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E100310	授業コード	
担当教員	長谷中 崇志						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5Y212	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	本授業では、「社会福祉」で学んだ知識をふまえ、保育所等の児童福祉施設で保育士として働く上で不可欠となる子ども家庭福祉の基本的知識や視点を身につけることをねらいとしている。具体的には、今日の子育て家庭を取り巻く社会の状況を理解した上で、子ども家庭福祉の①歴史、②理念、③法制度、④支援体制について多面的に学び、今後の子ども家庭福祉のあり方について考える。						
方法	教科書及びレジュメに基づいて講義形式で行う。必要に応じてペアワークやグループワーク、DVDの視聴を取り入れる。						

到達目標

1	子どもと子育て家庭を取り巻く現状について説明できる。
2	子ども家庭福祉の歴史の変遷について理解する。
3	子ども家庭福祉の法制度や提供主体について説明できる。
4	子ども家庭への支援策について複眼的に説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題レポート	20
到達目標②	リアクションペーパー・小テスト	30
到達目標③	リアクションペーパー・小テスト	30
到達目標④	課題レポート	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『輝く子どもたち 子ども家庭福祉論（第2版）』	みらい	比嘉真人監修 石山直樹・岡本真幸・田家英二編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『福祉・保育小六法（2024年版）』（1年次「社会福祉」の授業で使用した教科書です）	みらい	福祉・保育小六法編集委員会編

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業の前後（研究室で対応する）

学生へのメッセージ

「双方向的」な講義にするために、随時、学生に発言を求めたり、毎回配布するリアクションペーパーに質問・要望等を記入してもらおう。積極的に参加し、発言することを期待している。また、テレビ等を見たり新聞を読む際に、子育て家庭をめぐる諸問題に関心を持ち、それらの事象について複眼的視点から考えることを大切にしてほしい。

課題に対するフィードバック

講義の冒頭において回答するとともに、毎回の講義の最後に質問等の時間を設ける。ペアワークやグループワークでは適宜、そのねらいや解説を行うことにより学びを深める。

授業計画

授業回	学修計画

	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 子ども・子育て家庭を取り巻く環境	予習：シラバスを確認し、授業の概要などを理解しておく。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A
第2回	子ども家庭福祉の基本的視点と保育者に求められる役割	予習：少子化、子どもの貧困が子どもにもたらす影響について考える。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A
第3回	子ども家庭福祉の歴史①慈善事業・社会事業	予習：明治期の児童保護について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, C
第4回	子ども家庭福祉の歴史②社会福祉	予習：エンゼルプランについて調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, C
第5回	子ども家庭福祉の歴史③欧米	予習：救貧法について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, C
第6回	子ども家庭福祉の理念	予習：子ども権利条約について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, C
第7回	子ども家庭福祉の法制度	予習：児童福祉法第1条について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, C
第8回	子ども家庭福祉の機関・施設	予習：児童福祉施設について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第9回	子ども家庭福祉を担う専門職	予習：子ども家庭福祉に携わる専門職について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第10回	子育て支援と保育対策	予習：保育施設について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A
第11回	児童虐待とDV問題への支援	予習：子ども虐待防止法について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第12回	ひとり親家庭への支援	予習：ひとり親家庭の世帯数の推移について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第13回	地域子育て支援	予習：住んでいる地域で行われている子育て支援について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第14回	障害をもつ子どもとその家庭への支援	予習：児童発達支援センターの支援について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第15回	これからの子ども家庭福祉	予習：これまでの授業を踏まえて、子ども家庭福祉のあり方について考える。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A
	実施せず		

社会福祉

更新日：2024/02/21 16:20:32

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E100400	授業コード	
担当教員	長谷中 崇志						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3Y211	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	今日、子ども・家族が抱える多様で複合的な生活課題を背景に、保育士・社会福祉専門職には、子ども・家族に対して分野横断的・包括的な支援を展開できる力を養うことが求められている。本講義では、保育士・社会福祉専門職として携わる際に必要となる社会福祉の基本的視点および知識を身につけることを目的としている。前半は、主に子ども家庭福祉を中心とした社会福祉の分野（「各論」）を、後半は、社会福祉の歴史や法制度、方法などの「総論」を取り上げ、現代社会における社会福祉の仕組みや意義、保育士・社会福祉専門職の役割・機能について事例にふれながら学んでいく。						
方法	教科書およびレジュメに基づいて講義形式で行う。必要に応じてペアワークやグループワーク、DVDの視聴を取り入れる。						

到達目標

1	社会福祉における子ども家庭支援の視点・考え方を説明できる。
2	社会福祉の基本理念を理解し、説明できる。
3	社会福祉の法制度と提供主体について理解し、説明できる。
4	社会福祉政策の動向（地域福祉の推進）と課題を理解し、説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題レポート	40
到達目標②	リアクションペーパー・小テスト	20
到達目標③	リアクションペーパー小テスト	20
到達目標④	リアクションペーパー・小テスト	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『初めての社会福祉論（第2版）』	法律文化社	烏野猛編
2	『福祉・保育小六法（2024年版）』（他の科目で、同じ教科書または保育・福祉分野の法律がまとめられた教科書を購入している場合は、それを使用しても構わない）	みらい	福祉・保育小六法編集委員会編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『地域福祉の理論と方法（第2版）』	みらい	坪井真・木下聖編

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業の前後（研究室で対応する）

学生へのメッセージ

「双方向的」な講義にするために、随時、学生に発言を求めたり、毎回配布するリアクションペーパーに質問・要望等を記入してもらおう。積極的に参加し、発言することを期待している。また、テレビ等をみたり新聞を読む際に、社会福祉・社会保障の動向に関心を持ち、それらの事象について複数の視点から考えることを大切にしてほしい。

課題に対するフィードバック

講義の冒頭において回答するとともに、毎回の講義の最後に質問等の時間を設ける。ペアワークやグループワークでは適宜、そのねらいや解説を行うことにより学びを深める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 保育士に求められる基礎的視点と役割	予習：シラバスを確認し、授業の概要を理解しておく。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A
第2回	現代の地域社会における生活課題	予習：絶対的貧困、相対的貧困について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第3回	子ども家庭支援と社会福祉	予習：日本の相対的貧困率、子どもの相対的貧困率について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第4回	地域福祉	予習：地域共生社会、ソーシャル・インクルージョンについて調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第5回	低所得者の福祉	予習：生活保護制度について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第6回	子ども家庭福祉①子どもを取り巻く環境	予習：合計特殊出生率の動向について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第7回	子ども家庭福祉②理念、制度	予習：子どもの権利条約について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第8回	障害者福祉	予習：障害者権利条約について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第9回	社会福祉の歴史の変遷と法制度	予習：福祉三法、福祉六法について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第10回	社会福祉の実施機関①行政	予習：福祉事務所について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第11回	社会福祉の実施機関②民間	予習：社会福祉協議会について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第12回	社会福祉の専門職	予習：社会福祉士について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第13回	社会福祉における権利擁護	予習：直接援助技術、間接援助技術について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第14回	社会福祉の概念と対象	予習：日本国憲法第13条及び第25条について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第15回	これからの社会福祉	予習：これまで学んだ授業内容を復習する。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A
	実施せず		

子育て支援

更新日：2024/02/21 16:10:45

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E100510	授業コード	
担当教員	長谷中 崇志						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	8Y224	授業形態	演習	期待される学習成果	8		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	保育士が行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。演習を通して、①様々な子育て支援の内容と方法・技術の基礎を理解し、②保育所等における職員間及び自治体・関係機関や専門職との連携・協働（社会資源の活用）、③地域の子育て家庭に対する支援、障害のある子ども及びその家庭に対する支援など多様な子育て家庭に応じた支援の方法や技術について理解を深める。						
方法	演習を中心に個人ワーク・グループワークを行う。						

到達目標

1	保育士が行う子育て支援（保育相談支援）の内容や方法・技術について体系的に理解することができる。
2	保育所等における職員間及び自治体・関係機関や専門職との連携・協働（社会資源の活用）について理解することができる。
3	地域の子育て家庭など多様な家庭への支援の方法や技術を理解することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業への参加度・小テスト	20
到達目標②	課題・演習内容	50
到達目標③	課題レポート	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	レジュメを配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜授業の中で紹介する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業の前後（研究室で対応する）

学生へのメッセージ

本科目では、演習（事例検討、個人ワーク、グループワーク）を中心に展開する。学生各自の主体的参加と積極的な取り組みを求める。積極的に参加し、発言するようにしてほしい。毎回、開始時に「1分間スピーチ」を行うため、準備しておくこと。

課題に対するフィードバック

授業の冒頭において回答するとともに、毎回の最後に質問等の時間を設ける。演習では適宜、そのねらいや解説を行うことにより理解を深める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	保育士が行う子育て支援の特性—保育士の役割と保育相談支援—	予習：シラバスを読み、授業内容を理解する。 復習：授業の内容を整理する。	A, C

第2回	子育て支援の方法・技術の体系	予習：保育所保育指針第4章子育て支援を読み、理解する。 復習：授業の内容を整理する。	A, C
第3回	子育て支援の技術①原則	予習：バイステックの7原則について調べる。 復習：授業の内容を整理する。	A, B
第4回	子育て支援の技術②言語・非言語コミュニケーション	予習：自身のコミュニケーション特性を自己分析する。 復習：授業の内容を整理する。	A, B
第5回	子育て支援のための社会資源①社会資源とは	予習：自分が住んでいる、または就職先地域の子育て支援に関わる社会資源について調べる。 復習：授業の内容を整理する。	A, B
第6回	子育て支援のための社会資源②多職種連携	予習：自分が住んでいる、または就職先地域の子育て支援に関わる社会資源について調べる。 復習：授業の内容を整理する。	A, B
第7回	保育士の行う子育て支援の展開①支援計画	予習：地域の子育て家庭に対する支援内容を複数考える。 復習：授業の内容を整理する。	A, B
第8回	保育士の行う子育て支援の展開②実践・評価	予習：地域の子育て家庭に対する支援内容をまとめる。 復習：授業の内容を整理する。	A, B
第9回	実施せず		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

社会的養護Ⅰ

更新日：2024/02/21 16:18:07

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E100610	授業コード	
担当教員	長谷中 崇志						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5Y212	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	社会的養護に関わる施設は保育士が活躍できる場の一つである。この授業では、社会的養護に関する基礎的な知識を学ぶとともに、社会的養護施設で働く保育士に必要な基本的な視点と支援方法を身につけていく。
方法	講義形式で行い、必要に応じてグループワークやペアワーク、DVDの視聴を取り入れる。

到達目標

1	社会的養護が求められる背景とその役割や意義を理解し、説明できる。
2	社会的養護の法的基盤、制度や実施体系を理解し、説明できる。
3	社会的養護に関わる保育士としての基本的な視点と支援について説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	リアクションペーパー・小テスト	30
到達目標②	小テスト	50
到達目標③	課題レポート	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	レジュメを配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜、授業の中で紹介する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業の前後（研究室で対応する）

学生へのメッセージ

「双方向的」な講義にするために、随時、学生に発言を求めたり、毎回配布するリアクションペーパーに質問・要望等を記入してもらう。3回小テストを実施するので、予習して試験に臨むこと。積極的に参加し、発言するようにしてほしい。

課題に対するフィードバック

講義の冒頭において回答するとともに、毎回の講義の最後に質問等の時間を設ける。ペアワークやグループワークでは適宜、そのねらいや解説を行うことにより学びを深める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	社会的養護とは	予習：シラバスを確認し、授業の概要などを理解しておく。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A

第2回	社会的養護の理念と概念	予習：社会的養護の理念について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第3回	社会的養護の制度と法体系	予習：児童福祉法第26・27条を読んでくる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第4回	社会的養護の仕組みと実施体系	予習：社会的養護の仕組みについて調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第5回	社会的養護の歴史の変遷	予習：石井十次などの代表的な慈善事業家について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第6回	子どもの人権擁護と社会的養護	予習：子ども権利条約について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第7回	社会的養護における保育士等の倫理と責務	予習：全国児童養護施設協議会倫理綱領について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第8回	施設養護①乳児院	予習：乳児院について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第9回	施設養護②児童養護施設	予習：児童養護施設について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第10回	家庭養護①里親制度	予習：里親制度の4種類について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第11回	家庭養護②里親支援	予習：里親の悩みについて調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第12回	社会的養護における予防的支援としての特定妊婦支援	予習：あかちゃんポストについて調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第13回	社会的養護に携わる専門職	予習：児童福祉司について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, C
第14回	当事者からみた社会的養護	予習：社会的養護のもとで暮らす当事者の語りに関する記事を読んでくる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第15回	社会的養護の現状と課題	予習：これまでの授業内容を踏まえ、これからの社会的養護のあり方について考えてくる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A
	実施せず		

現代教職論

更新日：2024/02/24 08:39:15

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E100700	授業コード	
担当教員	青山 佳代						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1Y212	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	幼児必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	1. 教職の専門性を理解すること 2. 教職の倫理綱領を理解すること 3. 求められる資質能力について理解すること 4. 幼稚園教諭・保育士の職務内容について理解すること 5. 幼小連携における教員のあり方について考察できること 6. チーム学校への対応について理解すること
方法	リアクションペーパーの提出（毎回）と適宜、グループディスカッションを行う。

到達目標

1	保育者の職務内容を理解できる
2	保育者の専門性について理解できる
3	保育者の倫理について把握出来る
4	自身の目指す保育者像について説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	15
到達目標②	レポート	15
到達目標③	レポート	15
到達目標④	定期試験	55
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

特になし

オフィスアワー

メールで問い合わせること。

k-aoyama@ryujo.ac.jp

学生へのメッセージ

前向きな受講姿勢を期待する。

クラスメイトが迷惑と感じる態度を取らない。

課題に対するフィードバック

各回に前回のリアクションシートでの回答を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	教師・保育者とは	予習：シラバスの内容を把握する 復習：授業内容をまとめる	A
第2回	教師・保育者の位置づけ	予習：要領・指針を読む 復習：授業内容をまとめる	A
第3回	教師・保育者になるためには	予習：要領・指針を読む 復習：授業内容をまとめる	A
第4回	教師・保育者の専門性1 子どもを理解する	予習：幼児理解に関する文献を読む 復習：授業内容をまとめる	A
第5回	教師・保育者の専門性2 適切な場面でのかかわりを考える	予習：事例に対するかかわりを考える 復習：授業内容をまとめる	A
第6回	教師・保育者の専門性3 保育における見守るとは	予習：見守る事例を考える 復習：授業内容をまとめる	A
第7回	教師・保育者の専門性4 研修の役割と意味	予習：研修の役割について整理する 復習：グループワークの中身をまとめる	A
第8回	教師・保育者の専門性5 ふりかえることの意味	予習：ふりかえることの意味をまとめる 復習：授業内容をまとめる	A
第9回	教師・保育者の専門性6 服務規程と倫理綱領	予習：倫理綱領を読む 復習：授業内容をまとめる	A
第10回	教師・保育者の職務内容 保育者の葛藤といきがい	予習：事例を読む 復習：授業内容をまとめる	A
第11回	教師・保育者の役割1 保育援助を考える	予習：事例を読む 復習：授業内容をまとめる	A
第12回	教師・保育者の役割2 子育て支援や地域連携、専門家らとの連携、幼少連携	予習：資料を読む 復習：授業内容をまとめる	A
第13回	教師・保育者の役割3 子どもを取り巻く社会環境の変化	予習：資料を読む 復習：授業内容をまとめる	A
第14回	チーム学校への対応 現代の保育職の課題	予習：資料を読む 復習：授業内容をまとめる	A
第15回	総括：これからの保育職とは 保育活動の更なる充実に向けて	予習：資料を読む 復習：授業内容をまとめる	A
	定期試験		

保育の心理学

更新日：2024/01/30 10:33:14

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E100810	授業コード	
担当教員	杉山 佳菜子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3Y212	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修, 保必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	発達支援センター、家庭児童相談員など児童福祉の現場で勤務していた経験をもとに、保育現場の現状に即した実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、保育者として子どもの発達理解、発達支援や保護者対応に生かすことができる。					

授業概要

内容	この授業では、保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識から子どもの発達を理解することの意義や発達を捉える視点を解説する。社会性・運動機能・認知・言語などの子どもの発達の基礎、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。乳幼児期の子どもの学びの過程や特性に関する基礎的な知識を習得し、子どもの学びと保育との関係について理解する。また、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を子どもの発達と関連させて考える力をつけることを目標とする。
方法	講義が中心となるが、グループ討議を適宜実施する。また、毎回の授業の終わりに授業内容を振り返る簡単な課題を課す。この課題もレポート課題と同様、最終評価に反映される。

到達目標

1	子どもの社会性・運動機能・認知機能・言語発達などについて、基礎的な理論を説明することができる。
2	子どもの学習過程や特性に関する基礎的な知識から、子どもの学びと保育との関係について理解する。
3	子どもの発達を促す環境や支援を発達理論から考えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	筆記試験	60
到達目標②	授業時に提出するレポート課題小テスト	20
到達目標③	授業時に提出するレポート課題小テスト	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜資料を配付		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜資料を配付		

オープンな教育リソース

高校生のための心理学講座YouTube版（日本心理学会） https://psych.or.jp/interest/lecture_hs/心理学ミュージアム（日本心理学会） <https://psychmuseum.jp/>

オフィスアワー

火曜日の5時限（1号館3階研究室）

学生へのメッセージ

授業で扱ったトピックについての参考資料は授業内で提示するので、興味を持った内容については積極的に学びを深めてもらいたい。毎回授業の最後に内容についての振り返り課題を課す。その際、ICTを活用することを推奨するが、意見を求められた際には、自分感じたことや考えたことを自分の言葉で考えを述べることを評価する。

課題に対するフィードバック

提出された課題の回答や質問に対しては次回授業時に時間をとって対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	発達を通じた子どもへの理解 —発達の原理、原則	予習：シラバスで講義内容、計画を把握する 復習：この授業で学ぶ内容のキーワードをまとめる	
第2回	個人差や発達過程に応じた保育 —発達観、生涯発達の理論、遺伝と環境について	予習：保育者としてなぜ発達を学ぶことが必要なのか考えをまとめる 復習：発達するとはどういうことか、学修した発達理論のポイントをまとめる	
第3回	生命の芽生えから誕生まで —胎児期・乳児期の発達	予習：「生理的早産」・「発達の臨界期」について調べる 復習：胎児期の発達の概要について、要点を整理する	
第4回	認知の発達 —ピアジェの発達段階、赤ちゃんの世界	予習：高校生のための心理学講座YouTube版「共同注意が拓く乳幼児の世界」を視聴し、設問に答える。 復習：1回目から4回目までの学修を振り返り、小テストの勉強をする	B
第5回	情緒の発達と自我 —感情の発達、自己の発達、自己制御	予習：「ハンドリガード」について調べ、その発達の意味を考える 復習：情緒の発達を促す保育についてまとめる。小テストで間違えた部分について理解を深める	
第6回	言語と遊びの発達 —表象と象徴機能、言語発達、遊びの発達	予習：心理学ミュージアム「赤ちゃんはなぜ指さしをするのか」の資料を見て、設問に答える。 復習：言葉と遊びの発達についてまとめ、言葉の発達を促す保育について考えをまとめる	C
第7回	運動能力の発達 —粗大運動・微細運動：いつ、何ができるようになるか	予習：各年齢の運動機能の発達の特徴を調べる 復習：運動機能の発達の順番についての理解を深める。5回目から7回目までの学修を振り返り、小テストの勉強をする。	
第8回	学習のしくみ —記憶の発達、物事の理解の仕方	予習：胎内記憶について、学術的な見解を調べる 復習：子どもの物事の理解の仕方について知識を定着させる。小テストで間違えた部分について理解を深める	B
第9回	コミュニケーションと人間関係の発達 —乳児—養育者間のコミュニケーション、アタッチメント	予習：心理学ミュージアム「笑顔を手掛かりに世界を知る」の資料を見て、設問に答える 復習：ボウルビーの理論を中心に、乳児において養育者とのコミュニケーションがいかに重要かについて知識を定着させる	
第10回	仲間の中での育ち —心の理論と社会性、仲間関係	予習：心理学ミュージアム「私」と「あなた」の心に映し出される世界は違っている」の資料を見て、設問に答える 復習：社会性を育む保育についてまとめる。8回目から10回目までの学修を振り返り、小テストの勉強をする。	
第11回	児童期・青年期の発達 —身体的・認知的・心理的变化	予習：思春期に自分に起きた変化について整理する 復習：児童期・青年期の発達の要点をまとめる。小テストで間違えた部分について理解を深める	
第12回	成人期・高齢期の発達 —アイデンティティ・キャリア発達	予習：アイデンティティについて調べ、自分のアイデンティティを整理する 復習：成人期・老年期の発達の要点をまとめ、その課題を整理する	
第13回	発達におけるつまづきの理解 —発達障害・児童虐待・マイノリティの保育	予習：高校生のための心理学講座YouTube版「発達障がい」の臨床心理学」を視聴し、設問に答える。 復習：学習内容をふまえ、支援が必要な子どもの現在の保育環境の問題点を整理する	B
第14回	地域との連携・就学支援 —幼保小連携の重要性	予習：幼稚園・保育所・こども園・小学校の違いを整理する 復習：幼保小連携の課題について整理する。11回目から14回目までの学修を振り返り、小テストの勉強をする。	
第15回	まとめ —全体の振り返りと補足	予習：この授業で扱った内容について、ポイントをまとめる 復習：定期試験に向けて、知識を定着させる	C
	定期試験		

子どもの理解と援助

更新日：2024/01/29 19:15:37

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E100910	授業コード	
担当教員	杉山 佳菜子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	5Y212	授業形態	演習	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	発達支援センター、児童虐待対応協力員など児童福祉の現場で勤務していた経験をもとに、保育現場の現状に即した実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、保育者として子どもの発達理解、発達支援に活かすことができる。					

授業概要

内容	保育実践において、子どもの実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。子どもに対する共感的理解の意義を理解し、子ども理解に基づく養護及び教育の一体的展開の重要性を理解する。 生活や遊びにおいて、子どもが集団の中で葛藤やつまづきを経験することを通し、子ども相互の関わりや関係づくりを学ぶことを理解する。人的環境としての保育者と子どもの発達の関係や、保育の環境の理解と構成など、子どもを理解するための具体的な方法を理解する。発達の課題に応じた援助と関わりや子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。		
方法	グループでの保育実践の事例検討やロールプレイなどによって、子どもの発達における諸問題や支援について理解を深める。		

到達目標

1	保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解することができる。
2	子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解することができる。
3	子どもを理解するための具体的な方法を理解することができる。
4	子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	受講態度などの平常得点	20
到達目標②	授業時に提出する感想やレポート課題	20
到達目標③	授業時に提出する感想やレポート課題	20
到達目標④	最終レポート	40
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	アイディア満載！教育・保育実習サポートレシビ	福村出版	杉山佳菜子編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜資料を配布		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

火曜日の5時限（1号館3階研究室）

学生へのメッセージ

グループワークや発表を行う際には、積極的に参加してもらいたい。
授業内でICTを活用することを推奨するが、意見を求められた際には、自分感じたことや考えたことを自分の言葉で考えを述べることを評価する。

課題に対するフィードバック

提出された課題の回答や質問に対しては次回授業時に時間をとって対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握 (1)保育における子どもの理解の意義 (2)子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 (3)子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	予習：自分自身の幼児期のことを振り返り、自分の保育観について考える 復習：子どもの発達を理解する意義についてまとめる	
第2回	子どもを理解する視点（1） (1)子どもの生活や遊び (2)保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	予習：保育所保育指針では遊びをどのように位置づけているかをまとめる 復習：授業内容をふまえ、各年齢段階の子どもの遊びに焦点を置いた保育計画を立案する	
第3回	子どもを理解する視点（2） (1)集団における経験と育ち (2)葛藤やつまずき	予習：異年齢保育について考える。仲間と葛藤することの発達的な意味を考える。 復習：授業の内容をふまえ、各年齢段階の発達を促すけんかの対応についてまとめる	B
第4回	子どもを理解する視点（3） (1)保育の環境の理解と構成 (2)環境の変化や移行	予習：保育現場における「人的環境」・「物的環境」・「自然・社会環境」を整理する 復習：環境の変化と移行における保育者の役割や支援についてまとめる	D
第5回	子どもを理解する視点（4） (1)子ども相互の関わりと関係づくり (2)自己の主体性の形成と発達援助	予習：子どもの仲間関係の発達について復習する 復習：授業の内容をふまえ、子どもの主体性を育む保育についてまとめる	B
第6回	子どもを理解する方法（1） (1)観察 (2)記録 (3)省察・評価	予習：保育現場で記録をとることの意味について考える 復習：観察・記録のポイントについてまとめる	
第7回	子どもを理解する方法（2） (1)職員間の対話 (2)保護者との情報の共有	予習：保育所保育指針では、情報共有をどのように位置づけているか確認する 復習：保育現場で情報を共有する利点と、気を付ける点について整理する	B
第8回	子どもの理解に基づく発達援助／まとめ (1)発達の課題に応じた援助と関わり (2)特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助	予習：子どもの発達について復習する。インクルーシブ教育について調べる 復習：最終課題にむけて、授業内容全体についての理解を深める	B
第9回	実施せず		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

子ども家庭支援の心理学

更新日：2024/01/29 19:33:03

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E101000	授業コード	
担当教員	杉山 佳菜子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	6Y212	授業形態	講義	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	発達支援センター、家庭児童相談員など児童福祉の現場で勤務していた経験をもとに、保育現場の現状に即した実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、保育者として子どもの発達理解、発達支援や保護者対応に生かすことができる。					

授業概要

内容	乳幼児期から老年期までの生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から捉え、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。特別な配慮を要する家庭など子育て家庭に関する現状や課題、ライフコースと仕事・子育てなど子育てを取り巻く社会的状況について理解する。子どもの生活・生育環境とその影響や子どもの心の健康に関わる問題など、子どもの精神保健とその課題について理解する。
方法	予習課題について：グループごとに予習課題のレジュメ・確認クイズを作成する課題を出す。グループと担当回は第1回授業で決定し、担当回以外はクイズに答える。予習課題はオンラインで出題する。 講義について：解説中心の講義主に、グループ討議を適宜実施する。また、毎回の授業の終わりに授業内容を振り返る簡単な課題を課す。この課題もレポート課題と同様、最終評価に反映される。

到達目標

1	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2	家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4	子どもの精神保健とその課題について理解する。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	25
到達目標②	定期試験	25
到達目標③	授業時に提出するレポート課題	25
到達目標④	授業時に提出するレポート課題	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜資料を配布		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	子ども家庭支援の心理学	ナカニシヤ出版	相良順子・小泉左江子(編集)

オープンな教育リソース

高校生のための心理学講座YouTube版（日本心理学会） https://psych.or.jp/interest/lecture_hs/
NPO法人ぶるすあるは公式YouTubeチャンネル <https://www.youtube.com/watch?v=O7fj3HG8to>

オフィスアワー

火曜日の5時限（1号館3階研究室）

学生へのメッセージ

授業で扱ったトピックについての参考資料は授業内で提示するので、興味を持った内容については積極的に学びを深めてもらいたい。
毎回授業の最後に内容についての振り返り課題を課す。その際、ICTを活用することを推奨するが、意見を求められた際には、自分感じたことや考えたことを自分の言葉で考えを述べることを評価する。

課題に対するフィードバック

提出された課題の回答や質問に対しては次回授業時に時間をとって対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	子ども家庭支援の心理学とは何か —家族の定義・機能	予習：高校生のための心理学講座YouTube版「家族心理学入門」を視聴し、家族の定義について自分なりにまとめる 復習：この講義で学ぶ内容のキーワードを整理する	
第2回	生涯発達（1） —乳児期・幼児期の発達の特徴	予習：生涯発達とは何かについて参考書等で調べる 復習：乳児期・幼児期の心身の特徴及び課題と援助についてまとめる	
第3回	生涯発達（2） —児童期・青年期の発達の特徴	予習：グループAのレジュメを見て、クイズに答える 復習：児童期・青年期の特徴及び課題と援助についてまとめる	B
第4回	生涯発達（3） —成人期・高齢期の発達の特徴	予習：グループBのレジュメを見て、クイズに答える 復習：成人期・高齢期の発達のクライシスが家族に及ぼす影響とその援助についてまとめる。	
第5回	家族・家庭の理解（1） —家族・家庭の意義と機能	予習：グループCのレジュメを見て、クイズに答える 復習：家族・家庭の意義及び機能とその変化についてまとめる。生態学的システム理論について理解を深める	
第6回	家族家庭の理解（2） —親子関係と養育スタイル	予習：ここまでの授業を振り返り、事例検討に必要な資料を集める。 復習：親子関係・家族関係の各理論のポイントをまとめる。	B
第7回	子育てに関する現状と課題（1） —子育てを取り巻く社会的状況	予習：現代の子育て世代が抱える課題について調べる。 復習：子育て世代の課題について、授業内容をまとめ、解決方法について自分の考えをまとめる。	B
第8回	子育てに関する現状と課題（2） —ライフコースと仕事・子育て	予習：「ライフコース」について参考書等で調べる。 復習：ライフコースの変化、性役割意識の変化と子育ての現状についてまとめる。	
第9回	多様な子育て家庭への支援 —育児不安の高い家庭・共働き家庭・孤立家庭への支援	予習：グループDのレジュメを見て、クイズに答える。 復習：授業内容をふまえ、現代の多様な家庭の理解と援助に自分なりの考えをまとめる。	B
第10回	特別な配慮を必要とする家庭への支援 —貧困・虐待・外国籍・親の精神疾患の問題を抱える家庭への支援	予習：NPO法人ぶるすあるは公式YouTubeチャンネル「親が精神障害 子どもはどうしてんの？」を視聴し、設問に答える。 復習：特別な配慮を必要とする家庭、その支援のポイントについてまとめる。	B
第11回	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康 —基本的生活習慣の支援や事故防止と安全確保について	予習：ニュース等で取り上げられた子どもの事故について調べる。 復習：基本的生活習慣の支援や事故防止と安全確保について、授業の内容をまとめる。	
第12回	子どもの心と健康 —子どもの心の健康についての基礎知識	予習：子どもの心の健康について参考書等で調べる。 復習：確認クイズに解答する。	
第13回	障害のある子どもの理解と対応 —発達障害や知的障害についての基礎知識	予習：発達障害について以前の学習内容を復習する。 復習：特別な支援が必要な家庭への支援について、授業の内容を整理しながら自分なりの考えをまとめる。	C
第14回	災害と子ども —災害と精神的健康と保育者の役割	予習：災害によって子どもの精神的健康に影響を及ぼした事例を調べる。 復習：災害時の保育者の役割と家庭への支援についてまとめる。	C
第15回	まとめ —半期間の学びの復習と要点の整理	予習：この授業で扱った内容について、ポイントをまとめる。 復習：定期試験に向けて、知識を定着させる。	
	定期試験		

子どもの保健

更新日：2024/02/21 15:43:04

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E101300	授業コード	
担当教員	近藤 由里子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3Y212	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修, 保必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	臨床系の国家資格（看護師）を有し、臨床系の勤務経験を有する者					

授業概要

内容	<ul style="list-style-type: none">子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する子どもの疾病とその予防法及び他職間の連携・協働の下での適切な対応について学ぶ
方法	講義内容に沿ったペアワーク、グループワーク、ロールプレイング等を通して、具体的に理解する

到達目標

1	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について説明できる
2	子どもの身体発育や発達について説明できる
3	子どもの健康状態の観察と体調不良時の対応方法について説明できる
4	子どもに多い疾患の特徴と適切な対応・予防方法について説明できる
5	子どもの虐待の実際について説明できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	受講態/レポート/定期試験	20
到達目標②	受講態/レポート/定期試験	20
到達目標③	受講態/レポート/定期試験	20
到達目標④	受講態/レポート/定期試験/ロールプレイング	20
到達目標⑤	受講態/レポート/定期試験	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	子どもの保健テキスト	診断と治療社	小林美由紀

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	サクッとわかる保育士 テキスト&問題集 下巻	ナツメ社	ライセンス学院

オープンな教育リソース

オフィスアワー

後期 毎週水曜日：10時40分～12時10分

学生へのメッセージ

子どもの健康に関するニュースに関心を持ち、積極的に情報収集してください。また、自分自身の健康保持について関心をもってください。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートは、事前に提供されるルーブリックにより評価する。振り返りシートはコメントし返却する

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	オリエンテーション 保健活動の意義と目的	予習：教科書第1章①を読み、事前学習する 復習：振り返り問題で復習をする	A, C
第2回	母子保健の意義と現代社会における子どもの健康に関する 現状と課題	予習：教科書第1章②③を読み、事前学習し、「現代社会に おける子どもの健康に関する現状と課題」について調べる 復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り）シート で復習する	A, C
第3回	子どもの身体発育と運動機能の発達	予習：教科書第2章①を読み、事前学習する 復習：「子供の体格は向上したが、体力・運動能力が低下 傾向である理由」についてをレポートにまとめ第4回講義開 始時に提出する	A, C
第4回	子どもの生理機能の発達と生活習慣	予習：教科書第2章②を読み、事前学習する 復習：復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第5回	地域における保健活動と子どもの虐待防止	予習：教科書第3章を読み、事前学習する 復習：「虐待防止の取り組み」についてをレポートにまと め第6回講義開始時に提出する	A, C
第6回	子どもの健康状態の観察と体調不良時の対応	予習：教科書第4章を読み、事前学習する 復習：復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第7回	子どもが罹りやすい感染症の特徴	予習：教科書第5章①を読み、事前学習する 復習：復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第8回	子どもの感染症の予防および適切な対応	予習：教科書第5章②を読み、事前学習する 復習：復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第9回	子どもの救急疾患の特徴と適切な対応	予習：教科書第5章③を読み、事前学習する 復習：救急疾患、事故や怪我の対応をまとめる	A, C
第10回	新生児の病気、先天性の病気の特徴と対応	予習：教科書第5章④を読み、事前学習する 復習：復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第11回	子どものアレルギー疾患の特徴と適切な対応	予習：教科書第5章⑤を読み、事前学習する 復習：復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第12回	子どもの慢性疾患の特徴と適切な対応	予習：教科書第5章⑥を読み、事前学習する 復習：復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第13回	保護者との情報共有と家族の支援 子どもの健康診断と関連機関との連携	予習：教科書第6章、第7章を読み、事前学習する 復習：復習：振り返り問題、リフレクション（振り返り） シートで復習する	A, C
第14回	【小児救急の演習】 ・安楽な体位(回復体位)の取らせ方 ・エピペンの使用方法 ・ピークフローの使用法	予習：教科書5章ピークフロー、エピペンの使い方を読み事 前学習する 復習：ロールプレイングを行い気づいたこと、学んだこと をレポート（500文字程度）し、第15回講義開始時に提出 する	D
第15回	【小児救急の演習】 ・乳児の誤嚥時の対応 ・乳児の一次救命処置	予習：教科書5章子どもの心肺蘇生法、子どもの誤嚥時の対 応についてを読み事前学習する 復習：学習内容を復習し、定期試験に備える	D
	定期試験		

子どもの健康と安全

更新日：2024/02/26 13:42:52

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E101410	授業コード	
担当教員	谷口 良美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6Y223	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	公立保育園で園長として勤務していた経験をもとに、保育における健康安全管理について演習を中心に行う。この授業における学びは、保育者として保育所及び認定こども園での安全保育に応用することができる。					

授業概要

内容	<ul style="list-style-type: none">保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。保育における感染症対策について、具体的に理解する。保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。
方法	・事例を自己およびグループで検討し、対策を具体的に学ぶ。

到達目標

1	集団生活における感染管理や危機管理の重要性と予防策について説明できる。
2	保健的観点を踏まえた保育環境や援助について説明できる。
3	体調不良時の子どもへの対応について説明できる。
4	子どもに多い事故の対応や救急・応急処置について説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	グループ討議・発表への参加度	30
到達目標②	作品発表	15
到達目標③	レポート、発表	25
到達目標④	定期試験	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全演習ノート	診断と治療社	小林美由紀

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	保育所保育指針解説（平成30年3月）	フレーベル館	厚生労働省
2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	内閣府

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜 1 限 研究室1-5

E-mail：taniguchi@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

保育者は、子どもの生命を守り、健康な生活が過ごせるように努めることが重要であることを自覚して授業に臨みましょう。

課題に対するフィードバック

- レポート等については、事前に提供されているルーブリックにより評価する。
- 授業内の課題について、授業内で発表し、情報や意見の交換を行う
- 提出された作品、レポートは添削して返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション —子どもの健康と保育環境— —子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康および安全の管理—	予習：教科書第1章を読み事前学習する 復習：小テストで授業内容を振り返り、まとめる	C
第2回	衛生管理、事故防止および安全対策	予習：教科書第2章①②を読み、事前学習する 復習：チェックリストで授業内容を振り返り、まとめる	C
第3回	危機管理と災害への備え —ヒヤリハットについて、ロールプレイ—	予習：教科書第2章③を読み、事前学習する 復習：ヒヤリハット報告書を作成する	D
第4回	災害への備え —防災教育DVD使用—	予習：配布プリントを読み、防災について事前学習する 復習：授業内容を振り返り、まとめる	B
第5回	体調不良や傷害が発生した場合の対応と救急処置	予習：教科書第3章①を読み、事前学習する 復習：小テストで授業内容を振り返り、まとめる	C
第6回	救急処置および心肺蘇生法 —DVD使用—	予習：教科書第3章②を読み、事前学習する 復習：確認問題で授業内容を振り返り、まとめる	D
第7回	緊急時の対応 —事故発生時の対応についてのグループワーク—	予習：教科書第2章,第3章を読み直す 復習：グループワークの内容をまとめる	B
第8回	感染症の集団発生の予防と罹患後の対応	予習：教科書第4章①②を読み、事前学習する 復習：感染症発生時のお知らせを作成する	
第9回	保育における保健的対応の基本的な考え方 —さまざまな保育場面でのロールプレイ—	予習：教科書第5章①②を読み、事前学習する 復習：ロールプレイの内容を振り返り、理解する	B
第10回	個別的な配慮を要する子どもへの対応	予習：教科書第5章③④を読み、事前学習する 復習：授業の内容を振り返り、理解する	
第11回	保育における保健活動の計画および評価	予習：教科書第6章①を読み、事前学習する 復習：保健だよりを作成する	B
第12回	保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携	教科書第6章②を読み、事前学習する 復習：授業内容を振り返り、理解する	B
第13回	「感染予防、事故予防」等を子どもたちに知らせる方法を考える —ペープサート作成—	予習：今までの授業内容を振り返り、ペープサートの作成内容を考える 復習：ペープサートを完成させる	B
第14回	ペープサートの発表 —前半クラス—	予習：作成したペープサートの練習をする 復習：作成したペープサートについての課題を考える	B
第15回	ペープサートの発表 —後半クラス—	予習：作成したペープサートの練習をする 復習：作成したペープサートについての課題を考える	B
	定期試験		

子どもの食と栄養

更新日：2024/02/21 10:20:08

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E101500	授業コード	
担当教員	水野 早苗						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3Y223	授業形態	演習	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	食品や栄養について基本的な内容を理解し、子どもの発育・発達と食の関係について学ぶ。さらに食物アレルギーや各疾病の原因と対応食について理解する。また、保育所における食育の意義と目的、具体的な内容や方法について学び、食育の実践力を身につける。さらに、グループでの調理実習をとおして、基本的な調理技術と協働性を身につける。
方法	講義を基本とし、演習や調理実習もおこなう。 講義ではパワーポイントやDVDを使用する。

到達目標

1	授業に真剣に取り組み、内容が理解できる
2	学んだことを今後どう生かすかについて考え、それをまとめることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	70
到達目標②	振り返りシート	30
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	子どもの食と栄養（改訂第3版）	㈱中山書店	児玉浩子編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日1限（研究室2-1）

E-mail：s-mizuno@aichi-mizuho.jp

学生へのメッセージ

調理実習は、エプロン、三角巾（バンダナ）をしないと参加できませんので気をつけてください。

課題に対するフィードバック

定期試験の答案用紙および振り返りシートは、採点后返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	子どもの健康と食生活（食生活の現状と課題）：パワーポイント使用	予習：乳幼児の食生活の現状について調べる 復習：乳幼児に食生活の問題点をまとめる	
第2回	栄養・食に関する理解（消化吸収と栄養素）：パワーポイント使用	予習：胃および腸の働きについて調べる	

	ント使用	復習：消化吸収の仕組みをまとめる	
第3回	栄養・食に関する理解（食の安全）：パワーポイント使用	予習：細菌性食中毒について調べる 復習：授業の内容をまとめる	
第4回	子どもの食生活（授乳期・離乳期）：パワーポイント使用	予習：母乳と牛乳の栄養成分の違いについて調べる 復習：授業の内容をまとめる	
第5回	子どもの食生活（幼児期～思春期）：DVD、パワーポイント使用	予習：幼児期の食事の注意点について調べる 復習：授業の内容をまとめる	
第6回	食物アレルギーとその対応	予習：食物アレルギーについて理解する 復習：食物アレルギー児に対する食事の与え方をまとめる	
第7回	調理実習（離乳食づくりの理解）	予習：離乳食を調理する際の注意点について調べる 復習：離乳食の進め方をまとめる	B
第8回	調理実習（離乳食づくりの理解）	予習：離乳食を調理する際の注意点について調べる 復習：離乳食の進め方をまとめる	B
第9回	調理実習（食物アレルギー対応食の理解）	予習：食物アレルギー対応食について理解する 復習：食物アレルギー児に対する食事の与え方をまとめる	B
第10回	調理実習（食物アレルギー対応食の理解）	予習：食物アレルギー対応食について理解する 復習：食物アレルギー児に対する食事の与え方をまとめる	B
第11回	食育基本法と食育の目的・方法、保育所給食の意義：パワーポイント使用	予習：食育基本法について理解する 復習：授業で学んだことをまとめる	
第12回	子どもに教えたい、食文化と食のマナー：パワーポイント使用	予習：正しい箸づかいについて調べる 復習：授業で学んだことをまとめる	
第13回	家庭や児童福祉施設での食事と栄養：パワーポイント使用	予習：テキスト該当ページを読んで理解する 復習：授業で学んだことをまとめる	
第14回	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養：パワーポイント使用	予習：テキスト該当ページを読んで理解する 復習：授業で学んだことをまとめる	
第15回	災害食：パワーポイント使用、 授業の振り返り（ディスカッション）	予習：授業で学んだことを振り返る。 復習：今後への生かし方についてレポートにまとめる。	B
	定期試験		

子ども家庭支援論

更新日：2024/02/21 16:07:47

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E101610	授業コード	
担当教員	長谷中 崇志						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5Y223	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、子育て家庭に関する支援の体制について学習する。また、子育て家庭に対する援助方法として、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と自治体・関係機関との連携について学ぶとともに、子どもの最善の利益を保障するための子育て家庭支援のあり方について考えていく。
方法	講義形式で行い、必要に応じてグループワークやペアワーク、DVDの視聴を取り入れる。

到達目標

1	子育て家庭支援の意義・目的について説明できる。
2	子育て家庭に対する支援の体制について説明できる。
3	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と自治体・関係機関との連携について説明できる。
4	子どもの最善の利益を保障するための子育て家庭支援のあり方について説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題レポート	10
到達目標②	小テスト	40
到達目標③	小テスト	30
到達目標④	課題レポート	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	レジュメを配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	『子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援論」』	晃洋書房	監修：立花直樹・安田誠人 編集：青井夕貴・中典子・谷村和秀・吉田祐一郎

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業の前後（研究室で対応する）

学生へのメッセージ

「双方向的」な講義にするために、随時、学生に発言を求めたり、毎回配布するリアクションペーパーに質問・要望等を記入してもらう。3回小テストを実施するので、予習して試験に臨むこと。積極的に参加し、発言するようにしてほしい。

課題に対するフィードバック

講義の冒頭において回答するとともに、毎回の講義の最後に質問等の時間を設ける。グループワークやペアワークでは適宜、そのねらいや解説を行うことにより学びを深める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性	予習：シラバスを確認し、授業の概要などを理解しておく。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A
第2回	家族・家庭とは	予習：家族・家庭の違いについて調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, C
第3回	多様な家族の現状	予習：ステップファミリー、ひとり親家庭について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, C
第4回	子育てを取り巻く社会的状況	予習：晩婚化・非婚化について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第5回	保育者による家庭支援の基本	予習：保育士の仕事について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A
第6回	子育て家庭支援施策とサービス	予習：子ども・家庭に対する福祉サービスについて調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, C
第7回	子育て家庭支援のための社会資源	予習：子育て家庭を支援する機関・施設について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第8回	子育て家庭の就労の理解と支援	予習：ワークライフバランスについて調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第9回	保育所を利用する子ども家庭への支援	予習：保育所の役割について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第10回	地域の子育て家庭への支援	予習：地域で行う子育て支援について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第11回	発達のおまじゆや障害をもつ子どもの家庭支援	予習：障害児に対する福祉サービスについて調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第12回	要保護児童・家庭への支援	予習：家庭支援専門相談員について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, C
第13回	特別な配慮を要する子ども家庭への支援①医療的ケア児家庭	予習：自分が住んでいる地域の医療的ケア児家庭支援について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第14回	特別な配慮を要する子ども家庭への支援②外国籍子ども家庭	予習：自分が住んでいる地域の外国籍子ども家庭支援について調べる。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A, B
第15回	これからの子ども家庭支援	予習：これまでの授業内容を踏まえ、子ども家庭支援のあり方について考える。 復習：今回取り上げた学習内容について整理しておく。	A
	実施せず		

比較幼児教育論

更新日：2024/02/21 10:54:02

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E101800	授業コード	
担当教員	丸橋 唯郎						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	6Y224	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	保選択必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	比較教育的に考察する方法論について、広い視野から日本の特色や課題を解明し、教育改革・改善に役立てる意義を理解し、比較的に考究する力を身に付ける。日本の幼稚園が学校教育であるという制度的特性を踏まえ、世界の学校の機能や役割に注目して、世界の学校の3類型論を学び、それぞれの類型に属する国の就学前教育・幼児教育について参考文献を参照したり、OECD（Starting Strong）の文献を読んだりしながら、グループに分かれて調査研究し、発表する。こうした諸外国の幼児教育を比較考察することで日本のその特徴や課題を浮き彫りにする。
方法	基本的には配布資料(パワーポイント資料)をもとに講義・質疑応答を行い、さらに学んだ点や疑問点について授業の終わりに提出してもらい、次の授業でフィードバックする。

到達目標

1	世界の学校・幼稚園、子ども観及び教育観を学び、広い視野から日本の教育・幼児教育をとらえることができる。
2	OECDを中心とする世界の幼児教育政策の動向を分析することができる。
3	各国の幼児教育の制度と内容等に関する基礎知識を獲得し、世界の学校の3類型に基づき、それぞれの国の特色が説明ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題レポート	20
到達目標②	課題レポート	20
到達目標③	課題レポート	60
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	1 『世界の幼児教育・保育改革と学力』	明石書店	泉千勢ほか
	2 『世界の学校』	学事出版	二宮皓（編）

オープンな教育リソース

オフィスアワー

前期 水曜4限。 後期 火曜4限。

学生へのメッセージ

世界の学校・幼稚園等について学ぶことで、日本の教育の特色や課題を深く理解してもらいたい。

課題に対するフィードバック

授業の終わりに学んだこと、わからなかった事などを指定のformsによる「質問・コメント票」に記載して、提出してもらい、次の時間で可能なかぎりフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	幼児教育の比較教育学的研究の意義と方法	予習：比較教育学を事典で調べる 復習：比較教育学を事典で調べ、整理する	
第2回	国際比較からみる日本の特色・特質・課題	予習：比較教育学を事典で調べ、整理する 復習：配布資料を再度活用して、国際比較の方法を復習する	
第3回	世界の学校の3類型①ヨーロッパ大陸型	予習：参考文献で関係の章を事前に目を通す 復習：配布資料を精読する	
第4回	ヨーロッパ大陸型の幼児教育の制度と内容（ドイツ・フランス）	予習：参考文献で関係の章を事前に目を通す 復習：配布資料を精読する	
第5回	ヨーロッパ大陸型の幼児教育の制度と内容（イタリア・北欧）	予習：参考文献で関係の章を事前に目を通す 復習：配布資料を精読する	A
第6回	世界の学校の3類型②(旧)社会主義型 旧ソ連・ロシアの幼児教育・中国の幼児教育・キューバの幼児教育	予習：参考文献で関係の章を事前に目を通す 復習：配布資料を精読する	
第7回	社会主義型の幼児教育制度と内容(ロシア(旧ソ連を含む))	予習：参考文献で関係の章を事前に目を通す 復習：配布資料を精読する	B
第8回	社会主義型の幼児教育制度と内容(中国・キューバ)	予習：配布資料を精読する 復習：配布資料を精読する	
第9回	世界の学校の3類型③英米型	予習：発表の準備を行う 復習：配布資料を精読する	B
第10回	英米型の幼児教育の制度と内容（イギリス・オーストラリア）	予習：参考文献で関係の章を事前に目を通す 復習：配布資料を精読する	
第11回	英米型の幼児教育の制度と内容（アメリカ）	予習：参考文献で関係の章を事前に目を通す 復習：配布資料を精読する	B
第12回	アジアの幼児教育の制度と内容(韓国・シンガポール・タイ・インド)	予習：参考文献で関係の章を事前に目を通す 復習：配布資料を精読する	
第13回	欧米と日本の子育て観・教育観の比較考察―「体罰」の思想的背景と教育観	予習：配布資料を精読する 復習：配布資料を精読する	
第14回	欧米と日本の子育て観・教育観の比較考察―「掃除」の思想的背景と教育観	予習：配布資料を精読する 復習：配布資料を精読する	
第15回	世界の幼児教育の動向―OECDの政策分析等を中心として	予習：配布資料を精読する 復習：配布資料を精読する	
	実施せず		

幼児教育課程論

更新日：2024/03/04 14:35:33

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E101810	授業コード	
担当教員	金森 由華						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3Y212	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修, 保選択必修, 幼必修		授業時間+自習時間	30+60			
			履修条件・留意点				
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	幼稚園教諭6年、私立幼稚園園長4年の経験を有する教員が担当する					

授業概要

内容	教育課程の基本的理論的理解を深め、幼稚園の教育課程と保育所の保育課程について学び、幼稚園教育要領について正しく理解する。そして具体的な指導計画の策定・実施・評価や指導案の作成について学ぶ。さらに教育課程の理論や研究動向を理解し、教育・保育実践の在り方を考究する。
方法	講義および指導計画作成に必要な資料を配付し、それに基づき講義する。

到達目標

1	幼児教育課程で取り扱う幼稚園教育課程、保育所保育課程、こども園教育課程の内容について深く理解し、それぞれの特質とその差異点を説明できる。
2	具体的な幼稚園教育課程について、その内容を理解し、みずから幼稚園の教育課程等を調査・分析することができる。
3	教育課程編成の理論と方法について、具体的に知り、教育課程編成の実践力を培う。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	70
到達目標②	期末課題	15
到達目標③	授業内課題	15
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	保育の計画と評価ー豊富な例で1からわかる	萌文書林	宮川萬寿美

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	幼稚園教育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	文部科学省

オープンな教育リソース

オフィスアワー

kanamori@sgk.ac.jpこちらに連絡をいただければ、返信します。

学生へのメッセージ

質問や連絡はいつでも良いが、返信に2日ほどかかることがあります。

課題に対するフィードバック

原則として、次回の授業時に口頭で行います。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	①教育・保育の計画と評価の基本：計画と評価の意義	予習：学習内容について事典で調べておく	
第2回	②教育・保育の計画と評価の基本：カリキュラムの変遷	予習：学習内容について事典で調べておく 復習：教科書を精読し、不明な点を書き出す	

第3回	幼稚園の教育課程	予習：幼稚園教育要領を読む 復習：教科書を精読し、不明な点を書き出す	B
第4回	保育所および認定こども園の全体的な計画	予習：保育所保育指針の必要な箇所を確認する 復習：板書したものを保育所保育指針と照らし合わせて読む	B
第5回	教育・保育の指導計画作成の基本的な考え	予習：指導計画はなぜ必要か自分なりの考えをまとめておく 復習：教科書を確認する	A
第6回	①指導計画の作成：長期的な指導計画 －実践的資料を活用する－	予習：教育課程・全体的な計画はなぜ必要か自分なりの考えをまとめておく 復習：配付資料を基にノートをつくる	A
第7回	②指導計画の作成：短期的な指導計画	予習：長期の指導計画の必要性を自分なりに考えてまとめる 復習：配付資料を基にノートを整理する	A
第8回	③指導計画の作成：実習における指導計画	予習：短期指導計画の指導計画の素案を自分なりに考えておく 復習：一日の指導計画案を完成させる	A
第9回	研究保育指導案及び部分保育指導案	予習：研究保育指導案作成に必要な書籍等を準備する 復習：指導案を完成させる	A
第10回	幼児教育課程の先行研究・保育カリキュラム研究の今日的意義	予習：事前に配付された資料を熟読する 復習：教育課程作成の意義をノートにまとめる	B
第11回	教育・保育の記録と省察 －保育記録の意義－	予習：学習内容について事典で調べておく 復習：教科書を読み、不明な点を書き出す	B
第12回	カリキュラム・マネジメント －具体的な幼児教育課程・指導計画の展開過程におけるその役割の重要性について学習する－	予習：学習内容について事典で調べておく 復習：配付資料を精読し、不明な点を書き出す	A
第13回	カリキュラム評価の基礎的理解	予習：学習内容について事典で調べておく 復習：配付資料を精読し、不明な点を書き出す	
第14回	第三者評価に関する世界的動向と保育施設等における第三者評価	予習：学習内容について事典で調べておく 復習：配付資料を精読し、不明な点を書き出す	
第15回	幼児教育における教育課程研究の当面課題	予習：学習内容について事典で調べておく 復習：配付資料を精読し、不明な点を書き出す	
定期試験	定期試験		

保育の計画と評価

更新日：2024/02/26 13:39:45

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E101900	授業コード	
担当教員	谷口 良美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5Y223	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	保育士、保育園長として勤務していた経験をもとに実践的な授業を行う。卒業後、保育施設において保育者として活かすことができる。					

授業概要

内容	子どもの理解に基づく保育の課程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解することにより、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を学ぶ。また、保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。
方法	講義形式、調べ学習、成果発表

到達目標

1	①保育計画の意義や意味を理解する。
2	②保育施設における保育計画の基礎理解をする。
3	③乳児保育と幼児保育における指導計画を立案する。
4	④記録・振り返り・評価から再立案をすることで保育の質の向上を図るPDCAサイクルを学ぶ。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト	30
到達目標②	指導計画作成	20
到達目標③	指導計画作成	30
到達目標④	実践記録の作成	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	教育課程・保育の計画と評価 書いて学べる指導計画	萌文書林	岩崎淳子 他

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	保育所保育指針解説（平成30年3月）	フレーベル館	厚生労働省
2	幼稚園教育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	文部科学省
3	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	内閣府

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜1限 研究室1-5
E-mail：taniguchi@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

要領・指針をよく読み、これまでの学びを復習しておくこと。

課題に対するフィードバック

提出された課題へのコメントは、次回授業で時間をとって対応する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		

第1回	カリキュラムの意義と保育の基本 保育実践とカリキュラムの関係	予習：教科書「第1章 保育の基本について」を読む 復習：ノートをまとめる	
第2回	保育の計画の必要性	予習：教科書「第2章 「教育課程」・「全体的な計画と指導計画①」を読む 復習：ノートをまとめる	
第3回	保育における計画の種類 全体的な計画と長期・短期の指導計画	予習：教科書「第2章 「教育課程」・「全体的な計画と指導計画②③④」を読む 復習：ノートをまとめる	
第4回	幼稚園教育要領における「教育課程」「指導計画」の基礎理解	予習：教科書「第3章 幼稚園の理解」を読む 教科書「指導と評価に生かす記録」第1章を読む 復習：ノートをまとめる	
第5回	保育所保育指針における「全体的な計画」「指導計画」の基礎理解	予習：教科書「第4章 保育所の理解」を読む 復習：ノートをまとめる	
第6回	乳児保育における「指導計画」のデザインと実践展開	予習：教科書「第6章 乳児、1・2歳児の特徴と指導計画」を読む 復習：ノートをまとめる	
第7回	幼児保育における「指導計画」のデザインと実践展開	予習：教科書「第7章 幼児の特徴と指導計画」を読む 復習：ノートをまとめる	
第8回	カリキュラムマネジメントと質の向上	予習：幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説の該当部分を読む 復習：ノートをまとめる	
第9回	指導計画の作成① 計画作成	予習：教科書「第5章 指導計画の作成の基本とその方法」を読む 復習：ノートにまとめる	B
第10回	指導計画の作成② 教材研究	予習：指導計画作成に必要な知識や情報を調べる 復習：ノートをまとめる	B
第11回	計画に基づく実践と評価【模擬保育】Aグループ	予習：指導計画を読み込み、模擬保育に必要な教材を整える 復習：ノートをまとめる	D
第12回	計画に基づく実践と評価【模擬保育】Bグループ	予習：指導計画を読み込み、模擬保育に必要な教材を整える 復習：ノートにまとめる	D
第13回	記録・振り返り・評価から再立案へ	予習：教科書「第8章 保育の実践と評価①②④」を読む 復習：ノートにまとめる	B
第14回	子ども理解に基づく実践の展開【模擬保育】	予習：保育の計画立案について振り返り、実践につなげられるよう準備する 復習：ノートにまとめる	D
第15回	幼保小接続のカリキュラム	予習：教科書「第8章 保育の実践と評価③」を読む 幼保小接続のカリキュラムについて必要な情報や知識を各自で調べてくる 復習：ノートにまとめる	B
	実施せず		

保育内容総論

更新日：2024/02/26 13:40:15

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E102000	授業コード	
担当教員	谷口 良美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	5Y211	授業形態	演習	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修, 保幼必修	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	保育士、保育園長として勤務していた経験をもとに実践的な授業を行う。卒業後、保育施設において保育者として活かすことができる。					

授業概要

内容	平成30年3月に発行された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて、幼稚園教諭や保育士に必要な基礎知識としての保育内容全体を理解し、保育の実践の場で諸活動が展開できるよう、基本的な保育内容の指導法を習得することを目指す。
方法	テキストによる予習を踏まえ、グループディスカッションや発表を行う。授業内容は振り返って、まとめる。

到達目標

1	①要領・指針の内容を理解し、子どもの成長発達や興味関心、現代の保育課題に応じた保育活動を考えることができる。
2	②保育内容を理解し、活動の展開を考えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ファイル提出	70
到達目標②	ミニ模擬保育	30
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	子どもの主体性を育む 保育内容総論	みらい	津金美智子 編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	保育所保育指針解説（平成30年3月）	フレーベル館	厚生労働省
2	幼稚園教育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	文部科学省
3	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	内閣府

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜 1 限 研究室1-5
E-mail: taniguchi@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

この授業の内容をまとめるためのファイルを1冊準備すること。

課題に対するフィードバック

授業内にてコメントする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容の歴史の変遷	予習：シラバスの内容を把握する 復習：授業での学びをまとめる	
第2回	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領	予習：要領・指針、テキストを読んでおく	

	等の基本を踏まえた保育内容の理解及び内容のつながり	復習：授業での学びをまとめる	
第3回	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の役割と保育内容	予習：要領・指針、テキストを読んでおく 復習：授業での学びをまとめる	
第4回	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の基本を踏まえた指導の考え方と評価の基本	予習：要領・指針、テキストを読んでおく 復習：授業での学びをまとめる	
第5回	保育内容を展開するプロセス（PDCA）	予習：テキストを読んでおく 復習：授業での学びをまとめる	
第6回	保幼小連携を創造する保育内容とその展開 グループワーク	予習：テキストを読んでおく 復習：授業での学びをまとめる	B
第7回	実践を創造しながらの検証　ー保育構想の向上に繋げるー ミニ模擬保育	予習：テキストを読んでおく 復習：授業での学びをまとめる	D
第8回	これからの保育内容の課題について グループワーク	予習：テキストを読んでおく 復習：授業での学びをまとめる	B
第9回	実施せず		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

環境

更新日：2024/03/04 14:31:49

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E102110	授業コード	
担当教員	金森 由華						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	5Y212	授業形態	演習	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	保幼必修	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	私立幼稚園園長4年、私立幼稚園学級担任6年を経験した教員が、これまでの保育現場での保育実践や指導経験を取り入れながら、保育における領域「環境」について授業を行う。卒業後、保育者として幼稚園・保育所等での保育に応用できる。					

授業概要

内容	領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身につけていく。
方法	実際の教材を使って演習する。 パワーポイントを使い授業展開する。

到達目標

1	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義が理解できる。
2	幼児期の思考・科学的概念の発達を理解できる。
3	幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	80
到達目標②	授業内課題	10
到達目標③	授業内課題	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	新・保育実践を支える「環境」	福村出版	吉田淳・横井一之

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	幼稚園教育要領（平成30年3月）	フレーベル館	文部科学省
2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成30年3月）	フレーベル館	内閣府
3	保育所保育指針（平成30年3月）	フレーベル館	厚生労働省

オープンな教育リソース

オフィスアワー

kanamori@sgk.ac.jp(いつでもよいが返信には2日かかることがある。)

学生へのメッセージ

気軽に質問してください。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対して、次回授業で時間をとって対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	幼児を取り巻く環境の諸側面（物的環境、人的環境、社会的環境、安全等）と幼児の発達	予習：幼児を取り巻く環境の諸側面について整理しておく 復習：授業内容を確認しておく	
第2回	幼児と環境との関わり方（能動性、好奇心、探究心、有能感）	予習：幼児と環境との関わり方について整理しておく 復習：授業内容について復習しておく	C
第3回	知識基盤社会および持続可能な開発のための教育について	予習：ESDについて整理しておく 復習：授業内容について復習しておく	C
第4回	乳幼児期の認知的発達の特徴と筋道について	予習：乳幼児期の認知的発達の特徴について整理しておく 復習：授業内容について復習しておく	
第5回	物的、数量・図形との関わり方の事象に対する興味・関心・認識発達について	予習：数量・図形への興味関心について整理しておく 復習：授業内容について復習しておく	C
第6回	生物・自然との関わり方の事象に対する興味・関心・認識発達について	予習：生物・自然への関わり方について整理しておく 復習：授業内容について復習しておく	C
第7回	標識・文字等、情報・施設との関わりについて	予習：標識・文字等との関わりについて整理しておく 復習：授業内容について復習しておく	A
第8回	これまでのまとめ	予習：これまでの授業内容について整理しておく 復習：授業内容について復習しておく	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
定期試験	定期試験		

言葉

更新日：2024/02/26 08:17:48

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E102210	授業コード	
担当教員	杉山 実加						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	5Y211	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	保幼必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	<ul style="list-style-type: none">言葉のもつ意義と機能を講義およびロールプレイなどの体験を通して理解する絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚や知識を身につける。
方法	<ul style="list-style-type: none">パワーポイントを用いて講義を行い、講義内容をもとに、授業内でグループワークやペアワークを行う。Microsoft Formsを使い、毎回小テストを実施する。

到達目標

1	人間にとっての言葉の意義や機能を理解する
2	乳幼児の言葉の発達段階について理解し、言葉の機能についても説明できる
3	言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身につける
4	児童文化財の意義を理解し、実践に関する基礎的な知識を身につける

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	各授業リフレクション、小テスト（8回・15回）	25
到達目標②	各授業リフレクション、小テスト（8回・15回）、授業態度	25
到達目標③	各授業リフレクション、小テスト（8回・15回）、授業態度	25
到達目標④	各授業リフレクション、小テスト（8回・15回）、授業態度	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	幼稚園教育要領解説	フレーベル館	文部科学省
2	保育所保育指針解説	フレーベル館	厚生労働省

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業後に質問や相談を受け付けます

学生へのメッセージ

他の学生との学びあいが欠かせない授業です。楽しみながら積極的な授業参加をしてください。

課題に対するフィードバック

リフレクション、小テストは授業内で解説・講評をお伝えします

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	授業オリエンテーション、言葉の機能	予習：授業シラバスを読み、学習の見通しを持つ 復習：授業内容の振り返り、資料整理	C

第2回	乳児の言葉の発達—0歳児	予習：自身の経験や別の授業での学びを振り返り、子どもの姿を具体的に想像できるようにしておく 復習：授業内容の振り返り、資料整理	D
第3回	乳児の言葉の発達—1.2歳児	予習：自身の経験や別の授業での学びを振り返り、子どもの姿を具体的に想像できるようにしておく 復習：授業内容の振り返り、資料整理	B
第4回	幼児の言葉の発達—3～5歳児	予習：自身の経験や別の授業での学びを振り返り、子どもの姿を具体的に想像できるようにしておく 復習：授業内容の振り返り、資料整理	C
第5回	文字・書き言葉の機能	予習：生活に溢れる文字を集める 復習：授業内容の振り返り、資料整理	D
第6回	児童文化材：絵本の読み方	予習：授業で使う絵本の選定準備 復習：学びを生かして絵本読みを行う	D
第7回	児童文化材：絵本に書かれた言葉	予習：授業で使う絵本の選定・内容確認 復習：学びを生かして別の絵本にも取り組む、授業内容の振り返り、資料整理	B
第8回	前半確認テスト・解説 児童文化材：素話	予習：7回までの授業内容の復習 復習：授業内容の振り返り、資料整理	B
第9回	児童文化材：紙芝居	予習：授業で使う紙芝居の選定準備 復習：授業内容の振り返り、資料整理	B,D
第10回	言葉の感覚を豊かに：日本語の面白さと特徴	予習：自分が使っている言葉の特徴を振り返る 復習：授業内容の振り返り、資料整理	B
第11回	言葉の感覚を豊かにする遊び	予習：どのような遊びがあるかを調べておく 復習：授業内容の振り返り、資料整理	B,D
第12回	言葉の感覚を豊かに：オリジナルの物語作り	予習：空想の世界を題材にした絵本など物語に触れる 復習：次週までに物語を完成させる	A
第13回	言葉の感覚を豊かに：オリジナル物語の発表、子どもと楽しむ視点を考える	予習：作成した物語の発表準備 復習：授業内容の振り返り、資料整理	B
第14回	保育者に求められる言語表現力	予習：自分の言葉遣いを振り返る 復習：授業内容の振り返り、資料整理	C,D
第15回	授業まとめ 後半確認テスト・解説	予習：9回目以降の授業内容の振り返り、授業プリントの整理を行う 復習：確認テストを踏まえた授業内容の総復習	
	実施せず。		

健康

更新日：2024/01/29 19:06:11

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E102310	授業コード	
担当教員	未決定						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	5Y211	授業形態	演習	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修, 保幼必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	保育所で保育士及び園長として勤務していた経験をもとに、乳幼児の基本的な生活習慣に関する基礎知識について実践的な授業を行う。(谷口良美)					

授業概要

内容	領域「健康」は、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。」ことを目指すものである。領域「健康」の指導の基盤となる、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。
方法	専門的な事項についてのパワーポイントを使った講義の部分と提示された課題について自ら情報を修得し分析しまとめ、発表などを行う。

到達目標

1	幼児期は、特に健康と発育発達との関係が深いため、幼児にとっての健康は何かを考え、幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解することができる。
2	幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解することができる。
3	幼児が自ら活動することを意欲的に取り組み、健康で安全な生活を営む力をつけていくため、安全な生活と怪我や病気の予防を理解することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業中の発表や態度	40
到達目標②	課題レポート等	30
到達目標③	課題レポート等	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし・適宜資料を配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	幼稚園教育要領解説(平成30年3月)	フレーベル館	文部科学省
2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)	フレーベル館	内閣府
3	保育所保育指針解説(平成30年3月)	フレーベル館	厚生労働省

オープンな教育リソース

オフィスアワー

学生へのメッセージ

子どもの健康や安全に留意して健やかな発育・発達を促すことは保育者の重要な役割ですから、意欲をもって主体的に学修にあってください。

課題に対するフィードバック

授業の理解状況はレポートや発表などによって確認し、授業においてフィードバック情報を提供する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題(予習・復習)の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	乳幼児の健康についての理解	予習: 乳幼児の健康状態をイメージする。 復習: 授業内容を確認して乳幼児の健康について再確認す	

		る。	
第2回	乳幼児期の健康課題Ⅰ ー健康の定義ー	予習：乳幼児の健康について事前に調べておく。 復習：事前調査との整合性を確認する。	
第3回	乳幼児期の健康課題Ⅱ ー乳幼児期の健康の意義ー	予習：乳幼児期の健康の意義と状態を調べておく。 復習：乳幼児の健康の意義を確認する。	
第4回	乳幼児の身体の発達的特徴Ⅰ ー乳幼児期の身体的発達の特徴ー	予習：乳幼児のスキヤモンの発育曲線について調べておく。 復習：乳幼児期の神経系の発達の意義を確認する。	
第5回	乳幼児の身体の発達的特徴Ⅱ ー生理的機能の発達ー	予習：乳幼児の生理的機能の発達状況を調べておく。 復習：心拍数、血圧、体温などの機能の発達を確認する。	
第6回	乳幼児期の生活習慣の形成Ⅰ ー乳幼児期の生活習慣（着脱衣、食事）の獲得 ICTを活用してー	予習：乳幼児の更衣、食事についてICTを使って調べておく。 復習：生活習慣を獲得するプロセスを確認する。	B
第7回	乳幼児期の生活習慣の形成Ⅱ ー乳幼児期の生活習慣（睡眠、清潔、排泄）の獲得 ICTを活用してー	予習：乳幼児の睡眠や排泄の課題をICTで調べておく。 復習：睡眠の意義を認識する。	B
第8回	乳幼児期の生活習慣の形成Ⅲ ー乳幼児期の生活リズムの形成とその意義ー	予習：乳幼児期の生活リズムの重要性を確認しておく。 復習：生活リズムのメカニズムを確認しておく。	B
第9回	幼児の安全教育と危険Ⅰ（リスクとハザード）ー子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性 ICTを活用してー	予習：リスクとハザードの意味を調べておく。 復習：幼児の安全教育とは何かを確認しておく。	B
第10回	幼児の安全教育と危険Ⅱ（リスクとハザード）ー子どもの安全管理 ICTを活用してー	予習：幼児の安全管理とは何かを調べておく。 復習：幼児の安全管理を保育者の視点から確認しておく。	B
第11回	乳幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置 ー乳幼児期に起こりやすい怪我の特徴と応急処置の基礎 ICTを活用してー	予習：乳幼児の怪我や遊具による事故を事前に調べておく。 復習：応急処置の対処法を復習しておく。	C
第12回	乳幼児期に起こりやすい病気とその予防 ーICTを活用してー	予習：乳幼児期の病気やその予防法を調べておく。 復習：乳幼児の疾病予防の具体的な方策を確認しておく。	
第13回	乳幼児期の運動発達の特徴 ー運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の意味と両者の関係ー	予習：乳幼児の運動発達の特徴を調べておく。 復習：運動を遂行する情報処理システムを理解する。	
第14回	日常生活における運動 ー社会の変化と生活の中の動きの経験、またその配慮の基本的な考え方ー	予習：幼児の運動発達と環境との関係を調べておく。 復習：家庭や園における遊びの支援について確認しておく。	D
第15回	遊びとしての運動 ー子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方ー	予習：幼児期に体験すべき伝承遊びを調べておく。 復習：伝承遊びの意義を確認しておく。	D
	実施せず		

表現

更新日：2024/02/29 14:19:08

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E102600	授業コード	
担当教員	丹羽 裕紀子 鈴木 安由美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	5Y211	授業形態	演習	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	幼児必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	子どものピアノ・リトミック指導経験をもとに、音楽表現の授業を行う。この授業における学びは、卒業後、保育現場での音楽活動において生かすことができる。					

授業概要

内容	領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」ことを目指すものである。子ども達の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びなどの専門的事項についての知識・技能・表現力を身に付け、子ども達の表現の姿やその発達を理解し、様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、子ども達の表現を支えるための感性を養う。		
方法	「弾き歌い」をすることで音程やリズム感を指導していく。実習等に役立つ「手あそび」、「わらべうた」等の音楽表現が身に付くように授業を進めていく。グループワーク、ロールプレイ等		

到達目標

1	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることができる。
2	子ども達の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びなどの専門的事項についての知識・技能・表現力を身に付けることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ポートフォリオ	70
到達目標②	最終レポート	30
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	ピアノ伴奏こどものうた136	成美堂出版	ケロポンズ監修
2	保育者をめざす楽しい音楽表現	圭文社	岩佐明子他

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	幼稚園教育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	文部科学省
2	保育所保育指針解説（平成30年3月）	フレーベル館	厚生労働省
3	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	内閣府

オープンな教育リソース

幼稚園教育要領（平成29年3月告示：文部科学省） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019.htm
保育所保育指針（平成29年3月告示：厚生労働省） https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010450&dataType=0&pageNo=1
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示：内閣府） https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010420

オフィスアワー

火曜日12:30-13:30 研究室1-5
yk-niwa@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

保育における音楽活動を知り、実践に活用できるさまざまな音楽表現を体感する。

課題に対するフィードバック

提出された作品・レポートの内容についてコメントを行いフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	「表現」とは何か。 イントロダクション		
第2回	表現の発達を理解① ー映像に触れ、乳幼児の表現の芽生えの姿や発達について理解するー	予習： 幼稚園教育要領「表現」の領域を読んでおく。 子供の発達について調べておく。 復習： 映像から学んだことをまとめておく。	
第3回	表現の発達を理解② ー具体的事例に触れ、乳幼児の表現の芽生えの姿や発達について理解するー	予習： 子供の発達について調べておく。 復習： 映像から学んだことをまとめておく。	
第4回	身近な自然やその素材の特性に触れ、表現の多様性を探る① ー感じたことを共有するー	予習： 新聞紙に触れて音を出してみる。 復習： 授業内容をまとめておく。	B.D
第5回	身近な自然やその素材の特性に触れ、表現の多様性を探る② ー手作り楽器を作る。感じたままに表現するー	予習： 作りたい楽器を調べ、材料を用意しておく。 復習： 楽器を完成させておく。	B.D
第6回	身近な自然やその素材の特性に触れ、表現の多様性を探る③ ーイメージを再構成し協同して表現するー	予習： 提示された曲に合う自然の音を探しておく。 復習： 自然の音を入れて「弾き歌い」しておく。	B.D
第7回	身近な自然やその素材の特性に触れ、表現の多様性を探る④ ー他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現に繋げるー	予習： 「手あそび」を覚えてくる。 復習： 学んだ「手あそび」をできるようにしておく。	B.D
第8回	身近な自然やその素材の特性に触れ、表現の多様性を探る⑤ ー主体的で対話的な学びについて考えるー	予習： 「手あそび」を覚えてくる。 復習： 学んだ「手あそび」をできるようにしておく。	B.D
第9回	身の周りの音・声・楽器による音楽表現① ー生活や遊びの中にある声や音の面白さに気付くー	予習： 「手あそび」を覚えてくる。 復習： 学んだ「手あそび」をできるようにしておく。	B.D
第10回	身の周りの音・声・楽器による音楽表現② ーわらべうたや手遊びうたを体験するー	予習： 「わらべうた」のプリントを読んでおく。 復習： 学んだ「わらべうた」をできるようにしておく。	B.D
第11回	身の周りの音・声・楽器による音楽表現③ ー豊かな表現のためにー	予習： 「わらべうた」のプリントを読んでおく。 復習： 学んだ「わらべうた」をできるようにしておく。	
第12回	身近な素材を用いた造形表現① ー素材の特性を生かして表現するー（ゲストスピーカー）	予習： 紙を使った造形教材について調べておく。 復習： 作品を完成させておく。	
第13回	身近な素材を用いた造形表現② ー見立てる。作り出すー（ゲストスピーカー）	予習： 「手あそび」に出てくる動物や物を確認しておく。 復習： 作品を完成させておく。	
第14回	身近な素材を用いた造形表現③ ー鑑賞し合う。読みとるー（ゲストスピーカー）	予習： 「手あそび」に合わせて作品を動かせるようにしておく。 復習： 発表の反省点や改善点をまとめておく。	B.D
第15回	ICTの活用と総括		
	実施せず		

人間関係

更新日：2024/01/29 18:49:54

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E102710	授業コード	
担当教員							
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	5Y211	授業形態	演習	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	保幼必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	・幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解する。・領域「人間関係」の指導の基盤となる、乳幼児期の人間関係の発達に関する専門的知識を身につける。・人とのかかわりの中で、子どもの認知、社会性、言語、自我などが発達することを理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。						
方法	講専門的な事項についてのパワーポイントを使った講義の部分と提示された課題について自ら情報を修得し分析しまとめ、発表などを行う。						

到達目標

1	乳幼児の発達にとっての人間関係の意義と重要性を理解することができる。
2	乳幼児の人間関係をとりまく現代的課題と、それに対する保育の果たすべき役割を理解することができる。
3	保育における集団遊びの重要性と、それによる乳幼児の人間関係の育ちへの影響について理解することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業中の発表や態度	40
到達目標②	課題レポート等	30
到達目標③	課題レポート等	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし：必要に応じて資料を配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	幼稚園教育要領解説	フレーベル館	文部科学省
2	保育所保育指針解説	フレーベル館	厚生労働省
3	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	フレーベル館	内閣府

オープンな教育リソース

オフィスアワー

学生へのメッセージ

人間は社会的な存在であり、乳幼児期はその基礎を形成するための大切な時期です。保育の場は、子どもにとって初めての集団生活の場であることを認識して、意欲をもって主体的に学修にあたってください。

課題に対するフィードバック

授業の理解状況はレポートや発表などによって確認し、授業においてフィードバック情報を提供する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	現代社会と幼児の人間関係① -家庭環境と乳幼児期の子どもへの影響-	予習：現代社会の様相と子どもの人間関係の育ちの現状について考える。	

		復習：現代社会における子どもの人間関係に関する問題点を確認する。	
第2回	現代社会と幼児の人間関係② -家庭・地域での経験と幼児期の子どもへの影響-	予習：家庭・地域・保育のつながりの現状を調べる。 復習：身近な園の地域子育て支援について調べる。	A
第3回	愛着形成と子どもの発達 -養育者の関わり方と子どもの発達-	予習：家庭における親子関係の現状を考える。 復習：愛着等に関する理論を理解する。	
第4回	自分の思いへの気づきと自我の芽生え -身近な大人との情動交流を通して-	予習：愛着等に関する理論に基づいて親子関係のあり方を考える。 復習：家庭から保育（集団生活）へのつながりについて理解する。	
第5回	乳幼児期の自我の拡大 -自分の思いを認められることと自己肯定感-	予習：自分の体験等を振り返って、子どもの自己や自我の芽生えについて考える。 復習：認知的な発達について確認する。	
第6回	乳幼児期の自立心の育ち -自我の育ちと基本的生活習慣の獲得-	予習：自分の体験等を振り返って、自立心について考える。 復習：発達課題について確認する。	A
第7回	幼児期の自己調整力の発達 -自己の思いを受け止められることと、気持ちを調整し折り合いをつけること-	予習：自分の体験等を振り返って、集団生活における他者との葛藤について考える。 復習：自己主張と自己抑制について確認する。	A
第8回	幼児期の規範意識の芽生え -遊びを楽しむことと、他者との葛藤体験を通してきまりの必要性を理解すること-	予習：自分の体験等を振り返って、集団での遊びや活動におけるルールやきまりと遊びの楽しさを考える。 復習：遊びに関する諸理論について確認する。	A
第9回	幼児期の道徳性の育ち -身近な大人との関わりと道徳性の発達-	予習：自分の体験等を振り返って、子どもと養育者（保護者・保育者）との関係性について考える。 復習：道徳性の発達水準について確認する。	A
第10回	幼児期の遊びの発達からみる協調性の育ち① -「一緒に楽しい」友だちとの関わり心地よさ-	予習：自分の体験等を振り返って、集団保育における子どもの仲間関係について考える。 復習：保育実践事例をとおして、これまでの諸理論を再確認する。	B
第11回	幼児期の遊びの発達からみる協調性の育ち② -友だち関係を振り返り始める-	予習：遊びに関する諸理論について再確認しておく。 復習：保育実践事例をとおして、これまでの諸理論を再確認する。	B
第12回	幼児期の遊びの発達からみる協調性の育ち③ -自分たちで新しい遊びを創造する力と他者と協力して遊ぶ力-	予習：遊びに関する諸理論について再確認しておく。 復習：保育実践事例をとおして、これまでの諸理論を再確認する。	B
第13回	乳幼児期の人間関係のひろがり -家庭から地域へと人間関係の場の広がり-	予習：これまでの社会性の発達に関する理論を再確認しておく。 復習：現代の家庭・地域・保育における人間関係の様相を再確認する。	
第14回	まとめ① 乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながり	予習：幼稚園教育要領の第1章（第1～4）を再度通読しておく。 復習：幼児期から児童期の仲間関係について再確認する。	
第15回	まとめ② 就学への移行 -乳幼児期からの育ちのつながりに配慮して-	予習：幼稚園教育要領の第1章（第1～4）を再度通読しておく。 復習：就学にまつわる子ども・家庭の現状を再確認する。	
	実施せず		

乳児保育Ⅰ

更新日：2024/02/26 13:37:15

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E102900	授業コード	
担当教員	谷口 良美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5Y211	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	公立保育園で園長として勤務していた経験をもとに、乳児の発達および保育の留意点や職員間および保護者との連携の方法について実践的な授業を行う。この授業における学びは、卒業後、保育士として保育所および認定こども園での乳児保育に応用することができる。					

授業概要

内容	<ul style="list-style-type: none">・乳児保育の意義・目的と歴史的編纂及び役割等について理解する。・保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する
方法	・乳児保育の成り立ちや必要性について、さまざまな観点から学ぶ。・3歳未満児の発達や保育内容について、グループワークやロールプレイを通して具体的に学ぶ。・職員間の連携や保護者との連携について、グループワークやロールプレイを通して具体的に学ぶ。

到達目標

1	授業に真剣に取り組むことができる
2	乳児の発達、保育内容について理解できる
3	職員間、保護者との連携について理解できる
4	乳児保育の理念、歴史、乳児保育の特性が理解できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト・ノート提出	25
到達目標②	小テスト	20
到達目標③	レポート・発表	25
到達目標④	定期試験	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	はじめて学ぶ乳児保育	同文書院	志村聡子

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	保育所保育指針解説（平成30年3月）	フレーベル館	厚生労働省
2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	内閣府

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜 1 限 研究室1-5
E-mail: taniguchi@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

日頃から、身近な子どもや親に関心を持ち、触れ合う機会をもってほしい。子どもに関するニュースや社会の動きに関心を持ち、積極的に情報収集すること。また、積極的に授業に取り組むこと。

課題に対するフィードバック

確認テストについては、回収、採点后、次回授業で返却し解説する。提出された課題に対して、次回授業で時間をとって対応する。提出された課題、レポートは添削して返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 乳児保育の必要性	予習：教科書P2～5を読み、乳児保育の必要性の事前学習する 復習：授業内容をノートにまとめる	
第2回	乳児保育の成り立ち『子ども子育て支援制度』	予習：教科書P6～21を読み、乳児保育の歴史、制度の事前学習する 復習：授業内容をノートにまとめる	
第3回	知っておきたい法律など —児童福祉法、保育所保育指針—	予習：教科書P22～30を読み、児童福祉法などについて事前学習する 復習：授業内容をノートにまとめる	A
第4回	『保育所保育指針における乳児保育のポイント』 ①保育所の役割	予習：教科書P32～49を読み、保育所の役割について事前学習する 復習：授業内容をノートにまとめる	
第5回	『保育所保育指針における乳児保育のポイント』 ②保育のねらい・内容	予習：教科書P50～58を読み、保育のねらい・内容について事前学習する 復習：授業内容をノートにまとめる	
第6回	乳児のこころの発達	予習：教科書P60～69を読み、こころの発達について事前学習する 復習：授業内容をノートにまとめる	A
第7回	乳児のこころの発達	予習：教科書P70～77を読み、こころの発達について事前学習する 復習：授業内容をノートにまとめる	A
第8回	乳児のからだの発達	予習：教科書P78～87を読み、からだの発達について事前学習する 復習：授業内容をノートにまとめる	A
第9回	0歳児の子どもの育ちと保育内容	予習：配布プリントを読んで、0歳児の発達について事前学習する 復習：授業内容をノートにまとめる	B
第10回	1歳児の子どもの育ちと保育内容	予習：配布プリントを読んで、1歳児の発達について事前学習する 復習：授業内容をノートにまとめる	B
第11回	2歳児の子どもの育ちと保育内容	予習：配布プリントを読んで、2歳児の発達について事前学習する 復習：授業内容をノートにまとめる	B
第12回	乳児保育における複数担任制 —ロールプレイヤー—	予習：教科書P88～93を読み、複数担任制について事前学習する 復習：授業内容をノートにまとめる	D
第13回	保育所で過ごす1日の流れ—DVD使用—	予習：教科書P94～107を読み、デイリープログラムの事前学習する 復習：デイリープログラムを作成する	B
第14回	保護者との連携 —グループワーク—	予習：教科書P108～117を読み、保護者との連携の事前学習する 復習：グループワークの内容をノートにまとめる	B
第15回	発達の遅れと向き合う —保護者を支える—	予習：教科書P118～126を読み、発達の視点から保護者との連携の事前学習する 復習：授業内容をノートにまとめる	B
	定期試験		

乳児保育Ⅱ

更新日：2024/02/26 13:37:51

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E103000	授業コード	
担当教員	谷口 良美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6Y212	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	公立保育園で園長として勤務していた経験をもとに、乳児保育のさまざまな技術及び指導計画作成について実践的な授業を行う。この授業における学びは、卒業後、保育者として保育所および認定こども園での乳児保育に応用することができる。					

授業概要

内容	<ul style="list-style-type: none">3歳未満児の発達・発育の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する上記を踏まえ、乳児保育における指導計画の作成について具体的に理解する
方法	<ul style="list-style-type: none">乳児保育Ⅰで学んだことを基に、乳児保育を担当する保育者として必要な知識や技術をグループワーク、ロールプレイなどを通して理解する乳児のさまざまな学びについて、模擬保育等を通して具体的に学ぶ

到達目標

1	演習やロールプレイに積極的に取り組むことができる
2	乳児の生活や遊びの配慮事項について理解することができる
3	職員間の連携や保護者とのパートナーシップを理解することができる
4	指導計画を立案し、実践に結びつけて理解することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	演習・身だしなみ	20
到達目標②	小テスト・レポート	30
到達目標③	グループワーク・発表	20
到達目標④	指導計画作成・模擬保育	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	はじめて学ぶ乳児保育（前期の授業でも使用した教科書です）	同文書院	志村聡子

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	保育所保育指針解説（平成30年3月）	フレーベル館	厚生労働省
2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	内閣府

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜 1 限 研究室1-5

E-mail: taniguchi@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

人間としての成長の基礎となる乳児保育にかかわる保育者としての意欲や自覚をもって授業に臨んでほしい。実際に乳児と接することを想定して、動きやすく清潔な服装で授業に臨むこと。また、髪型等についても指示に従うこと。絵本、手あそび、玩具にも関心をもって準備してほしい。

課題に対するフィードバック

授業内の課題について、授業内で発表し、情報や意見の交換を行う。確認テストについては、回収、採点后、次回授業で返却し解説する。レポートについては、事前に提供されるルーブリックにより評価し、コメントをつけるなどしてフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 乳児とのふれ合いの基本—だっこ、おんぶのしかた—	予習：教科書P130～133を読み、乳児とのふれ合いの事前学習する 復習：授業内容をプリントにまとめる	D
第2回	乳児の衣服の基礎知識 —おむつ替えとトイレトレーニング—	予習：教科書P134～143を読み、衣服、排泄について事前学習する 復習：授業内容をプリントにまとめる	D
第3回	沐浴のしかた・清拭のしかた	予習：教科書P154～157を読み、沐浴・清拭について事前学習する 復習：授業内容をプリントにまとめる	D
第4回	授乳のしかたとその準備・離乳食の基礎知識 —グループワーク—	予習：教科書P144～153を読み、授乳および離乳食について事前学習する 復習：授業内容をプリントにまとめる	B
第5回	保育環境の衛生管理 乳児保育における安全管理	予習：教科書P158～159、P162～173を読み、保育環境の衛生管理および安全管理について事前学習する 復習：授業内容をプリントにまとめる	B
第6回	かみつき・ひっかきへの対応 —DVD使用、ロールプレー—	予習：教科書P160～161を読み、トラブルの対応について事前学習する 復習：グループワークの内容をプリントにまとめる	D
第7回	保護者との連携と保護者支援 —連絡帳の記入—	予習：教科書P174～178を読み、保護者支援について事前学習する 復習：授業内容を振り返り、連絡帳を記入する	C
第8回	遊びのアイデア —乳児が楽しむいろいろな遊び—	予習：教科書P184～195を読み、歌あそび、わらべうたを練習する 復習：授業で遊んだあそびを繰り返し練習する	D
第9回	遊びのアイデア —手作りおもちゃなど—	予習：乳児の手作りおもちゃを調べてくる 復習：いろいろな手作りおもちゃでの遊びを復習する	D
第10回	指導計画の作成と保育に活かす記録 —年齢別指導計画—	予習：配布プリントを読み、指導計画について事前学習する 復習：指導計画の記入方法について理解する	A
第11回	指導計画の作成と保育に活かす記録 —指導計画の振り返り・保育記録—	予習：指導計画を記入する 復習：指導計画の振り返りの記入方法について理解する	A
第12回	模擬保育 —指導計画作成—	予習：グループ毎に、模擬保育の内容を決める 復習：模擬保育の練習を行う	D
第13回	模擬保育 —実践（前半クラスの発表）—	予習：グループ毎に模擬保育の練習を行う 復習：模擬保育の振り返りをする	D
第14回	模擬保育 —実践（後半クラスの発表）—	予習：グループ毎に模擬保育の練習を行う 復習：模擬保育の振り返りをする	D
第15回	年齢別デイリープログラムに沿った、乳児保育の留意点	予習：年齢別デイリープログラムの内容を把握しておく 復習：0歳児～2歳児の保育の留意点を確認する	B
	実施せず		

特別支援教育・保育

更新日：2024/02/28 11:27:16

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E103110	授業コード	
担当教員	杉山 佳菜子 長谷中 崇志						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5Y211	授業形態	演習	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修, 保幼必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	障害児と健常児が共存する場が通常社会であり、社会側の環境整備の不備による障害児の排除は通常社会ではなく特殊社会といえる。保育現場における障害児の不参加は健常児にとっても特殊社会によるイスクルージョンであり多様性の欠如である。この授業では、障害児保育を、誰もが互いを認め合い支え合う共生社会を形成するための土台として位置づけ、障害児保育を支える理念について学ぶとともに、様々な障害や障害児及び特別な配慮を必要とする子どもについて理解し、援助の基本について学ぶ。また、障害児及び特別な配慮を必要とする子どもとその家族を支える支援や関係機関との連携について理解する。
方法	講義を中心に、パワーポイント、グループディスカッション、アクティブラーニングを行う。

到達目標

1	障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解することができる
2	個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解することができる
3	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解することができる
4	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解することができる
5	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	50
到達目標②	課題レポートおよび小テスト	15
到達目標③	授業への積極的参加(発表、討論への参加など学びの姿勢)	5
到達目標④	課題レポートおよび小テスト	15
到達目標⑤	課題レポートおよび小テスト	15
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	改訂新版 障がいのある子の就学・進学ガイドブック	日本標準	渡部昭男

オープンな教育リソース

オフィスアワー

火曜日の5時限（1号館3階研究室）

学生へのメッセージ

障害児教育・保育は教育・保育の原点です。一人一人の子どもに寄り添える教育・保育者を目指しましょう。

課題に対するフィードバック

- 授業内の課題について、授業内で発表し、情報や意見の交換をおこないます。
- 提出されたレポート等の回答や質問に関して、次回授業で時間をとって説明します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	オリエンテーション 「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷	予習：シラバスを読んで、学習計画を理解しておく。 復習：障害の概念を整理する	
第2回	特別支援教育制度の理解と小学校等との連携	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだ内容を整理しておく。	
第3回	障害児支援制度の理解と地域における自治体や専門機関等との連携・協働	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだ内容を整理しておく。	A
第4回	子ども同士のかかわりと育ち合いと職員間の連携・協働	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだ内容を整理しておく。	
第5回	障害以外の特別な配慮を要する子どもの理解と援助	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだ内容を整理しておく。	A
第6回	知的障害児の理解と援助	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだ内容を整理しておく。	B
第7回	重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだ内容を整理しておく。	B
第8回	肢体不自由児、視覚・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだ内容を整理しておく。	B
第9回	発達障害児の理解と援助①（注意欠陥多動性障害、学習障害等）	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだト内容を整理しておく。	B
第10回	発達障害児の理解と援助②（広汎性発達障害等）	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだ内容を整理しておく。	B
第11回	障害児保育の指導計画の作成と記録及び評価	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだ内容を整理しておく。	
第12回	障害児一人ひとりの発達を促す生活や遊び環境	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだ内容を整理しておく。	
第13回	保護者や家族に対する理解と支援、保護者間の交流と支援	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだ内容を整理しておく。	
第14回	障害児保育の意義と障害児保育を支える理念	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだ内容を整理しておく。	
第15回	障害児その他特別な配慮を要する子どもの保育にかかわる現状と課題～保健・医療、福祉・教育、地域支援の輪～ ＊学習計画及び学習内容を変更することがある。	予習：次回予定のプリントの箇所を読んでおく 復習：今回学んだ内容を整理しておく。	
	定期試験		

社会的養護Ⅱ

更新日：2024/02/21 16:19:23

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E103210	授業コード	
担当教員	長谷中 崇志						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6Y224	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	社会的養護Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、社会的養護（家庭養護及び施設養護）に関する事例を通して児童福祉施設等で生活している子どもの理解を深める。また、社会的養護における援助方法について具体的に学ぶことにより、児童福祉施設で働く保育士に求められる専門性を理解するとともに、基礎的な援助技術を身につけることを目指す。						
方法	個人ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション						

到達目標

1	家庭養護（特に里親制度）の意義と援助方法について説明できる。						
2	施設養護の展開と援助方法について説明できる。						
3	社会的養護に関わる保育士の倫理、専門性について説明できる。						

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題・演習内容	40
到達目標②	課題レポート・小テスト	30
到達目標③	小テスト・授業への参加度	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	プリントを配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜授業の中で紹介する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業の前後（研究室で対応する）

学生へのメッセージ

グループ学習を中心とした授業であるため、主体的参加と積極的な取り組みを求める。受講生一人ひとりが積極的に参加し、発言するようにしてほしい。

課題に対するフィードバック

授業の冒頭において回答するとともに、毎回の最後に質問等の時間を設ける。グループワークでは適宜、そのねらいや解説を行うことにより学びを深める。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション 社会的養護の基礎知識確認	予習：シラバスを確認し、授業の概要などを理解しておく。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第2回	社会的養護の現状	予習：社会的養護関連の新聞記事を読んでくる。	A, B

		復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	
第3回	施設養護の事例検討①乳児院	予習：配布した事例を読んでくる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第4回	施設養護の事例検討②児童養護施設	予習：配布した事例を読んでくる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第5回	家庭養護の事例検討①里親制度	予習：配布した事例を読んでくる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第6回	家庭養護の事例検討②里親制度	予習：配布した事例を読んでくる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第7回	社会的養護に関わる保育士の専門性①持つべき視点	予習：保育所で働く保育士と社会的養護施設で働く保育士の役割の違いをまとめる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第8回	社会的養護に関わる保育士の専門性②求められる援助技術	予習：ソーシャルワークの援助技術について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A, B
第9回	実施せず		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

幼児理解の理論と教育相談

更新日：2024/02/28 11:28:27

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E103300	授業コード	
担当教員	杉山 佳菜子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	6Y223	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修, 保選択必修, 幼必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	発達支援センター・児童虐待対応協力員など児童福祉の現場で勤務していた経験をもとに、子育て相談の現状に即した実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、幼稚園教諭・保育者として子どもの発達理解や保護者対応等の相談活動に生かすことができる。					

授業概要

内容	保育現場では、親子のあり方、配慮の必要な子どもの多様化に伴いさまざまな問題が山積している。そこで保育相談支援の基礎知識を学ぶと共に事例や話し合いによって子どもをめぐる諸問題の理解を深める。その上で保育者として子どもの発達や個性を理解し尊重しながら専門機関や保護者と連携し効果的支援を行っていくために何が必要かを考え実践していくための基礎を身につける。
方法	カウンセリングの理論等、教育相談活動に必要なスキルについては講義形式を中心に授業を行う。その知識をもとに、グループでの事例検討やロールプレイなどによって子どもをめぐる諸問題や対応方法について理解を深めていく。

到達目標

1	子どもを取り巻く現代社会の特徴を把握し子ども理解を深め、親子を支える保育現場の相談支援について理解する。
2	相談支援に必要なコミュニケーションの技術、専門機関との連携の方法を身につける。
3	幼児期の発達の特徴や障害等に関する理解を深め適切な配慮のあり方が指摘できる。
4	教育相談に必要な基礎的な知識や方法を習得する。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	受講態度などの平常得点	10
到達目標②	レポート課題・小テスト等	20
到達目標③	レポート課題・小テスト等	20
到達目標④	定期試験	50
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜資料を配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜資料を配布する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

火曜日の5時限（1号館3階研究室）

学生へのメッセージ

この授業は体感する授業である。話し合いやロールプレイの中で何かを感じたり疑問に思ったりすることが重要である。その感じ方に正解はないので、積極的に感じたことを話そう心がけてほしい。また、意見を求められたときは積極的に自分の意見を述べる姿勢を持ってもらいたい。

課題に対するフィードバック

提出された課題の回答や質問に対しては次回授業時に時間をとって対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	幼児理解の理論	予習：幼児理解の注意点について自分の考えをまとめておく。 復習：授業内で扱った理論の特徴をまとめる。	
第2回	子どもをめぐる諸問題—今、子どもたちに何がおきているのか—	予習：子どもをめぐる問題について新聞等を読んでおく。 復習：昨今の子どもをめぐる問題について考えを深める。	B
第3回	子どもを取り巻く環境—家庭・就学前施設・地域・社会—	予習：子どもを取り巻く環境には何があるか考えておく。 復習：子どもが地域で守られるために必要なものをまとめる。	
第4回	幼児理解と保育相談支援のための基礎知識Ⅰ—からだ・思考の発達—	予習：心身の発達について知っていることを整理しておく。 復習：発達を見守る大人のまなざしについて考えを深める。	
第5回	幼児理解と保育相談支援のための基礎知識Ⅱ—感情・人間関係の発達—	予習：各年齢の社会性の発達について知識を整理しておく。 復習：対人葛藤の見守り方について考えを深める。	
第6回	幼児理解と保育相談支援のための基礎知識Ⅲ—配慮に向けた観察のあり方—	予習：街や電車の中の人々を30秒間観察してみる。 復習：観察から配慮につなげる工夫について整理しておく。	B
第7回	幼児理解と保育相談支援のための基礎知識Ⅳ—子ども観・保育観の振り返り—	予習：自分の子ども観・保育観について考えておく。 復習：省察するために必要なことを整理しておく。	B
第8回	幼児理解から支援に向けて—保育カンファレンスの活用—	予習：話し合いに必要なものは何か考えておく。 復習：保育カンファレンスから省察するまでをまとめておく。	B
第9回	教育相談の理論	予習：教育相談とは何かを幼稚園教育要領で調べる 復習：知識や授業の振り返りに付け加えや修正を行う	
第10回	教育相談の方法	予習：カウンセリングとは何かを文部科学省のサイトで調べる 復習：知識や授業の振り返りに付け加えや修正を行う	
第11回	教育相談とカウンセリングⅠ—傾聴とコミュニケーション—	予習：来談者中心カウンセリングについて調べる 復習：自分自身の普段の話の聞き方を振り返り、傾聴ができてきているかについて省察する	D
第12回	教育相談とカウンセリングⅡ—コミュニケーション場面のロールプレイによる実践—	予習：交流分析について調べる 復習：ロールプレイの振り返りをし、自分の課題について整理する	D
第13回	教育相談とカウンセリングⅢ—カウンセリング等専門機関との連携・調整—	予習：地域の子育て支援センターについて調べる 復習：知識や授業の振り返りに付け加えや修正を行う	
第14回	教育相談とカウンセリングⅣ—相手と円滑な人間関係を築くマインドや相互的なコミュニケーションを行うための心がけを中心に—	予習：カウンセリングマインドについて調べる 復習：自分自身のコミュニケーションスキルを振り返り、課題を整理する	C
第15回	教育相談の実践—園児と保護者を交えたテーマでグループワーク—	予習：この授業で扱った内容について、ポイントをまとめる 復習：定期試験に向けて、知識を定着させる	B
	定期試験		

教育心理学

更新日：2024/02/28 11:29:27

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E103400	授業コード	
担当教員	杉山 佳菜子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1Y211	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	保選択必修, 幼必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	発達支援センター・学生相談室勤務経験をもとに、教育・保育現場の現状に即した実践的な演習課題等を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、幼稚園教諭・保育者として子どもの発達理解に生かすことができる。					

授業概要

内容	幼児、児童及び生徒の心身の発達および学習過程について基礎的な知識を身につける。 また、各発達段階の特徴を踏まえ、主体的な学習を支える指導の基礎的な考え方を理解する。		
方法	講義が中心となるが、グループ討議を適宜実施する。また、毎回の授業の終わりにリフレクション(省察、振り返り：ミニツツペーパーの導入)を行う。このリフレクションへの対応もレポート課題と同様、最終評価に反映させるので、学習活動への積極的な参加を期待する。		

到達目標

1	幼児、児童及び青年期の心身の発達過程に関する代表的な理論を踏まえ、発達とは何か、また教育における発達理解の意義を理解する。また、各発達段階における運動・言語・認知・社会性など様々な発達過程、及び特徴を理解する。
2	幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身につけ、幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	50
到達目標②	ミニツツペーパー・小テスト・レポート課題	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜資料を配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜資料を配布する		

オープンな教育リソース

心理学ミュージアム (日本心理学) <https://psychmuseum.jp/>

オフィスアワー

火曜日の5時限 (1号館3階研究室)

学生へのメッセージ

授業の最後に毎時間簡単な振り返り課題があります、熱意をもって取り組みましょう。
また、授業内で参考資料等を紹介するので、興味を持ったトピックについては、自分なりに調べ学びを深めてください。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対して、次回授業時で時間をとって対応します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題 (予習・復習) の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	教育心理学とはどのような学問か 教育心理学の誕生と、	予習：教育心理学の内容のシラバスを読み、興味のわいた	

	教育における発達理解の意義	トピックについて概略を参考書等でまとめる。 復習：教育心理学で学ぶ内容を整理する。	
第2回	発達とは何か 発達の定義と周辺概念 発達を規定する様々な要因	予習：発達の概念について参考書等で調べる。 復習：発達を規定する様々な要因についてまとめる。	
第3回	発達段階と発達課題 —代表的な発達理論— 発達段階とは ピアジェとエリクソンの発達段階理論	予習：ピアジェの認知発達について参考書等で調べる。 復習：各発達段階の特徴と発達課題についてまとめる。小テストの勉強をする	
第4回	乳児期の発達 身体感覚を伴う多様な世界とのかかわり 運動機能・知覚機能の発達と環境との相互作用	予習：前回の講義内容のポイントを要約する。運動機能の発達の順序について参考書等で調べる。 復習：乳児期の発達の特徴をまとめる。	
第5回	幼児期の発達 表象世界の始まりと言語の発達 表象機能と言語の獲得 考える道具としての言葉へ	予習：ことばの発達の順序について参考書等で調べる。 復習：表象機能と言語の発達を支える教育・保育について考える。	A
第6回	幼児期から児童期へ —友達関係の広がり和社会性の発達— 他者の心への気づきと他者理解 思いやりの発達 道徳性の発達	予習：社会性とはなにかを参考書等で調べ、社会性がないことはどんな子どもにとってどのような困難さにつながるかの考えをまとめる。 復習：友達関係の拡大と社会性の発達をまとめる。小テストの勉強をする。	
第7回	児童期への発達 9、10歳の壁とは 具体的思考から抽象的思考へ 他律から自律へ	予習：ピアジェの認知発達について復習する。「児童期の発達のつまずき」について考えをまとめる。 復習：児童期の発達の特徴をまとめる。	
第8回	青年期の発達課題 —「自分」とは何か— アイデンティティとは何か アイデンティティの獲得と拡散	予習：心理学ミュージアム「その人らしさ」の理解の発達の資料を見て、設問に答える。 復習：青年期の発達の特徴をまとめる。	C
第9回	学習とは何か 様々な学習① 行動主義的な学習 学習の定義 古典的条件づけ オペラント条件づけ	予習：「学習」について心理学辞典等で調べる。 復習：「古典的条件づけ」と「オペラント条件づけ」、「観察学習」の相違点をまとめる。	
第10回	様々な学習② 認知心理学的な学習 知識と知能 知識獲得としての学習 様々な学習過程	予習：知識と知能の違いについて、自分なりに整理する。 復習：学習のしくみ・学習理論について要点をまとめる。小テストの勉強をする。	
第11回	学習を支える記憶 記憶の種類 短期記憶と長期記憶	予習：「記憶」について心理学辞典で調べ、なぜ「予習」と「復習」は知識の定着に役立つのかを考える。 復習：「記憶」の種類とメカニズム等についてまとめる。	A
第12回	動機づけとは何か 外発的動機づけと内発的動機づけ 学習性無力感（グループ討議を含む）	予習：「動機づけ」について心理学辞典等で調べる。 復習：「外発的動機づけ」と「内発的動機づけ」の相違点を中心にまとめ、自分なりの動機づけの方法を考える。	B
第13回	幼児期から児童期、青年期の各時期での学習指導の形態 発見学習 受容学習 協同学習 グループ学習と個別学習	予習：「教育心理学的学習指導形態」について参考書等で調べる。第10回の内容を復習する。 復習：各学習指導形態の特徴と教育・保育現場で活用できると考えられる場面についてまとめてみる。	
第14回	集団づくり 学級集団の理解 学級集団の特徴と機能と発達過程 各発達段階での学級集団の特徴（グループ討議を含む）	予習：心理学ミュージアム「みんなですると手をぬく」の理解の発達の資料を見て、設問に答える。 復習：問題のある学級集団の改善策についてまとめる。小テストの勉強をする。	B
第15回	総括	復習：授業全般を通じて、教育心理学が教育・保育現場や日常生活で活用できると思われる内容についてまとめる。	
	定期試験		

教育方法

更新日：2024/01/31 09:26:42

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E103500	授業コード	
担当教員	高瀬 慎二						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5Y223	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	保選択必修, 幼必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	子どもたちに求められる資質・能力とその背景をおさえるとともに、子どもの内面把握や指導方法論などの幼児を指導するにあたっての基本をおさえる。幼児教育における情報機器や教材の活用についてもとりあげる。幼稚園・保育所における実践記録を読んだり、実践場面のビデオをみたりする中で、幼児の発達と具体的な場面での指導方法・技術、教材の活用、評価方法について考える。
方法	本授業では、ICT機器（パソコン、タブレット等）やDVD等を使用する。また、グループワークやロールプレイを通して、幼児教育における様々な教育方法の実践への展開を目指す。Microsoft FormsやActive Portal を使い、授業内容の振り返りを実施する。

到達目標

1	幼稚園・保育所・認定こども園における教育実践にあたって必要な教育の方法及び技術に関する基礎的な理論を理解する
2	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、実際の実践場面での教育方法・技術、情報機器及び教材の活用に関する知識・技能を理解し、身に付ける。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	毎回実施する授業内課題	40
到達目標②	最終回に実施するまとめ課題	60
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	幼稚園教育要領解説	フレーベル館	文部科学省
2	幼保連携認定こども園教育・保育要領解説	フレーベル館	内閣府
3	保育所保育指針解説	フレーベル館	厚生労働省

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業の前後に受け付けます。

学生へのメッセージ

保育者を目指す上で、重要な科目の一つです。主体的な受講態度を求めます。グループワークなどを通して他者と協働する力も高めていきましょう。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対して、次回授業で時間をとって対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	教育方法の原理：教えることの「技術」と「思想」	予習：幼児教育に関する自らの経験を整理しておく	A

		復習：講義の内容をふりかえる	
第2回	保育における目標-内容-方法・技術の関連	予習：自らの「教育観」を整理しておく 復習：保育における目標についてまとめる	A
第3回	子どもたちに育む資質・能力と教育方法	予習：自らの「子ども観」を整理しておく 復習：子どもたちに育む資質・能力と教育方法をまとめる	B
第4回	保育における教材・教具と保育環境（物的・人的環境）	予習：他の授業・実習での学びと経験を振り返っておく 復習：保育における教材・教具に関してまとめる	B
第5回	保育における評価の考え方	予習：他の授業・実習での学びと経験を振り返っておく 復習：保育における評価に関してまとめる	A,B
第6回	子ども理解と言葉かけ・働きかけの方法	予習：子ども理解と言葉かけ・働きかけに関して実習経験を整理する 復習：子ども理解と言葉かけ・働きかけに関してまとめる	B
第7回	「気になる」子どもをめぐる教育方法・技術	予習：「気になる子」に関して実習経験を整理する 復習：「気になる子」に関してまとめる	A
第8回	個と集団の関係とその指導	予習：遊びに関して、他の授業・実習での学びと経験を整理する 復習：個と集団に関してまとめる	B
第9回	保育の展開と指導案の作成	予習：指導案に関する自らの経験を整理しておく 復習：講義の内容をふりかえる	A,B
第10回	遊びに関する教材と教育方法及び評価	予習：遊びに関して、他の授業・実習での学びと経験を整理しておく 復習：講義の内容をふりかえる	A,B
第11回	様々な保育の形態とその指導・援助技術	予習：保育の指導法に関する他の授業・実習での学びを整理しておく 復習：講義の内容をふりかえる	A
第12回	情報機器や視聴覚教材の活用の技術 PC使用	予習：情報機器に関する自らの経験を整理しておく 復習：講義の内容をふりかえる	A,B
第13回	情報モラルを育み拡張するICT（iPadや電子黒板）の活用 PC使用	予習：情報モラルに関する自らの経験を整理しておく 復習：情報機器・情報モラルに関する経験を振り返る	A,B
第14回	諸外国の教育・保育方法	予習：諸外国の教育・保育に関する情報を集める 復習：講義の内容をふりかえる	A
第15回	プロジェクト活動に見る教育方法の理論と実践 授業のまとめ	予習：グループ活動に関する評価をする 復習：授業全体を振り返りまとめる	A
	実施せず		

音楽

更新日：2024/02/29 14:20:13

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	3E103600	授業コード	
担当教員	丹羽 裕紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	6Y215	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	保選択必修	授業時間+自習時間	60+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	子どものピアノ指導,保育士養成校等の学校現場で勤務していた経験をもとに,保育現場での弾き歌いを想定した個人ピアノレッスンの授業を行う。この授業における学びは,卒業後,保育現場での音楽活動において生かすことができる。					

授業概要

内容	読譜や音楽表現に必要な楽典を学び、音感やリズム感を養いながらピアノ演奏や弾き歌いの基礎を行う。保育の中で使われる曲や歌を階名唱と歌詞唱を行うことで、ピアノ曲や弾き歌いの技術を向上させる。
方法	ピアノ演奏のための個人レッスンが中心。使用教材のピアノ曲や弾き歌い曲を弾くための楽典の基本と読譜プリントを使用し、自学自習にも活用できるように行う。弾き歌い曲を用いてペアやグループで行うことも取り入れてレパートリーを広げる。

到達目標

1	保育におけるピアノ演奏の基礎的な技術を身に付けることができる。
2	保育における弾き歌いの基礎的な知識を身に付けることができる。
3	ピアノ演奏や弾き歌いのレパートリーを、自学自習の中で広げていくことができる。
4	保育におけるピアノ演奏や弾き歌いを、実際の保育と結び付けて捉えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	演奏力・表現力	10
到達目標②	演奏力・歌唱表現力	10
到達目標③	自学自習の進度	60
到達目標④	現場を想定した発表・応用力	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	バイエルピアノ教則本	音楽之友社	堀内久美雄
2	ピアノ伴奏こどものうた136	成美堂出版	ケロボンズ監修

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	ピアノ実技と楽典	音楽之友社	深見友紀子 小林田鶴子 坂本暁美

オープンな教育リソース

オフィスアワー

火曜日12:30-13:30 研究室1-5
yk-niwa@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

初心者でもピアノが弾ける方法で指導し、ピアノ経験者にはより表現豊かな演奏技術力の指導等を行いレパートリーを増やします。そして保育現場を想定し、音楽を楽しみながら活用できる演奏・弾き歌いを目指します。

課題に対するフィードバック

ピアノ上達には自学自習が必須です。しかし練習しても上手く弾けない時は必ず原因があることから個々にあった練習方法を指導致します。自学自習できた曲、練習方法の疑問や質問、レッスンまでに合格したい場合には、動画レッスンを活用しましょう。

授業計画

授業回	学修計画

	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション、学習の進め方、楽典（音符の名前、指番号、音名、階名、音の高さ）		
第2回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い基礎、楽典（音符の種類）	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：学習の計画を立てる。 合格しなかったピアノ課題曲（バイエル）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。 楽典（音符の種類）について理解しておく	
第3回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い基礎、楽典（拍子）	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。 楽典（拍子）について理解しておく	
第4回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い基礎、楽典（強弱記号）	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。 楽典（強弱記号）について理解しておく	
第5回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い基礎、楽典（奏法に関する記号、加線）	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。 楽典（奏法に関する記号、加線）について理解しておく	
第6回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い基礎、楽典（反復記号）	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。 楽典（反復記号）について理解しておく	
第7回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い基礎、楽典（変化記号、調性）	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。 楽典（変化記号、調性）について理解しておく	
第8回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い基礎、楽典（速度記号）	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。 楽典（速度記号）について理解しておく	
第9回	ミニ発表会	予習：ミニ発表会を想定し、練習しておく 復習：ミニ発表会でどのような箇所が良くできたか、できなかったかふりかえる	B,D
第10回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い基礎、楽典（発想記号）	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。 楽典（発想記号）について理解しておく	
第11回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い基礎、楽典（曲の形式）、	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。 楽典（曲の形式）について理解しておく	
第12回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い基礎、楽典（コードネーム）	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。 楽典（コードネーム）について理解しておく	
第13回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い基礎、楽典のふりかえり	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 今までの楽典の復習を行っておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。 楽典の筆記テストでできなかった所は復習を行っておく	
第14回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い基礎	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。	
第15回	発表会、弾き歌い基礎、夏休みの課題	予習：発表を想定し、練習しておく 復習：発表でどのような箇所が良くできたか、できなかった	B,D

		たかふりかえる 夏休み中に①バイエル80番台以上まで練習し弾けるようにする②弾き歌い基礎の曲は、弾き歌いで演奏できるようにしておくことが望ましい。夏休み中も動画レッスンを活用することが望ましい。	
第16回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。	
第17回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。	
第18回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。	
第19回	ミニ発表会	予習：ミニ発表会を想定し、練習しておく 復習：ミニ発表会でどのような箇所が良くできたか、できなかったかふりかえる	B,D
第20回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。	
第21回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。	
第22回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。	
第23回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。	
第24回	ミニ発表会	予習：ミニ発表会を想定し、練習しておく 復習：ミニ発表会でどのような箇所が良くできたか、できなかったかふりかえる	B,D
第25回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。	
第26回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。	
第27回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。	
第28回	発表会、ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い	予習：ピアノ課題（バイエル、弾き歌い）を練習しておく 復習：合格しなかったピアノ課題曲（バイエル、弾き歌い）は練習方法を見直し復習する。レッスンまでに合格したい場合、動画レッスンを活用する。	B,D
第29回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い	予習：実際の保育現場を想定して弾き歌い等の演奏ができているか確認する 復習：実際の保育現場を想定して弾き歌い等の演奏ができているかふりかえり練習する	
第30回	ピアノ演奏法（バイエル）、弾き歌い、総復習		
	実施せず		

子どもの質問に答える理科

更新日：2024/02/28 15:45:50

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E103800	授業コード	
担当教員	上井 靖						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3Y223	授業形態	演習	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	保選択必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	空はなぜ青いのか、ホテルはなぜ光るのか、地震はなぜ起こるのかなど子どもが興味・関心をもつための好奇心に着目し、好奇心をさらに高めるための理論や方法を学び、幼児教育の現場で活用できる力を高める。						
方法	野外での体験、教室での実験や演習などのアクティブラーニング型授業を実施する。土曜日（終日）1回のみ名古屋市科学館で見学調査を実施する。						

到達目標

1	知的好奇心を伸ばすために重要なことを説明することができる。						
2	自ら問いを立て、解決する計画を作成、問いを解決することができる。						
3	自然科学に関する身近な疑問に対して、子どもに寄り添って一緒に考えることができる。						

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	毎回のふりかえりシート	50%
到達目標②	科学館レポート	25%
到達目標③	全終了後のふりかえりシート	25%
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	好奇心をそだて考えるの好きになる科学のふしぎな話365	ナツメ社	日本科学未来館監修
2	でんじろう先生のカッコいい科学おもちゃ	主婦と生活社	米村でんじろう（監修）

オープンな教育リソース

オフィスアワー

必要に応じて時間調整しますので事前にE-mailで、uwai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

座学ではなく、参加型の授業です。*印の授業は、3回分をまとめて（終日）に名古屋市科学館にて実施しますので必ず参加すること。日程等の詳細は授業で知らせます。

課題に対するフィードバック

ふりかえりシートやレポートにフィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	Feel° Walkにより、自然事象への好奇心を表出	予習：Feel度 復習：左記の内容を振り返る	B,D

第2回	自然事象で、不思議だと感じている現象は？	予習：普段から、自然を観察 復習：左記の内容を振り返る	B,C
第3回	知的好奇心とは？	予習：動物の生態について調べる 復習：左記の内容を振り返る	B,C
第4回	幼児と知的好奇心	予習：植物の生態について調べる 復習：左記の内容を振り返る	B,C
第5回	自然体験の必要性	予習：人体の構造と機能について調べる 復習：左記の内容を振り返る	B,C
第6回	図書館にて図鑑探究	予習：弾力について調べる 復習：左記の内容を振り返る	B,C
第7回	Feel° Walk 2回目	予習：音の高低と振動について調べる 復習：左記の内容を振り返る	B,D
第8回	「星空と子ども」	予習：物の運動について調べる 復習：左記の内容を振り返る	B,C
第9回	名古屋市科学館での探究学習計画書を作成	予習：科学館HPで科学館を探索 復習：左記の内容を振り返る	B,C
第10回	名古屋市科学館での探究活動①	予習：科学館HPで科学館を探索 復習：左記の内容を振り返る	D
第11回	名古屋市科学館での探究活動②	予習：科学館HPで科学館を探索 復習左記の内容を振り返る	D
第12回	名古屋市科学館での探究活動③	予習：科学館HPで科学館を探索 復習左記の内容を振り返る	D
第13回	名古屋市科学館での探究学習のレポート作成	予習：科学館HPで科学館を探索 復習：左記の内容を振り返る	
第14回	科学館での問いに対して、どのように解決したのかの発表	予習：レポート作成 復習：左記の内容を振り返る	B
第15回	「総まとめ」授業全体の振り返り	予習：今までのふりかえりシートやレポートを整理 復習：左記の内容を振り返る	B,C
試験	実施せず		

保育内容指導法（健康）

更新日：2024/02/21 18:06:56

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E104100	授業コード	
担当教員	榊原尉津子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6Y212	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	保幼必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	健康な心と体を育むための幼稚園教育要領等の基本を押さえ、幼児を取り巻く環境との関りを理解し、幼児の生活習慣や生活指導の環境構成や援助法を修得する。身の回りの危険に対処できる安全教育、安全管理について理解し、その保育教材や保育計画を作成できるスキルを修得する。幼児の健康の指標となる運動遊びの教材研究、保育計画の立案、模擬保育を行い自己の学習程度をフィードバックし保育者としての力量を形成する。情報機器の特性や使用方法を理解し、教材作成できる力を養うことを通して、具体的な指導場面を想定し保育を構想する力を身に付ける。						
方法	学生の主体的な学修を推進するために情報機器を活用し指導法や教材づくりに取り組み問題解決型の授業行う。						

到達目標

1	幼児の心情、認識、思考及び動きを視野に入れた保育構想の大切さを理解する。
2	領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し保育構想に活用することができる。
3	指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した保育計画の立案や模擬保育を実践できる。
4	模擬保育を振り返り、保育実践の改善に繋げることができる。
5	領域「健康」の特性に応じた現代課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業中の発表や態度	30
到達目標②	課題レポート等	20
到達目標③	課題レポート等	20
到達目標④	課題レポート等	10
到達目標⑤	課題レポート等	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて資料を配布いたします。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	幼稚園教育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	文部科学省
2	保育所保育指針解説（平成30年3月）	フレーベル館	厚生労働省
3	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	内閣府

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業前後

学生へのメッセージ

乳幼児期の健康に関する知識を基礎として、実践を視野に入れて進めていきます。前期の内容をしっかりとふまえ、意欲的に取り組んでください。

課題に対するフィードバック

授業の理解状況はレポートや発表などによって確認し、授業においてフィードバック情報を提供する。

授業計画

授業回	学修計画

	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	領域「健康」におけるねらいや内容、内容の取扱い、授業の進め方について理解する	予習：前期の授業内容を再確認しておく。 復習：授業で扱った事項を再確認して定着させる。	
第2回	基本的な生活習慣（食事、排泄、着脱衣、生活習慣）の環境構成と援助 －幼児の生活習慣の実態を把握し、最適な環境構成を考え、援助方法についてブレインストーミングを行う－	予習：基本的な生活習慣の5項目とその内容について再確認する。 復習：実践における指導・援助の方法について考える。	B
第3回	交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助 －交通事故や災害の実態を把握する－	予習：安全管理とハザードについて再確認する。 復習：保育現場における安全管理と安全教育について必要とされる事柄を考える。	
第4回	健康な心と体を育む保育計画の立案Ⅰ －主として「基本的な生活習慣や安全教育」をテーマとし、映像教材等を活用した指導計画を立案する－	予習：安全教育について再確認する。 復習：事例の再確認から安全教育の具体的な内容を考えて指導計画にする。	
第5回	健康な心と体を育む保育の教材研究・指導案作成Ⅰ －園や家庭の事故情報事例を収集し、その事故防止対策を検討し、対応策を踏まえて教材研究を行う－	予習：危険につながる幼児期の特性について再確認する。 復習：幼児期にふさわしい内容・形態を工夫して教材を構想・制作する。	
第6回	健康な心と体を育む保育の実践Ⅰ －交通安全教育指導等の模擬保育を実践する。交通ルールなどについて確認を行い、子ども達にどのように危険と安全を伝えていくのか対応策を考え、模擬保育を行う－	予習：幼児に対する交通安全のための指導について調べておく。 復習：自分の実践を振り返り、改善すべき点を確認する。	D
第7回	健康な心と体を育む保育の評価と改善Ⅰ －前回の模擬保育の相互評価と振り返りを行う。自身の保育計画を振り返り、改善につなげる－	予習：メンバーの実践を振り返り、よかった事柄をあげておく。 復習：話し合いの内容を振り返る。	
第8回	遊びや生活の中の多様な動きの経験を促す環境構成と援助 －多様な動きを引き出すための環境や援助方法を事例映像等を活用して考え、実践し、振り返る－	予習：現代の子どもの遊びの現状を調べておく。 復習：伝承遊びの知識とスキルを定着させる。	
第9回	領域「健康」における、障害児、肥満児等、幼児の心身の発達を踏まえた環境構成と援助 －映像や画像資料の視聴、事例検討などを通して課題要因を理解し、どのような援助が望ましいかグループごとに話し合い、まとめる－	予習：現代の子どもの健康課題について調べておく。 復習：話し合いの内容をふまえ、実践におけるアプローチを考える。	B
第10回	健康な心と体を育む保育計画の立案Ⅱ －主として「幼児期の運動遊び」をテーマとし、映像教材等を活用した指導計画を立案する－	予習：さまざまな集団的な運動遊びについて知識を得ておく。 復習：選んだ遊びについて教材研究を行う。	
第11回	健康な心と体を育む保育の教材研究・指導案作成Ⅱ －園や家庭での運動遊び事例を収集し、その事例を検討し、現代的課題を踏まえて教材研究を行う－	予習：選んだ遊びについて教材研究を行う。 復習：共有・話し合いをふまえて自分の指導計画に反映させる。	
第12回	健康な心と体を育む保育の実践Ⅱ －運動遊びの模擬保育を実践する。安全性について確認を行い、子どもの意欲や関心が高まるための工夫や援助の仕方を考え、模擬保育を行う－	予習：教材研究と指導計画の立案を完了させる。 復習：自他の取り組みをふまえ、自分の指導計画に反映させる。	D
第13回	健康な心と体を育む保育の評価と改善Ⅱ －前回の模擬保育の相互評価と振り返りを行う。自身の保育計画を振り返り、改善につなげる－	予習：PDCAサイクルについて理解し、自分の実践を振り返る。 復習：メンバーからのアドバイスを指導計画に反映させる。	
第14回	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う －小学校の教科とつながりを踏まえ、どう情報を引き出し、どのような方法で幼児に理解させるかグループディスカッションをする－	予習：幼小連携、幼稚園教育要領（第1章）を再確認しておく。 復習：話し合い時のノートをもとに、ふさわしい方法をまとめる。	B
第15回	健康をめぐる現代的課題と保育実践の動向の理解 －乳幼児の健康にかかわる現代的な課題についてKJ法を用いてまとめる－	予習：子どもに関する諸問題について、記事等を調べておく。 復習：全回の授業を振り返り、内容を再度確認する。	
	実施せず		

保育内容指導法（表現Ⅰ）

更新日：2024/02/29 14:17:08

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E104210	授業コード	
担当教員	丹羽 裕紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6Y212	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	保幼必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	子どものピアノ・リトミック指導経験をもとに音楽表現の授業を行い、保育における音楽表現の指導法を学ぶ。この授業における学びは、卒業後、保育現場での音楽活動において生かすことができる。					

授業概要

内容	年齢ごとの発達の違いを踏まえながら、発達に応じた身体・音楽表現活動の内容を理解し、資料映像等を通して、乳幼児の発達や学びの過程、身体・音楽表現活動の実践から動向を熟知する。 その上で、指導方法を立案させ、実演することにより、保育者としての感性を高める。 乳幼児の感性及び創造性をより豊かにする環境構成を学ぶとともに、情報機器及び教材の活用を通して具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を習得する。
方法	子どもの発達について教授し、ピアノを伴奏する技術や器楽アンサンブルを指導する。 グループワーク、プレゼンテーションも行う。

到達目標

1	幼稚園教育要領の領域「表現（身体表現、音楽表現）」ねらいと内容を理解することができる
2	身体表現、音楽表現を実践することで、保育者としての表現力や感性を身につけることができる
3	資料映像を通して、乳幼児の発達や学びの過程、身体・音楽表現活動の実践動向を知ることができる
4	領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定し、保育構想の向上に取り組むことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート・指導案	20
到達目標②	授業への取組み（積極性、主体性）	30
到達目標③	模擬保育	20
到達目標④	発表・作品	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	ピアノ伴奏こどものうた131	成美堂出版	ケロボンズ監修
2	保育者をめざす楽しい音楽表現	圭文社	岩佐明子他

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	幼稚園教育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	文部科学省
2	保育所保育指針（平成30年3月）	フレーベル館	厚生労働省
3	幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成30年3月）	フレーベル館	内閣府

オープンな教育リソース

幼稚園教育要領（平成29年3月告示：文部科学省） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019.htm保育所保育指針（平成29年3月告示：厚生労働省） https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010450&dataType=0&pageNo=1幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示：内閣府） https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010420

オフィスアワー

火曜日12:30-13:30 研究室1-5
yk-niwa@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

保育における音楽の役割を理解し、実践に活用できるさまざまな音楽活動を学ぶ

課題に対するフィードバック

提出された作品・レポートの内容についてコメントを行いフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	領域「表現」身体表現と音楽表現のねらいとその内容を理解する		
第2回	乳幼児期の年齢に考慮した身体・音楽活動についてⅠ－保育実践のDVDや資料映像を活用しながら、乳幼児の興味・関心、創造性を高める力を養い、保育構想に繋げる－	予習： 幼稚園教育要領「表現」の領域を読んでおく。 どのような楽器が保育現場で使われているか調べておく。 復習： DVDを見た感想をまとめておく。	
第3回	乳幼児期の年齢に考慮した身体・音楽活動についてⅡ－活動場面を想定しながら表現教材の特性を取り入れた指導法を構想する－	予習： 前期にとりあげた3曲の練習 復習： コードについて復習	
第4回	乳幼児期の年齢に考慮した身体・音楽活動についてⅢ－前回テーマについてグループに分かれブレインストーミングする－	予習： 前期にとりあげた3曲の練習 復習： コードについて復習	B,D
第5回	乳幼児期の年齢に考慮した身体・音楽活動についてⅣ－領域「表現」と他領域との関連、小学校教科へのつながりを柱にICTを活用し具体的に構想する－	予習： 前期にとりあげた3曲の練習 復習： コードについて復習	B,D
第6回	身体表現Ⅰ－自分自身の身体を思い通りに動かすには－	予習： 前期で行ったストレッチを確認しておく。 復習： 基本のアイソレーションを復習しておく。	B,D
第7回	身体表現Ⅱ－ストレッチ等による身体コントロール－	予習： 前期で行ったストレッチを確認しておく。 復習： 体の各部分の動きを確認しておく。	B,D
第8回	身体表現Ⅲ－与えた課題に合わせた振り付けの考案と実演、評価	予習： 簡単なステップを考えておく。 復習： 実演した作品の再検討をしておく。	B,D
第9回	音楽表現Ⅰ－行事における音楽の活用方法 乳幼児の感性がより豊かになるようICTを活用した音楽などを取り入れた指導案の作成とその活用－	予習： 行事の歌の練習 復習： 行事の歌の復習	
第10回	音楽表現Ⅱ－教材研究 乳幼児に魅力ある手作り楽器を考える。安全性を考慮しながら実際に作る	予習： 前期に作った楽器の音色を工夫する。 復習： 楽器にふさわしい曲を考える。	B,D
第11回	音楽表現Ⅲ－手作り楽器の奏法と指導法－	予習： 配布された楽譜をみておく。 復習： 楽譜を完成させる。	B,D
第12回	音楽表現Ⅳ－簡単な楽器を使った音楽あそび－	予習： 配布された楽譜をみておく。 復習： グループ発表の内容をまとめておく。	B,D
第13回	身体表現・音楽表現Ⅰ－これまでに学んだふたつの表現を取り入れた指導方法による指導案を作成する	予習： 指導案作成に関する資料をみておく。 復習： できあがった指導案を読み直す。	
第14回	身体表現・音楽表現Ⅱ－グループに分かれ、模擬保育を展開する	予習： 模擬保育についての資料をみておく。 振り返りを行う 復習： グループ発表の内容をまとめておく。	B,D
第15回	身体表現・音楽表現Ⅲ－相互評価と振り返り、保育の改善、保育実践の動向理解		
	実施せず		

保育内容指導法（表現Ⅱ）

更新日：2024/02/21 14:03:00

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E104500	授業コード	
担当教員	鈴木 安由美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6Y212	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	保幼必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	公立小学校教諭の実務経験をもとに、幼児教育から小学校教育への円滑な接続ができるような指導の仕方、教材研究を学ぶ授業を行う。					

授業概要

内容	子どもたちが感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることができるために、保育者として必要な造形表現力を高めるとともに、子どもたちにとって必要な造形教育に関する知識や指導できる能力の育成を目指す。
方法	教材研究に取り組みながら、指導案作成、模擬授業、振り返りを通して具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけ、保育者として必要な視点・能力という実践的な能力を養うための学習を行う。グループワークで意見交換や鑑賞活動をし、自分と他者との表現方法の違いやよさを発見する。

到達目標

1	子どもたちにとって必要な造形教育の内容を考えたり、計画立てたりできるような造形教育に関する指導能力を培うことができる
2	子どもたちの造形表現活動の援助に必要な力を培い、基礎的知識や技能の習得と、保育者自身の造形表現力を高めることができる
3	保育者として必要な視点や能力について繰り返し学ぶとともに、実践的な能力を養うことができる
4	保育実践に活用できる情報機器の活用法や教材の活用法を身につけることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	作品・小レポート	30
到達目標②	作品・小レポート	30
到達目標③	授業態度・小レポート	20
到達目標④	授業態度・小レポート	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材」	萌文書林	樋口一成編集

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜2時限（1号館2階研究室）

a-suzuki@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

ものづくりのしやすい服装、清潔な爪先で受講する。教科書・筆記用具・道具箱を持参する。

道具箱は自分で管理し、なくなった消耗品は自分で用意し補充すること。

課題に対するフィードバック

制作した課題は、採点後に返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	造形表現のねらい、内容、造形表現の展開	予習：テキストP.10-13を読む。 復習：授業の内容を整理する。	A
第2回	「表現」（造形）の目標・「表現」（造形）に関する乳幼児の発達の姿（錯画期・象徴期・前図式期・図式期）	予習：テキストP.218-221を読む。 復習：授業の内容を整理する。	A,B
第3回	指導上の留意点（指導の基本姿勢・指導の方法）現場で撮影した映像を活用し、気づいたこどもの姿をまとめる	予習：テキストP.20-23を読む。 復習：授業の内容を整理する。	A,B
第4回	造形表現活動Ⅰ（事例検討）－「並べる・積み上げる・組み合わせる」	予習：テキストP.100-101を読む。 復習：授業の内容を整理する。	A,B
第5回	造形表現活動Ⅱ（事例検討）－「泥や砂を使った造形活動」	予習：テキストP.102-103を読む。 復習：授業の内容を整理する。	A,B
第6回	造形表現活動Ⅲ（事例検討）－「素材に手足・身体で触れる」	予習：テキストP.104-105を読む。 復習：授業の内容を整理する。	A,B
第7回	造形表現活動Ⅳ（事例検討）－「描いてみる－手で描く・道具を使って描く」	予習：テキストP.108-109を読む。 復習：授業の内容を整理する。	A,B
第8回	造形表現活動Ⅴ（教材研究）－「見て描く」乳幼児の興味・関心を高める映像教材と実物教材の効果的な活用方法	予習：予習課題に取り組む。 復習：授業の内容を整理する。	A
第9回	造形表現活動Ⅵ（教材研究）－「想像の世界を描く」乳幼児の興味・関心を高める映像教材と実物教材の効果的な活用方法	予習：テキストP.110-111を読む。 復習：授業の内容を整理する。	A
第10回	造形表現活動Ⅶ（教材研究）－「想像してつくる」乳幼児の体験に関連した映像教材と実物教材の効果的な活用方法	予習：予習課題に取り組む。 復習：授業の内容を整理する。	A
第11回	造形表現活動Ⅷ（教材研究）－「切り絵を使った造形活動」乳幼児の興味・関心を高める映像教材と実物教材の効果的な活用方法	予習：テキストP.132-133を読む。 復習：授業の内容を整理する。	A
第12回	これまでに学んだことを踏まえて指導案を作成「造形表現」の特性に応じた映像教材を効果的に活用する授業展開を中心にして	予習：テキストP.42-45を読む。 復習：授業の内容を整理する。	A,B
第13回	模擬保育の実践－「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」をキーワードにして－	予習：テキストP.46-47を読む。 復習：授業の内容を整理する。	A,B
第14回	評価と振り返り、保育構想の改善、保育実践の動向理解－ポートフォリオの作成－	予習：これまで制作した作品を整理しておく。 復習：ポートフォリオを完成させる。	A
第15回	幼児期の表現活動と小学校教科とのつながり－学びの連続性を踏まえて－	予習：テキストP.248-249を読む。 復習：授業の内容を整理する。	A
定期試験	実施せず		

保育内容指導法（言葉）

更新日：2024/02/26 08:20:05

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E104700	授業コード	
担当教員	杉山 実加						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6Y212	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	保幼必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	(1)乳幼児の発達とことばの発達とのかかわりに関する基礎的理解、(2)乳幼児期における言語発達の概要理解、(3)ことばの指導の原理とその方法、(4)言語発達をうながす保育を構想する方法を身に付ける。						
方法	・事例検討を通して保育者の立場で子どもへの援助を考える。 ・指導案作成や模擬保育など、ロールプレイを通して具体的な指導法について理解と技術を身につける。 ・Microsoft Forms を使い、授業内リフレクションを実施する。 ・情報機器及び教材を活用した指導ができるよう、指導案作成・教材作成ではパソコン等を活用する						

到達目標

1	子どもの発達に則した領域言葉の保育内容が立案できる。
2	子どもの興味関心と発達に則した児童文化財を選択し保育実践ができる。
3	事例に示された子どもの姿を根拠に援助について自分なりに考え、説明することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	指導案提出	20
到達目標②	授業内発表、授業態度	20
到達目標③	授業内リフレクション、小テスト	60
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	保育所保育指針解説	フレーベル館	厚生労働省
2	幼稚園教育要領解説	フレーベル館	文部科学省

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業後に受け付けます。

学生へのメッセージ

指導案作成や事例検討では、自分なりに考えることが欠かせません。また、他の学生との学びあいもこの授業では必須となります。協働的な学びあいと積極的な学習を求めます。

課題に対するフィードバック

授業内リフレクションは授業内でフィードバックを行います。
提出物は個別にコメントを付して返却します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	領域「言語」のねらいと内容、内容の取扱い	予習：前期履修の「言葉」の授業内容の復習 復習：授業内容の復習・資料整理	
第2回	事例を通して学ぶ1：言葉で対話する以前の保育者の援助	予習：前期の学習を振り返り、保育者としての姿勢や倫理について確認しておく 復習：授業内容の復習・資料整理	B
第3回	事例を通して学ぶ2：遊びの中での子ども同士の言葉	予習：前期履修の「言葉」の授業内容の復習 復習：授業内容の復習・資料整理	B,C
第4回	事例を通して学ぶ3：気持ちを切り替えるための保育者の言葉	予習：前期履修の「言葉」の授業内容の復習 復習：授業内容の復習・資料整理	B,C
第5回	絵本と遊び：遊びの展開を検討する	予習：絵本と遊びがどのように結びつくか、事例などを探しておく 復習：授業内容の復習・資料整理	C
第6回	絵本と遊び：遊びの中の子どもの姿を考える	予習：資料をもとに、子どもの姿を具的に想像しておく 復習：授業内容の復習・資料整理	B,C
第7回	言葉を育てる指導における情報機器の活用	予習：情報機器を活用した保育について調べておく 復習：授業内容の復習・資料整理	
第8回	実践の計画と実施：発言・発問の工夫、教材のアレンジ	予習：言葉に関する遊びや教材について調べておく 復習：授業内容の復習・資料整理	B,C
第9回	実践の計画と実施：実践を計画する	予習：模擬保育の内容を考え、必要な教材を準備する 復習：指導案の作成、発表準備	D
第10回	実践の計画と実施：計画を実践する（前半発表者）	予習：発表準備 復習：模擬保育での学びの振り返り、自分の実践に生かす	D
第11回	実践の計画と実施：計画を実践する（後半発表者）	予習：発表準備 復習：模擬保育での学びの振り返り、自分の実践に生かす	D
第12回	実践の計画と実施：実践を振り返り改善する	予習：作成した指導案と実践内容を振り返る 復習：授業内容の復習・資料整理	B,D
第13回	言葉の発達が気になる子どもへの援助・親子のコミュニケーション	予習：前期に学習した言葉の発達段階についての復習 復習：授業内容の復習・資料整理	B,C
第14回	外国にルーツのある親子の言葉と援助	予習：外国にルーツのある子どもについての情報を整理しておく 復習：授業内容の復習・資料整理	B,C
第15回	授業での学びのまとめ 小テスト	予習：これまでの授業内容の総復習、資料の確認 復習：小テストを踏まえた復習	
	実施せず。		

保育内容指導法（環境）

更新日：2024/03/04 14:32:56

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E104800	授業コード	
担当教員	金森 由華						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6Y223	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	保育必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	私立幼稚園園長4年、私立幼稚園学級担任6年を経験した教員が、これまでの保育現場での保育実践や指導経験を取り入れながら、保育における領域「環境」について授業を行う。卒業後、保育者として幼稚園・保育所等での保育に応用できる。					

授業概要

内容	<ul style="list-style-type: none">・幼児期の特性を踏まえた幼稚園教育の内容的・方法的特質を理解する。・幼稚園教育要領等の領域「環境」のねらいと内容を理解する。・乳幼児期との環境とのかかわりと、それに伴う諸側面の発達のありかたを理解する。・乳幼児期の好奇心・探究心や体験との関連を踏まえながら、情報機器及び教材の効果的な活用方法を身につける。・発達に即した保育の構想・指導方法を身につける。
方法	プレゼンテーション、発表を行う。 実際の保育教材を活用する。

到達目標

1	幼稚園教育要領「環境」について、乳幼児期の環境とのかかわりとの実際とそれに伴う発達の諸側面の発達の特質を踏まえ、領域「環境」の具体的な教師の指導場面を想定し、現場の資料映像などから乳幼児の発達の特性や指導場面を具体的に理解する。
2	情報機器及び教材の作成や活用を通して、保育を構想する方法や指導方法を身に付ける。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	80
到達目標②	授業内課題	20
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	環境（1年時履修）に使用したもの		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1			

オープンな教育リソース

オフィスアワー

kanamori@sgk.ac.jp（いつでもよいが、返信に2日かかることがある）

学生へのメッセージ

気軽に質問して下さい。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対して、次回授業で時間をとって口頭で対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	領域「環境」のねらい、内容、内容の取り扱い	予習：幼稚園教育要領を読んでおく。 復習：領域「環境」について確認しておく	
第2回	子どもの発達と自然認識と社会認識－指導上の留意点－	予習：現代の子どもを取り巻く環境について整理しておく。 復習：授業内容について復習しておく。	C
第3回	領域「環境」の歴史の変遷－映像教材を活用し理解を深める－	予習：保育の歴史について復習しておく。 復習：授業内容について復習しておく。	
第4回	乳幼児期の発達における環境との関わり－指導上の留意点－	予習：乳幼児の発達について復習しておく。 復習：授業内容について復習しておく。	C
第5回	自然に親しみ、植物や生き物に触れるための指導－乳幼児の興味・関心を高める実物教材の活用方法－	予習：身近な動植物について調べておく。 復習：授業内容について復習しておく。	D
第6回	季節により自然や生活に変化のあることに気付くための指導－乳幼児の興味・関心を高める実物教材の活用方法－	予習：季節に応じた教材について整理しておく。 復習：授業内容について復習しておく。	A
第7回	さまざまな物や道具にかかわって遊ぶための指導－乳幼児の興味・関心を高める実物教材の活用方法－	予習：物や道具にかかわって遊ぶことについて整理しておく。 復習：授業内容について復習しておく。	A
第8回	さまざまな物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つための指導－乳幼児の体験を考慮した実物教材の活用方法－	予習：物の性質や仕組みへの興味について整理しておく。 復習：授業内容について復習しておく。	A
第9回	日常生活の中で数量や図形などに関心をもつための指導－乳幼児の体験を考慮した教材の活用方法－	予習：数量や図形などへの関心について整理しておく。 復習：授業内容について復習しておく。	A
第10回	日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつための指導－乳幼児の体験を考慮した映像教材と実物教材の活用方法－	予習：標識や文字について整理しておく。 復習：授業内容について復習しておく。	A
第11回	ICT教材を活用した指導案作成（1）－自然との関わりからの視点から－	予習：生活の中にある情報や施設について整理しておく。 復習：授業内容について復習しておく。	A
第12回	ICT教材を活用した指導案作成（2）－数量図形に興味をもつ視点から－	予習：伝統文化とはなにかについて考えておく。 復習：授業内容について復習しておく。	A
第13回	作成した指導計画の講評	予習：指導案について整理しておく。 復習：授業内容について復習しておく。	A
第14回	評価と振り返り、保育計画の改善	予習：講評をうけた指導計画を修正する。 復習：授業内容について復習しておく。	C
第15回	これまでのまとめと小学校教科へのつながり	予習：領域「環境」に注目した指導計画について整理しておく。 復習：授業内容について復習しておく。	
定期試験	定期試験		

保育内容指導法（人間関係）

更新日：2024/01/29 19:03:59

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E104900	授業コード	
担当教員	杉山佳菜子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6Y212	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	保幼必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	領域「人間関係」は、「他者の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指す。幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、それらが領域のねらい及び内容に基づく活動全体によって育むことを理解する。乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場면을想定して保育を構想する方法を身につける。
方法	基礎となる知識を確認しながら、保育実践の事例（映像を含む）から、援助の在り方についてグループディスカッションを行う。また、毎回授業の振り返りとしてリフレクションレポートを記入する。集団遊びに関しては、教材研究や指導計画の立案、その実践を行う。

到達目標

1	領域「人間関係」のねらい及び内容を理解することができる
2	幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場면을想定した保育を構想する方法を身につけることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業内の発表や課題レポート	50
到達目標②	授業内の実践や課題レポート	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし：必要に応じて資料を配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	幼稚園教育要領解説	フレーベル館	文部科学省
2	保育所保育指針解説	フレーベル館	厚生労働省
3	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	フレーベル館	内閣府

オープンな教育リソース

オフィスアワー

学生へのメッセージ

乳幼児期の人間関係の育ちに関する知識を基礎として、実践を視野に入れて進めていきます。前期の内容をしっかりとふまえ、意欲的に取り組んでください。

課題に対するフィードバック

授業の理解状況はレポートや発表などによって確認し、授業においてフィードバック情報を提供する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	幼児教育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容の全体像をつかむ	予習：幼稚園教育要領を通読しておく。 復習：ポイントを再確認する。	
第2回	保育者との信頼関係の形成 保育者の役割 一入園、進級	予習：愛着形成に関する理論を確認しておく。	A

	期の事例(映像を含む)を通して乳幼児への援助の在り方を考え、その援助方法について検討する。その結果をリフレクションのレポートとしてまとめるー	復習：考えた内容をまとめ、整理しておく。	
第3回	自我の芽生えと自立心の育ちー生活場面の事例を通して援助の在り方と援助方法について考える。その結果をリフレクションのレポートとしてまとめるー	予習：自我の芽生え、自立心に関して確認しておく。 復習：話し合いの内容をまとめ、整理しておく。	A
第4回	自己発揮と自己抑制(情動のコントロール)ー自己主張の事例を通して援助の在り方と援助方法について考える。その結果をリフレクションのレポートとしてまとめるー	予習：事例などから子どもの行動特徴を挙げる。 復習：自己調整機能から子どもの行動特徴について整理しておく。	A
第5回	いざこざ・相手の心の理解とその援助ー援助事例をロールプレイとその振り返りを通して考究し、リフレクションのレポートとしてまとめるー	予習：保育場面におけるケンカのエピソードを調べておく。 復習：自他の省察から、保育者としての対応を考える。	A
第6回	イメージを共有することと保育者の援助ー見立て遊びやごっこ遊びの事例から援助の方法を考究し、リフレクションのレポートとしてまとめるー	予習：表象あそび(ごっこ遊び)について再確認しておく。 復習：自他の省察から、保育者としての遊びへの関わり方、指導方法について考える。	A
第7回	友達への多面的理解と協同性への保育者の援助ー協同的な遊びの場面の事例から援助の方法を考究し、リフレクションのレポートとしてまとめるー	予習：前回の省察をふまえ、遊びにおける人間関係の育ちのための指導について考える。 復習：自他の省察から、保育者としての遊びへの関わり方、指導方法について考える。	A
第8回	集団の中での個と集団への保育者の援助ー援助事例から対応例を考えて討議し、リフレクションのレポートとしてまとめるー	予習：保育者の子ども観察の視点を再確認しておく。 復習：自他の省察から、保育者としての観察の視点、指導・援助の方法を考える。	B
第9回	規範意識と道徳性の発達とその援助ー援助事例から対応例を考えて討議し、リフレクションのレポートとしてまとめるー	予習：遊びや道徳性の発達水準について再確認しておく。 復習：集団遊びにおける保育者の指導・援助のあり方考える。	B
第10回	地域の多様な人々との関わりーICTを用いながら保育と地域の繋がり事例について学び、グループに分かれて討議し、リフレクションのレポートとしてまとめるー	予習：子どもや保育を取り巻く人間関係について再確認しておく。 復習：実際の地域子育て支援の具体的な内容・方法について調べてまとめる。	B
第11回	幼小接続期の育ちーICTを用いながら、乳幼児の体験に考慮した幼小連携の事例の活用と小学校以降の生活や学習で生かされる力について学び、リフレクションのレポートとしてまとめるー	予習：幼稚園教育要領(第1章)を通読しておく。 復習：就学に向けて保育に求められる役割を整理してまとめる。	A
第12回	乳幼児の人間関係をめぐる今日的課題ー今日的課題を学び、解決に向けての保育からのアプローチを考え、振り返りをフレクションのレポートとしてまとめるー	予習：現代の子ども・家庭を取り巻く環境を、記事などから調べておく。 復習：自他の省察から、保育における具体的な取り組みを考えてまとめる。	A
第13回	幼児の仲間との関わりを通して発達させたい資質から保育のあり方を考えるー保育におけるICTの活用を理解し、指導や教材研究に活用しながら保育を構想するー	予習：保育におけるICT活用の現状や事例について調べておく。 復習：保育における特定の場面に着目して、保育者としての子ども集団へのアプローチを複数考える。	
第14回	仲間との関わりを通した育ちを期待する幼児期の資質に関して保育を構想するー現代的課題を柱にこれまでの学びを反映させるー	予習：保育内容の教材研究をしておく。 復習：アドバイス等をふまえ、指導案を完成させる。	
第15回	模擬授業の実践(動画撮影)とブレインストーミング、模擬授業の振り返り・評価と指導案の改善	予習：実践のための準備、教材研究を行う。 復習：実践を振り返って指導案を修正し、振り返りを行う。	B
	実施せず		

児童文化

更新日：2024/02/19 10:09:15

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E105000	授業コード	
担当教員	谷口 良美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	6Y224	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	保選択必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	保育士・保育園長として勤務していた経験をもとに、乳幼児の発達やあそびについて具体的な事例を挙げながら実践的な授業を行う。この授業における学びは、卒業後、保育施設において保育者として活かすことができる。					

授業概要

内容	児童文化の概念やその歴史、また児童文化財や子どもの遊びなどについて、主に講義形式によって学ぶ。また、児童文化財に関する調査や実践・実演、また作製をととして、児童文化と子どもの育ちへの理解を深めながら実践的指導力を高める。		
方法	講義形式により、児童文化の概念や歴史、遊びの理論に関して授業を行う。また、伝承的な遊びの指導や児童文化財についての調査、製作、実践・実演を行う。		

到達目標

1	児童文化や遊びの概念、発育・発達に対するメリットを説明できる。
2	児童文化財の知識を有し、保育場面を想定して教材として選択して実演できる。
3	こま、お手玉などの伝承的な遊びのスキルを身につけている。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	40
到達目標②	製作・発表・実演など	30
到達目標③	実技	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし・必要に応じて資料を配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜 1 限 研究室1-5
E-mail: taniguchi@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

人々（子ども）が培ってきた文化を理解し、それらに親しむことをととして、これからの子どもにまつわる文化のあり方について考えてほしい。スキルを身につけることにも積極的に努力してほしい。

課題に対するフィードバック

授業の理解状況はレポートや作品、発表などによって確認し、授業においてフィードバック情報を提供する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション・児童文化とは	予習：シラバスを読んでおく。 復習：学修内容をまとめておく。	B

第2回	児童文化の歴史	予習：子どもを取り巻く文化について考える。 復習：学修内容をまとめておく。	
第3回	子どもの生活と文化	予習：現代の子どもの生活や文化について調べる。 復習：学修内容をまとめておく。	
第4回	さまざまな児童文化財	予習：自分が親しんだ児童文化財を挙げておく。 復習：学修内容をまとめておく。	
第5回	子どもの育ちと児童文化	予習：乳幼児期の心身の育ちを再確認しておく。 復習：学修内容をまとめておく。	
第6回	現代社会と児童文化	予習：子どもに関する現代的課題を調べておく。 復習：学習内容をまとめておく。	
第7回	実践・練習：道具操作系の遊び	予習：道具操作系の遊びの予備知識を得ておく。 復習：伝承遊びを練習しておく。	B
第8回	実践・練習：集団による遊び	予習：集団による伝承遊びの予備知識を得ておく。 復習：伝承遊びを練習しておく。	B
第9回	実践・練習：製作による遊び	予習：製作遊びの予備知識を得ておく。 復習：作品を完成させておく。	B
第10回	伝承遊びの立案：遊びの調査	予習：調査に必要な準備事項を考えておく。 復習：教材研究に必要な物品を考えて準備しておく。	
第11回	伝承遊びの立案：教材研究	予習：選んだ教材のもつ育ちへのメリットについて考える。 復習：教材研究をまとめておく。	D
第12回	伝承遊びの立案：指導の立案	予習：保育の場面を想定し、活動の流れを考えておく。 復習：指導案を完成させておく。	D
第13回	模擬保育の準備	予習：指導案をもとに必要な物を考えておく。 復習：模擬保育に必要な準備をしておく。	D
第14回	模擬保育の実践	予習：模擬保育に必要な準備をしておく。 復習：反省をもとに振り返りをし、指導案を修正しておく。	D
第15回	模擬保育の振り返り・まとめ	予習：模擬保育の振り返りをしておく。 復習：全回の授業内容を振り返っておく。	
	実施せず		

保育実習指導Ⅰ（保育所）

更新日：2024/02/26 13:41:34

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E105400	授業コード	
担当教員	谷口 良美 鈴木安由美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	7Y212	授業形態	演習	期待される学習成果	7		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	保育所で保育士及び園長として勤務していた経験をもとに、保育の計画や内容・方法、園務に関するの現地実習のための実践的な授業を行う。（谷口良美）					

授業概要

内容	保育実習の意義・目的や実習の内容を理解するために、「保育実習の手引」を活用しながら、保育の計画、実践方法、観察、手遊び、絵本、記録、評価の方法や内容について学びます。事後指導を通して自己評価を行い、保育実習Ⅱに向けての新たな課題や学習目標を明確にします。また、実習期間中は、担当教員が巡回して指導を行う。
方法	保育実習を行うに当たり、施設の概要を学び、理解します。実習に向けて実習計画書、指導案の立て方、実習記録の書き方を実践的に学ぶ。実習に必要な書類作成、事前事後訪問の仕方も行う。

到達目標

1	保育実習Ⅰの意義や内容を理解した上で、意欲的に実習準備に取り組むことができる
2	実習の計画、実践、記録、評価の方法を理解することができる
3	手遊び、絵本など保育内容を理解することができる
4	事後指導により、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	35
到達目標②	計画書・指導案	35
到達目標③	発表	20
到達目標④	レポート	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド	中央法規	大豆生田啓友 他 編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	保育所保育指針解説	フレーベル館	厚生労働省
2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	フレーベル館	内閣府

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜1限 研究室1-5

E-mail: taniguchi@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

保育所実習を実施するための必修科目であり、真摯な態度で取り組むこと。

課題に対するフィードバック

提出物には適宜添削をしてフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	オリエンテーション	予習：テキストを読んでおく 復習：書類作成の準備しておく	
第2回	実習の目的・意義	予習：テキストを読んでおく 復習：プリントを確認する	
第3回	保育実習の内容と課題の明確化	予習：テキストを読んでおく 復習：プリントを確認する	B
第4回	実習に際しての留意事項—子どもの人権、プライバシーの保護、守秘義務、実習生としての心構え—	予習：テキストを読んでおく 復習：プリントを確認する	
第5回	保育園長等（ゲストスピーカー）による講話	予習：テキストを読んでおく 復習：プリントを確認する	B
第6回	実習の計画と記録—実習における計画と実践—	予習：保育実習要項を読んでおく 復習：計画書の下書きを作成する	
第7回	実習報告会への参加—学習課題の明確化—	予習：テキストを読んでおく 復習：プリントを確認する	B
第8回	保育の計画と記録—実習記録の書き方—	予習：関連参考図書を読んでおく 復習：実習記録を書く	
第9回	保育の計画と記録—エピソード記録の書き方—	予習：関連参考図書を読んでおく 復習：実習記録を書く	
第10回	保育の計画と記録—評価・まとめ—	予習：関連参考図書を読んでおく 復習：実習記録を書く	
第11回	教材研究	予習：教材について調べておく 復習：教材の使い方を考える	B
第12回	教材とその使い方	予習：教材について実践する 復習：教材について振り返る	D
第13回	実習事後指導—実習の総括と課題の明確化—	予習：テキストを読んでおく 復習：プリントを確認する	
第14回	実習の総括と自己評価—実習報告会の準備—	予習：プリント及び実習記録を見直す 復習：実習を振り返りまとめる	B
第15回	実習報告会—課題の明確化—	予習：報告会準備をする 復習：レポートにまとめる	B
	実施せず		

保育実習指導Ⅰ（施設）

更新日：2024/02/29 14:18:01

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E105500	授業コード	
担当教員	長谷中 崇志、丹羽 裕紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	7Y224	授業形態	演習	期待される学習成果	7		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	この授業では、Ⅰ(施設)の事前学習と事後学習をおこなう。 具体的には、実習施設研究、実習計画書の作成、記録の練習、実習報告書の作成などをおこなうことで、施設現場で対応するために必要な力を身につける。①実習施設の概要、施設での生活、利用者の様子、職員の働きについて、理解する。②実習計画書に、実習の目標、目標を達成するための具体的方法、事前の学習が書ける。③実習の内容、実習で学んだことをレポートとしてまとめることができる。④福祉施設の役割や保育士の働きなどについて自分の意見をまとめ、発表できる。また、実習期間中は、担当教員が巡回して指導を行う。
方法	事前学習は、愛知県保育実習連絡協議会で調整され、本学に割り振られた児童福祉施設や障害児者施設の「実習先一覧」を配布し、「実習先希望アンケート」をもとに実習先を決め、実習先の施設種別毎にグループを編成し、学習・研究を行う。事後学習は、実習後、返却された「実習ノート」などをもとに、実習報告会などで振り返りを行う。

到達目標

1	実習施設の概要、施設での生活、利用者の様子、職員の働きについて理解することができる
2	実習計画書に、実習目標、目標を達成するための具体的方法、事前の学習を書くことができる
3	実習の内容、実習で学んだことをレポートとしてまとめることができる
4	福祉施設の役割や保育士の働きなどについて自分の意見をまとめ、発表することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	「施設実習研究」	25
到達目標②	「実習計画」	25
到達目標③	「実習記録」	25
到達目標④	「実習日誌」などから総合的に評価する。	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』（1次年の実習指導で購入済み）	中央法規	大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて、資料を配布する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

丹羽：火曜日3時限 研究室1-5 yk-niwa@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

日頃の大学内での講義等と違い、学外で初めて出会う職員や子ども・利用者のもとで施設実習に取り組むことは、大変な緊張とストレスを強いられる。それに負けない、日常の心身の健康づくりが大切である。

課題に対するフィードバック

実習計画書の下書きの添削、実習記録についてのコメントをする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	授業計画の説明など		
第2回	施設実習の意義と事前訪問について	予習：シラバスに目を通しておく。 施設実習で学びたいことを整理しておく。 復習：施設実習の流れを理解する。 施設実習の意義について理解する。また、自らの事前訪問について計画を立てる。	
第3回	実習施設研究	予習：自分の実習先に関する資料と情報を収集する。 復習：実習先の施設について、まとめる。	B,D
第4回	実習施設研究	予習：自分の実習先に関する資料と情報を収集する。 復習：実習先の施設について、まとめる。	B,D
第5回	実習施設研究の発表と実習計画書の作成について	予習：実習先施設研究についての発表準備をする。 復習：実習先施設研究発表について振り返る。 また、実習計画書とは何かについて、理解する。	B,D
第6回	実習計画書の作成（個別1）	予習：自らの施設実習計画書を記入する。 復習：自らの施設実習計画書を吟味する。	
第7回	実習計画書の作成（個別2）	予習：自らの施設実習計画書を再吟味する。 復習：自らの施設実習計画書を完成させる。	
第8回	実習計画書の発表	予習：実習計画書の発表に向けて準備する。 復習：実習計画書の発表について振り返る。	B,D
第9回	実習先の理解	予習：第3回・4回授業で調べた実習先の役割、職員配置などについて確認する。 復習：自分の実習先の役割や特徴をまとめる。	B,D
第10回	実習記録について	予習：実習記録とは何かについて理解する。 復習：実習記録の意義や内容についてまとめる。	
第11回	実習記録について	予習：実習記録に用いられる文体を調べる。 復習：実習記録を書いてみる。	
第12回	実習の振り返りと実習報告会の準備	予習：実習で学んだことや反省点などをまとめる。 復習：報告会の準備を通して学んだ事などをまとめる。	B,D
第13回	実習の振り返りと実習報告会の準備	予習：実習で学んだことや反省点などをまとめる。 復習：報告会の準備を通して学んだ事などをまとめる。 施設実習グループ毎にまとめ発表の準備をする。	B,D
第14回	実習報告会 ※実習終了後、2時限にわたって行う。	予習：グループ毎にパワーポイント等を使い発表する。 復習：施設における保育士の役割について認識を深める。	B,D
第15回	実習報告会		B,D
	実施せず		

保育実習指導Ⅱ

更新日：2024/02/26 13:36:10

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E105600	授業コード	
担当教員	谷口 良美、長谷中崇志、丹羽裕紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	7Y223	授業形態	演習	期待される学習成果	7		
コース別 必修・選択必修等	保必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	幼児保育現場の実務経験ををもとに、保育の計画や内容・方法、園務に関しての実地実習のための実践的な授業を行う。					

授業概要

内容	保育の観察および自己評価等を踏まえた保育の改善について学ぶために、保育実習Ⅰでの実践や事例で学んだことを土台として保育士としての知識、技能を習得する。 また、責任実習に必要な指導計画の立案や教材研究を行うとともに、保護者とのかかわり等を通して保育園に求められる保護者支援や地域とのかかわりについて学ぶ。
方法	グループワーク、指導計画作成、プレゼンテーション

到達目標

1	保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、習得した知識や技術を基に実践する応用力を身につけることができる
2	保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解することができる
3	家庭や地域とのかかわりを理解し、保育園と保育者の役割、社会的責任について理解することができる
4	自らの保育観を深め、専門職である保育士としての自覚を身につけることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	グループ発表	30
到達目標②	指導計画	20
到達目標③	実習報告書	20
到達目標④	実習報告発表会	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド（1年次「保育実習Ⅰ」の授業でも使用した教科書です。）	中央法規	大豆生田啓友

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜1限 研究室1-5
E-mail: taniguchi@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

保育所実習を実施するための必修科目であり、真摯な態度で取り組むこと。

課題に対するフィードバック

提出物には適宜添削をしてフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	オリエンテーション	予習：テキストを読んでおく 復習：書類作成の準備をしておく	
第2回	保育実習による総合的な学び—子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解—	予習：テキストを読んでおく 復習：授業内容を整理する	
第3回	実践事例による検討—子どもの保育と保護者支援—	予習：保育所保育指針を熟読しておく 復習：配布プリントを整理する	B
第4回	保育実践力の育成Ⅰ—グループワークによる指導計画作成—	予習：保育実習Ⅰの実習記録を振り返っておく 復習：作成した指導計画を再確認する	B
第5回	保育実践力の育成Ⅰ—グループワークによる教材研究—	予習：保育教材や児童文化財について調べておく 復習：実際に製作した物で教材研究を深める	B
第6回	保育実践力の育成Ⅰ—グループ別発表Aチーム—	予習：作成した指導計画を確認する 復習：発表を振り返って整理する	D
第7回	保育実践力の育成Ⅰ—グループ別発表Bチーム—	予習：作成した指導計画を確認する 復習：発表を振り返って整理する	D
第8回	保育実践力の育成Ⅰ—グループ別発表Cチーム—	予習：作成した指導計画を確認する 復習：発表を振り返って整理する	D
第9回	保育実践力の育成Ⅰ—グループ別発表Dチーム—	予習：作成した指導計画を確認する 復習：発表を振り返って整理する	D
第10回	保育実践力の育成Ⅱ—全日実習指導案の作成—	予習：指導案作成に関する資料を調べておく 復習：授業の振り返りをする	D
第11回	保育実践力の育成Ⅱ—全日実習指導案の評価・振り返り—	予習：指導案作成に関する資料を調べておく 復習：授業の振り返りをする	B
第12回	保育実践力の育成Ⅲ—保育の改善—	予習：作成した指導計画を確認する 復習：発表を振り返って整理する	B
第13回	保育士の専門性と職業倫理	予習：保育所保育指針の該当箇所を熟読する 復習：授業の振り返りをする	
第14回	事後指導：実習報告—実習の総括と自己評価—	予習：実習記録を振り返っておく 復習：報告の準備をする	
第15回	事後指導：実習報告—課題の明確化—	予習：報告の準備をする 復習：報告の振り返りをする	B
	実施せず		

保育・教職実践演習（幼稚園）

更新日：2024/02/28 11:31:38

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E105700	授業コード	
担当教員	杉山 佳菜子 鈴木 安由美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	8Y224	授業形態	演習	期待される学習成果	8		
コース別 必修・選択必修等	保幼必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	小学校教諭、幼児保育現場の実務経験がある教員による実践的な授業である。					

授業概要

内容	本授業では、教職に関わる教員として最低限度の資質・能力を身につけているかを確認していく。教職履修カルテで教職課程の履修を振り返り、指導力や実践的な課題を学び、自己課題を明らかにしていく。 幼稚園園長による講話を入れる。 理想的だと考える保育者像について、どのような内容、方法で幼児を指導し、また保護者と関わっていくかについて自分の意見を発表し、グループでの話し合いをもとに議論し、それぞれのテーマについて現状とその問題点を調査、検討し、ディスカッションを進める。 模擬保育を多面的な観点から検討・実施により、いくつかの観点に基づきながら適切な指導案を作成する。
方法	講義、グループワーク、模擬授業、ロールプレイング、ゲストティーチャーの講話等

到達目標

1	それぞれのテーマについて現状とその問題点を調査、検討し、自分の意見を発表し、ディスカッションを進めることができる
2	これまでの実習やボランティア等の経験に基づき、実践的なテーマについて保育者としてどう考え、どのような内容、方法で幼児を指導し、また保護者と関わっていくかについて自分の意見を発表し、ディスカッションを進めていくことができる
3	模擬保育を多面的な観点から検討することができ、適切な指導案を作成することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート及び発表内容	40
到達目標②	レポート及び発表内容	30
到達目標③	指導案	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜資料を配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	幼稚園教育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	文部科学省
2	保育所保育指針解説（平成30年3月）	フレーベル館	厚生労働省
3	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）	フレーベル館	内閣府

オープンな教育リソース

オフィスアワー

杉山：火曜日の5時限（1号館3階研究室）

鈴木：月曜日の2時限（1号館2階研究室）

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

提出された課題に関して、授業内でコメントする。

授業計画

授業回	学修計画

	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 履修カルテの確認とこの授業の意義と進め方	予習：シラバスを読んでおく 復習：履修カルテを見て、これまでの学びを整理する	
第2回	これまでの授業の振り返り。	予習：これまでに受けた授業のノートを読み返しておく 復習：授業の内容をまとめておく	
第3回	学級運営について考える。（グループ討議）	予習：学級運営について学んだことを復習しておく 復習：授業の内容をまとめておく	B
第4回	保護者、子ども、職場、地域との人間関係について考える。（グループ討議）	予習：幼稚園教育要領・保育所保育指針で保護者や地域との関係を確認する 復習：グループ討議を振り返る	B
第5回	特別な配慮を必要とする子どもについて考える（グループ討議）	予習：特別な配慮を必要とする子どもについて復習しておく 復習：授業の内容をまとめておく	B
第6回	事例研究① 保育の意義や保育者の役割について考える。（ロールプレイングとグループ討議）	予習：保育の意義と保育者の役割について復習しておく 復習：授業の内容をまとめておく	B・D
第7回	事例研究② 保育内容について考える。（ロールプレイングとグループ討議）	予習：保育内容の授業で学んだことを復習しておく 復習：授業の内容をまとめておく	B・D
第8回	事例研究③ 子どもに対する責任、安全管理などについて考える（ロールプレイングとグループ討議）	予習：子どもの健康・安全管理について復習しておく 復習：ロールプレイングから学んだことをまとめておく	B・D
第9回	事例研究①～③のまとめと発表	予習：発表資料を作成する 復習：発表の振り返りをする	
第10回	模擬授業① グループに分かれての模擬授業（授業テーマはグループで考える）	予習：模擬授業の準備をする 復習：模擬授業の実践について振り返る	B
第11回	模擬授業② 反省とまとめ。	予習：模擬授業の実践について振り返ったことをまとめておく 復習：振り返りに加筆・修正する	
第12回	幼稚園現場から① グループ討議（教育実習の反省と今後の自己課題について）	予習：園長の業務、役割を確認する 復習：園長講話から学んだことをまとめる	B
第13回	幼稚園現場から② 自己課題に基づいた現地調査	予習：実習ノートを読み返し自己課題を考えておく 復習：現地調査を振り返る	D
第14回	理想と考える保育者像について考える。	予習：理想の保育者像について考えをまとめておく 復習：他者の発表を聞き、考えたことをまとめる	
第15回	資質能力の確認とまとめ。	予習：幼稚園教育要領・保育所保育指針等を読んでおく 復習：授業で学んだ内容をまとめておく	
	実施せず		

創造活動Ⅰ

更新日：2024/02/21 14:06:18

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E105800	授業コード	
担当教員	鈴木 安由美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6Y211	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	公立小学校教諭の実務経験をもとに、幼児教育から小学校教育への円滑な接続ができるような指導の仕方、教材研究を学ぶ授業を行う。					

授業概要

内容	保育者として必要な造形表現の技術を高める。 幼児造形の教材研究に取り組み、保育教材への理解を深める。
方法	教材研究を通して、グループワークで意見を出し合う。 自分の制作した作品について、制作での気づきや思いを発表する。

到達目標

1	造形表現活動に必要な基礎的知識や技能を習得することができる。
2	幼児の発達に合わせた教材を考え、工夫することができる。
3	作品制作を通して、保育者として必要な視点や能力について学ぶことができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	作品	50
到達目標②	作品・小レポート	20
到達目標③	小レポート	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材」（1年次「保育内容指導法（表現Ⅱ）」で使用した教科書）	萌文書林	樋口一成編集

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜2時限（1号館2階研究室）
a-suzuki@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

活動しやすい服装、清潔な爪先で受講すること。

課題に対するフィードバック

課題に対する質問にはその場で回答し、必要な場合は次回の授業で全体に共有する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション 造形表現活動のねらい	予習：シラバスを熟読する。 復習：テキストの授業該当箇所を読む。	A

第2回	造形表現活動で使用する道具の正しい扱い方	予習：テキストP.82-83を読む。 復習：授業で学んだことを実践する。	A
第3回	描画材料を使った教材研究Ⅰ 色鉛筆の描法	予習：テキストP.128-129を読む。 復習：作品を完成させる。	A
第4回	描画材料を使った教材研究Ⅱ クレヨンの描法	予習：テキストP.112-119の該当部分を読む。 復習：描法についてまとめる。	A
第5回	描画材料を使った教材研究Ⅲ 水彩絵の具の描法1	予習：テキストP.112-119の該当部分を読む。 復習：描法についてまとめる。	A
第6回	描画材料を使った教材研究Ⅳ 水彩絵の具の描法2	予習：テキストP.112-119の該当部分を読む。 復習：描法についてまとめる。	A
第7回	紙素材を使った教材研究Ⅰ 三角カード・四角カード	予習：ポップアップカードについて調べる。 復習：カードの仕組みについて理解する。	A
第8回	紙素材を使った教材研究Ⅱ 帯を使ったカード	予習：帯を使ったカードについて調べる。 復習：カードの仕組みについて理解する。	A
第9回	紙素材を使った教材研究Ⅲ 応用制作	予習：オリジナルカードのデザインを考える。 復習：カードに使用した仕組みについて理解する。	A
第10回	紙素材を使った教材研究Ⅳ 作品集の製本	予習：これまでの作品を確認し、不備があれば整える。 復習：作品集を完成させる。	A
第11回	0・1・2歳のおもちゃⅠ 計画	予習：0・1・2歳児の発達の特性について調べる。 復習：制作手順を確認し、必要な材料を揃える。	A,B
第12回	0・1・2歳のおもちゃⅡ 制作	予習：制作手順を確認する。 復習：作品を完成させる。	A,B
第13回	3・4・5歳のおもちゃⅠ 計画	予習：3・4・5歳児の発達の特性について調べる。 復習：制作手順を確認し、必要な材料を揃える。	A,B
第14回	3・4・5歳のおもちゃⅡ 制作	予習：制作手順を確認する。 復習：作品を完成させる。	A,B
第15回	作品発表会 授業のまとめ	予習：作品紹介文を作成する。 復習：半期で制作した作品の手順・注意点を整理する。	A,B
定期試験	実施せず		

創造活動Ⅱ

更新日：2024/02/21 14:13:35

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E105900	授業コード	
担当教員	鈴木 安由美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6Y223	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	公立小学校教諭の実務経験をもとに、幼児教育から小学校教育への円滑な接続ができるような指導の仕方、教材研究を学ぶ授業を行う。					

授業概要

内容	保育者として必要な造形表現の技術を高める。 協同制作を通して、コミュニケーション能力を培う。
方法	教材研究を通して、グループワークで意見を出し合う。 自分の制作した作品について、制作での気づきや思いを発表する。

到達目標

1	造形表現活動に必要な知識や技能を応用し、作品を制作することができる。
2	仲間と話し合い、一つの作品を協力して制作することができる。
3	保育現場に求められる造形を考え、工夫して表現することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	作品	50
到達目標②	授業態度・作品・小レポート	20
到達目標③	作品・小レポート	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材」（1年次「保育内容指導法（表現Ⅱ）」で使用した教科書）	萌文書林	樋口一成編集

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜2時限（1号館2階研究室）
a-suzuki@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

創造活動Ⅱは、話し合いや共同制作がメインの活動になります。
欠席せず、仲間と協力して取り組む意欲をもって参加してください。
活動しやすい服装、清潔な爪先で受講すること。

課題に対するフィードバック

課題に対する質問にはその場で回答し、必要な場合は次回の授業で全体に共有する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	オリエンテーション 造形表現活動のねらい	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業の内容を整理し、必要な道具を準備する。	A
第2回	壁面装飾Ⅰ 計画	予習：切り紙の制作方法について調べる。 復習：完成イメージ画を仕上げる。	A
第3回	壁面装飾Ⅱ 制作	予習：必要な材料・道具の確認をする。 復習：制作上の注意点をまとめる。	A
第4回	壁面装飾Ⅲ 仕上げ	予習：保育室に掲示するための配置イメージをまとめる。 復習：制作上の注意点をまとめる。	A
第5回	大型グループ制作Ⅰ 計画	予習：季節ごとの保育室の装飾を調べる。 復習：役割分担表を完成させる。	A,B
第6回	大型グループ制作Ⅱ 制作	予習：季節の壁面装飾について調べる。 復習：自分の担当の部分デザインを完成させる。	A,B
第7回	大型グループ制作Ⅱ 制作	予習：制作に必要な材料を集める。 復習：次回で完成できるように、制作の計画を立てる。	A,B
第8回	大型グループ制作Ⅱ 仕上げ	予習：制作の計画を確認する。 復習：制作の過程をまとめる。	A,B
第9回	仮面・かぶりものⅠ 計画	予習：テキストP.134-135を読む。 復習：デザイン案を完成させる。	A,B
第10回	仮面・かぶりものⅡ 制作	予習：テキストP.134-136を読む。 復習：次回で完成できるように、制作の計画を立てる。	A,B
第11回	仮面・かぶりものⅢ 振り返り	予習：制作の計画を確認する。 復習：制作の過程をまとめる。	A,B
第12回	発表会の衣装Ⅰ 計画	予習：発表会の衣装制作について調べる。 復習：デザイン案を完成させる。	A,B
第13回	発表会の衣装Ⅱ 制作	予習：制作に必要な材料を集める。 復習：次回で完成できるように、制作の計画を立てる。	A,B
第14回	発表会の衣装Ⅲ 振り返り	予習：制作の計画を確認する。 復習：制作の過程をまとめる。	A,B
第15回	作品発表会 授業のまとめ	予習：作品紹介文を作成する。 復習：半期で制作した作品の手順・注意点を整理する。	A,B
定期試験	実施せず		

保育実践

更新日：2024/01/31 10:21:52

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E106010	授業コード	
担当教員	鈴木安由美 谷口良美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	2Y211	授業形態	演習	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	保育所で保育士及び園長として勤務していた経験をもとに、保育現場における保育内容・方法、園務等に関して実践的な授業を行う。（谷口良美）					

授業概要

内容	保育系の学びは学内だけに留まりません。保育園、幼稚園、施設などに見学・体験する機会は保育現場から学ぶものには計り知れないほど大きなものがある。園見学・体験において事前学習、実習、事後学習の3つの段階を経ます。事前学習では、保育者の現状と課題、を理解するとともに見学・体験に必要な知識やビジネスマナーを習得し、事前に目標設定を行います。事後学習では演習形式あるいは個別に、実習での振り返りを行い最終レポートの作成もしくは成果報告会を行い、実践からの学びを基に自信につなげます。		
方法	フィールドワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を行います。		

到達目標

1	最低限のビジネスマナーを修得する。
2	目標設定し、自己振り返りが出来る。
3	保育者の職務内容と役割を理解する
4	乳幼児の1日の生活の流れを理解する

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業への取り組み（積極性・主体性）	30
到達目標②	レポート	50
到達目標③	レポート	10
到達目標④	レポート	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

火曜日12:30-13:30 保育研究室2階

学生へのメッセージ

授業内の課題について、発表し、情報や意見の交換を行きましょう。

課題に対するフィードバック

園では人柄・意欲・協調性・コミュニケーション力が重視され、期待される力も専門力はもちろん保育者である前に社会人であることが求められています。そのため、就職前に敬語やビジネスマナーを身につけられるよう課題後にフィードバックを行い、卒業後スムーズに社会人として働く基礎力を養います。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション	予習：園見学の目的について考える	

	授業概要、自己理解	復習：課題と学習内容をまとめる	
第2回	ビジネスマナー演習（1） 社会人としてのビジネスマナー	予習：ビジネスマナーについて調べてくる 復習：課題と学習内容をまとめる	C
第3回	ビジネスマナー演習（2） 信頼関係を築く言葉使いと話し方	予習：実施した内容の整理を行う 復習：課題と学習内容をまとめる	C
第4回	ビジネスマナー演習（3） 実践・メモの取り方・トラブル対応を考える	予習：実施した内容の整理を行う 復習：課題と学習内容をまとめる	
第5回	ビジネスマナーチェック 振り返り（内省と他者評価）と園見学・体験の行動目標の立案	予習：実施した内容の整理を行う 復習：課題と学習内容をまとめる	
第6回	園見学の準備	予習：実施した内容の整理を行う 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第7回	園見学（保育所）	予習：実施した内容の整理を行う 復習：課題と学習内容をまとめる	D
第8回	園見学（保育所）	予習：実施した内容の整理を行う 復習：課題と学習内容をまとめる	D
第9回	振り返り（内省と他者評価）	予習：実施した内容の整理を行う 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第10回	園見学（幼稚園）	予習：実施した内容の整理を行う 復習：課題と学習内容をまとめる	D
第11回	園見学（幼稚園）	予習：実施した内容の整理を行う 復習：課題と学習内容をまとめる	D
第12回	全体振り返り（内省と他者評価）	予習：実施した内容の整理を行う 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第13回	前半グループ発表（1）	予習：実施した内容の整理を行う 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第14回	後半グループ発表（2）	予習：実施した内容の整理を行う 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第15回	まとめ	予習：学修した内容の整理を行う 復習：課題と学習内容をまとめる	
	実施せず		

教育実習

更新日：2024/02/27 14:57:42

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E106100	授業コード	
担当教員	杉山 佳菜子, 鈴木 安由美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	5	
科目ナンバー	7Y223	授業形態	実習	期待される学習成果	7		
コース別 必修・選択必修等	幼必修	授業時間+自習時間	150+75				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	小学校教諭、幼児保育現場の実務経験を、幼稚園実習並びに事前事後指導に必要な指導技術に活かす。					

授業概要

内容	<p>教育実習は、実際に幼稚園及び認定こども園の教育現場で教師として活動するための最終準備段階として、幼稚園教諭に必要な専門基礎知識の確認、保育活動に必要な指導技術の確認、及び教師として要請される人格的要件について確認と、補充教育を行う。そして、幼稚園等での現地実習では、3週間の具体的な教育活動を体験するとともに、現場教員の指導を受ける。事後指導ではこの学習体験を整理し、教師として現場に立つことへの準備を完成させる。</p> <p>この教育実習の学科目は教育実習に入る前の事前の準備を行う事前指導の過程、実際に幼稚園等の現場での実習体験の過程及び大学へ戻って行う実習体験の総括と、発展課題の確認のための事後指導過程とで構成される。この学科目の目的は、本学科目の履修過程を通じて幼稚園教育現場の実情を理解し、未来の幼稚園教師として生きる自覚と意欲を育成することに重点をおいている。</p>
方法	教育実習を実施するにあたり、必要な書類の作成や実習手順の確認を行う。また、基本的な指導案作成の方法について学び、子どもの年齢や発達や教育のねらいに則した教材や環境の研究を行う。

到達目標

1	幼稚園の役割や教育方法について学び、指導案を作成して実践する。
2	教育活動に参加し、子どもひとりひとりを理解してふさわしい援助の方法について思案できるようになる。
3	幼稚園教諭として必要とされる基礎的な資質や知識、技能や態度を習得する。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	実習計画書や指導案、報告書の作成	10
到達目標②	実習園からの評価及び実習ノート	80
到達目標③	事前事後の提出物	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド（1年次の保育実習指導Ⅰ（保育所）で購入済）	中央法規	大豆生田啓友 他 編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	幼稚園・保育所実習ハンドブック	みらい	田中まさ子 編
2	アイデア満載！教育・保育実習サポートレシピ	福村出版	杉山佳菜子編

オープンな教育リソース

オフィスアワー

杉山：火曜日の5時限（1-3研究室）

鈴木：火曜日の5時限（1-5研究室）

学生へのメッセージ

実習の手引き及び実習ノートも持参の上、受講すること。配布プリントは各自ファイリングのこと。

課題に対するフィードバック

計画書や指導案等の実習に関する書類は、添削の上、返却する。

実習内容

授業計画	
授業準備 (予習・復習を含む)	

子どもの遊びと健康 I

更新日：2024/02/21 18:08:37

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3E106300	授業コード	
担当教員	榊原尉津子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	2Y211	授業形態	演習	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	さまざまなレクリエーション活動の体験を通して、保育現場や子育て支援ひろば、地域のイベントに活用できる子どものあそびに関する知識と指導法を習得する。
方法	レクリエーション財の紹介と体験、グループワーク、模擬指導を行う。

到達目標

1	レク財の体験をととして、対象者、活動場所に即した支援の方法と技術を理解している。
2	授業で習得したレク財を参考に、子どもや親子が楽しめるオリジナルの遊びの開発ができる。
3	個々の創作活動、グループワークにおいて主体的に取り組むことができる。
4	開発したオリジナル教材の体験をととして、参加者が達成感を味わうことができる工夫と指導ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	学びの記録、課題レポート	30
到達目標②	創作活動や授業への取り組み	20
到達目標③	遊び体験への積極的な取り組み	20
到達目標④	指導案作成、模擬指導	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて資料を配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし。		

オープンな教育リソース

公益財団法人 日本レクリエーション協会「レクぼ」 <https://www.recreation.jp/>公益財団法人日本レクリエーション協会「子供の体力向上ページ」 <https://kodomo.recreation.or.jp/>

オフィスアワー

授業前後またはpteachr-tandai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

レク財の体験をととして、遊びのレパートリーを増やし、指導力を身につけましょう。

動きやすい服装で出席してください。

課題に対するフィードバック

学びの記録、課題等については、その都度、解説・指導を行う。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション、アイスブレイク	予習：シラバスを読み、授業内の確認をしておく	

	・アイスブレイクについて学ぶ	復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく	
第2回	レク財について ・体験をととして楽しさの本質を学ぶ	予習：パソコンやタブレット等の操作に慣れておく 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく	
第3回	レクリエーション活動体験と効果について① ・就学前の子どもの対象にした遊び体験	予習：就学前の子どもの対象にした遊びについて情報収集しておく 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく	
第4回	レクリエーション活動体験と効果について② ・親子を対象にした遊び体験	予習：親子を対象にした遊びについて情報収集しておく 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく	
第5回	レクリエーション活動体験と効果について③ ・様々な年齢を対象にした遊び体験	予習：小学生や高齢者等を対象にした遊びについて情報収集しておく 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく	
第6回	レクリエーション活動体験と効果について④ ・模擬指導と遊び体験	予習：これまでに収集した遊びの指導ができるよう準備しておく 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく	B,D
第7回	昔の遊び体験① 折り紙	予習：折り紙（折り方）について、実技書やインターネット、家族等から情報収集しておく 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく	
第8回	昔の遊び体験② けん玉、あやとり、かるた等	予習：昔の遊びについて、実技書やインターネット、家族等から情報収集しておく 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく	
第9回	昔の遊び体験③ 模擬指導と遊び体験	予習：収集した遊びの指導ができるよう準備しておく 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく	C
第10回	昔の遊び体験④ 手作りかるたについて ・題材、グループ決め	予習：かるたについて調べておく 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく。空き時間を使って作成しておく	B
第11回	昔の遊び体験⑤ 手作りかるたの制作	予習：空き時間を使って作成しておく 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく。空き時間を使って作成しておく	B
第12回	昔の遊び体験⑥ 手作りかるた体験	予習：空き時間を使って作成しておく 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく	B
第13回	オリジナルゲーム作り① ・子どもや親子で楽しめるオリジナルの遊びを考える	予習：子どもや親子で楽しめる遊びに関する情報を収集しておく 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく。空き時間を使って創作しておく	B
第14回	オリジナルゲーム作り② ・発表用紙にまとめる	予習：空き時間を使って創作しておく 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく。発表用紙に遊びをまとめておく	B
第15回	オリジナルゲーム作り③ ・模擬指導と遊び体験 ・授業振り返り	予習：発表用紙に遊びをまとめておく 復習：本授業の振り返りをGoogleフォームへ回答する	B,C
	実施せず		

子どもの遊びと健康 II

更新日：2024/02/21 18:09:56

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3E106400	授業コード	
担当教員	榊原尉津子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 現代幼児教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3Y212	授業形態	演習	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+10				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	領域「健康」を中心に5領域のねらい及び内容を理解したうえで、子どもの遊びと健康をテーマに教材研究と制作を行う。また、子どもと楽しみながら取り組める運動・表現遊びの体験をとおして、心身ともに健康な生活を送れるよう指導・援助法を習得する。
方法	ICTを活用した保育教材の制作や発表、グループワーク、模擬保育等を行う。

到達目標

1	領域「健康」を中心に5領域のねらい及び内容を理解している。
2	子どもの遊びと健康をテーマにした教材研究と制作ができる。
3	模擬保育、グループワークにおいて主体的に取り組むことができる。
4	5領域を活かした保育教材の制作と積極的に発表することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	学びの記録、課題レポート	30
到達目標②	授業や課題（予習・復習含む）への取り組み	20
到達目標③	指導案作成、模擬保育	30
到達目標④	成果発表（実技）	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて資料を配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	平成29年告示 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）	チャイルド本社	文部科学省、厚生労働省、内閣府

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業前後またはpteachr-tandai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

教材研究や制作、遊びの実践を通して保育・指導力をつけましょう。
動きやすい服装で出席してください。

課題に対するフィードバック

成果物については、コメントを付して返却する。
学びの記録、課題等については、その都度、解説・指導を行う。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション、アイスブレイク（子どもの遊び体	予習：シラバスを読み、授業内容の確認をしておく。	

	験)	復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく。	
第2回	保育現場で活用したい遊びを学ぶ① ・手遊び・うた遊びについて (ICTを活用し情報収集する)	予習：パソコンやタブレット等の操作に慣れておく。 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく。子どもの手遊び・うた遊びに関連する情報を収集する。	C
第3回	保育現場で活用したい遊びを学ぶ② ・収集した情報をまとめる	予習：パソコンやタブレット等の操作に慣れておく。子どもの手遊び・うた遊びに関連する情報を収集する。 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく。収集した情報をまとめておく。	C
第4回	保育現場で活用したい遊びを学ぶ③ ・手遊び・うた遊びを発表用紙にまとめる	予習：パソコンやタブレット等の操作に慣れておく。収集した情報をまとめておく。 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく。発表用紙にまとめておく。	C
第5回	保育現場で活用したい遊びを学ぶ④ ・手遊び・うた遊びを発表する (遊びのネタ帳を作成する)	予習：パソコンやタブレット等の操作に慣れておく。収集した情報をまとめておく。 復習：発表を振り返り、学びの記録へ記入しておく。	C
第6回	子どもと楽しむ保育教材作り① ・手軽に楽しめる保育教材について (ICTを活用し情報収集する)	予習：保育教材に関連する情報を収集する。 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく。	
第7回	子どもと楽しむ保育教材作り② ・保育教材制作について	予習：保育教材に関連する情報を収集する。 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく。教材制作。	
第8回	子どもと楽しむ保育教材作り③ ・指導案の作成について	予習：保育教材に関連する情報を収集する。 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく。教材制作と指導案の作成をしておく。	
第9回	子どもと楽しむ保育教材作り④ ・教材制作と指導案作成	予習：教材制作と指導案を作成しておく。 復習：授業を振り返り、学びの記録へ記入しておく。教材制作と指導案を作成しておく。	
第10回	子どもと楽しむ保育教材作り⑤ ・保育教材を活用した模擬保育の実践 (指導案提出)	予習：教材制作と指導案を作成しておく。 復習：模擬保育を振り返り、学びの記録へ記入しておく。	D
第11回	子どもと楽しむ表現遊び① 活動内容の説明、選曲	予習：子どもの音楽に関する情報を収集しておく。 復習：空き時間を利用して創作する。	B
第12回	子どもと楽しむ表現遊び② 創作 (空間・隊形について説明)	予習：空き時間を利用して創作する。 復習：空き時間を利用して創作・練習する。	B
第13回	子どもと楽しむ表現遊び③ 創作 (動画撮影について説明)	予習：空き時間を利用して創作・練習する。 復習：撮影した動画を確認し、創作・練習する。	B
第14回	子どもと楽しむ表現遊び④ リハーサル (動画撮影)	予習：撮影した動画を確認し、創作・練習する。 復習：発表に向けて練習する。	B
第15回	子どもと楽しむ表現遊び⑤ 成果発表会 (動画撮影)	予習：発表に向けて練習する。 復習：各グループの発表を鑑賞し、期日までに評価 (Googleフォーム) する。	B,D
	実施せず		

令和6(2024)年度 生活学科食物栄養専攻シラバス

愛知みずほ短期大学

生活経営論

更新日：2024/01/30 12:23:46

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C100100	授業コード		
担当教員	高賀 敦子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	2F211	授業形態	講義	期待される学習成果	2			
コース別 必修・選択必修等	卒業必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	現代社会における家族の役割、家族関係、少子高齢化、経済、消費生活や食生活等における様々な課題について学習し、理解を深める。またライフステージにおける諸課題を理解し、生活設計を通して将来の目標に向かって意思決定する力を養う。						
方法	授業プリントに基づき、パワーポイントを用いて講義をおこなう。毎回、講義終了後に振り返りシートの記入、提出を求める。適宜、グループディスカッション、フィールドワーク、ロールプレイなどを取り入れながら、主体的に取り組んで理解を深め、多様な意見や考えを共有する。 テーマについて調べたことをレポートにまとめ、Active Portalの「レポート機能」を使ってWord形式で提出する。 Microsoft Formsを使って、適宜アンケートを実施する。 毎回授業終了後、スライド資料をTeamsに掲載する。						

到達目標

1	現代社会における様々な生活課題を列挙し、説明することができる。
2	現代社会における様々な生活課題について討議し、自分の考えを整理し表現することができる。
3	現代社会における様々な生活課題を理解し、説明することができる。
4	ライフステージにおける様々な生活課題を理解し、説明することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業プリント、レポート課題	25
到達目標②	グループディスカッションへの参加態度、振り返りシート、授業プリント	25
到達目標③	定期試験	25
到達目標④	定期試験	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

火曜日 9:00~10:30 1号館 3階 研究室3
a-kouga@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

自分で考える、分かることを増やす、他人の意見を聞く、自分の考えを述べることを大切にします。
日頃からニュースや新聞等をおとして社会の動きに関心をもち、幅広い見方・考え方を身につけて、将来の目標に向かって主体的に行動する力、自律性を身につけましょう。

課題に対するフィードバック

振り返りシートにはコメントをつけて返却する。また、その中で出された意見や感想、質問などは個別に回答して対応するとともに、次回の授業で取り上げ解説をおこなう。
レポート課題は、ルーブリックにより評価して返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 生活経営の意義（1） ～変化する社会と生活のかかわり～	予習：シラバスに目をとおり、授業内容を理解しておく 復習：産業構造の変化と生活のかかわりについて要点をまとめ、定期試験に備える	A
第2回	生活経営の意義（2） ～生活の変遷～	予習：事前資料に目をとおり、授業内容を理解しておく 復習：日本経済の変化とともに、家族や世帯のあり方、働き方がどのように変化したかまとめ、定期試験に備える	A
第3回	変わる日本の社会と家族関係（1） ～変化する世帯の姿と家族の役割～	予習：家族の家庭内の役割（家事分担）についてまとめておく 復習：男女で異なる働き方、性別役割分業の実態などについてまとめ、定期試験に備える	A、B
第4回	変わる日本の社会と家族関係（2） ～現代の子どもと高齢者を取り巻く環境～	予習：新聞やテレビ等で取り上げられた児童虐待について調べ、まとめておく 復習：児童虐待、子供の貧困、高齢者を取り巻く環境、介護の実態についてまとめ、定期試験に備える	A
第5回	変わる日本の社会と家族関係（3） ～現代の結婚と未婚化・晩婚化が及ぼす影響～	予習：事前資料に目をとおり、結婚に対して希望する条件をまとめておく 復習：社会の変化に伴う結婚の変化、未婚化や晩婚化が社会に与える影響についてまとめ、定期試験に備える	A
第6回	ライフステージと生活設計（1） ～各ライフステージにおける生活課題～	予習：短大卒業後から90歳までの間のライフイベントについてまとめておく 復習：ライフステージにおける生活課題についてまとめ、定期試験に備える	A
第7回	ライフステージと生活設計（2） ～将来設計立案～	予習：将来設計の立案に向け、自分の考えをまとめておく 復習：夢や目標の実現のために準備できることをまとめ、定期試験に備える	A、B
第8回	ライフステージと消費生活（1） ～経済的に自立する～	予習：一人暮らしをする時の条件を考えておく 復習：収入や生活費の内訳、生涯を見通した経済計画の重要性についてまとめ、定期試験に備える	A、B
第9回	ライフステージと消費生活（2） ～現代の消費生活のあり方～	予習：キャッシュレス決済の種類について調べ、まとめておく 復習：消費者信用の適切な活用についてまとめ、定期試験に備える	A、D
第10回	ライフステージと消費生活（3） ～消費者行動を考える～	予習：ふだんの消費行動についてまとめておく 復習：自分の消費行動が及ぼす社会への影響を認識し、適切な意思決定の重要性についてまとめ、定期試験に備える	A
第11回	ライフステージと消費生活（4） ～働くということ～	予習：仕事を選ぶ時、大切にすべき条件について考えておく 復習：職業労働の種類とその特徴についてまとめ、定期試験に備える	A
第12回	ライフステージと食生活管理(1) ～変わりつつある食生活～	予習：事前資料に目をとおり、最近の自分の食生活を振り返り、問題点をまとめておく 復習：現代の食生活の特徴、現代の食生活の問題点、日本型食生活の見直しについてまとめ、定期試験に備える	A
第13回	ライフステージと食生活管理(2) ～これからの食生活のあり方～	予習：食料自給率について調べ、まとめておく 復習：食料自給率の低下、地産地消、消費期限と賞味期限、食品ロスについてまとめ、定期試験に備える	A
第14回	ライフステージと保育・少子化問題	予習：男性の育児休業についてまとめておく 復習：少子化がもたらす影響、男性の育児参加とこれからの子育てについてまとめ、定期試験に備える	A
第15回	ライフステージと福祉・高齢化問題 半年間の学習内容の復習とまとめ	予習：高齢者の生活について調べ、まとめておく 復習：高齢化がもたらす影響と対応についてまとめて、定期試験に備える 半年間の学習内容を復習し定期試験に備える	A
	定期試験		

人間関係論

更新日：2024/03/01 14:46:31

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C100200	授業コード		
担当教員	永井 靖人							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	4F224	授業形態	講義	期待される学習成果	4			
コース別 必修・選択必修等	卒業必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	対人関係に関する社会心理学の研究から、よりよい人間関係を築くための考え方や集団の特徴について学ぶ。
方法	授業内容の説明の前後に、話し合い、調べ学習、Office365（Forms, Whiteboard, Teams）を用いた振り返りや知識の共有などのグループワーク、アクティブラーニングを行う。

到達目標

1	対人関係に関する課題について深く考え、意見を表明することができる
2	自己の対人経験を社会心理学に基づいて考察することができる
3	他者と協働してよりよい対人関係を築くための行動指針を立てることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	討論, 発表の内容, 参加度	33
到達目標②	レポート, ポートフォリオ	33
到達目標③	受講態度, 課題の遂行状況	34
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし。随時資料を配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし。随時資料を配布する		

オープンな教育リソース

日本心理学会『心理学って何だろう』https://psych.or.jp/interest/lecture_hs/

オフィスアワー

月・水曜日12:20~12:50 2号館2階研究室2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

卒業必修であることを自覚してほしい。ポートフォリオは丁寧に作成する、Office365を活用する、積極的に話し合うなど、誠実な態度で授業に臨むこと。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対して、Teamsで対応する。

授業計画

授業回	学修計画		アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	
第1回	オリエンテーション 集団の性質	予習：シラバスを読んで、どのようなことを学ぶのかを確認する 復習：学んだことを深めるための調べ学習、経験の振り返り	A、B

第2回	自己意識	予習：基礎理論に関する動画を視聴する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第3回	性格（エゴグラムと交流分析）	予習：性格に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第4回	劣等感	予習：劣等感・有能感に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第5回	親和欲求	予習：親和欲求に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第6回	恋愛の種類	予習：恋愛への依存に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第7回	価値観（価値の種類とSVR理論）	予習：基礎理論に関する動画を視聴する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第8回	リーダーシップ	予習：リーダーシップに関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第9回	説得	予習：説得に対する抵抗感に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第10回	同調，リスクシフト	予習：同調欲求に関する心理テストに回答する類似性に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第11回	援助行動	予習：援助要請スタイルに関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第12回	攻撃行動	予習：攻撃欲求に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第13回	犯罪行動	予習：基礎理論に関する動画を視聴する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第14回	幸福感	予習：主観的幸福感に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第15回	まとめ	予習：これまでの疑問点を整理する 復習：レポート作成に向けて，要点を整理する	A、B
	実施せず		

公衆衛生学

更新日：2024/01/29 10:11:02

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C110100	授業コード	
担当教員	鷺野 嘉映						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5F223	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	食物栄養専攻 卒業必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	行政書士、薬剤師：行政書士事務所所長としての経験を生かし、公衆衛生学の理解において必須の医療・環境・行政関連法規について講義する。また、病院薬剤師（精神科・内科）としての経験を生かし、精神保健福祉や生活習慣病予防に関連する事項について実例を挙げて講義する。					

授業概要

内容	栄養士は、ヒトが生を受けて死に至るまでの全てのステージにおいて、社会との関連において疾病の予防、健康の保持・増進に寄与することが望まれる。本科目では、保健統計や健康の概念を知るとともに、身の回りの生活環境による健康影響、およびこれらに関連する関係法規を学ぶことで、栄養士として必須の公衆衛生的な知識を習得する。
方法	テキストの予習範囲を中心に参考書等の資料を用いて講義を行う。 各授業においては、授業内容に関して、高校までの学習内容に基づき常にQ&Aにより授業を進行する。なお、回答においては、「分かりません」や安易な回答は認めません。 学生は、毎時間、保健衛生に関するトピックスについて、順に発表・ディスカッションを行う。

到達目標

1	健康・疾病・障害の概念を説明できる。
2	現在の健康に関する実態を説明できる。
3	健康の維持・増進のための方策を説明できる。
4	健康な社会生活を実践する方策を説明できる。
5	授業を通して疑問に思った事項を積極的に質問をして、計画的に自主学習ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	20
到達目標②	定期試験	20
到達目標③	定期試験	20
到達目標④	定期試験	20
到達目標⑤	授業態度	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	イラスト 社会・環境と健康 一公衆衛生学一	東京数学社	岸本満 他

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月曜日 12:10~12:55 研究室2-2 (生活文化研究室)

提示したオフィスアワーでの対応に加えて、メールwashino@mizuho-c.ac.jp (#を@に変更) で事前に予約することで適宜対応します。

学生へのメッセージ

公衆衛生学は生きた学問です。常に新聞やTV等のニュースにふれ、多くの情報から意味のある情報を得ることに心がけてください。

毎回予習復習に努めて、講義中での積極的な質問を期待します。

授業時における他の学生の授業を妨げる態度はマイナス評価となるので注意してください。

授業中に突っ伏して寝る等、体調不良が考えられる場合は、保健室での休養をお願いします。

授業の進行状況によっては、シラバスの内容に変更が生じる場合がありますが、その際は事前に通知します。

課題に対するフィードバック

授業時間中に口頭で多くの質問を課し、意見交換を行うとともに、講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	公衆衛生とは ヘルスサービスとヘルスプロモーション	予習：テキストの第1章を通読し、自らの健康について考える。 復習：健康の概念と社会との関わりを確認し、授業の理解を深める。	A
第2回	医療・介護の保障制度	予習：テキストの第7章-1から-4/を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：家族や自分自身の社会保障制度を確認し、授業の理解に努める。	A,D
第3回	健康状態・疾病の測定と評価Ⅰ (疫学の方法)	予習：テキストの第4章を通読し、疫学の方法等につき確認する。 復習：疫学の有用性について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第4回	健康状態・疾病の測定と評価Ⅱ (スクリーニング)	予習：テキストの第4章を通読し、疫学の方法等につき確認する。 復習：身近な疫学調査について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第5回	健康に関わる統計指標Ⅰ (人口動態統計、人口動態統計)	予習：テキストの第3章を通読し、HP等で日本・世界の人口問題を確認する。 復習：人口統計について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第6回	健康に関わる統計指標Ⅱ (生命表、健康状態と受療状況)	予習：テキストの第3章を通読し、自らの受療状況について確認する。 復習：現在の国内外の健康状態の現状と問題点について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第7回	感染症とその予防	予習：テキストの第6章の該当箇所を通読し、身の回りの感染症の問題について確認する。 復習：感染症の現状と関連法規を確認し、授業の理解を深める。	A,D
第8回	精神保健の現状と保健対策	予習：テキストの第6章の該当箇所を通読する。 復習：精神保健に関わる法律、精神保健福祉対策について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第9回	母子保健の現状と保健対策	予習：テキストの第7章の該当箇所を通読する。 復習：母子保健の現状と関連法規を確認し、授業の理解を深める。	A,D
第10回	学校保健の現状と保健対策	予習：テキストの第7章の該当箇所を通読する。 復習：学校保健における養護教諭の関わりを確認し、授業の理解を深める。	A,D
第11回	成人保健・高齢者保健の現状と保健対策	予習：テキストの第6章を通読する。 復習：生活習慣病、難病の現状と関連法規を確認し、授業の理解を深める。	A,D
第12回	ライフスタイルと健康	予習：テキストの第5章を通読する。 復習：生活習慣の現状と対策を確認し、授業の理解を深める。	A,D
第13回	産業保健の現状と保健対策	予習：テキストの第7章の該当箇所を通読する。 復習：労働者の健康問題の現状と関連法規を確認し、授業の理解を深める。	A,D
第14回	環境保健Ⅰ：地球環境問題	予習：テキストの第2章を通読し、HP等で地球環境問題を確認する。 復習：現在の地球環境問題を産業保健との関連も含めて確認し、授業の理解を深める。	A,D
第15回	環境保健Ⅱ：住環境・廃棄物問題	予習：テキストの第2章を通読し、自らの廃棄物の現状を確認する。 復習：環境の健康に及ぼす影響について確認し、授業の理解を深める。	A,D
	定期試験		

社会福祉論

更新日：2024/02/21 16:23:46

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C110200	授業コード	
担当教員	長谷中 崇志						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	8F223	授業形態	講義	期待される学習成果	8		
コース別 必修・選択必修等	選択, 栄養士必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	本講義では、社会福祉にかかわる専門職として、様々な生活上の困難（生活課題）に直面している人やその家族の生活支援に携わる際に必要となる社会福祉の基本的視点および知識を身につけることを目的としている。前半では高齢者福祉、子ども家庭福祉、障害者福祉など社会福祉の分野（「各論」）を、後半では社会福祉の概念や歴史、法制度、方法などの「総論」を取り上げ、現代社会における社会福祉の仕組みや意義について事例にふれながら学ぶ。社会福祉は、すべての人の幸せ（well-being for all）の実現を志向している。これからの社会福祉のあり方について、食の観点から一人ひとりに合った「幸せ」を支える栄養士の役割と関連付けながらともに考えていく。						
方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワークやグループワーク、DVDの視聴を取り入れる。						

到達目標

1	現代社会の特徴を理解したうえで、社会福祉に関する基本的な視点・知識を説明できる。
2	社会福祉の理念や法制度について理解し、説明できる。
3	社会福祉の援助方法について理解し、説明できる。
4	栄養士として人の暮らしを支える「食」の役割や他の専門職との協働・連携について説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題レポート・小テスト	40
到達目標②	小テスト	20
到達目標③	小テスト	20
到達目標④	課題レポート	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	レジュメを配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜授業の中で紹介する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業の前後（研究室で対応する）

学生へのメッセージ

「双方向的」な講義にするために、随時、学生に発言を求めたり、毎回配布するリアクションペーパーに質問・要望等を記入してもらおう。積極的に参加し、発言することを期待している。また、テレビ等をみたり新聞を読む際に、社会福祉・社会保障の動向に関心を持ち、それらの事象について複眼的視点から考えることを大切にしてほしい。

課題に対するフィードバック

講義の冒頭において回答するとともに、毎回の講義の最後に質問等の時間を設ける。ペアワークやグループワークでは適宜、そのねらいや解説を行うことにより学びを深める。

授業計画

授業回	学修計画

	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 栄養士が社会福祉を学ぶ意義	予習：シラバスを確認し、授業の概要などを理解しておく。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第2回	現代の地域社会における生活課題①社会的孤立・孤独	予習：孤独・孤立対策推進法について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, C
第3回	現代の地域社会における生活課題②生活困窮（貧困）	予習：日本の相対的貧困率について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第4回	高齢者福祉①高齢者を取り巻く環境	予習：高齢化率の推移について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第5回	高齢者福祉②認知症と介護問題	予習：高齢者福祉施設について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第6回	子ども家庭福祉①理念、制度	予習：子どもの権利条約について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく	A, C
第7回	子ども家庭福祉②児童虐待	予習：児童虐待の種類について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, B
第8回	障害者福祉①障害の概念	予習：障害の3種別について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, C
第9回	障害者福祉②支援の実際	予習：障害者権利条約について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, B
第10回	低所得者福祉	予習：生活保護制度について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第11回	社会福祉の歴史の変遷と法制度	予習：福祉三法・六法について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第12回	社会福祉の実施機関	予習：福祉事務所、社会福祉協議会について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめておく。	A
第13回	地域福祉の推進と社会資源	予習：ソーシャル・インクルージョンについて調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, B
第14回	社会福祉とは何か	予習：日本国憲法第13条及び第25条について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第15回	これからの社会福祉	予習：これまで学んだ授業内容を復習する。 復習：栄養士として人の暮らしを支える「食」の役割や他の専門職との協働・連携をまとめる。	A
	実施せず		

解剖・生理学

更新日：2024/01/31 08:33:46

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C120100	授業コード		
担当教員	多田井 幸揮							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5F212	授業形態	講義	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	食物栄養専攻 卒業必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	栄養士に必要な知識である人体の構造や仕組み、働きについて解説する。
方法	教科書、プリント、プロジェクター等を用いた講義

到達目標

1	細胞が集合し、人体が構成されていることを理解している。
2	人体の各器官系の構造や特徴について理解している。
3	人体の正常な働きを維持している仕組みについて理解している。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	20
到達目標②	定期試験	40
到達目標③	定期試験	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	栄養科学イラストレイテッド解剖生理学人体の構造と機能	羊土社	志村二三夫、岡純、山田和彦

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

火曜日 8:30~8:50 1号館3階 非常勤講師室
授業開始前および終了後も対応します。

学生へのメッセージ

理解度の確認及び知識の定着を図るために、各テーマ終了後に確認問題を提示します。
講義内容を毎回復習し、講義に臨むようにしてください。

課題に対するフィードバック

講義内で実施した問題に関しては講義内で解説します。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	細胞と組織	予習：テキストP32~48を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
第2回	消化器系	予習：テキストP49~72を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	

第3回	血液・リンパ・凝固系	予習：テキストP73～89を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
第4回	循環器系	予習：テキストP90～110を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
第5回	呼吸器系	予習：テキストP111～125を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
第6回	腎・尿路系	予習：テキストP126～138を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
第7回	生殖器系	予習：テキストP139～147を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
第8回	骨格系	予習：テキストP148～159を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
第9回	筋肉系と運動機能	予習：テキストP160～172を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
第10回	内分泌系	予習：テキストP173～190を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
第11回	神経系	予習：テキストP191～215を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
第12回	感覚器系	予習：テキストP216～224を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
第13回	免疫系	予習：テキストP225～233を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
第14回	皮膚組織・体温調節	予習：テキストP234～241を読んでおく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
第15回	まとめ	予習：配布プリントを再度見直しておく。 復習：配布プリント及びテキストを見直しておく。	
	定期試験		

解剖・生理学実験

更新日：2024/02/21 22:24:07

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C120200	授業コード	
担当教員	近藤 一直						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6F212	授業形態	実験	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	人体構造とその機能をより深く理解するため、可能な部位を自分の目で確認する。人での血圧測定を行い、バイタルサインについて理解するほか、臓器模型の肉眼的観察を行う。						
方法	人体解剖模型標本、血圧計、パルスオキシメーターを用いる。クラス全体で学びあう。						

到達目標

1	生体観察および人体模型・標本の観察を通じて人体の構造と機能を理解する。						
2	人体の生理機能について理解する。						
3	人体の構造と機能について、栄養や食物摂取との関係について理解する。						
4	栄養士として必要な専門的知識、技能を身につける。						

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート・定期試験	25
到達目標②	レポート・定期試験	25
到達目標③	レポート・定期試験	25
到達目標④	レポート・定期試験	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	ぜんぶわかる人体解剖図—系統別・部位別にわかりやすくビジュアル解説	成美堂出版	坂井建雄・橋本尚詞

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	図説 解剖生理学	東京教学社	磯野日出夫・瀬木和子 他
2	薬の基本とはたらきがわかる薬理学	羊土社	柳田俊彦 編

オープンな教育リソース

オフィスアワー

pteacher-tandai@mizuho-c.ac.jpにて随時。

学生へのメッセージ

「食」を科学的に理解し、栄養士としての職務を合理的に果たすことが諸君の目標。そのために必要な生命科学の基盤を深く理解する。具体的には、学科目としての「解剖・生理学」で履修する内容を、作業を通じて実感し体得する。

課題に対するフィードバック

解剖生理学の講義において学ぶ理論をこの実習を通じて実感し、理解を深める。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	解剖・生理学概論	予習：「聴診器の使い方」インターネット検索、復習：講義プリント	D

第2回	循環器実習（血管観察）	予習・復習：「図説 解剖生理学」pp73～74（7.1体循環，肺循環，胎児循環；7.2血管の構造と機能）、pp77～80（7.4循環）	D
第3回	循環器実習（血圧測定）	予習・復習：「図説 解剖生理学」pp75～77（7.3心臓）	D
第4回	代謝実習（糖代謝）	予習・復習：「図説 解剖生理学」pp45～47（5.1内分泌系と人体の恒常性）、p52（5.2内分泌腺の種類と生理作用(5)膵臓の内分泌）	D
第5回	代謝実習（アルコール代謝）	予習・復習：「図説 解剖生理学」pp63～65（6.1消化器系の構造(7)肝臓と胆嚢）、pp71～72（6.2消化の生理(4)肝臓の機能）	D
第6回	消化器実習（胃腸・肝臓の観察）	予習・復習：「図説 解剖生理学」pp57～72（6.消化器系）	D
第7回	感覚器実習（皮膚感覚）	予習・復習：「図説 解剖生理学」pp41～42（4.2体性感覚(1)皮膚および粘膜の表面感覚）	D
第8回	感覚器実習（深部感覚・視覚）	予習・復習：「図説 解剖生理学」pp37～38（4.1特殊感覚(1)視覚）、pp42～43（4.2体性感覚(2)深部感覚）	D
第9回	骨学実習（骨格標本）	予習・復習：「図説 解剖生理学」pp11～18（2.1骨格系）	D
第10回	筋肉実習	予習・復習：「図説 解剖生理学」pp18～23（2.2筋系）	D
第11回	血液実習	予習・復習：「図説 解剖生理学」pp81～84（7.循環器系(8)血液）	D
第12回	呼吸器実習	予習・復習：「図説 解剖生理学」pp85～96（8.呼吸器系）	D
第13回	泌尿器実習	予習・復習：「図説 解剖生理学」pp97～102（9.泌尿器系）	D
第14回	組織実習	予習・復習：「図説 解剖生理学」pp8～10（1.2組織の種類と機能）	
第15回	実習まとめ	予習・復習：本コースで使用したすべての配布資料・レポート	
	定期試験		

生化学

更新日：2024/02/21 13:22:02

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C120300	授業コード	
担当教員	鷺野 嘉映						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1F211	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	食物栄養専攻 卒業必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	外資系企業の新薬開発センター（中央研究所）において、薬物動態を含む研究に従事					

授業概要

内容	ヒトの生体機能は、細胞の中で行われる代謝によって維持されている。この講義では、生体の構造と機能を原子や分子、細胞レベルで理解し、生体内でおこなっている代謝が化学的に説明できることを目的とする。
方法	教科書もしくは資料に基づき講義を行う。 各授業においては、授業内容に関して、高校までの学習内容に基づき常にQ&Aにより授業を進行する。なお、回答においては、「分かりません」や安易な回答は認めません。

到達目標

1	細胞・組織の構造と機能を説明できる。
2	糖質、脂質、タンパク質の構造と機能を説明できる。
3	生体内の化学反応に関わる酵素の性質・機能を説明できる。
4	主要栄養素の代謝機構が説明できる。
5	授業を通して疑問に思った事項を積極的に質問をして、計画的に自主学習ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	20
到達目標②	定期試験	20
到達目標③	定期試験	20
到達目標④	定期試験	20
到達目標⑤	授業態度	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	生化学（栄養科学イラストレイテッド）	羊土社	園田勝

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月曜日 12:10~12:55 研究室2-2

提示したオフィスアワーでの対応に加えて、メールwashino@mizuho-c.ac.jp（#を@に変更）で事前に予約することで適宜対応します。

学生へのメッセージ

毎回予習復習に努めて、講義中での積極的な質問を期待します。

授業時における他の学生の授業を妨げる態度はマイナス評価となるので注意してください。

授業中に突っ伏して寝る等、体調不良が考えられる場合は、保健室での休養をお願いします。

授業の進行状況によっては、シラバスの内容に変更が生じる場合がありますが、その際は事前に通知します。

課題に対するフィードバック

授業時間中に口頭で多くの質問を課し、意見交換を行うとともに、講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	細胞の構造	予習：テキストの該当箇所（第1章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第2回	糖質の種類と性質	予習：テキストの該当箇所（第2章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第3回	脂質の種類と性質	予習：テキストの該当箇所（第3章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第4回	タンパク質・アミノ酸の種類と性質	予習：テキストの該当箇所（第4章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第5回	酵素の種類と性質	予習：テキストの該当箇所（第5章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第6回	核酸の種類と性質	予習：テキストの該当箇所（第6章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第7回	ビタミンとミネラル	予習：テキストの該当箇所（第7、8章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第8回	糖質の代謝	予習：テキストの該当箇所（第9章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第9回	脂質の代謝	予習：テキストの該当箇所（第10章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第10回	タンパク質の分解とアミノ酸代謝	予習：テキストの該当箇所（第11章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第11回	生体エネルギー学	予習：テキストの該当箇所（第12、13章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第12回	ヌクレオチドの代謝	予習：テキストの該当箇所（第14章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第13回	遺伝子発現とその制御	予習：テキストの該当箇所（第15章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第14回	個体の調節機構とホメオスタシス	予習：テキストの該当箇所（第16章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第15回	生体防御機構	予習：テキストの該当箇所（第17章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
	定期試験		

生化学実験

更新日：2024/02/21 13:29:05

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C120400	授業コード		
担当教員	鷺野 嘉映							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	6F212	授業形態	実験	期待される学習成果	6			
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	45					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	外資系企業の新薬開発センター（中央研究所）において、薬物動態を含む研究に従事						

授業概要

内容	安全に実験を進めるための心得を理解し、器具の正しい操作法やレポートの作成方法など、実験の基本姿勢を身につけることができる。また、講義での「学び」を、身近な物や現象を通して、グループ単位の活動による「学び合い」により、理解を深めることができる。
方法	始めに実験内容の講義を行う。 グループで協力して実験に取り組み、データを共有した上で、個人で実験レポートを作成する。

到達目標

1	器具を正しく操作できる。
2	実験結果をレポートにまとめることができる。
3	安全に実験するための常識を身につけることができる。
4	テーマの目的と実験の原理や方法を正しく理解できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ピペットワークなどの実技テスト	20
到達目標②	レポートの報告内容（目的、方法、結果、考察）	40
到達目標③	安全に実験するための常識テスト（小テスト）	10
到達目標④	実験内容確認テスト	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない。事前に、手引書（テキスト）を配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	実験を安全に行うために	化学同人	化学同人編集部
2	続 実験を安全に安全に行うために	化学同人	化学同人編集部

オープンな教育リソース

NHK高校講座 化学基礎 (<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/kagakukiso/>)

オフィスアワー

木曜日 12:15～12:55 生活文化研究室

提示したオフィスアワーでの対応に加えて、メールwashino@mizuho-c.ac.jp（#を@に変更）で事前に予約することで適宜対応します。

学生へのメッセージ

本実験は2コマ続きで実施します。（1.5コマ/1回を2.0コマ/1回で授業実施し、全13回の授業とする。）4回以上の欠席者については、単位認定対象者と認めません。

実験は安全であることが必須条件です。自者・他者に危険が及ぶ行為が認められる場合は、退席を命じることがあります。

授業時における他の学生の授業を妨げる態度はマイナス評価となるので注意してください。

授業の進行状況によっては、シラバスの内容に変更が生じる場合がありますが、その際は事前に通知します。

課題に対するフィードバック

実験レポートは実験ルーブリックに従って評価し、添削した後、返却します。再提出を求めることがあります。

また、身支度（実験衣着用、長髪への対応等）が遵守されない場合、および遅刻、早退については、当日のレポート評価に反映させます。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	生化学実験に必要な科学的知識	予習：生化学で学習した内容を復習しておく。 復習：まとめを作成する。	A
第2回	実験の流れについて確認する（実験とは） プロジェクターを用いた講義	予習：手引書を熟読する。 復習：手引書に関連する高校までの化学・生物お内容を復習する。	A
第3回	安全教育（基本的注意、危険な試薬、実験器具について） プロジェクターを用いた講義	予習：安全に実験するために必要なことを調べておく。 復習：器具の名前を覚え、実験に備える。	A
第4回	基本操作1（加熱、冷却、攪拌、振盪、ろ過、洗浄、乾燥など） プロジェクターを用いた講義	予習：化学実験と調理の類似点と相違点を調べておく。 復習：化学実験の基本操作を操作ごとにまとめておく。	A
第5回	基本操作2（試薬の取り扱い、容量器の取り扱いなどの操作） プロジェクターを用いた講義	予習：化学操作とその操作に必要な器具をまとめておく。 復習：化学操作器具を扱うポイントをまとめておく。	A
第6回	pH測定（pHメーターとpH試験紙による測定の比較） プロジェクターを用いた講義と実験	予習：pHとは何か、簡潔にまとめておく。今回のテーマに関連するNHK高校講座（化学基礎）の関連番組を視聴しておく。 復習：pHについて気づいた事をまとめておく。	B
第7回	糖の還元性（フェーリング反応による比色定量） プロジェクターを用いた講義と実験	予習：グルコースの環状構造と直鎖構造を表現しておく。今回のテーマに関連するNHK高校講座（化学基礎）の関連番組を視聴しておく。 復習：糖の構造と還元性についてまとめておく。	B
第8回	緩衝液 プロジェクターを用いた講義と実験	予習：緩衝作用と緩衝液について調べ、まとめておく。今回のテーマに関連するNHK高校講座（化学基礎）の関連番組を視聴しておく。 復習：緩衝液の緩衝能についてまとめておく。	B
第9回	アミノ酸の定量（ニンヒドリン反応による比色定量） プロジェクターを用いた講義と実験	予習：蛋白質を構成するアミノ酸の構造を書き出しておく。今回のテーマに関連するNHK高校講座（化学基礎）の関連番組を視聴しておく。 復習：アミノ酸のニンヒドリン反応をまとめておく。	B
第10回	牛乳中のカゼインの単離 プロジェクターを用いた講義と実験	予習：牛乳中の成分とその組成について調べておく。今回のテーマに関連するNHK高校講座（化学基礎）の関連番組を視聴しておく。 復習：主な蛋白質とその等電点の関係をまとめておく。	B
第11回	牛乳中のカゼインと乳清蛋白質の定量（フォーリー・ローリー法による比色定量） プロジェクターを用いた講義と実験	予習：検量線の作成方法、蛋白質の定量法を調べておく。今回のテーマに関連するNHK高校講座（化学基礎）の関連番組を視聴しておく。 復習：検量線の作成と活用における留意点をまとめておく。	B
第12回	分子模型（化学反応、環状構造、化学結合の理解） プロジェクターを用いた講義と実験	予習：アミノ酸の構造と官能基について調べておく。原子の構造とサイズについて調べておく。今回のテーマに関連するNHK高校講座（化学基礎）の関連番組を視聴しておく。 復習：原子模型を組んで、わかったことをまとめておく。	B
第13回	エステル化反応 プロジェクターを用いた講義と実験	予習：エステル化反応について、どのような反応か調べておく。エステルを持つ化合物の特長を調べておく。今回のテーマに関連するNHK高校講座（化学基礎）の関連番組を視聴しておく。 復習：エステルと食品成分の関係をまとめておく。	B
第14回	ワークテストと小テスト（化学的な知識）および解説	予習：実験してきたテーマに関する正しい実験操作法をまとめておく 復習：誤っていた操作法を正す	
第15回	実験内容確認テストおよび解説	予習：各実験テーマの目的、方法、結果をまとめておく 復習：誤った認識であったことがあれば正しておく	
	定期試験		

運動生理学

更新日：2024/01/27 11:12:24

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C120500	授業コード		
担当教員	山根 基							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5F223	授業形態	講義	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	健康維持や体力増進には運動の効果が大きいといわれている。反面、運動の弊害も取り沙汰され、運動に関係する身体の構造、機能や能力について理解する重要性は増している。また栄養士にとって運動生理学の知識は必要不可欠であり、栄養指導の際にはエネルギーの摂取と消費の両面からの検討が求められる。本講では、運動に関係する基本的な生理学に触れ、栄養指導の際にも役立つ知識を学ぶ。
方法	講義形式で行う（パワーポイント使用）。

到達目標

1	安静時と運動時の身体機能の違いを知り、運動が心身に及ぼす影響について理解することができる
2	日常生活における身体活動を通して運動生理学の基本を理解することができる
3	健康づくりのための身体活動・運動の意義を運動生理学的な視点から理解し、栄養学を含めた健康教育に生かすことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	50
到達目標②	定期試験	30
到達目標③	定期試験	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	『イラスト運動生理学』	東京教学社	朝山正己、彼末一之、三木健寿（編著）

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

木曜日13:00~14:30 場所:別館1階体育準備室

学生へのメッセージ

栄養に関する知識に加えて運動に関する知識を得ることで、健康づくりに対してより役立つ指導者をめざしてほしい。

課題に対するフィードバック

授業内の課題について、授業内で発表し、情報や意見の交換をおこなう。
毎回の授業冒頭において、前回授業内容の振り返りを行い、学生の理解度を確認してから次の授業内容を進める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	運動と健康、体力 パワーポイント使用	予習：健康の定義について調べる 復習：健康と体力の捉え方について自分の考えをまとめる	A

第2回	筋の構造と分類 パワーポイント使用	予習：筋の種類について調べる 復習：筋の構造と分類についてまとめる	A
第3回	筋の収縮のしくみ パワーポイント使用	予習：からだを動かす筋の役割について調べる 復習：筋の収縮のしくみについてまとめる	A
第4回	筋が収縮するためのエネルギー供給機構 パワーポイント使用	予習：減量に効果的な運動について調べる 復習：筋収縮のためのエネルギー供給機構についてまとめる	A
第5回	神経系のしくみ パワーポイント使用	予習：神経系の構成について調べる 復習：神経系のしくみについてまとめる	A
第6回	運動神経と感覚神経、反射と運動の調節 パワーポイント使用	予習：反応のすばやさの原因について考える 復習：運動神経と感覚神経、反射についてまとめる	A
第7回	自律神経（交感神経と副交感神経の二重で拮抗的な支配） パワーポイント使用	予習：自律神経について調べる 復習：交感神経と副交感神経の働きについてまとめる	A
第8回	呼吸器の構造と呼吸運動 パワーポイント使用	予習：呼吸のしくみを調べる 復習：呼吸器の構造と呼吸運動についてまとめる	A
第9回	酸素の運搬と呼吸の調節 パワーポイント使用	予習：酸素摂取量について調べる 復習：酸素の運搬と呼吸の調節についてまとめる	A
第10回	有酸素運動と無酸素運動 パワーポイント使用	予習：運動による脂肪燃焼効果について調べる 復習：有酸素運動と無酸素運動の違いについてまとめる	A
第11回	循環の仕組みと心臓の働き パワーポイント使用	予習：心臓と血管の役割について調べる 復習：血液循環の仕組みと心臓の働きについてまとめる	A
第12回	運動時の心拍数、心拍出量の関係 パワーポイント使用	予習：安静時と運動時の心拍数を調べる 復習：運動時の心拍数、心拍出量の関係についてまとめる	A
第13回	循環の調節 パワーポイント使用	予習：血圧について調べる 復習：循環の調節についてまとめる	A
第14回	運動とホルモン ホルモンによる身体の調節、各種ホルモンの役割 パワーポイント使用	予習：骨粗鬆症について調べる 復習：運動とホルモン分泌についてまとめる	A
第15回	まとめ	予習：1～14回までの講義内容をまとめる 復習：試験範囲の内容を復習する	A
	定期試験		

栄養生理学

更新日：2024/02/21 07:36:05

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C120600	授業コード		
担当教員	多田井 幸揮							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5F212	授業形態	講義	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	消化・吸収された栄養素が生体内においてどのように代謝され、生命の維持に携わっているのかに関して解説する。 また、栄養と疾患を関連付けて解説する。
方法	教科書、プリント、プロジェクター等を用いた講義

到達目標

1	栄養素の消化・吸収に関して理解する。
2	生体内における栄養素の代謝に関して理解する。
3	各器官系の栄養学的役割に関して理解する。
4	栄養素と疾患予防との関連に関して知識を深める。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	30
到達目標②	定期試験	30
到達目標③	定期試験	30
到達目標④	定期試験	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	配布プリントを使用		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

火曜日 8:30~8:50 1号館3階 非常勤講師室
授業開始前および終了後も対応します。

学生へのメッセージ

理解度の確認及び知識の定着を図るために、各テーマ終了後に確認問題を実施します。
講義内容を毎回復習し、講義に臨むようにしてください。

課題に対するフィードバック

講義内で実施した確認問題に関しては講義内で解説します。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	栄養素の代謝と栄養①糖質	予習：「糖質」について調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	

第2回	栄養素の代謝と栄養②脂質	予習：「脂質」について調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
第3回	栄養素の代謝と栄養③たんぱく質	予習：「たんぱく質」について調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
第4回	栄養素の代謝と栄養④ビタミン	予習：「ビタミン」について調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
第5回	栄養素の代謝と栄養⑤ミネラル	予習：「ミネラル」について調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
第6回	栄養素の代謝と栄養⑥非栄養素	予習：「非栄養素」について調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
第7回	消化器系と栄養①：消化管の構造および栄養素の消化・吸収	予習：「消化器系」を調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
第8回	消化器系と栄養②：消化腺の機能	予習：提示したキーワードについて調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
第9回	脂肪組織と栄養	予習：「脂肪組織」について調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
第10回	筋肉・運動と栄養	予習：「筋肉」について調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
第11回	骨と栄養	予習：「骨」について調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
第12回	免疫・内分泌系と栄養	予習：「免疫・内分泌」について調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
第13回	栄養素による疾患予防①：生活習慣病とメタボリックシンドローム	予習：「生活習慣病」について調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
第14回	栄養素による疾患予防②：各疾患と栄養	予習：提示したキーワードについて調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
第15回	まとめ	予習：授業内で提示したテーマについて調べておく。 復習：配布プリントを見直しておく。	
	定期試験		

食品学総論

更新日：2024/02/21 11:21:30

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C130100	授業コード	
担当教員	横山 洋子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5F211	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	私たちが健康な食生活を営むためには、食品についての正確な知識を身につける必要がある。この講義では、食品に含まれている成分の種類を知り、その成分の化学的・物理的性質や食品の機能についての専門的知識を修得する。						
方法	<ul style="list-style-type: none">教科書に基づいてパワーポイントを用いて講義を行う。事前学習用の講義資料をTeamsに掲載するので、授業前までに確認する。各回の講義の最後にMicrosoft Forms を使って小テストおよびリアクションペーパーの提出を行う。レポートは、Microsoft Teamsの「課題」機能を使って提出する。						

到達目標

1	食品学総論の知識を身につけることができる。
2	各回のポイントを理解することができる。
3	学修した内容についてまとめることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	50
到達目標②	小テスト・リアクションペーパー	30
到達目標③	レポート	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「イラスト食品学総論 第9版」	東京教学社	江藤義春他7名

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日 9:30~11:30

2号館1階「研究室2-1」

メールアドレス：y-yokoyama@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

- 主体的に取り組むことを望みます。
- わからないことはいつでも質問してください。

課題に対するフィードバック

- 小テストおよびリアクションペーパーは、採点后、次回の授業で解説する。
- レポートは添削し、コメントをつけるなどして返却する。

授業計画

授業回	学修計画

	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	人と食べ物	予習：現代社会が抱える食料問題を考える 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第2回	食品とその働き	予習：教科書 p.3～5 「食品の成分」「食品の働き」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第3回	食品の分類	予習：教科書 p.8～15 「食品の分類」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第4回	食品成分表	予習：教科書 p.15～20 「食品成分表」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第5回	食品中の成分（1） 水分	予習：教科書 p.24～27 「水分」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第6回	食品中の成分（2） 炭水化物（単糖類、少糖類）	予習：教科書 p.29～33 「炭水化物とは」「単糖類」「少糖類」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第7回	食品中の成分（3） 炭水化物（多糖類、炭水化物の変化）	予習：教科書 p.34～38を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第8回	食品中の成分（4） 脂質（脂肪酸）	予習：教科書 p.42～44 「脂肪酸」「必須脂肪酸」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第9回	食品中の成分（5） 脂質（脂質の種類）	予習：教科書 p.44～47 「脂質の種類」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第10回	食品中の成分（6） 脂質（脂質の変化）	予習：教科書 p.47～53 「脂質の変化」「脂質の栄養」「油脂の化学的特性」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第11回	食品中の成分（7） たんぱく質（アミノ酸、たんぱく質の種類）	予習：教科書 p.56～59 「たんぱく質とは」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第12回	食品中の成分（8） たんぱく質（たんぱく質の変化）	予習：教科書 p.62～63 「たんぱく質の変化」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第13回	食品中の成分（9） ビタミン・ミネラル	予習：配布プリントを読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第14回	食品中の嗜好成分（1） 色素成分	予習：教科書 p.87～93 「クロロフィル」「ヘム色素」「フラボノイドとアントシアニン」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第15回	食品の嗜好成分（2） 香気成分・呈味成分	予習：教科書 p.94～95 「食品の褐変」、配布プリントを読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
	定期試験	予習：小テストを中心に復習し、定期試験に備える	

食品学各論（食品加工学を含む。）

更新日：2024/02/21 10:16:27

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C130200	授業コード	
担当教員	水野 早苗						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3F212	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	食物栄養専攻 卒業必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	さまざまな食品について、その基本的な特性と、それぞれの加工方法や保存方法について学ぶ。それによって食品を正しく選択する判断力と、食品の正しい扱い方を身につけることができる。また、食品ロス削減についても取り上げ、食の面からSDGsや環境に対する理解を深める。
方法	講義を主とし、講義にはパワーポイントを使用する。 一つのテーマについて、ディスカッションで理解を深める。 毎授業後、Teamsを使って授業内容について感想や質問を提出してもらい、それをもとに次回振り返りをする。

到達目標

1	食品に関する専門的な用語や内容を理解できる
2	食と環境について自分の考えをもち、まとめることができる
3	授業に真剣に取り組むことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	60
到達目標②	課題レポート	30
到達目標③	毎回の授業に対する記述内容	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	食べ物と健康II（第II版）	化学同人	貴多野宣子・上村昭子・九木久美子著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日1限（研究室2-1）
E-mail：s-mizuno@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

授業に使用する資料を事前にTeamsに掲載するので事前に確認する。資料は、必要に応じて各自でプリントアウトする。

課題に対するフィードバック

定期試験は、採点后返却する。
課題は、採点后返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	食品の加工とは、食品保存方法、缶詰の巻き締め：パワー	予習：食品の役割について考えてくる	A

	ポイント使用	復習：食品の保存方法について概要をまとめる	
第2回	穀類の特性と加工品：パワーポイント使用	予習：穀類の特性について調べてくる 復習：穀類の特性と加工品についてまとめる	A
第3回	イモ類、種実類の特性と加工品：パワーポイント使用	予習：イモ類の特性について調べてくる 復習：イモ類の特性と加工品についてまとめる	A
第4回	豆類の特性と加工品：パワーポイント使用	予習：豆類の特性について調べてくる 復習：豆類の特性と加工品についてまとめる	A
第5回	野菜類の特性と加工品：パワーポイント使用	予習：野菜類の特性について調べてくる 復習：野菜類の特性と加工品についてまとめる	A
第6回	果実類の特性と加工品、世界の果物：パワーポイント使用	予習：果実類の特性について調べてくる 復習：果実類の特性と加工品についてまとめる	A
第7回	キノコ類、藻類の特性と加工品：パワーポイント使用	予習：キノコ、藻類の特性について調べてくる 復習：キノコ、藻類の特性と加工品についてまとめる	A
第8回	魚介類の特性と加工品：パワーポイント使用	予習：魚介類の特性について調べてくる 復習：魚介類の特性と加工品についてまとめる	A
第9回	肉類の特性と加工品：パワーポイント使用	予習：肉類の特性について調べてくる 復習：肉類の特性と加工品についてまとめる	A
第10回	卵類の特性と加工品：パワーポイント使用	予習：卵類の特性について調べてくる 復習：卵類の特性と加工品についてまとめる	A
第11回	乳類の特性と加工品：パワーポイント使用	予習：乳類の特性について調べてくる 復習：乳類の特性と加工品についてまとめる	A
第12回	食用油脂、香辛料の種類と特徴	予習：食用油脂、香辛料の特性について調べてくる 復習：食用油脂、香辛料の特性についてまとめる	A
第13回	発酵調味料の種類と特徴：パワーポイント使用	予習：発酵調味料の特性について調べてくる 復習：発酵調味料の製造方法についてまとめる	A
第14回	嗜好食品の種類と特徴：パワーポイント使用	予習：嗜好食品の特性について調べてくる 復習：嗜好食品の製造方法についてまとめる	A
第15回	環境保全のための、食品加工の役割について	予習：課題について調べてくる 復習：学んだことをまとめる	A,B
	定期試験		

食品学実験

更新日：2024/02/21 11:23:27

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C130300	授業コード		
担当教員	横山 洋子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	6F224	授業形態	実験	期待される学習成果	6			
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	45					
		履修条件・留意点	白衣を着用すること。					
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	栄養士免許を取得するためには、食品の栄養成分等についての科学的知識を身につける必要がある。この実験では、食品成分の分析技術を身につけるとともに、講義で学んだことを実際に自分の目で確認することにより、食品に対する興味を広げる。
方法	<ul style="list-style-type: none">テキスト及びノートに基づきグループごとに実験を行う。毎回の実験終了後に小テストを行い、理解度を確認する。各個人で実験結果・考察をまとめ、指定された期日までにノートを提出する。レポートは、Microsoft Teamsの「課題」機能を使って提出する。

到達目標

1	各回の実験の目的、方法、結果および考察をまとめることができる
2	毎回の実験のポイントを理解することができる
3	学習した内容についてまとめることができる
4	実験への取り組み方の重要性を理解し、積極的に実験することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ノート	50
到達目標②	小テスト	20
到達目標③	レポート	20
到達目標④	身だしなみ、実験態度	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「食品学実験」 橋本俊二郎編	講談社	山藤圭子他2名

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	イラスト「食品学総論」	東京教学社	江藤義春他2名

オープンな教育リソース

オフィスアワー

木曜日 9:30~11:30
2号館1階「研究室2-1」
メールアドレス：y-yokoyama@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

- 積極的にグループワークに参加することを望みます。
- 第1回目のオリエンテーションで示される注意事項を厳守してください。

課題に対するフィードバック

- 小テストは、回収、採点后、次回授業で返却し解説する。
- 提出されたノート、レポートは添削し、コメントをつけるなどして返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 食品成分の一般分析法	予習：教科書 p.121～128 「食品成分の一般分析」を読む 復習：実験ノート p.5をまとめる	A
第2回	溶液の濃度 試薬の調整	予習：教科書 p.11～15 「溶液の作り方」「標準溶液の調整」を読む 復習：ノート p.6～8をまとめる	A
第3回	中和滴定	予習：教科書 p.15～17 「中和滴定」を読む 復習：ノート p.9をまとめる	A
第4回	糖の定性反応	予習：教科書 p.44 「糖の定性反応」を読む 復習：ノート p.10～12をまとめる	A
第5回	牛乳成分の定性分析	予習：教科書 p.82 「牛乳からのカゼインの分離」を読む 復習：ノート p.13をまとめる	A
第6回	油脂の化学的特性	予習：教科書 p.70～72 「油脂の化学試験」を読む 復習：ノート p.14～16をまとめる	A
第7回	果実中の成分変化	予習：「酵素」について復習しておく 復習：ノート p.17～19をまとめる	A
第8回	ビタミンCの損失	予習：教科書 p.106～107 「ビタミンC」を読む 復習：ノート p.20～21をまとめる	A
第9回	煮熟によるリンの溶出	予習：教科書 p.96～97 「リンの定量」を読む 復習：ノート p.22～23をまとめる	A
第10回	アミノ酸の分離・同定（ペーパークロマトグラフィー）	予習：クロマトグラフィー法について復習する 復習：ノート p.24～25をまとめる	A
第11回	色素の分離（カラムクロマトグラフィー）	予習：教科書 p.110～111 「色素成分の分離」を読む 復習：ノート p.26～27をまとめる	A
第12回	食品中の色素成分の変化	予習：教科書 p.112～113 「食品色素の性質」を読む 復習：ノート p.28～30をまとめる	A
第13回	食品の酵素的褐変 食品の非酵素的褐変（カラメル化反応）	予習：教科書 p.114～115 「酵素的褐変」「非酵素的褐変（カラメル化）」を読む 復習：ノート p.31～33をまとめる	A
第14回	食品の非酵素的褐変（アミノカルボニル反応）	予習：教科書 p.114 「非酵素的褐変（アミノカルボニル反応）」を読む 復習：ノート p.34～35をまとめる	A
第15回	食品の官能検査	予習：配布プリント「官能検査」を読む 復習：学んだことをまとめ、ノートを提出する	A
	実施せず		

食品衛生学

更新日：2024/02/21 11:25:25

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C130400	授業コード	
担当教員	横山 洋子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5F223	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	食物栄養専攻 卒業必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	私たちが健康に生活するためには、食の安全性を確保することが必要である。栄養士として社会で活躍するための基本的な衛生知識を理解し、食に関する諸問題に対して、適切で安全な食生活を実践できる知識を身につける。						
方法	<ul style="list-style-type: none">教科書に基づいてパワーポイントを用いて講義を行う。事前学習用の講義資料をTeamsに掲載するので、授業前までに確認する。各回の講義の最後にMicrosoft Formsを使って小テストおよびリアクションペーパーの提出を行う。レポートは、Microsoft Teamsの「課題」機能を使って提出する。						

到達目標

1	食品衛生学の知識を身につけることができる
2	学習した内容についてまとめることができる
3	真剣に授業に取り組み、各回のポイントを理解することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	50
到達目標②	レポート	30
到達目標③	小テスト	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「イラスト食品の安全性 第4版」 小塚 諭編	東京教学社	小栗重行他3名

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日 9:30~11:30

2号館1階「研究室2-1」

メールアドレス：y-yokoyama@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

・日頃から「食の安全」に関する情報に関心を持ち、主体的に取り組むことを望みます。

課題に対するフィードバック

・小テストおよびリアクションペーパーは、採点后、次回の授業で解説する。
・提出されたレポートは添削し、コメントをつけて返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	健康と食品衛生	予習：安全・安心な食の重要性について考える 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第2回	食品衛生行政と法規（1） 食品安全行政の対象と範囲、食品の安全性の考え方	予習：教科書 p.2~4 「食品安全基本法と食品安全委員会」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第3回	食品衛生行政と法規（2） 食品衛生監視員と食品衛生管理者、食品衛生関連法規	予習：教科書 p.11~13 「食品衛生監視員と食品衛生管理者」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第4回	食品の変質（1） 微生物に関する基本的事項	予習：教科書 p.22~26 「微生物に関する基本的事項」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第5回	食品の変質（2） 食品の腐敗、油脂の酸敗	予習：教科書 p.28~32 「食品の腐敗」「油脂の酸敗」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第6回	食品の変質（3） 食品の変質防止	予習：教科書 p.33~37 「食品の変質防止」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第7回	食中毒（1） 食中毒の定義と分類、食中毒の発生状況	予習：教科書 p.40~45 「食中毒の定義」「食中毒の種類」「食中毒の発生状況」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第8回	食中毒（2） 細菌性食中毒	予習：教科書 p.63 「代表的な細菌性食中毒の特徴とその予防法」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第9回	食中毒（3） ウイルス性食中毒	予習：教科書 p.88~90 「ノロウイルス」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第10回	食中毒（4） 自然毒食中毒	予習：教科書 p.52 「主な植物性食中毒」 p.53 「主な動物性食中毒」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第11回	食品による感染症・寄生虫症	予習：教科書 p.103~111 「食品から感染する寄生虫症」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第12回	食品衛生管理（HACCP）	予習：教科書 p.118~125 「HACCPによる衛生管理」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第13回	食品添加物（1） メリットとデメリット、安全性評価	予習：教科書 p.178~183 「食品添加物の概念」「食品添加物のメリットとデメリット」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第14回	食品添加物（2） 添加物の成分規格・表示基準	予習：教科書 p.186~190 「添加物の成分規格」「添加物の表示基準」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
第15回	食品の表示と規格基準	予習：教科書 p.222~231 「食品表示制度」を読む 復習：小テストの内容を中心に、学んだことをまとめる	A
	定期試験	予習：小テストの内容を中心に復習し、定期試験に備える	

食品衛生学実験

更新日：2024/02/21 11:26:47

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C130500	授業コード		
担当教員	横山 洋子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	6F223	授業形態	実験	期待される学習成果	6			
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	45					
		履修条件・留意点	白衣を着用すること					
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	私たちが健康を維持していくためには、毎日の食生活が清潔で安全であることが必要である。栄養士の仕事は、多くの人の食生活に関わるため、食品の安全性に関する知識を身につけることが重要となる。この実験では、講義で学んだことを実際に自分の目で確認できる専門技能を身につけ、食品の安全性について理解を深める。						
方法	・テキスト及びノートに基づき、グループごとに実験を行う。 ・毎回の実験終了後に小テストを行い、理解度を確認する。 ・各個人で実験結果・考察をまとめ、指定された期日までにノートを提出する。 ・レポートは、Teamsの「課題」機能を使って提出する。						

到達目標

1	各回の実験の目的、方法、結果および考察をまとめることができる
2	各回の実験のポイントを理解することができる
3	学習した内容についてまとめることができる
4	実験への取り組みの重要性を理解し、積極的に実験することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ノート	50
到達目標②	小テスト	20
到達目標③	レポート	20
到達目標④	身だしなみ、実験態度	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「食品衛生学実験」安全を支える衛生検査のポイント 杉山章他2名編	みらい	杉山章他10名

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	「イラスト食品の安全性 第4版」 小塚 諭編	東京教学社	小栗重行他3名

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日 9:30~11:30
2号館1階「研究室2-1」
メールアドレス：y-yokoyama@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

- 積極的にグループワークに参加することを望みます。
- 第1回のオリエンテーションで示される注意事項を厳守してください。

課題に対するフィードバック

- 小テストは回収、採点后、次回授業で返却し解説する。
- 提出されたノート、レポートは添削し、コメントをつけるなどして返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション	予習：教科書 p.13～15 「バイオセーフティーの考え方」 「微生物検査上の基本的注意」を読む 復習：実験ノート p.2～4をまとめる	A
第2回	手指の生菌数・空中落下細菌試験	予習：教科書 p.155～156 「手指の細菌検査」、162 「空気中の細菌検査」を読む 復習：実験ノート p.5～6をまとめる	A
第3回	手指の生菌数・落下最近試験結果測定（菌数・染色・顕微鏡観察）	予習：教科書 p.37～40 「細菌の形態および染色」を読む 復習：実験ノート p.7～10をまとめる	A
第4回	食品の細菌試験（フードスタンプによる試験） 漂白剤の試験	予習：教科書 p.114～116 「漂白剤の試験」を読む 復習：実験ノート p.14～15をまとめる	A
第5回	フードスタンプを使用した細菌検査の結果観察 飲料水の試験（水道水水質基準・残留塩素・鉄測定）	予習：教科書 p.164～168 「上水検査」を読む 復習：実験ノート p.13、16～17をまとめる	A
第6回	牛乳の一般細菌数試験 まな板のふきとり試験	予習：教科書 p.47～48 「生菌数」を読む 復習：実験ノート p.18～20をまとめる	A
第7回	牛乳およびまな板の生菌数測定（生菌数の測定） 器具の洗浄試験	予習：教科書 p.171～173 「洗浄度検査」を読む 復習：実験ノート p.21～23をまとめる	A
第8回	牛乳の試験（比重・酸度）	予習：実験ノート p.24～25を読む 復習：酸度の計算の仕方を復習する	A
第9回	牛乳の試験（乳脂肪測定）	予習：実験ノート p.27を読む 復習：飲用乳の成分規格をまとめる	A
第10回	油脂の劣化試験（酸価・過酸化価）	予習：教科書 p.138～141 「酸価」「過酸化価」を読む 復習：実験ノート p.29～31をまとめる	A
第11回	食品中の着色料試験（1） 羊毛染色法による着色料の抽出	予習：教科書 p.93～97 「着色料の試験」を読む 復習：実験ノート p.32～33をまとめる	A
第12回	食品中の着色料試験（2） ペーパークロマトグラフィー・薄層クロマトグラフィー	予習：教科書 p.98～99 「色素の分離①②」を読む 復習：実験ノート p.35～36をまとめる	A
第13回	食品中の発色剤試験（1） 検量線の作成	予習：教科書 p.112～113 「検量線用標準液の調整」「比色法による定量」「検量線の作成」を読む 復習：実験ノート p.37～38をまとめる	A
第14回	食品中の発色剤試験（2） 市販食品中の亜硝酸根濃度の定量	予習：教科書 p.109～112 「発色剤の試験」を読む 復習：実験ノート p.39～41をまとめる	A
第15回	質問・まとめ	予習：半期間の実験内容を整理しノートをまとめ、提出する 復習：半期間の小テストを見直し、復習する	A
	実施せず		

食物アレルギー（対応食を含む。）

更新日：2024/02/21 10:17:12

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C130700	授業コード	
担当教員	水野 早苗 横山 洋子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	8F223	授業形態	演習	期待される学習成果	8		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点	実習を行う回は、白衣、帽子、シューズを持参してください。忘れた場合は実習をすることができません。				
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	食物アレルギーが起こる仕組み、検査方法、症状などの基本的な内容を理解する。その上で、保育施設や学校での給食管理におけるアレルギー対応を学び、栄養士としての実践力を身につける。また、アレルギー対応のおやつ作りも取り入れ、楽しみながら知識を深める。
方法	講義と、それに基づいて調理実習（グループワーク）を行う。また、動画を視聴しその内容についてディスカッションをする。レポートは、Active Portalの「レポート機能」を使ってWord形式で提出する。毎授業後、Teamsを使って、授業内容について感想や質問を提出してもらい、それをもとに次回振り返りをする。

到達目標

1	食物アレルギーの対応食を、自分で考え調理できる
2	学んだことを振り返り、将来への生かし方をまとめることができる
3	真剣に授業に取り組むことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題（おやつ献立立案と調理）	60
到達目標②	振り返りシート	30
到達目標③	毎回の授業に対する記述内容	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

食物アレルギーを動画で学ぶ部屋（藤田医科大学総合アレルギーセンター）<http://www.fujita-hu.ac.jp/general-allergy-center/information-station/movies/index.html>
「小児食物アレルギー」

オフィスアワー

金曜日午前中（研究室2-1）

学生へのメッセージ

主体的に学ぶことを望みます。

課題に対するフィードバック

テストおよびレポートは、採点后返却する

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	食物アレルギーの現状：パワーポイント使用	予習：食物アレルギーの現状を調べる 復習：授業の内容をまとめる	A
第2回	食物アレルギー原因・症状・検査法：パワーポイント使用	予習：食物アレルギーの原因食品を調べる 復習：授業の内容をまとめる	A
第3回	食物アレルギーについて意見交換 (動画の内容についてディスカッション)	予習：動画を視聴し、理解する 復習：授業の内容をまとめる	A,B
第4回	給食における食物アレルギーの対応 (卒業生の体験談を聴き、意見交換)	予習：誤食防止の方法について調べる 復習：授業の内容をまとめる	A,B
第5回	三大アレルゲンに対応するおやつ (献立立案)：ノートパソコン使用	予習：三大アレルゲン対応のおやつを考える 復習：授業の内容をまとめる	A,B
第6回	三大アレルゲンに対応するおやつ (準備)：ノートパソコン使用	予習：実習の準備 復習：授業の内容をまとめる	A,B
第7回	三大アレルゲンに対応するおやつ (調理・評価)	予習：実習の準備 復習：実習の内容をまとめる	A,B
第8回	各自で学んだことをまとめ、振り返りシートに記入する： ノートパソコン使用	予習：授業の内容を振り返り、まとめる	A

栄養学総論

更新日：2024/02/21 14:06:33

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C140100	授業コード		
担当教員	荒川 直江							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5F211	授業形態	講義	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として病院に勤務し、入院患者の栄養管理および医療チームの一員としての経験を活かして、基礎栄養学との関連を踏まえた実践的な授業を進め、実習や就職に活かせる力を養う。						

授業概要

内容	栄養とは何か、何のために栄養学を学ぶのか、その意義について理解する。健康の保持・増進・疾病の予防における栄養の役割、栄養素の代謝とその生理的意義を理解していく。		
方法	栄養学の基本となる知識を蓄えることは重要であるが、用語を暗記するだけでなく、自分自身の生活の中の具体的事象として捉え、幅広い視野と知識を身につける。パワーポイントを用いて講義を行い、テキストの練習問題も利用しながら理解を深める。		

到達目標

1	生命を維持する現象（栄養）の重要性を説明できる
2	栄養素の種類とその機能を説明できる
3	体内での各栄養素の相互作用を説明できる
4	人体の栄養状況と成長、発育、健康、疾病、生活の質との関連を理解できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	10
到達目標②	レポート	10
到達目標③	レポート	10
到達目標④	定期試験	70
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	基礎栄養学（第3版）	化学同人	杉山英子・小長谷紀子・里井恵子

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

木曜日終日 研究室2-1
E-mail：n-arakawa@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

配布した講義資料等はファイルに整理して綴じ込み、毎回持参すること。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対しては、次回の授業で解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション 1章 栄養とは（1）	予習：教科書1章p1～p5を読み、栄養について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A

	栄養と健康 パワーポイント使用 レポート作成		
第2回	1章 栄養とは (2) 疾患と栄養 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書1章 p5～p10を読み、疾病構造の変化について調べておく 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第3回	2章 栄養学のあゆみ (1) 栄養素 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書2章 p11～p32を読み、栄養学史を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第4回	2章 栄養学のあゆみ (2) 栄養問題 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書2章 p32～p39を読み、現代社会が抱える栄養問題について調べておく 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第5回	3章 栄養素とその働き (1) 糖質 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書3章 p41～p48を読み、糖質について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第6回	3章 栄養素とその働き (2) 脂質 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書3章 p48～p55を読み、脂質について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第7回	3章 栄養素とその働き (3) たんぱく質 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書3章 p55～p64を読み、たんぱく質について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第8回	3章 栄養素とその働き (4) 三大栄養素のまとめ パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書3章 p65～p74を読み、三大栄養素を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第9回	3章 栄養素とその働き (5) ビタミン パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書3章 p75～p97を読み、ビタミンを理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第10回	3章 栄養素とその働き (6) ミネラル パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書3章 p97～p106を読み、ミネラルを理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第11回	3章 栄養素とその働き (7) 五大栄養素のまとめ パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書3章 p107～p113を読み、五大栄養素について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第12回	4章 水と食物繊維 (1) 水の性質 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書4章 p115～p121を読み、水の性質を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第13回	4章 水と食物繊維 (2) 食物繊維の働き パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書4章 p121～p126を読み、食物繊維を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第14回	5章 消化と吸収 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書5章 p127～p143を読み、消化と吸収について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第15回	6章 エネルギー代謝 パワーポイント使用 まとめ	予習：教科書6章 p145～p157を読み、エネルギー代謝について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
	定期試験		

栄養学各論

更新日：2024/02/21 14:07:51

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C140200	授業コード		
担当教員	荒川 直江							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5F212	授業形態	講義	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	食物栄養専攻 卒業必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	管理栄養士として病院に勤務し、入院患者の栄養管理および医療チームの一員としての経験を活かして、ライフステージに応じた実践的な授業を進め、実習や就職に活かせる力を養う。						

授業概要

内容	栄養士として必要な専門知識を修得するため、人の一生における各段階(ライフステージ)に応じた身体的および精神的変化と、それに対応する栄養管理(栄養マネジメント)について学ぶ。		
方法	栄養状態の変化についての評価判定方法(栄養アセスメント)やその対策(栄養ケア)について、パワーポイントを用いて講義を行い、テキストの例題や練習問題等も利用し応用力を身につける。		

到達目標

1	「食」が果たす役割の重要性を理解する
2	各ライフステージにおける身体機能と栄養状態についての評価方法を理解する
3	健康の維持増進のための栄養素の役割や利用法について理解する
4	各ライフステージに応じた栄養マネジメント能力を身につける

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	20
到達目標②	レポート	20
到達目標③	定期試験	30
到達目標④	定期試験	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	応用学栄養学 (第3版)	化学同人	山下絵美・奥田あかり・上山恵子・尾関清子

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

水曜日終日 研究室2-1
E-mail : n-arakawa@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

配布した講義資料等はファイルに整理して綴じ込み、毎回持参すること。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対しては、次回の授業で解説する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題 (予習・復習) の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション	予習：教科書1章 p1～p12までを読み、栄養ケア・マネジ	A

	1章 栄養ケア・マネジメントの理解 パワーポイント使用 レポート作成	メントを理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	
第2回	2章 食事摂取基準策定の基礎的理解 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書2章p13～p27までを読み、食事摂取基準を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第3回	3章 妊娠期 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書2章p29～p43までを読み、妊娠期を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第4回	3章 妊娠糖尿病 パワーポイント使用 レポート作成	予習：妊娠糖尿病について調べる 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第5回	4章 授乳期 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書4章p45～p54までを読み、授乳期について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第6回	5章 乳児期 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書5章p55～p72までを読み、乳児期について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第7回	6章 幼児期 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書6章p73～p84までを読み、幼児期について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第8回	7章 学童期 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書7章p85～p97までを読み、学童期について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第9回	8章 思春期 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書8章p99～p108までを読み、思春期について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第10回	9章 成人・更年期 ①成人期の特性 ②生活習慣病とその予防 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書9章p109～p124までを読み、成人期と生活習慣病について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第11回	9章 成人・更年期 ③更年期の身体の変化と食生活の注意点 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書9章p124～p128までを読み、更年期について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第12回	10章 高齢期 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書9章p129～p145までを読み、高齢期について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第13回	11章 運動・スポーツ時の変化と栄養 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書10章p147～p166までを読み、運動・スポーツ時の変化と栄養について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第14回	12章 環境と栄養 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書11章p167～p175までを読み、環境と栄養について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第15回	まとめ 糖尿病食事療法のための食品交換表について パワーポイント使用	予習：糖尿病食事療法のための食品交換表について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
	定期試験		

栄養学各論実習

更新日：2024/01/30 19:27:58

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C140300	授業コード	
担当教員	高賀 敦子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6F223	授業形態	実習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	45				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	栄養士として必要な専門知識・技術を習得するため、各ライフステージの栄養の特性、食事摂取基準と食品構成、献立作成等について学習し、実習をとおして理論に基づいた専門的知識を身につけ、健康的な食生活管理ができる実践力を養う。
方法	講義はテキストに基づき、パワーポイントを用いて講義をおこなう。 グループ実習をおこない、実習終了後に振り返りシートの記入・提出を求める。 演習や小テストをとおして、知識の定着度を確認する。 テーマについて調べたことをレポートにまとめ、Active Portalの「レポート機能」を使ってWord形式で提出する。 毎回授業終了後、スライド資料をTeamsに掲載する。

到達目標

1	ライフステージごとの栄養の特性、食事摂取基準と食品構成、献立作成の要点を列挙し、説明することができる。
2	ライフステージごとの栄養の特性、食事摂取基準と食品構成、献立作成の知識を理解し、説明することができる。
3	ライフステージごとの栄養の特性、食事摂取基準と食品構成、献立作成等、学習した知識を理解し、まとめることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	振り返りシート、授業プリント	30
到達目標②	小テスト	40
到達目標③	演習課題、課題レポート	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	ライフステージ実習栄養学 健康づくりのための栄養と食事 第7版	医歯薬出版株式会社	城田知子 林辰美 編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

水曜日 12:15~13:00 1号館 3階 研究室3
a-kouga@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

生涯を健康で自律した食生活を送るため、各ライフステージの食事摂取基準と献立構成、調理の要点等について学習します。各ライフステージに対応する栄養と食教育ができる力と実践力を身につけるため、実習には常に課題意識をもって臨んでください。調理のポイントは実習時にメモをとり、その日のうちにプリントを整理してください。円滑にグループ実習が進められるよう、自ら率先して行動し、グループメンバーと協力して実習に臨んでください。調理実習時には服装を調べて参加すること。白衣、白帽子、マスク、爪、アクセサリーなど、決まりを守れない場合は実習に参加させません。

課題に対するフィードバック

実習は授業中に巡回して指導を行う。
小テストは、採点後次回授業で返却し解説する。

演習課題や振り返りシートはコメントをつけて返却する。意見や質問に対しては個別に対応するとともに、次回の授業で取り上げ解説をおこなう。
課題レポートはルーブリックにより評価する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ライフステージと食生活管理（1） ～現代の食生活問題と対応～	予習：教科書第1章p.1～2を読んで、栄養学実習の基本理念についてまとめておく 復習：現代の食生活を取り巻く環境についてまとめておく	
第2回	ライフステージと食生活管理（2） ～食育の推進と食育基本法～	予習：小中学校での食育活動についてまとめておく 復習：食育基本法と栄養教育の要点についてまとめ、小テストに備える	D
第3回	食事バランスガイド	予習：事前資料に目をとおしておく 復習：食事バランスガイドの特徴、活用についてまとめ、小テストに備える	
第4回	食事バランスガイドの活用	予習：食事バランスガイドについてまとめておく 復習：食事バランスガイドの活用についてまとめ、小テストに備える	
第5回	日本人の食事摂取基準の概要	予習：日本人の食事摂取基準について調べておく 復習：食事摂取基準(2020年版)の改訂ポイント、食事摂取基準の指標についてまとめ、小テストに備える	
第6回	ライフステージ別演習・実習の事前研究（1） ～妊娠期・授乳期の栄養、献立作成・実習～	予習：教科書第3章p.9～22を読んで、妊娠期、授乳期の食事摂取基準について調べておく 復習：妊娠期・授乳期の栄養・食事についてまとめ、小テストに備える	
第7回	妊娠期・授乳期の献立実習	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第8回	ライフステージ別演習・実習の事前研究（2） ～乳児期、離乳期の栄養、献立作成・実習～	予習：教科書第4章p.23～36を読んで、乳児期の食事摂取基準について調べておく 復習：乳児期・離乳期の栄養・食事についてまとめ、小テストに備える	
第9回	調乳、離乳食の献立構成・実習、市販のベビーフードの観察	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第10回	ライフステージ別演習・実習の事前研究（3） ～幼児期（3～5歳児）の栄養、献立作成・実習～	予習：教科書第5章p.37～52を読んで、幼児期の食事摂取基準について調べておく 復習：幼児期の栄養・食事についてまとめ、小テストに備える	
第11回	幼児食（3～5歳児）の献立構成・実習	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第12回	ライフステージ別演習・実習の事前研究（4） ～学童期の献立作成・実習～	予習：教科書p.53～56を読んで、学童期の食事摂取基準について調べておく 復習：学童期の栄養・食事についてまとめ、小テストに備える	
第13回	学童期食の献立構成・実習	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第14回	ライフステージ別演習・実習の事前研究（5） ～思春期・成人期の栄養、献立構成・実習～	予習：教科書p.66～91を読んで、思春期の食事摂取基準について調べておく 復習：思春期・成人期の栄養・食事についてまとめ、小テストに備える	
第15回	思春期・成人期の献立構成・実習	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめる	D
	実施せず		

臨床栄養学総論

更新日：2024/02/21 14:08:41

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C140400	授業コード		
担当教員	荒川 直江							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5F212	授業形態	講義	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	食物栄養専攻 卒業必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として病院に勤務し、入院患者の栄養管理および医療チームの一員としての経験を活かして、臨床栄養学のポイントを踏まえた実践的な授業を進め、実習や就職に活かせる力を養う。						

授業概要

内容	傷病者や要介護者を対象に、状況に応じた適切な栄養アセスメント、三大栄養素補給量、考慮すべき栄養素、栄養補給法など、疾病治療における栄養素の役割について学ぶ。
方法	臨床栄養学は栄養学、栄養生理学、生化学などを含む応用力が必要となり、総合的理解を深める必要があるため、基礎的項目は重点的に習得しテキストの練習問題も利用しながら、パワーポイントを用いて講義を行う。

到達目標

1	臨床栄養管理の必要性および栄養ケアマネジメントの概要が説明できる
2	客観的栄養アセスメント指標を使って栄養評価ができる
3	経口・経管経腸栄養および経静脈栄養剤の特性と主な副作用が説明できる
4	疾病治療における基礎的な栄養素の役割について説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	30
到達目標②	レポート	20
到達目標③	定期試験	30
到達目標④	レポート	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	臨床栄養学概論（第2版）	化学同人	位田 忍 他

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

水曜日終日 研究室2-1
E-mail：n-arakawa@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

配布した講義資料等はファイルに整理して綴じ込み、毎回持参すること。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対しては、次回の授業で解説する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 1章 臨床栄養学とは	予習：教科書1.2章 p1～p17を読み、臨床栄養学について理解する	A

	2章 栄養評価 パワーポイント使用 レポート作成	復習：課題と学習内容をまとめる	
第2回	3章 消化器疾患の病態と栄養管理 (1) 消化器系の疾患 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書3章 p19～p38を読み、病態と栄養管理について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第3回	3章 消化器疾患の病態と栄養管理 (2) 肝臓、胆のう、膵臓の疾患 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書3章 p38～p56を読み、病態と栄養管理について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第4回	4章 代謝性疾患の病態と栄養管理 (1) 糖尿病 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書4章 p57～p70を読み、病態と栄養管理について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第5回	4章 代謝性疾患の病態と栄養管理 (2) 脂質異常症、核酸代謝異常、肥満、メタボリックシンドローム、先天性代謝異常 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書4章 p71～p94を読み、病態と栄養管理について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第6回	5章 循環器疾患の病態と栄養管理 (1) 動脈硬化症、高血圧 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書4章 p95～p108を読み、病態と栄養管理について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第7回	5章 循環器疾患の病態と栄養管理 (2) 心疾患、脳血管障害 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書5章 p108～p125を読み、病態と栄養管理について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第8回	6章 腎疾患の病態と栄養管理 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書5章 p127～p145を読み、病態と栄養管理について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第9回	6章 腎疾患の病態と栄養管理 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書6章 p127～p145を読み、病態と栄養管理について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第10回	7章 血液疾患の病態と栄養管理 8章 呼吸器疾患の病態と栄養管理 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書7.8章 p147～p162を読み、病態と栄養管理について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第11回	9章 内分泌性疾患の病態と栄養管理 10章 骨疾患の病態と栄養管理 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書9.10章 p163～p179を読み、病態と栄養管理について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第12回	11章 免疫・アレルギーの病態と栄養管理 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書11章 p181～p191を読み、病態と栄養管理について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第13回	12章 術前・術後の栄養管理 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書12章 p193～p200を読み、栄養管理方法について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第14回	13章 乳幼児および小児期の疾患と栄養管理 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書13章 p201～p210を読み、栄養管理方法について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第15回	14章 栄養療法・食事療法 パワーポイント使用 まとめ	予習：教科書14章 p211～p224を読み、栄養療法・食事療法について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
	定期試験		

臨床栄養学各論

更新日：2024/02/21 14:09:30

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C140500	授業コード	
担当教員	荒川 直江						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5F223	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	食物栄養専攻 卒業必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	管理栄養士として病院に勤務し、入院患者の栄養管理および医療チームの一員としての経験を活かして、臨床栄養管理のポイントを踏まえた実践的な授業を進め、実習や就職に活かせる力を養う。					

授業概要

内容	臨床栄養学総論を基礎に、栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養処方と効果判定、栄養管理方法の修正等について理解し、傷病者栄養ケアの実践能力を強化していく。
方法	代表的な疾患において、臨床症例から具体的な栄養管理について学ぶ。 パワーポイントを用いて講義を行い、各症例の問題点を抽出しながら課題解決型学習を行う。

到達目標

1	各症例についての、栄養管理方法に取り組むことができる
2	課題解決型学習について理解し、まとめることができる
3	講義を通じて取得した重要な知識について、集約し説明することができる
4	臨床症例から具体的な栄養管理について学び、問題点を抽出できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	20
到達目標②	レポート	20
到達目標③	定期試験	30
到達目標④	定期試験	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	症例から学ぶ臨床栄養教育テキスト（第3版）	医歯薬出版株式会社	本田 佳子・松崎 政三

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

木曜日終日 研究室2-1
E-mail：n-arakawa@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

配布した講義資料などは、ファイルに整理して綴じ込み、毎回持参すること。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対しては、次回の授業で解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション 授業の進め方・評価方法について	予習：教科書Part I p2～p4を読み、患者について理解する	A

	患者とは パワーポイント使用 レポート作成	復習：課題と学習内容をまとめる	
第2回	医療におけるプライバシーの保護 診療記録の見方・書き方 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part I p5～p12を読み、守秘義務を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第3回	栄養・食事教育（指導）とは 栄養管理と必要な帳票 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part I p13～p24を読み、栄養管理を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第4回	肥満症（小児・成人）・メタボリックシンドローム パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part II p26～p43を読み、症例と向かい合う 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第5回	高血圧症・高尿酸血症（尿酸産生過剰型） パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part II p44～p53を読み、症例と向かい合う 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第6回	糖尿病（インスリン療法・非薬物療法・薬物療法） パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part II p54～p70を読み、症例と向かい合う 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第7回	脂質異常症（高LDLコレステロール血症・高TG血症） パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part II p71～p81を読み、症例と向かい合う 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第8回	虚血性心疾患・うっ血性心疾患（心不全） パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part II p82～p90を読み、症例と向かい合う 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第9回	CKD・糖尿病性腎症 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part II p91～p107を読み、症例と向かい合う 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第10回	透析・慢性肝炎 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part II p108～p117を読み、症例と向かい合う 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第11回	NAFLD・NASH・肝硬変 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part II p118～p142を読み、症例と向かい合う 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第12回	クローン病・潰瘍性大腸炎 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part II p143～p152を読み、症例と向かい合う 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第13回	消化器疾患術後（食道癌・胃切除・大腸癌） パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part II p153～p166を読み、症例と向かい合う 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第14回	鉄欠乏性貧血・嚥下障害 パワーポイント使用 レポート作成	予習教科書Part II p167～p177を読み、症例と向かい合う 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第15回	高齢者低栄養・褥瘡 パワーポイント使用 まとめ	予習：教科書Part II p178～p189を読み、症例と向かい合う 復習：課題と学習内容をまとめる	A
	定期試験		

臨床栄養学実習

更新日：2024/02/21 14:05:16

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C140600	授業コード	
担当教員	荒川 直江						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6F223	授業形態	講義・実習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	45				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として病院に勤務し、入院患者の栄養管理および医療チームの一員としての経験を活かして、栄養管理のポイントを踏まえた実践的な授業を進め、実習や就職に活かせる力を養う。					

授業概要

内容	食事療法を必要とする各疾患において、治療食の概要や基本方針、食事基準、献立作成、栄養価計算、調理実習など、臨床栄養学各論を基に具体的な栄養管理方法について学ぶ。
方法	パワーポイントを用いて講義を行い食品交換表を正しく理解しながら、一般治療食から特別治療食への展開食のツールとして活用していく。また、個人での一般治療食献立作成、グループワークでの特別治療食献立作成・調理実習等で、応用力を身につけ理解を深める。献立作成については、Teamsで課題作成しフィードバックを行う。

到達目標

1	一般治療食（常食・全粥食）の理論を理解することができる
2	糖尿病食事療法のための食品交換表を利用し、展開した献立作成ができる
3	特別治療食（胃腸疾患・糖尿病・腎臓病）についての理論を理解することができる
4	胃腸疾患・糖尿病・腎臓病の疾患について、栄養価計算・発注書作成・調理実習ができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	30
到達目標②	レポート	20
到達目標③	定期試験	30
到達目標④	グループワーク	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	栄養食事療法の実習（第14版）	医歯薬出版株式会社	本田 佳子
2	糖尿病食事療法のための食品交換表（第7版）	日本糖尿病学会	文光堂

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

木曜日終日 研究室2-1

E-mail：n-arakawa@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

配布した講義資料は等ファイルに整理して綴じ込み、毎回持参すること。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対しては、次回の授業で解説する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	オリエンテーション 栄養食事療法の実習の目的を学ぶ パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part1 p3～p31を読み、栄養ケアの概要を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第2回	栄養ケアの概要・基礎の評価方法について学ぶ パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書Part2 p35～p50を読み、栄養ケアの基礎を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第3回	糖尿病食事療法のための食品交換表について学ぶ 単位計算および交換方法 一般治療食の献立作成 パワーポイント使用	予習：教科書Part2 p50～p53、糖尿病食事療法のための食品交換表を読み、食品交換表について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第4回	一般治療食（常食）の献立作成 パワーポイント使用	予習：教科書Part2 p53～p70を読み、一般治療食、献立の作成、献立の展開について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第5回	展開食（常食の献立をベースに全粥食）の献立作成 パワーポイント使用	予習：教科書Part2 p53～p70を読み、一般治療食、献立の作成、献立の展開について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第6回	展開食（常食の献立をベースに全粥食）の献立作成 パワーポイント使用	予習：教科書Part2 p53～p70を読み、一般治療食、献立の作成、献立の展開について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第7回	特別治療食（胃腸疾患）の献立作成 パワーポイント使用	予習：教科書Part3 p77～p96を読み、疾患別の栄養ケアⅠ一胃・腸疾患理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第8回	胃腸疾患の献立作成・栄養価計算・発注書作成	予習：献立作成について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第9回	胃腸疾患の献立の調理実習 振り返りレポート作成	予習：実習手順について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第10回	特別治療食（糖尿病疾患）の献立作成 パワーポイント使用	予習：教科書Part3 p119～p154を読み、疾患別の栄養ケアⅢ一内分泌・代謝疾患を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第11回	糖尿病疾患の献立作成・栄養価計算・発注書作成	予習：献立作成について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第12回	糖尿病疾患の献立の調理実習 振り返りレポート作成	予習：実習手順について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第13回	特別治療食（腎臓病疾患）の献立作成 パワーポイント使用	予習：教科書Part3 p171～p189を読み、疾患別の栄養ケアⅤ一腎臓・尿路疾患を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第14回	腎臓病疾患の献立作成・栄養価計算・発注書作成	予習：献立作成について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第15回	腎臓病疾患の献立の調理実習 振り返りレポート作成	予習：実習手順について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	B
	定期試験		

栄養指導論

更新日：2024/02/21 14:10:23

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C150100	授業コード	
担当教員	荒川 直江						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5F212	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	食物栄養専攻 卒業必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として病院に勤務し、入院患者の栄養管理および医療チームの一員としての経験を活かして、個別・集団栄養食事指導等のポイントを踏まえた実践的な授業を進め、実習や就職に活かせる力を養う。					

授業概要

内容	栄養と生命活動および人間生活にかかわる科学的な事実を基に、人々の生涯を通じた健康の保持・増進、QOLの向上に寄与する健康的な食行動の形成と確立を目指して学ぶ。
方法	話し方やカウンセリングの方法、栄養学の知識や教育技法などについてパワーポイントを用いて講義を行い、テキストの練習問題や演習も利用しながら、食を通して多くの人にメッセージを伝えることができる栄養士の役割について理解を深める。

到達目標

1	健康を支える「食べる」ことの大切さと素晴らしさを栄養学の科学から理解する
2	健康的な食事ができるためのカウンセリング法やコミュニケーション能力を高める
3	栄養学の知識や教育技法について理解する
4	人々の健康行動を支援し社会貢献する力を習得する

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	30
到達目標②	レポート	20
到達目標③	定期試験	30
到達目標④	レポート	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	栄養教育論（第2版）	化学同人	今中 美栄 他

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

火曜日終日 研究室2-1

E-mail：n-arakawa@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

配布した講義資料等はファイルに整理して綴じ込み、毎回持参すること。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対しては、次回の授業で解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション 1章 食の楽しさを伝えるための栄養教育（1）	予習：教科書1章p1～p8を読み、栄養教育の基本を理解する	A

	栄養教育と栄養指導の違い パワーポイント使用 レポート作成	復習：課題と学習内容をまとめる	
第2回	1章 食の楽しさを伝えるための栄養教育 (2) 栄養教育の目的と方法 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書1章p8～p13を読み、栄養教育の目的を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第3回	2章 行動変容へ導くためのテクニック (1) 行動変容段階モデル パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書2章p15～p21を読み、行動変容を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第4回	2章 行動変容へ導くためのテクニック (2) カウンセリングの基本姿勢 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書2章p21～p36を読み、カウンセリングを理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第5回	3章 栄養教育マネジメント：対象者の行動を支援する (1) マネジメントサイクル (PDCA) 一連の流れ パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書3章p37～p40を読み、栄養マネジメントの流れについて理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第6回	3章 栄養教育マネジメント：対象者の行動を支援する (2) 栄養ケアにおける目標設定とその評価法 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書3章p40～p48を読み、目標設定と評価について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第7回	4章 栄養教育に活用する情報収集) 必要な基礎資料と活用法 日本人の食事摂取基準の成り立ちとその他教材 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書4章p49～p73を読み、情報収集・基礎資料について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第8回	5章 ライフステージ別の栄養教育 (1) 妊娠期・授乳期・乳児期・離乳期 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書5章p75～p91を読み、ライフステージの変化を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第9回	5章 ライフステージ別の栄養教育 (2) 幼児期・学童期・思春期 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書5章p91～p107を読み、ライフステージの変化を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第10回	5章 ライフステージ別の栄養教育 (3) 成人期・高齢期 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書5章p107～p118を読み、ライフステージの変化を理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第11回	6章 栄養士の活躍できる職域 (1) 栄養士の7つの職域について理解する パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書6章p119～p132を読み、栄養士の職域について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第12回	6章 栄養士の活躍できる職域 (2) 栄養士の専門性について理解する パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書6章p119～p132を読み、栄養士の職域について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第13回	6章 栄養士の活躍できる職域 (3) 栄養士会の活動について理解する パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書6章p119～p132を読み、栄養士の職域について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第14回	7章 実践してみよう あなたの「栄養教育」 (1) 幼児・小学校児童・中学校における栄養教育方法 レポート作成 パワーポイント使用	予習：教科書7章p133～p144を読み、栄養教育方法について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第15回	7章 実践してみよう あなたの「栄養教育」 (2) 特定健診・特定保健指導・介護予防 パワーポイント使用 まとめ	予習：教科書7章p144～p149を読み、栄養教育方法について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
	定期試験		

栄養指導論実習

更新日：2024/02/21 14:11:24

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	3C150200	授業コード	
担当教員	荒川 直江						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	6F226	授業形態	講義・実習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	90				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として病院に勤務し、入院患者の栄養管理および医療チームの一員としての経験を活かして、個別・集団栄養食事指導等のポイントを踏まえた実践的な授業を進め、実習や就職に活かせる力を養う。					

授業概要

内容	集団を捉えることで個人が置かれている社会環境、個人に応じたアセスメント方法について、今後の生活を考慮した知識を活用できる力を身につけ、栄養士として様々な対象に応じた栄養指導方法を学ぶ。
方法	個々の食環境を理解し、対象者の背景に合わせた栄養指導方法の提案についてパワーポイントを用いて講義を行い、指導用媒体作成、栄養指導教室の実習なども取り入れ、知識の共有を図る。

到達目標

1	栄養指導に必要な技術を習得し説明できる
2	指導媒体作成の実習を進めることができる
3	対象に応じた集団指導の内容を設定できる
4	栄養教室の実習を進めることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	実習計画レポート・振り返りシート	20
到達目標②	指導用媒体作成実習	20
到達目標③	栄養指導教室計画書	20
到達目標④	栄養指導教室の運営	40
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	Nブックス 三訂 栄養指導論	建帛社	相川 りょう子

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

木曜日終日 研究室2-1
E-mail：n-arakawa@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

配布した講義資料等はファイルに整理して綴じ込み、毎回持参すること。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対しては、次回の授業で解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション 第1章 栄養指導の定義と意義	予習：教科書第1.2章 p1～p22を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A

	第2章 栄養指導の沿革 パワーポイント使用		
第2回	第3章 栄養指導と関係法規 第4章 食生活、栄養に関する諸調査 パワーポイント使用	予習：教科書第3.4章 p23～p44を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第3回	第5章 栄養指導の方法と技術 パワーポイント使用	予習：教科書第5章 p45～p62を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第4回	第6章 栄養指導の実際 パワーポイント使用	予習：教科書第6章 p63～p73を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第5回	第7章 栄養指導に必要な基礎事項 パワーポイント使用	予習：教科書第7章 p74～p93を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第6回	第8章 ライフステージ別栄養指導 (1) 妊娠期・授乳期、乳児期、幼児期 パワーポイント使用	予習：教科書第8章1.2.3 p94～p106を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第7回	第8章 ライフステージ別栄養指導 (2) 学童期・思春期、成人期、高齢期 パワーポイント使用	予習：教科書第8章4.5.6 p107～p117を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第8回	9章 ライフスタイル別栄養指導 症例検討 パワーポイント使用	予習：教科書第9章 p118～p122を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第9回	第10章 健康障害と栄養指導 パワーポイント使用	予習：教科書第10章 p123～p131を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第10回	第11章 給食における栄養指導 パワーポイント使用	予習：教科書第11章 p132～p141を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第11回	第12章 栄養指導の国際的動向 第13章 栄養指導と情報の収集・処理および既存資料の活用 栄養管理計画書の作成 パワーポイント使用	予習：教科書第12.13章 p142～p151を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第12回	栄養指導の媒体作成 (1) チラシ準備：内容説明 テーマ・キャッチコピー・レイアウトの決定 パワーポイントの作成	予習：教科書第5～9章 p45～p122を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第13回	栄養指導の媒体作成 (2) チラシ作成：パワーポイントの作成	予習：教科書第5～9章 p45～p122を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第14回	栄養指導の媒体作成 (3) チラシ：作成：パワーポイントの作成	予習：教科書第5～9章 p45～p122を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第15回	栄養指導の媒体作成 (4) チラシ完成：パワーポイントの作成 3分間スピーチの実習 (1) 内容説明	予習：教科書第5～9章 p45～p122を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第16回	3分間スピーチの実習 (2) 発表用パワーポイント作成 パワーポイント使用	予習：3分間のスピーチの内容を考える 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第17回	3分間スピーチの実習 (3) 発表 栄養指導教室の説明 担当内容および発表日程の決定 3.1.2弁当箱法 体験セミナー (5つのルールについて) パワーポイント使用	予習：3分間のスピーチの発表練習 3.1.2弁当箱法について調べる 復習：課題と学習内容をまとめる	D
第18回	3.1.2弁当箱法 体験セミナー (調理実習)	予習：調理手順を確認しておく 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第19回	栄養教室の準備 (1) パワーポイント・発表用原稿の作成	予習：教科書第8～11章 p94～p141を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第20回	栄養教室の準備 (2) パワーポイント・発表用原稿の作成	予習：教科書第8～11章 p94～p141を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第21回	女性の栄養教室：妊娠期の栄養管理 栄養教室の発表 (1) パワーポイント使用	予習：教科書第8～11章 p94～p141を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	D
第22回	子どもの栄養教室Ⅰ：授乳期～学童期の栄養管理 栄養教室の発表 (2) パワーポイント使用	予習：教科書第8～11章 p94～p141を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	D
第23回	子どもの栄養教室Ⅱ：思春期に関する栄養管理 栄養教室の発表 (3) パワーポイント使用	予習：教科書第8～11章 p94～p141を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	D
第24回	成人の栄養教室Ⅰ：生活習慣病に関する栄養管理 栄養教室の発表 (4) パワーポイント使用	予習：教科書第8～11章 p94～p141を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	D
第25回	成人の栄養教室Ⅱ：生活習慣病に関する栄養管理 栄養教室の発表 (5) パワーポイント使用	予習：教科書第8～11章 p94～p141を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	D

第26回	成人の栄養教室Ⅲ：生活習慣病に関する栄養管理 栄養教室の発表（6）パワーポイント使用	予習：教科書第8～11章 p94～p141を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	D
第27回	成人の栄養教室Ⅳ：生活習慣病に関する栄養管理 栄養教室の発表（7）パワーポイント使用	予習：教科書第8～11章 p94～p141を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	D
第28回	高齢者の栄養教室：老年期の疾患と栄養管理 栄養教室の発表（8）パワーポイント使用	予習：教科書第8～11章 p94～p141を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	D
第29回	栄養指導の媒体：チラシ作成のまとめ 栄養教室：評価とまとめ	予習：教科書第5～9章 p45～p122を読み、理解を深める 復習：課題と学習内容をまとめる	B
第30回	まとめ 症例検討：栄養管理・指導記録方法 パワーポイント使用	予習：個別指導記録の作成 復習：課題と学習内容をまとめる	B
	実施せず		

実践栄養指導演習

更新日：2024/02/21 13:34:02

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C150300	授業コード	
担当教員	高木 恵美子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	8F212	授業形態	演習	期待される学習成果	8		
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として給食施設での給食管理業務や病院等での栄養食事指導の経験を活かして、企画力・応用力を踏まえた実践的な授業を進め、実習や就職に活かせる力を養う。					

授業概要

内容	生涯に渡って健康で豊かな生活を送ることができるよう、正しい食と健康の知識を身につけ、栄養士としての自覚を持ち社会貢献できる力を習得する。
方法	正しい情報と知識から改善できる能力と行動できる力について、自分自身の食生活を見直しながら理解を深める。また、グループワークを通して、企業との商品開発に向け積極的に学び、各班で提案発表を行う。Active Portalの「レポート機能」を使用しWord形式で課題を提出してもらいます。

到達目標

1	望ましい食事の在り方を説明できる
2	自分の食事の課題を説明できる
3	グループワークを通して商品の提案ができる
4	グループで協力し発表できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	20
到達目標②	レポート	20
到達目標③	グループワーク	40
到達目標④	グループ発表	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	食と健康の科学（第3版）	建帛社	稲山貴代・大森玲子

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業後、研究室2-1

学生へのメッセージ

配布した講義資料等はファイルに整理して綴じ込み、毎回持参すること。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対しては、次回の授業で解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション 第1章 食事管理の視点から健康を科学する(1)	予習：教科書第1章p2～p8を読み、食べる事の意義について理解する	A

	1.食べる事の意義 パワーポイント使用	復習：課題と学習内容をまとめる	
第2回	第1章 食事管理の視点から健康を科学する(2) 2.バランスのよい食事の栄養学 3.エネルギーのバランス パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書第1章p9～p31を読み、バランスについて理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第3回	第2章 人の行動の視点から健康を科学する パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書第2章p34～p56を読み、人の行動視点について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第4回	第3章 ライフステージの視点から健康を科学する パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書第3章p58～p76を読み、ライフステージの視点について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第5回	栄養士としてより良い商品を開発する(1) 企業のねらいを知る 企業との交流 パワーポイント使用	予習：企業の目的やねらいを考える 復習：課題と学習内容をまとめる	A、B
第6回	栄養士としてより良い商品を開発する(2) 企業からの課題に対する企画	予習：商品の企画を考える 復習：課題と学習内容をまとめる	A、B
第7回	栄養士としてより良い商品を開発する(3) 調理実習：試作	予習：献立内容について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A、B
第8回	栄養士としてより良い商品を開発する(4) 調理実習：調整	予習：調理手順について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A、B
第9回	栄養士としてより良い商品を開発する(5) 発表用パワーポイント作成	予習：商品のアイデアを整理する 復習：課題と学習内容をまとめる	A、B
第10回	栄養士としてより良い商品を開発する(6) 発表用原稿作成	予習：商品の企画を整理する 復習：課題と学習内容をまとめる	A、B
第11回	栄養士としてより良い商品を開発する(7) 発表練習	予習：グループ発表の練習 復習：課題と学習内容をまとめる復習	A、B
第12回	栄養士としてより良い商品を開発する(8) 発表会：企業との交流	予習：グループ発表の練習 復習：課題と学習内容をまとめる	A、B
第13回	第4章 疾病予防の視点から健康を科学する(1) 1.生活習慣と健康 2.生活習慣病予防と健康・栄養管理 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書第4章p78～p95を読み、生活習慣病について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第14回	第4章 疾病予防の視点から健康を科学する(2) 3.気をつけたい健康課題 パワーポイント使用 レポート作成	予習：教科書第4章p96～p104を読み、健康課題について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
第15回	第5章 社会と環境の視点から健康を科学する パワーポイント使用 まとめ	予習：教科書第5章p106～p126を読み、社会と環境の視点について理解する 復習：課題と学習内容をまとめる	A
	実施せず		

公衆栄養学

更新日：2024/02/21 13:21:25

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C150400	授業コード	
担当教員	鷺野 嘉映						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5F224	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	社会生活において、健康増進、生活の質向上は重要であり、その達成のためには集団・地域における健康・栄養問題、食料の現状と課題を知り、その解決のための活動計画・実施・評価手法等を理解する必要がある。本講義では、公衆栄養活動を行うために必要な知識、方法を身につけ、将来栄養士として地域の人たちに貢献できる人になることを目標とする。		
方法	教科書もしくは資料に基づき講義を行う。 各授業においては、授業内容に関して、高校までの学習内容に基づき常にQ&Aにより授業を進行する。なお、回答においては、「分かりません」や安易な回答は認めません。 講義内容のまとめとして、学生は、都道府県の栄養の状況・政策に関して発表・ディスカッションを行う。 データの処理と解析については各自のパソコンを用いて授業を行う。		

到達目標

1	我が国および諸外国の健康・栄養問題の現状と課題について説明できる。
2	わが国および諸外国の健康栄養政策や公衆栄養活動について説明できる。
3	公衆栄養マネジメントの基本的な考え方、重要性、方法について説明できる。
4	公衆栄養プログラムの展開ができる。
5	授業を通して疑問に思った事項を積極的に質問をして、計画的に自主学習ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	20
到達目標②	定期試験	20
到達目標③	定期試験	20
到達目標④	レポート・プレゼンテーション	20
到達目標⑤	授業への取り組み	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	公衆栄養学（健康・栄養科学シリーズ）	南江堂	吉池信男ら編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月曜日 12:10~12:55 研究室2-2

提示したオフィスアワーでの対応に加えて、メールwashino@mizuho-c.ac.jp（#を@に変更）で事前に予約することで適宜対応します。

学生へのメッセージ

公衆栄養学は生きた学問です。食に関わる最新の情報を得ることに心がけてください。

毎回予習復習に努めて、講義中での積極的な質問を期待します。

授業時における他の学生の授業を妨げる態度はマイナス評価となるので注意してください。

授業中に突っ伏して寝る等、体調不良が考えられる場合は、保健室での休養をお願いします。

授業の進行状況によっては、シラバスの内容に変更が生じる場合がありますが、その際は事前に通知します。

課題に対するフィードバック

授業時間中に口頭で多くの質問を課し、意見交換を行うとともに、講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	公衆栄養の概念と基本 (公衆栄養の概念と目的)	予習：テキストの該当箇所（第1章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第2回	健康・栄養問題の現状と課題Ⅰ (健康状態の変化、食事の変化)	予習：テキストの該当箇所（第2章AB）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第3回	健康・栄養問題の現状と課題Ⅱ (食生活・食環境の変化)	予習：テキストの該当箇所（第2章CD）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第4回	わが国の公衆栄養活動と関連法規	予習：テキストの該当箇所（第3章AB）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第5回	国民健康・栄養調査	予習：テキストの該当箇所（第3章C）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第6回	わが国の健康増進基本方針 (健康日本21(第二次)の基本方針、食育推進基本計画策定)	予習：テキストの該当箇所（第3章E）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第7回	諸外国の健康・栄養の現状と政策	予習：テキストの該当箇所（第1章E、第3章F）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第8回	栄養疫学の概要と食事調査法Ⅰ (栄養疫学の概要)	予習：テキストの該当箇所（第4章A）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第9回	栄養疫学の概要と食事調査法Ⅱ (食事摂取量の測定方法・評価方法)	予習：テキストの該当箇所（第4章CDEF）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第10回	栄養疫学の概要と食事調査法Ⅲ (データ処理Ⅰ：基本統計)	予習：テキストの該当箇所（第4章F）を確認しておく。 「身近な統計学」で学んだ統計の基礎を再度確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第11回	栄養疫学の概要と食事調査法Ⅳ (データ処理Ⅱ：統計学的推定)	予習：テキストの該当箇所（第4章F）を確認しておく。 「身近な統計学」で学んだ統計の推定を再度確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第12回	公衆栄養マネジメント・公衆栄養プログラム (公衆栄養マネジメント・公衆栄養アセスメント)	予習：テキストの該当箇所（第5章・第6章）を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第13回	公衆栄養プログラムの実際Ⅰ (各都道府県の健康栄養状況・その対策（栄養プログラム）についてまとめて、パワーポイントを用いて発表)	予習：これまでの学習内容を再度確認しておく。 復習：他の発表者の内容を批判的に吟味する。	A,D
第14回	公衆栄養プログラムの実際Ⅱ (各都道府県の健康栄養状況・その対策（栄養プログラム）についてまとめて、パワーポイントを用いて発表)	予習：これまでの学習内容を再度確認しておく。 復習：他の発表者の内容を批判的に吟味する。	A,D
第15回	公衆栄養プログラムの実際Ⅲ (各都道府県の健康栄養状況・その対策（栄養プログラム）についてまとめて、パワーポイントを用いて発表)	予習：これまでの学習内容を再度確認しておく。 復習：他の発表者の内容を批判的に吟味する。	A,D
	定期試験		

調理学

更新日：2024/02/21 15:29:46

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C160100	授業コード		
担当教員	高木 恵美子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5F211	授業形態	講義	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	卒業必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	食品素材の特性や調理における作業工程のなかで加熱操作・調理操作によって起こる種々の現象を科学的に考察し理解することで、食生活においておいしく安全な料理を作るために必要な知識を得る。
方法	教科書を中心に重要な内容はスライド（パワーポイント）で表示し講義を行う。内容を定着させるための確認テストを実施する。

到達目標

1	調理の目的を理解し、食べ物や調理操作の基本的な知識を習得し、説明することができる。
2	調理による食品の物性や栄養成分の変化を理解し、説明することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	確認テスト・定期試験	50
到達目標②	確認テスト・定期試験	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「はじめて学ぶ 健康・栄養系教科書シリーズ⑩ 調理学」	化学同人	久木久美子・新田陽子・喜多野宣子著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業後 研究室2-1

学生へのメッセージ

普段から食材・料理に興味をもって生活するように心がけておく。

課題に対するフィードバック

確認テストは添削して返却し、講義の中で解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	調理の目的 食べ物のおいしさ（味・におい）※パワーポイント使用	予習：教科書2章P3～10を読んでおく 復習：学習した内容をまとめる	A
第2回	食べ物のおいしさ（色・テクスチャー・外観・温度） おいしさの評価	予習：教科書2章P11～21を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第3回	非加熱調理操作 ※パワーポイント使用	予習：教科書3章P23～34を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A

第4回	加熱調理操作 ※パワーポイント使用	予習：教科書3章P35～46を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第5回	米の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書4章P49～58を読んでおく。 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる。	A
第6回	小麦粉の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書4章P59～64を読んでおく。 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる。	A
第7回	いも類、豆類、種実類の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書4章P65～72を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第8回	野菜類、果物類の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書4章P73～82を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第9回	第1回～8回までに復習 きのこ類、藻類の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書4章P83～85を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第10回	食肉類、魚介類の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書5章P87～96を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第11回	卵類、牛乳・乳製品の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書5章P97～106を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第12回	油脂類の調理 ゲル化剤（ゼラチン・寒天）の調理性 ※パワーポイント使用	予習：教科書6章P109～114を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第13回	ゲル化剤・とろみ剤の調理特性 嗜好飲料の調理科学 ※パワーポイント使用	予習：教科書7章P117～129、9章P143～146を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第14回	調味料・香辛料の調理性 ※パワーポイント使用	予習：教科書8章P131～141を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第15回	料理様式別の食事構成 まとめ	予習：教科書10章P149～165を読んでおく 復習：学習した内容をまとめる	A
	定期試験		

調理実習Ⅰ

更新日：2024/02/21 14:14:01

開講年度	2024	学期	通年	科目コード	3C160200	授業コード	
担当教員	青木 照恵						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	6F215	授業形態	実習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	90				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	大型ホテルでの調理経験、調理理論や食文化概論、調理実習の教育経験により、実践、理論に基づいた教育を行う。					

授業概要

内容	栄養士の習得を目指す人が知っておかなければいけない日本料理・中国料理の専門知識を習得する。実習を通して理論に基づく専門的技能を身につける。		
方法	教科書にそった予習、講義を含む実習デモンストレーション、グループ実習をテーマごとに行い、段階を追って知識と技術を身につける。毎回の栄養価計算、復習ノートの学習課題により専門知識を整理し、習得する。		

到達目標

1	①実習に関心をもち、手順や役割について考え、協力して積極的に実習ができる
2	②実習を行った献立について、栄養価計算ができる
3	③実習内容の基礎的・基本的技能をまとめることができる
4	④実習内容についての知識・技能をまとめることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	実習プリント・行動観察	25
到達目標②	学習プリント（栄養価計算）	15
到達目標③	実技試験	40
到達目標④	課題（前期1・後期1）	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「基礎から学ぶ調理実習」	(株)オーム社	新調理研究会
2	「最新日本食品成分表」2024	医歯薬出版	医歯薬出版編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

質問等あるときは、実習プリント感想欄に記入し、提出すること。

学生へのメッセージ

実習時は指定の白衣・実習くつ・キャップ・マスクを着用すること。忘れた場合は実習授業を受けられない。スカート等は避けること。爪を清潔に保つこと。毎回についての学習プリント（栄養価計算）、実習プリントについて次回授業で提出のこと。授業を欠席した場合も欠席した日から2週間以内に復習課題（栄養価計算と実習プリント）を提出すること。実技試験課題を含む授業を半期ごとに2～3回行うため、各自復習、練習をして実技試験に備えること。通年で8回以上の欠席は再履修とする。

課題に対するフィードバック

提出された課題、レポートは添削して返却する。実習実技に関しては、授業中に巡回して指導を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	講義 オリエンテーション・調理の意義と目的・日本料理の概要 和の作法（箸の使い方について）	予習：教科書、実習着の準備を行う。 復習：調理調理実習時の衛生管理、調理の基本操作を理解する。（教科書P2～3、50～53）	
第2回	講義 手法別調理と調味料、栄養価計算 実習の準備 実習準備（実習室でのオリエンテーション）	予習：最新日本食品成分表、教科書、計算機を準備する。 復習：栄養価計算、和の作法について復習する。学習ノートをまとめる。基本切りについての課題を提出。	
第3回	日本料理 包丁の手入れ、包丁づかいの基本	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第4回	日本料理 炊飯の原理 だしのとり方①	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第5回	日本料理 だしのとり方② 丼物	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第6回	日本料理 塩味飯、魚の手開き、だしのとり方③	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第7回	日本料理 青菜のゆで方、だしのとりかた④ 煮物（含め煮）	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第8回	日本料理 焼き物（姿焼き）、実の多い汁、寄せ物	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第9回	日本料理 和え物、魚の扱い方（三枚おろし）	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第10回	日本料理 揚げ物（衣揚げ）、和え物	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第11回	日本料理 すし飯、巻き寿司	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第12回	日本料理 炒め煮、炊き込み飯、椀物	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第13回	日本料理 焼き物、揚げ物、強飯	予習：実習内容の確認。 復習：実技試験の練習。	
第14回	日本料理 実技試験、課題（前期授業と日本料理について）	予習：実習内容の確認。実技試験の練習。 復習：課題についてまとめ、提出。半期の授業を振り返る。 （教科書、半期の課題を準備のこと）	
第15回	日本料理 麺類のゆで方、卵の扱い方、寄せ物	予習：実習内容の確認。 復習：実施せず	
第16回	講義 中国料理の概要 「味覚の授業」	予習：中国料理の概要について理解する。 復習：講義の内容について学習ノートをまとめる。（教科書P138～143）	
第17回	中国料理 冷菜、ゲル状食品の扱い	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第18回	中国料理 湯菜（上湯のとり方）	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第19回	中国料理 炒菜（海老の扱い方）	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第20回	中国料理 溜菜（中華あんのとり方）	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第21回	中国料理 炒菜（野菜の切り方と炒め方）	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第22回	中国料理 溜菜（油と卵の扱い方）	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第23回	中国料理 炸菜（揚げ物の作り方）	予習：実習内容の確認。	

		復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第24回	中国料理 蒸菜（蒸し器、蒸し物の扱い）	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第25回	中国料理 点心（膨張について）、烏賊の扱い	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第26回	中国料理 溜菜、飯類	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第27回	中国料理 中国料理 炒菜（肉と野菜の火入れ）	予習：実習内容の確認。 復習：実習プリントで、栄養価計算、調理のポイントをまとめる。	
第28回	日本料理 冬の献立	予習：実習内容の確認。 復習：実技試験に備える。	
第29回	中国料理 実技試験、課題（中国料理について）	予習：実技試験に備える。 復習：課題についてまとめ、提出。（教科書、課題半期分を準備のこと）	
第30回	中国料理 発酵・膨張について	予習：実習内容の確認。 復習：実施せず	
	実施せず		

調理実習 II

更新日：2024/01/30 19:29:09

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C160300	授業コード		
担当教員	高賀 敦子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	6F224	授業形態	実習	期待される学習成果	6			
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	45					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	栄養士として必要な専門的な知識・技術を習得するため、フランス料理・イタリア料理を中心とした西洋料理について学習し、実習をとおして理論に基づいた専門的知識・技術を身につける食生活管理ができる実践力を養う。
方法	講義はテキストに基づき、パワーポイントを用いて講義をおこなう。 グループごとに献立実習をおこない、毎回実習終了後に振り返りシートの記入・提出を求める。 小テストや実技テストをとおして、知識・技術の定着度を確認する。 自由献立の作成、実習をレポートにまとめ、Active Portalの「レポート機能」を使ってWord形式で提出する。 講義終了後、スライド資料をTeamsに掲載する。

到達目標

1	西洋料理の基礎的・基本的な知識・要点を列挙し、説明することができる。
2	西洋料理の基礎的・基本的知識、技術を身につけている。
3	西洋料理の基礎的・基本的な知識、技術を習得して、実践応用することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	振り返りシート、授業プリント	30
到達目標②	小テスト、実技テスト	40
到達目標③	課題レポート	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	基礎から学ぶ調理実習	オーム社	新調理研究会編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

水曜日 12:15～13:00 1号館 3階 研究室3
a-kouga@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

西洋料理の特徴、調理の基礎・基本を理解し、調理実習をとおして専門的知識・技術を身につけることを目指します。
調理のポイントは実習時にメモをとり、その日のうちにプリントを整理してください。
円滑にグループ実習が進められるよう、自ら率先して行動し、グループメンバーと協力して実習に臨んでください。
調理実習時には服装を調べて参加すること。白衣、白帽子、マスク、爪、アクセサリーなど、決まりを守れない場合は実習に参加させません。

課題に対するフィードバック

実習は授業中に巡回して指導を行う。
小テスト・実技テストは採点后、返却し解説する。
振り返りシートはコメントをつけて返却する。また意見や質問に対しては個別に対応するとともに、次回の授業で取り上げ解説をおこなう。
課題レポートはルーブリックにより評価する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 西洋料理について（1）～西洋料理の概要～ 調理実習の事前研究（第2回～5回）	予習：シラバスに目をとし、教科書p.98を読んで、西洋料理の特徴をまとめておく 復習：西洋料理の概要についてまとめ、小テストに備える	
第2回	調理実習（1） ～パンの利用・紅茶の入れ方～	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第3回	調理実習（2） ～ひき肉の扱い方と焼き方・澄んだスープ・ドレッシングの基本～	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第4回	調理実習（3） ～トウモロコシ利用のスープ・魚の扱い方と焼き方～	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第5回	調理実習（4） ～野菜スープの応用・パン粉揚げ・野菜と浸透圧～	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第6回	西洋料理について（2）～西洋料理の特色～ 調理実習の事後研究（第2回～5回） 調理実習の事前研究（第7回～10回）	予習：教科書p.99を読んで、西洋料理の献立構成についてまとめておく 第1回～5回の学習の要点に目をおしておく 復習：西洋料理の特色についてまとめ、小テストに備える	
第7回	調理実習（5） ～カルパッチョについて・グラタンスープの作り方・卵料理の基本・ピクルスの作り方～	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第8回	調理実習（6） ～ミートソースの作り方・パスタのゆで方・カプレーゼ・マチュドニア～	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第9回	調理実習（7） ～ホワイトソースの基本と応用・ホットサラダの作り方～	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第10回	調理実習（8） ～ポタージュスープの応用・ピラフの炊き方・卵料理の基本～	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第11回	調理実習の事後研究（第7回～10回） 調理実習の事前研究（第12回～14回）	予習：第7回～10回の学習の要点に目をおしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	
第12回	調理実習（9） ～ルーの応用、カレーソースの作り方、煮込み料理の基本・ゼラチンの扱い方・サラダの応用～	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第13回	調理実習（10） ～野菜利用のスープ、骨付き鶏肉の下処理と焼き方、アガーの応用、カナッペの作り方～	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第14回	調理実習（11） ～ルーの応用・煮込み料理の基本・サラダ応用・共立て法・焼き菓子の基本～	予習：実習の予習をしておく 復習：調理のポイント、調理手順等要点をまとめ、小テストに備える	D
第15回	西洋料理のテーブルマナー 調理実習の事後研究（第12回～14回） 半年間の調理実習の復習と要点の整理	予習：教科書p.100-101を読んでテーブルマナーについてまとめておく 第12回～14回の学習の要点に目をおしておく 復習：学習内容をまとめる	
	実施せず		

給食計画論

更新日：2024/02/21 13:35:04

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C160400	授業コード		
担当教員	高木 恵美子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5F211	授業形態	講義	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として病院などの集団給食施設で勤務していた経験をもとに、様々な給食施設の現状に即した実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、栄養士として給食管理や衛生管理の推進に生かすことができる。						

授業概要

内容	給食運営に必要な栄養・食事管理、生産管理、衛生管理、施設・設備管理、事務管理など栄養士の職務として基礎的な知識を習得する。特定給食施設の定義や役割、種類についても習得する。
方法	講義は教科書を中心にして行う。重要なポイントはスライド（パワーポイント）を使用する。講義以外に演習や確認テストを行う。

到達目標

1	特定給食施設の意義や役割、種類について説明できる
2	給食運営に必要な栄養・食事管理について説明できる
3	給食運営における大量調理の特徴が説明できる
4	大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	確認テスト・定期試験	25
到達目標②	確認テスト・定期試験	25
到達目標③	確認テスト・定期試験	25
到達目標④	確認テスト・定期試験	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「給食経営管理論 第3版」	みらい	片山直美・原正美編
	給食のための基礎からの献立作成 大量調理の基本から評価まで	建帛社	上地加容子・片山直美

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じて紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業後 研究室2-1

学生へのメッセージ

レポートの提出期限は厳守すること。

課題に対するフィードバック

提出された課題、レポートは添削して返却する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	給食の概念 ・給食の概要 ・給食システム 給食の種類・特徴 関	予習：教科書第1章を読んでおく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A

	連法規 ※パワーポイント使用		
第2回	給食経営管理の概念 ・給食経営と献立 ・給食経営の概要 ※パワーポイント使用	予習：教科書第2章を読んでおく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A
第3回	給食経営管理の概念 ・給食とマーケティング ・給食経営と組織 ※パワーポイント使用	予習：教科書第2章を読んでおく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A
第4回	栄養・食事管理 ・栄養・食事のアセスメント ・食事の計画 食事計画の実施・評価・改善 ※パワーポイント使用	予習：教科書第3章を読んでおく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A
第5回	栄養・食事管理 ・食事の計画 ・食事計画の実施、評価、改善 ※パワーポイント使用	予習：教科書第3章を読んでおく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A
第6回	品質管理 ・品質と標準化 ・原価 ※パワーポイント使用	予習：教科書第4章を読んでおく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A
第7回	品質管理 ・原価 ・食材 ※パワーポイント使用	予習：教科書第4章を読んでおく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A
第8回	品質管理 ・生産と提供 ※パワーポイント使用	予習：教科書第4章を読んでおく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A
第9回	安全・衛生管理 ・安全・衛生の概要 ・安全・衛生の実際 ※パワーポイント使用	予習：教科書第5章を読んでおく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A
第10回	安全・衛生管理 ・安全・衛生の実際 ・事故・災害時の対策 ※パワーポイント使用	予習：教科書第5章を読んでおく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A、B
第11回	給食の施設・設備 給食の人事管理 ※パワーポイント使用	予習：教科書第6.7章を読んでおく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A
第12回	病院給食 高齢者・介護福祉施設給食 児童福祉施設給食 ※パワーポイント使用	予習：教科書第8.9.10.11章を読んでおく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A
第13回	学校給食・事業所給食 その他給食施設・給食サービス ※パワーポイント使用	予習：教科書第12.13.14.15章を読んでおく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A
第14回	大量調理の献立の立案について ※パワーポイント使用	予習：大量調理の特徴について整理しておく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A
第15回	まとめ ※パワーポイント使用	予習：給食施設の献立について考えておく 復習：確認テストを見直し、授業のまとめをする	A
	定期試験		

給食実務論

更新日：2024/02/21 13:36:01

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C160500	授業コード	
担当教員	高木 恵美子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5F212	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として病院などの集団給食施設で勤務していた経験をもとに、様々な給食施設の現状に即した実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、栄養士として給食管理や衛生管理の推進に生かすことができる。					

授業概要

内容	給食施設には保健・医療・福祉など多方面があり、それぞれの食生活の課題に対応し、喫食者ニーズを反映した給食提供ができるよう、食事の計画や献立作成を含めた知識の習得をする。給食計画論で学んだ給食の運営を基礎にし、各施設の特徴をとらえた応用的な給食の実務を習得する。
方法	講義は重要な点はスライド（パワーポイント）を使用して行う。栄養計算ソフトを使用して献立を作成する。

到達目標

1	対象者に合わせた献立作成能力を身に付けることができる
2	給食の原価管理について述べるができる
3	給食運営における大量調理の特徴が説明できる
4	条件に応じた献立作成ができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート・定期試験	20
到達目標②	レポート・定期試験	20
到達目標③	レポート・定期試験	20
到達目標④	献立作成	40
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「給食のための基礎からの献立作成 大量調理の基本から評価まで」	建帛社	上地加容子・片山直美

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業後 研究室2-1

学生へのメッセージ

毎回、パソコンと電卓を持参すること。
レポートの提出期限は厳守すること。

課題に対するフィードバック

提出された課題、レポートは添削して返却する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	給食計画論の復習 ※パワーポイント使用 献立作成にあたって	予習：教科書第1章を読んでおく 復習：授業のまとめをする	A

第2回	献立とは ・献立の意義と目的 ・献立の基本要素 ※パワーポイント使用	予習：教科書第1章を読んでおく 復習：授業のまとめをする	A
第3回	献立とは ・大量調理の基本 ※パワーポイント使用	予習：教科書第1章を読んでおく 復習：授業のまとめをする	A
第4回	献立の立案 ・基本計画（給与栄養目標量） ※パワーポイント使用	予習：教科書第2章を読んでおく 復習：授業のまとめをする	A
第5回	献立の立案 ・基本計画（荷重平均成分表、食品構成表） ※パワーポイント使用	予習：教科書第2章を読んでおく 復習：授業のまとめをする	A
第6回	献立の立案 ・期間献立についての説明 ※パワーポイント使用	予習：教科書第3章を読んでおく 復習：授業のまとめをする	A
第7回	献立の立案 ・期間期間献立の作成	予習：期間献立の作成 復習：授業のまとめをする	A
第8回	献立の立案 ・期間献立の作成 ・栄養価計算ソフトの使い方	予習：献立の内容を考える 復習：献立を作成する	A
第9回	献立の立案 ・献立の作成についての説明 ※パワーポイント使用	予習：献立の内容を考える 復習：献立を作成する	A
第10回	献立の立案 ・献立作成	予習：献立の内容を考える 復習：献立を作成する	A
第11回	献立の立案 ・献立作成と栄養価計算	予習：献立の内容を考える 復習：献立を作成する	A
第12回	献立の立案 ・献立作成と栄養価計算 作業指示書の書き方	予習：献立の内容を考える 復習：献立を作成する	A
第13回	献立の立案 作業指示書の作成	予習：献立の内容を考える 復習：授業のまとめをする	A
第14回	献立の評価	予習：作成した献立を見直しておく 復習：授業のまとめをする	A
第15回	まとめ	予習：作成した献立を見直しておく 復習：授業のまとめをする	A
	定期試験		

給食管理実習[学内]

更新日：2024/02/21 13:36:54

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C160600	授業コード		
担当教員	高木 恵美子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	6F223	授業形態	実習	期待される学習成果	6			
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	90					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として病院などの集団給食施設で勤務していた経験をもとに、様々な給食施設の現状に即した実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、栄養士として給食管理や衛生管理の推進に生かすことができる。						

授業概要

内容	「給食管理実習」を体験することにより、特定給食施設における効率的な給食経営管理の方法と、安全かつ喫食者に喜ばれる食事の提供を習得し、献立作成の課題・条件、食事形態の改善方法を理解することができる。さらに、試作・改善をとおして、施設の課題や限定された条件下で、様々な立場の人々に対応したより良い献立作成ができる能力を身に付けることができる。
方法	各班（10人程度）に分かれ、100食以上の学内給食の献立作成、実習計画、準備、実習を行う。

到達目標

1	大量調理における衛生管理マニュアルに従った行動がとれる
2	コミュニケーションを取りながら実習に積極的に参加できる
3	作業工程表等、給食管理に必要な帳簿類を作成できる
4	様々な大量調理の施設に適した献立が作成できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	実習態度	30
到達目標②	実習態度	20
到達目標③	実習ノート	30
到達目標④	献立作成	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	PDCAによる給食マネジメント実習	医歯薬出版株式会社	松月弘江・韓順子・亀山良子

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

実習終了後、研究室2-1

学生へのメッセージ

実習は積極的に取り組んでください。実習にあたって遅刻した場合は欠席とします。実習態度の評価基準と方法については第1回の授業で説明します。

課題に対するフィードバック

提出された実習ノートは、添削して返却する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション 給食管理実習の流れについて	予習：実施予定献立を作成しておくこと 復習：実習のながれを確認し、自分の役割	B

	実習の注意事項と各役割について 実習献立作成	をまとめる	
第2回	実習前準備・資料作成 試作・給食管理室清掃	予習：実施献立の作り方や作業工程について把握しておく 復習：試作献立の内容をまとめる	B
第3回	実習前準備・資料作成・試作	予習：実施献立の作り方や作業工程について把握しておく 復習：試作献立の内容をまとめる	B
第4回	実習前準備・資料作成・試作	予習：実施献立の作り方や作業工程について把握しておく 復習：大量調理施設衛生マニュアルについて復習しておく	B
第5回	第1回実習 実習班、準備班、計画班に分かれ、実習や実習の準備を行う	予習：実習班は当日の衛生管理の重要点や作業工程について把握しておく 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第6回	第2回実習 実習班、準備班、計画班に分かれ、実習や実習の準備を行う	予習：実習班は当日の衛生管理の重要点や作業工程について把握しておく 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第7回	第3回実習 実習班、準備班、計画班に分かれ、実習や実習の準備を行う 第1回実習	予習：実習班は当日の衛生管理の重要点や作業工程について把握しておく 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第8回	第4回実習 実習班、準備班、計画班に分かれ、実習や実習の準備を行う	予習：実習班は当日の衛生管理の重要点や作業工程について把握しておく 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第9回	第5回実習 実習班、準備班、計画班に分かれ、実習や実習の準備を行う	予習：実習班は当日の衛生管理の重要点や作業工程について把握しておく 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第10回	第6回実習 実習班、準備班、計画班に分かれ、実習や実習の準備を行う	予習：実習班は当日の衛生管理の重要点や作業工程について把握しておく 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第11回	第7回実習 実習班、準備班、計画班に分かれ、実習や実習の準備を行う	予習：実習班は当日の衛生管理の重要点や作業工程について把握しておく 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第12回	第8回実習 実習班、準備班、計画班に分かれ、実習や実習の準備を行う	予習：実習班は当日の衛生管理の重要点や作業工程について把握しておく 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第13回	第9回実習 実習班、準備班、計画班に分かれ、実習や実習の準備を行う	予習：実習班は当日の衛生管理の重要点や作業工程について把握しておく 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第14回	帳票作成・報告会の準備・掃除	予習：報告会の発表内容をまとめる 復習：実習ノートをまとめる	B
第15回	報告会・まとめ	予習：報告会の発表内容をまとめる 復習：校外実習に向けて学んだことをまとめておく	B
	実施せず		

給食管理実習[校外]

更新日：2024/02/21 13:39:54

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C160700	授業コード	
担当教員	高木 恵美子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	7F223	授業形態	実習	期待される学習成果	7		
コース別 必修・選択必修等	栄養士必修	授業時間+自習時間	45				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	管理栄養士として長年委託給食会社に従事した経験をもとに、様々な給食施設の現状に即した実践的な演習を取り入れた指導を行う。この授業における学びは、卒業後、栄養士として給食管理や衛生管理の推進に生かすことができる。					

授業概要

内容	病院・社員食堂等の給食施設において、現場栄養士の指導のもとで実習を行い、栄養士の業務を体験する。現場を体験することで、将来栄養士職に従事したときにそれぞれの状況に応じた対応ができる。	
方法	実習を履修するにあたって、3回の事前指導に出席することが必要である。また、実習後には、実習先ごとに学習したことをまとめ、報告会で発表を行う。	

到達目標

1	栄養士として必要な専門用語や内容を理解している
2	実習で学んだことを振り返り、その成果を自分自身で生かそうとすることができる
3	周りの人と協力しながらまじめに取り組むことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	テスト	30
到達目標②	実習ノート	30
到達目標③	報告会の内容	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

E-mail: takagi@mizuho-c.ac.jp
研究室2-1

学生へのメッセージ

これまでに学習した内容をしっかり復習して校外実習に臨むこと。事前・事後の講義を無断で欠席しないこと。

課題に対するフィードバック

提出された実習ノートは、添削して返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	事前指導（1） 校外実習についての全体説明（目的、心得、全体のスケジュール等）	予習：テキスト全体を読んで理解する 復習：学んだことをまとめる	A
第2回	事前指導（2） 実習に向けての準備について	予習：レポートを作成する	A

		復習：各自で実習の目的を考え、自分の課題を考える	
第3回	事前指導 (3) 提出書類の説明と各書類の作成 小テスト ◆校外実習 5日間 (45時間)	予習：小テストの予習 復習：提出書類の確認、課題の作成 予習： ・自身の目標を持ち、事前指導で学んだことを復習して臨む ・毎回実習ノートを記録し、指導栄養士に提出する ・体調に留意し、5日間休まずやり遂げる 復習：学んだことをまとめる	A、D
第4回	事後指導 (1) 校外実習報告会に向けての準備について	予習：自分の実習について、発表内容をまとめる 復習：発表の準備を進める	B
第5回	事後指導 (2) 校外実習報告会	予習：発表内容や媒体の準簿を整える 復習：学んだことをまとめる	B
第6回	実施せず		
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

学校栄養教育概論

更新日：2024/01/16 01:01:22

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C170100	授業コード		
担当教員	林 紫							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	3F212	授業形態	講義	期待される学習成果	3			
コース別 必修・選択必修等	栄養教諭必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	教科書に沿った授業の中に栄養教諭としての経験を入れた授業を行い、より実践的な分かりやすい授業を行う。						

授業概要

内容	栄養士と教諭の二つの資質を兼ね備えた職域が栄養教諭である。学校組織の中で食育をするためには計画、実践、評価し、さらに展開していくための知識と指導力が必要である。この授業を通して栄養教諭としての専門的知識を学ばせ、児童生徒が持つ食に関する課題を解決するための技術、能力を身に付ける。また、家庭や地域へも発信するための幅広い知識を習得する。
方法	教科書とともに必要な情報をプリントやPPで示し講義を進めていく。指導案の作成は個人またはグループワークとし、作成した指導案に基づき模擬授業を行い、研究協議においてグループディスカッションやその相互評価により、完成度の高いものに手直ししていく。模擬授業を複数回経験させ、栄養教諭校外実習に繋げていく。最終的に全ての指導案で年間計画が完成できるように組み立てていく。提出された指導案は事前に添削・返却し、授業内で解説していく。

到達目標

1	子どもの成長を理解し、栄養教諭として関わる内容を説明することができる
2	食育と関連する教科等における指導案が作成できる
3	作成した指導案にそって模擬授業を実施することができる
4	学校における食育の全体計画が作成できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	試験	30
到達目標②	指導案	30
到達目標③	模擬授業	30
到達目標④	レポート	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「食に関する指導の手引」ー第二次改訂版ー平成31年3月	健学社	文部科学省

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	小学校学習指導要領平成29年告示	東洋館出版	文部科学省
2	中学校学習指導要領平成29年告示	東山書房	文部科学省

オープンな教育リソース

学習指導要領およびその解説は文部科学省のWebページで見ることができます。次のURLから見たい校種・領域のものを見てください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

オフィスアワー

金曜日14時30分～15時 非常勤講師室

学生へのメッセージ

毎時間出されるレポートや指導案作成の課題は必ず提出すること。

課題に対するフィードバック

授業内の課題について、次時の授業で発表し、意見交換をおこなう。

提出された指導案、レポートは授業の到達目標の観点から添削し、返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	食に関する指導の必要性と栄養教諭の職務	予習：教科書第1章を読み、子どもを取り巻く食の現状と栄養教諭としての関わり方を把握しておく 復習：授業の内容をまとめる	B
第2回	食に関する全体計画の作成と必要性	予習：教科書第3章を読んでおく 復習：全体計画を作成する上で必要となる実態把握の方法について自分なりの意見をまとめておく	B
第3回	食に関する指導を効果的に進めるための留意事項・栄養教諭の役割	予習：学校内で食に関する指導を効果的に進めるための共通理解の回り方を考えておく 復習：プレゼンテーションにおける自分の改善点をまとめておく	D
第4回	給食の時間における食に関する指導の進め方	予習：教科書第5章を読んでおく 課題：学校給食を題材に発達段階に応じた一言指導のプレゼンを作成する	D
第5回	学習指導案の作成手順と方法	予習：学習指導案とは何か調べておく 課題：小学校用食生活教材（文部科学省）から指定する題材の指導案を作成する	B
第6回	・模擬授業と研究協議－給食の時間（小学校）－ ・給食の時間における食に関する指導（中学校）	予習：教科書第2章を読んでおく 課題：地産地消を題材とした中学校の指導案を作成する	B,D
第7回	模擬授業と研究協議－給食の時間（中学校）－	予習：授業をイメージして練習しておく 復習：他の発表を聞きながら自分の指導案を修正する	B,D
第8回	各教科における食に関する指導－体育科－	予習：教科書第4章（各論）体育、保健体育を読んでおく 課題：「体育科（保健領域）」の指導案を作成する	B
第9回	模擬授業と研究協議－体育科－	予習：授業をイメージして練習しておく 復習：他の発表を聞きながら自分の指導案を修正する	B,D
第10回	各教科における食に関する指導－家庭科－	予習：教科書第4章（各論）家庭科、技術・家庭科を読んでおく 課題：「家庭科」の指導案を作成する	B
第11回	模擬授業と研究協議－家庭科－	予習：授業をイメージして練習しておく 復習：他の発表を聞きながら自分の指導案を修正する	B,D
第12回	各教科における食に関する指導－特別活動－	予習：教科書第4章（各論）特別活動を読んでおく 課題：学級活動（2）の指導案を作成する	B
第13回	模擬授業と研究協議－特別活動－	予習：授業をイメージして練習しておく 復習：他の発表を聞きながら自分の指導案を修正する	B,D
第14回	各教科における食に関する指導－生活科、社会科－	予習：教科書第4章（各論）生活科、社会科を読んでおく 課題：生活科の指導案を作成する	B
第15回	・模擬授業と研究協議－生活科－ ・個別的な相談指導の進め方	予習：授業をイメージして練習しておく。教科書第6章を読んでおく 復習：他の発表を聞きながら自分の指導案を修正する	B,D
	定期試験		

保育学（食栄）

更新日：2024/02/19 10:16:06

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C190100	授業コード		
担当教員	谷口 良美							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	2F224	授業形態	講義	期待される学習成果	2			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	保育士・保育園長として勤務していた経験をもとに、乳幼児の発達やあそびについて実践的な授業を行う。また現在の保育施設が抱える課題などについても学びを深める。						

授業概要

内容	子どもや家庭を取り巻く環境や、乳幼児期の心身の発育・発達に関する学びをとおして、保育や子どもの育ちへの理解を深める。また、保育内容について実践的に理解を深め、現代に求められる保育の役割について学ぶ。		
方法	現代の子どもや家庭を取り巻く環境や、乳幼児期の育ちの姿について、主に講義によって理解を深める。保育教材や遊びについての調査や製作、実践をとおして、保育の内容や方法のあり方を探求する。		

到達目標

1	乳幼児期の育ちと保育について理解する。
2	現代の保育に求められる役割を理解する。
3	保育教材や子どもの遊びについて、調査・準備・実践できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	40
到達目標②	レポート	30
到達目標③	提出物や発表	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じてプリントを配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じてプリントを配布する。		

オープンな教育リソース

- ・保育所保育指針（厚生労働省ホームページ）<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf>
- ・子ども・子育て支援新制度（内閣府ホームページ）<https://www8.cao.go.jp/shoushi/index.html>

オフィスアワー

金曜1限 研究室1-5
E-mail：taniguchi@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

現代社会の状況を考えながら、子どもの育ちに何が必要とされるか考えながら受講してほしい。

課題に対するフィードバック

理解状況は受講コメントやレポートにて確認し、必要に応じて授業においてフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション・保育学について	予習：自身の幼少期を振り返る	B

		復習：授業内容を振り返って整理する	
第2回	保育とは①歴史的経緯	予習：保育や教育の歴史を調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	
第3回	保育とは②現代の状況や制度	予習：子ども・子育て支援新制度を調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	
第4回	保育とは③基本的な理念	予習：保育所保育指針（第1章）を読む 復習：授業内容を振り返って整理する	
第5回	乳幼児期の育ち①子どもとは	予習：子ども観について調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	
第6回	乳幼児期の育ち②心理・社会的発達	予習：アタッチメント（愛着）について調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	
第7回	乳幼児期の育ち③身体や運動の発育・発達	予習：乳幼児期の運動発達について調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	
第8回	乳幼児期の育ち④遊びの理論的な理解	予習：子どもの遊びについて調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	
第9回	保育内容の探究①児童文化の視点から	予習：親しんだ遊びや絵本などを調べておく 復習：授業内容を振り返って整理する	B
第10回	保育内容の探究②保育教材・遊びの調査	予習：保育における子どもの遊びについて調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	B
第11回	保育内容の探究③伝承的なあそび	予習：伝承遊びを調べておく 復習：実践内容の振り返り	B
第12回	保育内容の探究④運動による遊び	予習：実践・実演に向けて準備する 復習：実践内容の振り返り	B
第13回	保育内容の探究⑤製作による遊び	予習：実践・実演に向けて準備する 復習：実践内容の振り返り	B
第14回	保育内容の探究⑥子どもの育ちと遊び	予習：各実践・実演を振り返る 復習：授業内容を振り返って整理する	
第15回	半期の振り返りとまとめ	予習：全回の内容を振り返る 復習：授業内容を振り返って整理する	
	実施せず		

薬理概論

更新日：2024/02/21 13:24:51

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C190400	授業コード		
担当教員	鷺野 嘉映							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	3L212	授業形態	講義	期待される学習成果	3			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	薬剤師：病院薬剤師（精神科・内科）としての経験を生かし、病気と薬の関わりについて実例を挙げて講義する。						

授業概要

内容	薬の効き方と正しい使い方を理解するため、薬の種類と性質、作用機序、投与後の生体内での動き、薬効に及ぼす各種要因など、薬に関する基本的な知識を修得する。薬が病気を治す働きを知ることで、不適切な薬の使用を抑えることが可能となり、自らの健康の保持増進に対して責任を持つことが出来るようになる。 登録販売者試験を目指す学生の試験における基礎的な事項を学習する。
方法	教科書とともにパワーポイントを使用して講義する。 各授業においては、授業内容に関して、高校までの学習内容に基づき常にQ&Aにより授業を進行する。なお、回答においては、「分かりません」や安易な回答は認めません。

到達目標

1	薬の分類、薬理作用と薬の効く仕組み（作用機序）を説明できる。
2	薬の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）の各過程を説明できる。
3	薬の投与方法・経路、剤形とそれらの最近の進歩を説明できる。
4	薬理作用に影響を及ぼす各種因子を説明できる。
5	授業を通して疑問に思った事項を積極的に質問をして、計画的に自主学習ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	20
到達目標②	定期試験	20
到達目標③	定期試験	20
到達目標④	定期試験	20
到達目標⑤	授業態度（授業レポートを含む）	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	いちばんやさしい薬理学	成美堂出版	木澤靖夫

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	薬がみえる vol.1-vol.4	メディックメディア	医療情報科学研究所

オープンな教育リソース

「医薬品ができるまで」（くすりの適正使用協議会）<https://www.youtube.com/watch?v=VGnWWEjdzNM>
「くすりはどのように効くの？」（日本薬学会公式チャンネル）<https://www.youtube.com/watch?v=i3qVBeMU29s>

オフィスアワー

月曜日 12:10～12:55 研究室2-2

提示したオフィスアワーでの対応に加えて、メールwashino@mizuho-c.ac.jp（#を@に変更）で事前に予約することで適宜対応します。

学生へのメッセージ

薬の働きを理解するうえで、ヒトの体の構造や生理を知っていることが必要となります。そのため、高校で学習した生物基礎の教科書を再度熟読して理解しておくことが望まれます。

毎回予習復習に努めて、講義中での積極的な質問を期待します。

授業時における他の学生の授業を妨げる態度はマイナス評価となるので注意してください。

授業中に突っ伏して寝る等、体調不良が考えられる場合は、保健室での休養をお願いします。

授業の進行状況によっては、シラバスの内容に変更が生じる場合がありますが、その際は事前に通知します。

課題に対するフィードバック

授業時間中に口頭で多くの質問を課し、意見交換を行うとともに、講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	薬の分類、薬に関する取決め（法・制度）	予習：身の回りの医薬品の説明書・添付文書を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第2回	薬理作用と作用機序 薬はどのように効くのか？どのような薬が安全か？	予習：テキストの第1章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第3回	薬の体内動態Ⅰ：吸収・分布	予習：テキストの第1章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第4回	薬の体内動態Ⅱ：代謝・排泄	予習：テキストの第1章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第5回	薬の投与方法・経路と剤形	予習：テキストの第1章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第6回	薬理作用に影響を及ぼす因子	予習：テキストの第1章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第7回	感染症の薬Ⅰ：細菌	予習：テキストの第7章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第8回	感染症の薬Ⅱ：その他の微生物	予習：テキストの第7章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第9回	消化器の薬	予習：テキストの第4章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第10回	生活習慣病の薬Ⅰ：循環器	予習：テキストの第5章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第11回	生活習慣病の薬Ⅱ：内分泌	予習：テキストの第9章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第12回	炎症・免疫の薬	予習：テキストの第6章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第13回	神経の薬	予習：テキストの第2章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第14回	耳鼻咽喉の薬	予習：テキストの第11章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第15回	悪性新生物の薬	予習：テキストの第10章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
	定期試験		

食料経済

更新日：2024/02/21 08:47:54

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C190500	授業コード		
担当教員	松本 義宏							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	3F223	授業形態	講義	期待される学習成果	3			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	フードシステムという概念を中心に、食料経済を学ぶ。フードシステムとは消費者に提供されている食料の流れを消費者から生産者方向にたどり、その際に関連する経済主体の相互作用を総合的なシステムとして捉えたものである。講義ではフードシステムの最終目的である食生活にも着目する。食料経済の理論を学ぶとともに、食生活の変化を時間軸の中で捉えられるようになることを目的とする。						
方法	テキストを中心に講義形式で進める。講義はスライド画面を共有し、画像、映像などの事例を用いながら進める。パソコン、TeamsなどのICT（情報通信技術）を積極的に活用して授業を進める。						

到達目標

1	食料経済に係る基礎的な知識を習得する
2	食料経済に係る学習を通して、自身をとりまく食生活について気づきをまとめる
3	食料経済に係る諸課題に関して、積極的に考究する姿勢を身につける

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	50
到達目標②	小テスト	30
到達目標③	授業毎のリアクションペーパー	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	四訂 食品の消費と流通	建帛社	日本フードスペシャリスト協会

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	三訂 食品の消費と流通	建帛社	日本フードスペシャリスト協会

オープンな教育リソース

オフィスアワー

前期 月曜日 8:30~9:00 10:30~11:00

学生へのメッセージ

授業中は、積極的に質問するので、「考える」こと、「発言する」ことを恐れず、積極的な授業への参加を期待する。
予習・復習・授業中に分からなかったところは、積極的にメールやチャットなどで相談すること。
パソコン、TeamsなどのICT（情報通信技術）を積極的に活用して授業にのぞむこと。

課題に対するフィードバック

- ①授業毎のリアクションペーパーについて、コメントをつけるなどしてフィードバックする。
- ②授業内の課題について、授業内で発表し、情報や意見の交換などをおこなう。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	食市場概論 キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第1章（P2～P26）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第2回	食品消費の変化と価格決定の弾力性 キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第1章（P17～P26）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第3回	食生活文化の多様化 キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第1章（P27～P33）と第2章（P34～P36）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第4回	食品流通の機能 キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第2章（P36～P60）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第5回	外食産業のマーチャライジング キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第3章（P60～P64）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第6回	中食産業のマーチャライジング キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第3章（P65～P71）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第7回	商品の分類と流通 キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第4章（P72～P79）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第8回	主要食品の流通概論 (1)温帯別食品流通 キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第4章（P80～P94）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第9回	主要食品の流通概論 (2)主要食品の流通 キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第4章（P95～P112）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第10回	主要食品の流通概論 (3)現代の食品流通 キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第4章（P113～P125）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第11回	フードビジネス概論 キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第5章（P126～P129）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第12回	フードマーケティング概論 キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第4章（P129～P139）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第13回	食料消費と環境問題 キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第6章（P140～P143）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第14回	食品流通の安全確保 キーノートを使用し、スライド映像を共有	予習：テキスト第6章（P144～P147）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第15回	食料消費にかかわる諸課題 DVD視聴後、グループ討議	予習：テキスト第6章（P147～P152）を読み込み、分からない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	B
	実施せず		

フードコーディネーター論

更新日：2024/02/21 10:13:58

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3C190600	授業コード	
担当教員	水野 早苗						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	8F223	授業形態	講義	期待される学習成果	8		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	食に関するさまざまな場面において必要な「もてなしの心」を理解し、周りの人が満足できる食の環境を演出する知識や技術を学ぶ。						
方法	講義を主とする。講義はパワーポイントを使用し、時にはDVD視聴もする。 最後に各自で取り組んだ課題について、発表・意見交換する。 毎授業後、Teamsを使って授業内容について感想や質問を提出してもらい、それをもとに次回振り返りをする。						

到達目標

1	フードコーディネーターについて、基本的な内容を理解できる
2	課題に対して真剣に取り組み、自分の意見を文章にまとめることができる
3	授業に真剣に取り組むことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	60
到達目標②	課題レポート	30
到達目標③	毎回の授業に対する記述内容	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	三訂 フードコーディネーター論	建帛社	日本フードスペシャリスト協会

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日1限（研究室2-1）
E-mail：s-mizuno@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

授業に使用する資料は予めTeamsにアップするので、予習復習に活用して欲しい。

課題に対するフィードバック

定期試験の答案用紙および課題レポートは、採点后返却する

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	フードコーディネーターの基本理念：パワーポイント使用	予習：テキストp.2～13まで読んで、内容を理解してくる 復習：フードコーディネーターの基本理念についてまとめる	A
第2回	食事の文化ー食のタブーと宗教、日本の食事の歴史ー：パ	予習：テキストp.15～27まで読んで、内容を理解する	A

	ワーポイント使用	復習：縄文時代からの食生活の変遷をまとめる	
第3回	食事の文化ー外国の食事ー：パワーポイント使用	予習：テキストp.27～33まで読んで、内容を理解する 復習：他国の食生活の特色についてまとめる	A
第4回	食卓のコーディネートー日本料理ー：パワーポイント使用	予習：テキストp.35～43まで読んで、内容を理解する 復習：日本料理のコーディネートについてまとめる	A
第5回	食卓のコーディネートー中国料理、西洋料理ー：パワーポイント使用	予習：テキストp.43～55まで読んで、内容を理解する 復習：中国料理、西洋料理のコーディネートについてまとめる	A
第6回	食卓のサービスとマナーー日本料理、中国料理ー：パワーポイント使用	予習：テキストp.57～69まで読んで、内容を理解してくる 復習：日本各地の食の特色をまとめる	A
第7回	食卓のサービスとマナーー西洋料理、パーティほかー：パワーポイント使用	予習：テキストp.69～80まで読んで、内容を理解する 復習：西洋料理、パーティについてまとめる	A
第8回	メニュープランニングの要件：パワーポイント使用	予習：テキストp.81～86まで読んで、内容を理解する 復習：メニュープランニングについてまとめる	A
第9回	メニュープランニングーメニュー開発の基礎ー：パワーポイント使用	予習：テキストp.87～98まで読んで、内容を理解する 復習：メニュー開発についてまとめる	A
第10回	食空間のコーディネート：パワーポイント使用：パワーポイント使用	予習：テキストp.99～117まで読んで、内容を理解する 復習：食空間コーディネートについてまとめる	A
第11回	キッチンのコーディネート：パワーポイント使用：パワーポイント使用	予習：テキストp.118～121まで読んで、内容を理解する 復習：キッチンコーディネートについてまとめる	A
第12回	フードサービスマネジメントー基本ー：パワーポイント使用	予習：テキストp.123～129まで読んで、内容を理解する 復習：フードマネジメントについてまとめる	A
第13回	フードサービスマネジメントー企業、投資計画ほかー：パワーポイント使用	予習：テキストp.129～143まで読んで、内容を理解する 復習：フードマネジメント（企業）についてまとめる	A
第14回	各自で食企画を考え、チラシを作成する：ノートパソコン使用	予習：テキストp.145～162まで読んで、食企画を考える 復習：食企画の実践について考え、まとめる	A
第15回	食企画 発表と意見交換	予習：発表の準備 復習：テキスト全体を読んで見直し、理解する	A,D
	定期試験		

フードスペシャリスト論

更新日：2024/02/21 10:19:25

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C190700	授業コード		
担当教員	水野 早苗							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	8F224	授業形態	講義	期待される学習成果	8			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	日本の食の歴史や現状を理解し、現代の食の課題について学習する。食品に関する法律や制度についても学び、健康社会に向けて活用できる力を身につける。						
方法	講義を主とする。講義にはパワーポイントを使用し、DVDの視聴もする。 現代の食の問題について、ディスカッションで理解を深める。 毎授業後、Teamsを使って授業内容について感想や質問を提出してもらい、それをもとに次回振り返りをする。						

到達目標

1	現代の食に関する基本的な内容を理解することができる
2	課題に対して真剣に取り組み、自分の意見をまとめることができる
3	授業に真剣に取り組むことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	60
到達目標②	課題	30
到達目標③	毎回の授業に対する記述内容	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	四訂 フードスペシャリスト論（第7版）	(株)建帛社	(社)日本フードスペシャリスト協会編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日1限（研究室2-1）

E-mail：s-mizuno@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

定期試験の答案用紙および課題レポートは、採点后返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	フードスペシャリストとは：パワーポイント使用	予習：テキストp.2～27まで読んで、内容を理解してくる 復習：学んだことをまとめる	A

第2回	人類の歩みと食生活：パワーポイント使用	予習：テキストp.30～46まで読んで、内容を理解してくる 復習：縄文時代からの食生活の変遷をまとめる	A
第3回	世界の食（食作法、禁忌と忌避）：パワーポイント使用	予習：テキストp.47～54まで読んで、内容を理解してくる 復習：世界の食生活の特色についてまとめる	A
第4回	世界の食（世界各地の食事情）：パワーポイント使用	予習：テキストp.55～62まで読んで、内容を理解してくる 復習：世界の食の問題についてまとめる	A
第5回	日本の食（歴史）：パワーポイント使用	予習：テキストp.63～73まで読んで、内容を理解してくる 復習：日本の料理形態をまとめる	A
第6回	日本の食（地域差）：パワーポイント使用	予習：テキストp.74～81まで読んで、内容を理解してくる 復習：日本各地の食の特色をまとめる	A
第7回	現代日本の食生活（戦後から現代までの食生活）：パワーポイント使用	予習：テキストp.83～97まで読んで、内容を理解してくる 復習：戦後以降の食生活をまとめる	A
第8回	現代日本の食生活（食料の供給と食料自給率、環境と食）：パワーポイント使用	予習：テキストp.98～106まで読んで、内容を理解してくる 復習：食料自給率についてまとめる	A
第9回	食品産業の役割（食品製造業）：パワーポイント使用	予習：テキストp.107～114まで読んで、内容を理解してくる 復習：食品製造業の役割についてまとめる	A
第10回	食品産業の役割（食品卸売業、食品小売業、外食産業）：パワーポイント使用	予習：テキストp.115～125まで読んで、内容を理解してくる 復習：各産業の役割についてまとめる	A
第11回	食品の品質規格と表示（法体系の概要、JAS法）：パワーポイント使用	予習：テキストp.127～145まで読んで、内容を理解してくる 復習：食品の安全性についてまとめる	A
第12回	食品の品質規格と表示（食品衛生法）：パワーポイント使用	予習：テキストp.145～152まで読んで、内容を理解してくる 復習：食品衛生法についてまとめる	A
第13回	食品の品質規格と表示（健康増進法、コーデックス規格）：パワーポイント使用	予習：テキストp.153～164まで読んで、内容を理解してくる 復習：健康増進法についてまとめる	A
第14回	食情報と消費者保護（情報の発信と受容、食情報の濫用）：パワーポイント使用	予習：テキストp.165～171まで読んで、内容を理解してくる 復習：食情報の濫用について、問題点をまとめる	A
第15回	食情報と消費者保護（食品の情報管理、消費者保護の制度等）：パワーポイント使用 消費者保護についてディスカッション	予習：テキストp.171～181まで読んで、内容を理解してくる 復習：消費者保護の制度についてまとめる	A,B
	定期試験		

食品官能評価・鑑別論（統計処理を含む。）

更新日：2024/02/21 11:30:31

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C190800	授業コード	
担当教員	横山 洋子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3F224	授業形態	演習	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	60+30				
		履修条件・留意点	「演習」を行う回は、白衣、帽子、マスク、シューズを持参すること。忘れた場合は実習することができません。				
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	フードスペシャリストには、食品を評価し選択する行為をサポートすることが求められる。この講義では、種々の食品についての基本的な知識と、食品の品質を適正に評価するために必要な技術を学ぶ。また、人間の感覚器官を活用して食品を評価する「官能評価」について、実際に体験する。
方法	・教科書に基づいてパワーポイントを用いて講義を行う。 ・グループで実習を行うことにより講義内容の理解を深める。 ・グループごとに食品の官能評価方法を計画・実施し、簡単な統計処理を行った結果を発表する。

到達目標

1	食品官能評価・鑑別論の知識を身につけることができる
2	資格認定試験の解答力を身につけることができる
3	官能評価の計画・実施・結果についてプレゼンすることができる
4	積極的に授業に参加し、学習した内容についてまとめることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	40
到達目標②	小テスト	20
到達目標③	発表	20
到達目標④	レポート	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「三訂 食品の官能評価・鑑別演習」 (公社)日本フードスペシャリスト協会編	建帛社	青柳康夫他10名

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

木曜日 9:30~11:30

2号館1階「研究室2-1」

メールアドレス:y-yokoyama@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

・フードスペシャリストの資格取得を目指す学生の必修科目です。対策授業も行うため、しっかり勉強して資格取得を目指してください。

課題に対するフィードバック

- ・単元ごとに行う小テストは、授業内で採点・解答・解説を行う。
- ・提出されたレポートは、添削し、コメントをつけるなどして返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	官能評価の概要	予習：教科書 p.1～2 「食品の品質」を読む 復習：五感についてまとめる	A
第2回	演習① 味覚を知る	予習：「味の変化」について調べる 復習：レポートをまとめる	A
第3回	官能評価の基本と実施法	予習：教科書 p.5～11 「官能評価の基本と実施法」を読む 復習：官能評価の条件をまとめる	A
第4回	演習② 五味鑑別テスト法 演習③ 2点識試験法	予習：教科書 p.7 「五味の鑑別テスト例」、p.13 「演習1」を読む 復習：レポートをまとめる	A
第5回	演習④ 3点識別試験法 演習⑤ 順位法 演習⑥ SD法	予習：教科書 p.16 「演習3」、p.19 「演習5」、p.30 「演習8」を読む 復習：レポートをまとめる	A
第6回	小テスト（食品の官能評価）と解説	予習：「官能評価」について復習し、小テストに備える 復習：小テストを復習する	A
第7回	化学的評価法	予習：教科書 p.32～50 「食品成分と品質」を読む 復習：学んだことをまとめる	A
第8回	演習⑦ 精度の測定	予習：教科書 p.51 「精度の測定」を読む 復習：レポートをまとめる	A
第9回	小テスト（食品の化学的評価法）と解説 物理的評価法（1） 食品の状態	予習：「化学的評価法」について復習し、小テストに備える 復習：小テストを復習する	A
第10回	演習⑧ 乳化の実験 演習⑨ 乳濁液と懸濁液	予習：教科書 p.60～63 「食品の状態」を読む 復習：レポートをまとめる	A
第11回	物理的評価法（2） レオロジーとテクスチャー	予習：教科書 p.64～67 「レオロジーとテクスチャー」を読む 復習：学んだことをまとめる	A
第12回	演習⑩ ゾルとゲル	予習：教科書 p.61～63 「エマルション、サスペンション、ゾルとゲル」を読む 復習：レポートをまとめる	A
第13回	小テスト（食品の物理的評価法）と解説	予習：「物理的評価法」について復習し、小テストに備える 復習：小テストを復習する	A
第14回	個別食品の鑑別（1） 米、トウモロコシ、雑穀類	予習：教科書 p.88～106 「米」「麦類」「トウモロコシ」「雑穀類」を読む 復習：学んだことをまとめる	A
第15回	個別食品の鑑別（2） イモ類、豆類	予習：教科書 p.107～115 「イモ類」「豆類」を読む 復習：学んだことをまとめる	A
第16回	演習⑪ 米、イモの実習	予習：サツマイモ、ジャガイモの種類と特徴を調べる 復習：レポートをまとめる	A
第17回	個別食品の鑑別（3） 野菜類、きのこ類、果物類、海藻類	予習：教科書 p.118～138 「野菜類、キノコ類」「果実類」「海藻類」を読む 復習：学んだことをまとめる	A
第18回	小テスト（米～海藻類）と解説	予習：「米～海藻類」を復習し、小テストに備える 復習：小テストを復習する	A
第19回	個別食品の鑑別（4） 魚介類、肉類、卵類、乳・乳製品、油脂	予習：魚介類の旬、肉類の特徴を調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第20回	演習⑫ 卵の鮮度の実習、各種チーズの試食	予習：教科書 p.165～166 「鮮度低下の判定」、171～173 「チーズの種類と特徴」を読む 復習：レポートをまとめる	A
第21回	小テスト（肉～油脂）と解説	予習：「肉～油脂」を復習し小テストに備える 復習：小テストを復習する	A
第22回	個別食品の鑑別（5） 酒類、茶類	予習：酒の分類、茶類の分類を調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第23回	個別食品の鑑別（6） 醸造食品、香辛料	予習：醸造食品について調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第24回	小テスト（酒類～香辛料）と解説	予習：「酒類～香辛料」を復習し小テストに備える 復習：小テストを復習する	A
第25回	フードスペシャリスト認定試験対策（1） 試験（過去問題より抜粋）	予習：過去問題を解き、試験に備える 復習：試験問題を復習する	A
第26回	フードスペシャリスト認定試験対策（2）	予習：過去問題を解き、試験に備える	A

	解答と解説	復習：試験問題を復習する	
第27回	官能評価実施の計画	予習：官能評価の方法について復習する 復習：グループの計画を見直す	A, B
第28回	官能評価実施の準備	予習：実施する評価方法について、必要な材料等を考える 復習：グループの準備を見直す	A, B
第29回	官能評価の実施	予習：官能評価実施の流れを確認する 復習：学んだことをまとめる	D
第30回	官能評価についての発表 まとめ	予習：発表内容をまとめる 復習：学んだことをまとめる	B, D
	定期試験	予習：小テストを中心に復習し、定期試験に備える	

食品加工学実習

更新日：2024/02/21 11:31:30

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C190900	授業コード	
担当教員	水野 早苗 横山 洋子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6F224	授業形態	実習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点	白衣、帽子、シューズを持参すること。忘れた場合は実習できません。				
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	原料から加工食品を作る中で、製造原理や製造方法を学ぶ。また、食品の保存方法や利用方法についても学び、個々の学生が、厨房（台所）でできる食品ロス削減への取り組みについて考える。
方法	調理実習や調べ学習など、グループワークを主体とする。

到達目標

1	グループで協力し、製品を作り上げることができる
2	授業で学んだことを今後どう生かすかについて考えをまとめ、記述することができる
3	授業で学んだことを振り返り、ポイントや質問を記述することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	出来上がり製品	50
到達目標②	振り返りシート	30
到達目標③	リアクションペーパー	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日 9:00~11:30
2号館1階「研究室2-1」

学生へのメッセージ

製品を持ち帰るためのエコバッグを持参してください。
調理実習や調べ学習など、グループワークが主体となります。グループで協力して積極的に取り組んでください。
1講目のオリエンテーションで示される注意事項を厳守してください。

課題に対するフィードバック

リアクションペーパーは、採点后、コメントをつけて返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション	予習：加工食品とは何かを調べる	A

		復習：学んだ内容をまとめる	
第2回	野菜の加工品	予習：トマトの加工品について調べる 復習：学んだ内容をまとめる	A
第3回	イモの加工品	予習：こんにゃくの製造原理を調べる 復習：学んだ内容をまとめる	A
第4回	穀類の加工品	予習：パンの主原料について調べる 復習：学んだ内容をまとめる	A
第5回	穀類の加工品（麺）	予習：麺の種類について調べる 復習：学んだ内容をまとめる	A
第6回	大豆の加工品	予習：豆腐の製造原理について調べる 復習：学んだ内容をまとめる	A
第7回	卵を使った加工品	予習：卵の二次加工品について調べる 復習：学んだ内容をまとめる	A
第8回	牛乳の加工品	予習：発酵乳の製造原理について調べる 復習：学んだ内容をまとめる	A
第9回	果物の加工品	予習：ジャムの製造原理について調べる 復習：学んだ内容をまとめる	A
第10回	漬物	予習：漬物の種類について調べる 復習：学んだ内容をまとめる	A
第11回	発酵調味料	予習：味噌の製麹について調べる 復習：学んだ内容をまとめる	A
第12回	和菓子	予習：アンの製造原理について調べる 復習：学んだ内容をまとめる	A
第13回	洋菓子	予習：製菓におけるバターの効果について調べる 復習：学んだ内容をまとめる	A
第14回	瓶詰を利用した食品の保存	予習：瓶詰のメリットとデメリットについて調べる 復習：学んだ内容をまとめる	A
第15回	まとめ 振り返りシート記入：ノートパソコン使用	予習：授業の内容を振り返る 復習：学んだ内容をまとめる	A
	実施せず		

社会実践

更新日：2024/02/21 11:32:55

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3C191000	授業コード		
担当教員	横山 洋子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 食物栄養専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	8F224	授業形態	演習	期待される学習成果	8			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+15					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	連携する名古屋市瑞穂区内の社会福祉施設におけるボランティア活動に、個人またはチームで取り組み、社会貢献に対する意識・行動力を獲得するとともに、健康社会に貢献しようとする力を身につける。						
方法	・事前学習（4回）→施設での活動（180分の活動×4日＝8回分）→事後学習（3回） ・活動する施設や単位（個人、グループ）、日時は、施設や学生により異なる。 ・実践記録やコミュニケーションは、Microsoft TeamsなどのPCツールを用いて行う。						

到達目標

1	一緒に働く仲間と信頼関係を築き、目標に向けてチームと協働することができる。
2	学んだことを振り返り、将来への生かし方をまとめることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	企画・実践記録	50
到達目標②	振り返りのプレゼンテーション	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

木曜日 9:30~11:30

2号館1階「研究室2-1」

メールアドレス：y-yokoyama@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

食物栄養専攻とオフィス総合コースの学生がコラボレーションで取り組むことがあります。社会のために自分には何ができるかを考え、積極的に、楽しみながら学びましょう。

課題に対するフィードバック

実践記録はコメントをつけるなどしてフィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	授業の概要説明	予習：シラバスを読む	A, B

		復習：次回の授業で質問したいことをまとめる	
第2回	事前学習① 社会貢献活動について理解する	予習：社会貢献活動について調べる 復習：授業で学んだ内容をまとめる	A
第3回	事前学習② 活動予定の施設について実践内容を知る ノートPC使用	予習：活動予定の施設について調べる 復習：授業で学んだ内容をまとめる	A, B
第4回	事前学習③ ボランティアに望まれる役割を知る	予習：ボランティアの意義、問題点について調べる 復習：授業で学んだ内容をまとめる	A
第5回	施設における活動① 1回目	予習：予定された活動のシミュレーション、リハーサル 復習：実践記録に記入し、振り返る	A, D
第6回	施設における活動② 2回目	予習：予定された活動のシミュレーション、リハーサル 復習：実践記録に記入し、振り返る	A, D
第7回	施設における活動③ 3回目	予習：予定された活動のシミュレーション、リハーサル 復習：実践記録に記入し、振り返る	A, D
第8回	施設における活動④ 4回目	予習：予定された活動のシミュレーション、リハーサル 復習：実践記録に記入し、振り返る	A, D
第9回	施設における活動⑤ 5回目	予習：予定された活動のシミュレーション、リハーサル 復習：実践記録に記入し、振り返る	A, D
第10回	施設における活動⑥ 6回目	予習：予定された活動のシミュレーション、リハーサル 復習：実践記録に記入し、振り返る	A, D
第11回	施設における活動⑦ 7回目	予習：予定された活動のシミュレーション、リハーサル 復習：実践記録に記入し、振り返る	A, D
第12回	施設における活動⑧ 8回目	予習：予定された活動のシミュレーション、リハーサル 復習：実践記録に記入し、振り返る	A, D
第13回	事後学習① 発表資料を作成する	予習：資料を収集する 復習：作成した資料を修正する	A, B
第14回	事後学習② 発表資料をまとめる	予習：作成した資料を修正する 復習：作成した資料・台本を確認する	A, B
第15回	事後学習③ 発表会	予習：発表会のシミュレーション 復習：活動全体と発表会を振り返る	D
	実施せず		

令和6（2024）年度 生活学科生活文化専攻シラバス

愛知みずほ短期大学

人間関係論

更新日：2024/03/01 14:44:37

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B100100	授業コード	
担当教員	永井 靖人						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	2L224	授業形態	講義	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	対人関係に関する社会心理学の研究から、よりよい人間関係を築くための考え方や集団の特徴について学ぶ。
方法	授業内容の説明の前後に、話し合い、調べ学習、Office365（Forms, Whiteboard, Teams）を用いた振り返りや知識の共有などのグループワーク、アクティブラーニングを行う。

到達目標

1	対人関係に関する課題について深く考え、意見を表明することができる
2	自己の対人経験を社会心理学に基づいて考察することができる
3	他者と協働してよりよい対人関係を築くための行動指針を立てることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	討論, 発表の内容, 参加度	33
到達目標②	レポート, ポートフォリオ	33
到達目標③	受講態度, 課題の遂行状況	34
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし。随時資料を配布する		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし。随時資料を配布する		

オープンな教育リソース

日本心理学会『心理学って何だろう』https://psych.or.jp/interest/lecture_hs/

オフィスアワー

月・水曜日12:20~12:50 2号館2階研究室2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

卒業必修であることを自覚してほしい。ポートフォリオは丁寧に作成する、Office365を活用する、積極的に話し合うなど、誠実な態度で授業に臨むこと。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対して、Teamsで対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 集団の性質	予習：シラバスを読んで、どのようなことを学ぶのかを確認する 復習：学んだことを深めるための調べ学習、経験の振り返り	A、B

第2回	自己意識	予習：基礎理論に関する動画を視聴する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第3回	性格（エゴグラムと交流分析）	予習：性格に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第4回	劣等感	予習：劣等感・有能感に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第5回	親和欲求	予習：親和欲求に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第6回	恋愛の類型	予習：恋愛への依存に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第7回	価値観（価値の類型とSVR理論）	予習：基礎理論に関する動画を視聴する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第8回	リーダーシップ	予習：リーダーシップに関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第9回	説得	予習：説得に対する抵抗感に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第10回	同調，リスクシフト	予習：同調欲求に関する心理テストに回答する類似性に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第11回	援助行動	予習：援助要請スタイルに関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第12回	攻撃行動	予習：攻撃欲求に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第13回	犯罪行動	予習：基礎理論に関する動画を視聴する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第14回	幸福感	予習：主観的幸福感に関する心理テストに回答する 復習：学んだことを深めるための調べ学習，経験の振り返り	A、B
第15回	まとめ	予習：これまでの疑問点を整理する 復習：レポート作成に向けて，要点を整理する	
	実施せず		

生活経営論

更新日：2024/02/21 12:04:14

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B100200	授業コード	
担当教員	高賀 敦子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	2L212	授業形態	講義	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	卒業必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	現代社会における家族の役割、家族関係、少子高齢化、経済、消費生活や食生活等における様々な課題について学習し、理解を深める。またライフステージにおける諸課題を理解し、生活設計を通して将来の目標に向かって意思決定する力を養う。						
方法	授業プリントに基づき、パワーポイントを用いて講義をおこなう。毎回、講義終了後に振り返りシートの記入、提出を求める。適宜、グループディスカッション、フィールドワーク、ロールプレイなどを取り入れながら、主体的に取り組んで理解を深め、多様な意見や考えを共有する。 テーマについて調べたことをレポートにまとめ、Active Portalの「レポート機能」を使ってWord形式で提出する。 Microsoft Formsを使って、適宜アンケートを実施する。 毎回授業終了後、スライド資料をTeamsに掲載する。						

到達目標

1	現代社会における様々な生活課題を列挙し、説明することができる。
2	現代社会における様々な生活課題について討議し、自分の考えを整理し表現することができる。
3	現代社会における様々な生活課題を理解し、説明することができる。
4	ライフステージにおける様々な生活課題を理解し、説明することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業プリント、レポート課題	25
到達目標②	グループディスカッションへの参加態度、振り返りシート、授業プリント	25
到達目標③	定期試験	25
到達目標④	定期試験	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

火曜日 9:00~10:30 1号館 3階 研究室3
a-kouga@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

自分で考える、分かることを増やす、他人の意見を聞く、自分の考えを述べることを大切にします。
日頃からニュースや新聞等をおとして社会の動きに関心をもち、幅広い見方・考え方を身につけて、将来の目標に向かって主体的に行動する力、自律性を身につけましょう。

課題に対するフィードバック

振り返りシートにはコメントをつけて返却する。また、その中で出された意見や感想、質問などは個別に回答して対応するとともに、次回の授業で取り上げ解説をおこなう。
レポート課題は、ルーブリックにより評価して返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 生活経営の意義（1） ～変化する社会と生活のかかわり～	予習：シラバスに目をとおり、授業内容を理解しておく 復習：産業構造の変化と生活のかかわりについて要点をまとめ、定期試験に備える	A
第2回	生活経営の意義（2） ～生活の変遷～	予習：事前資料に目をとおり、「性別役割分業」について調べておく 復習：日本経済の変化とともに、家族や世帯、働き方がどのように変化したかまとめ、定期試験に備える	A
第3回	変わる日本の社会と家族関係（1） ～変化する世帯の姿と家族の役割～	予習：家族の家庭内の役割（家事分担）についてまとめておく 復習：男女で異なる働き方、性別役割分業の実態などについてまとめ、定期試験に備える	A, B
第4回	変わる日本の社会と家族関係（2） ～現代の子どもと高齢者を取り巻く環境～	予習：新聞やテレビ等で取り上げられた児童虐待について調べ、まとめておく 復習：児童虐待、子供の貧困、高齢者を取り巻く環境、介護の実態についてまとめ、定期試験に備える	A
第5回	変わる日本の社会と家族関係（3） ～現代の結婚と未婚化・晩婚化が及ぼす影響～	予習：事前資料に目をとおり、結婚に対して希望する条件をまとめておく 復習：社会の変化に伴う結婚の変化、未婚化や晩婚化が社会に与える影響についてまとめ、定期試験に備える	A
第6回	ライフステージと生活設計（1） ～各ライフステージにおける生活課題～	予習：短大卒業後から90歳までの間のライフイベントについてまとめておく 復習：ライフステージにおける生活課題についてまとめ、定期試験に備える	A
第7回	ライフステージと生活設計（2） ～将来設計立案～	予習：将来設計の立案に向け、自分の考えをまとめておく 復習：夢や目標の実現のために準備できることをまとめ、定期試験に備える	A, B
第8回	ライフステージと消費生活（1） ～経済的に自立する～	予習：一人暮らしをする時の条件を考えておく 復習：収入や生活費の内訳、生涯を見通した経済計画の重要性についてまとめ、定期試験に備える	A, B
第9回	ライフステージと消費生活（2） ～現代の消費生活のあり方～	予習：キャッシュレス決済の種類について調べ、まとめておく 復習：消費者信用の適切な活用についてまとめ、定期試験に備える	A, D
第10回	ライフステージと消費生活と家庭経済（3） ～消費者行動を考える～	予習：ふだんの消費行動についてまとめておく 復習：自分の消費行動が及ぼす社会への影響を認識し、適切な意思決定の重要性についてまとめ、定期試験に備える	A
第11回	ライフステージと消費生活（4） ～働くということ～	予習：仕事を選ぶ時、大切にすべき条件について考えておく 復習：職業労働の種類とその特徴についてまとめ、定期試験に備える	A
第12回	ライフステージと食生活管理(1) ～変わりつつある食生活～	予習：事前資料に目をとおり、最近の自分の食生活を振り返り、問題点をまとめておく 復習：現代の食生活の特徴、現代の食生活の問題点、日本型食生活の見直しについてまとめ、定期試験に備える	A
第13回	ライフステージと食生活管理(2) ～これからの食生活のあり方～	予習：食料自給率について調べ、まとめておく 復習：食料自給率の低下、地産地消、消費期限と賞味期限、食品ロスについてまとめ、定期試験に備える	A
第14回	ライフステージと保育・少子化問題	予習：男性の育児休業についてまとめておく 復習：少子化がもたらす影響、男性の育児参加とこれからの子育てについてまとめ、定期試験に備える	A
第15回	ライフステージと福祉・高齢化問題 半年間の学習内容の復習とまとめ	予習：高齢者の生活について調べ、まとめておく 復習：高齢化がもたらす影響と対応についてまとめて、定期試験に備える 半年間の学習内容を復習し定期試験に備える	A
	定期試験		

生活文化論

更新日：2024/02/21 09:16:58

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B100300	授業コード	
担当教員	矢野 由紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1L223	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	生活文化専攻 卒業必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点	ノートパソコンを毎回持参すること				
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	現代社会における日常生活や命に関わる様々な問題・課題について認識し、問題解決のためにどんな行動を起こせばよいか考える。
方法	与えられたテーマに対しどんな問題・課題があるのか発見し情報収集を行う。その後プレゼンテーション資料を作成し発表の準備をする。グループ内で発表後議論を重ね問題解決へと進める。発表したPowerPointのデータをActive Portalの「レポート機能」を使って提出する。

到達目標

1	身近な社会問題に関心をもち、情報収集することができる
2	問題・課題について自分の意見をまとめ発表することができる
3	発表を通して意見交換することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業の取り組みとワークシートの内容	30
到達目標②	プレゼンテーションの取り組みと内容	40
到達目標③	意見交換の取り組みと意欲	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月・火曜日 9:00~10:30 2号館2階 研究室2-3 メールアドレス yano@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

各授業回において予習課題のテーマを提示するので情報収集しておくこと。

課題に対するフィードバック

ワークシートやプレゼンテーションは事前に提供されるループリックにより評価する。提出されたワークシート等はコメントを付けるなどして返却する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション（授業の内容・進め方） 前年度ニュース総まとめ① 【男女平等過去最低】 PCを活用し情報収集と発表資料を作成する	予習：現代社会における課題をあげ、A4用紙1枚にまとめて持参する 復習：学習した内容をワークシートにまとめ、次回授業で提出する	
第2回	前年度ニュース総まとめ② 【子ども家庭庁が発足】	予習：事前に配付された資料を読みポイントをまとめる	

	PCを活用し情報収集と発表資料を作成する	復習：学習した内容を整理し、プレゼンテーション（PP）の準備をする	
第3回	前年度ニュース総まとめ③ 【感染症危機管理統括庁が発足】 PCを活用し発表資料を作成、発表後意見交換をする	予習：発表の準備をする（PP発表データ整理） 復習：意見交換した内容を整理し、A4用紙1枚にまとめ次回授業で提出する	B
第4回	地震列島・日本① 【要支援者 取り残さない】 PCを活用し情報収集と発表資料を作成する	予習：自然災害の現状をA4用紙1枚にまとめて持参する 復習：学習した内容をワークシートにまとめ、次回授業で提出する	
第5回	地震列島・日本② 【災害時の流言】 PCを活用し情報収集と発表資料を作成する	予習：事前に配付された資料を読みポイントをまとめる 復習：学習した内容を整理し、プレゼンテーション（PP）の準備をする	
第6回	地震列島・日本③ 【災害時に対する病院の備え】 PCを活用し発表資料を作成、発表後意見交換をする	予習：発表の準備をする（PP発表データ整理） 復習：意見交換した内容を整理し、A4用紙1枚にまとめ次回授業で提出する	B
第7回	異常気象と風水害への備え① 【備えない防災】 PCを活用し情報収集と発表資料を作成する	予習：異常気象と風水害についてA4用紙1枚にまとめて持参する 復習：学習した内容をワークシートにまとめ、次回授業で提出する	
第8回	異常気象と風水害の備え② 【豪雨災害への備え】 PCを活用し情報収集と発表資料を作成する	予習：事前に配付された資料を読みポイントをまとめる 復習：学習した内容を整理し、プレゼンテーション（PP）の準備をする	
第9回	異常気象と風水害の備え③ 【7月の平均気温 観測史上最高】 PCを活用し発表資料を作成、発表後意見交換をする	予習：発表の準備をする（PP発表データ整理） 復習：意見交換した内容を整理し、A4用紙1枚にまとめ次回授業で提出する	B
第10回	デジタル化の最前線① 【ネット依存とどうつきあうか】 PCを活用し情報収集と発表資料を作成する	予習：デジタル化の動向を調べ、A4用紙1枚にまとめて持参する 復習：学習した内容をワークシートにまとめて次回授業で提出する	
第11回	デジタル化の最前線② 【A Iで「自分」を残す】 PCを活用し情報収集と発表資料を作成する	予習：事前に配付された資料を読みポイントをまとめる 復習：学習した内容を整理し、プレゼンテーション（PP）の準備をする	
第12回	デジタル化の最前線③ 【生成A I 学校での使用】 PCを活用し発表資料を作成、発表後意見交換をする	予習：発表の準備をする（PP発表データ整理） 復習：意見交換した内容を整理し、ワークシートにまとめて提出する	B
第13回	学びの現在と未来① 【地域共通の制服広がる】 PCを活用し情報収集と発表資料を作成する	予習：学びに関するトピックスを調べ、A4用紙1枚にまとめて持参する 復習：学習した内容をワークシートにまとめて次回授業で提出する	
第14回	学びの現在と未来② 【「いじめ防止対策推進法」施行10年】 PCを活用し情報収集と発表資料を作成する	予習：事前に配付された資料を読みポイントをまとめる 復習：学習した内容を整理し、プレゼンテーション（PP）の準備をする	
第15回	学びの現在と未来③ 【日本の学校教育】 PCを活用し発表資料を作成、発表後意見交換をする	予習：発表の準備をする（PP発表データ整理） 復習：意見交換した内容を整理し、A4用紙1枚にまとめ授業後提出する	B
	実施せず		

解剖・生理学

更新日：2024/02/08 22:07:25

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B110100	授業コード	
担当教員	石毛 美夏						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3L212	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	選択, 養護必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	医師としての診療経験を活かし、児童、生徒の健康観察に重要な点を重点的に解説する。					

授業概要

内容	人体の構造（解剖）と、生きていくための営み（生理）について、細胞・組織・器官の構造と働き、つながりや相互作用および関連する病気を学ぶ。養護教諭として働くために必要な基礎知識である人体の構造と機能を学び、人体の生命活動を有機的に理解する。ヒトの生命活動の維持と身体に関する知識や養護教諭の仕事の大切さについて学習することができる。		
方法	教科書を用いて対面で学習を進める。人体の構造や生理機能をより理解するために、カラー画像や動作・音声を伴う資料が必要と判断される場合には、プリント・スライド・動画等を併用する。		

到達目標

1	人体の成り立ち、生命の誕生について理解できる
2	身体の各器官・系の基本構造について理解し説明できる
3	身体の各器官・系に属する臓器名とその働きを理解し説明できる
4	ヒトの生理としての細胞や臓器の協調作用、ホメオスタシスを理解し説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験、レポート、小テスト、授業態度	10
到達目標②	定期試験、レポート、小テスト、授業態度	30
到達目標③	定期試験、レポート、小テスト、授業態度	40
到達目標④	定期試験、レポート、小テスト、授業態度	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	図説 解剖生理学	東京教学社	磯野日出夫・瀬木和子 他

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

なし

オフィスアワー

水曜日 10:30～11:30 1号館3階 非常勤講師室 pteacher-tandai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

専門的知識を理解習得し、現場で活用できる力を身に着けるため、毎回、教科書や資料をもとに予習復習をし、講義中も積極的な態度で臨んでほしい。

課題に対するフィードバック

レポート、小テストなどの提出物は、次の講義時間内で説明とフィードバックを行う。各自復習し誤りを正し、学習内容のまとめとして利用すること。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	人体の成り立ち	予習：教科書3-10ページを読み人体についてまとめておく	

	細胞・組織・臓器（器官）・系（器官系）	復習：学習内容を見直し、理解を深めておく	
第2回	生命の誕生	予習：高校の保健の教科書を読み直して知識を整理しておく 復習：学習内容を見直し、理解を深めておく	
第3回	運動器系	予習：教科書11-24ページを読み運動器についてまとめておく 復習：教科書、プリント、小テストを見直し、理解を深めておく	
第4回	消化器系 消化と吸収、消化管、実質臓器（肝臓・膵臓）	予習：教科書57-72ページを読んでおく 復習：口から肛門までの食物の流れと肝臓・膵臓の働き・関係を理解する	
第5回	循環器系① 心臓と大血管の構造、胎児循環、リンパ管系	予習：教科書73-81ページを読み循環器についてまとめておく 復習：心臓の図と血液の流れ・その性状を書けるようにしておく	
第6回	循環器系② 心臓の働き、冠状動脈	予習：前回の学習内容を見直し、理解を深めておく 復習：教科書、プリント、小テストを見直し、理解を深めておく	
第7回	血液・体液	予習：教科書81-84ページを読んでおく 復習：教科書、プリント、小テストを見直し、理解を深めておく	
第8回	呼吸器系 上気道と肺の構造、呼吸運動とその調節・ガス交換	予習：教科書85-96ページを読んでおく 復習：教科書、プリント、小テストを見直し、理解を深めておく	
第9回	泌尿器・生殖器系① 泌尿器系の構造と機能、尿の生成と排泄	予習：教科書97-112ページを読んでおく 復習：腎臓から尿道までの尿の生成と排泄を理解する	
第10回	泌尿器・生殖器系② ネフロン、ろ過と再吸収、生殖器系	予習：前回の学習内容を見直し、理解を深めておく 復習：教科書、プリント、小テストを見直し、理解を深めておく	
第11回	内分泌系① 内分泌腺の種類と構造、作用	予習：教科書45-56ページを読んでおく 復習：内分泌腺から分泌される物質の種類と作用を理解する。	
第12回	内分泌系② ホルモンの働き	予習：前回の学習内容を見直し、理解を深めておく 復習：教科書、プリント、小テストを見直し、理解を深めておく	
第13回	神経系① 中枢神経と末梢神経、自律神経系と体性神経系	予習：教科書25-36ページを読んでおく 復習：神経系の構成とその働きを理解してくる。	
第14回	神経系②、感覚器系 神経の興奮発生とその伝導、感覚器系	予習：教科書27-43ページを読んでおく。前回の学習内容を見直し、理解を深めておく 復習：教科書、プリント、小テストを見直し、理解を深めておく	
第15回	まとめ	予習：教科書、プリント、小テストを見直ししてくる 復習：教科書、プリント、小テストを見直し、理解を深めておく	
	定期試験	講義内容および教科書、プリント、小テストを見直し、理解を深め記述できるようにしておく。	

学校保健（学校安全を含む。）

更新日：2024/02/28 15:05:39

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B110410	授業コード		
担当教員	渡辺 美恵							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5L211	授業形態	講義	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	養護必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、学校保健活動や学校安全活動の実際の様子を紹介しながら実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、学校保健や学校安全に関する健康課題への適切な対応に生かすことができる。						

授業概要

内容	学校保健活動が実際にどのように推進されているのか学ぶ。また、推進にあたって、養護教諭が担っている役割について考える。保健管理、保健教育、組織活動についての基礎的な理論を学び、現代的な健康課題に適切に対応していくための知識・技術を習得する。
方法	教科書及び授業プリントに基づき講義を行う。毎授業回、復習課題を課す。また、次授業回において、復習課題をもとにした小テストを実施するとともに、復習課題と授業の感想の提出を求める。

到達目標

1	学校保健活動の法的根拠，理論と実際について説明することができる。
2	保健管理に関する基礎的な事項を行うことができる。
3	学校経営における保健室経営について説明することができる。
4	学校保健活動の推進にあたっての養護教諭の役割について説明することができる。
5	児童生徒の健康の保持増進を図るための方策について記述することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト	30
到達目標②	実技演習・実技テスト	20
到達目標③	復習課題	10
到達目標④	定期試験	30
到達目標⑤	提出課題（保健指導案）	10
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	よくわかる！教職エクササイズ⑧ 学校保健	ミネルヴァ書房	柳園順子編
2	学校保健実務必携	第一法規	学校保健・学校安全実務研究会編
3	新版・養護教諭 執務のてびき 第10版	東山書房	石川県養護教諭研究会編
4	学校環境衛生180のギモン解決レシピ	東山書房	東京都学校薬剤師会編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月曜日 9:00～12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

学習範囲がとても広いので、学校保健実務必携をもとに学習内容を整理し必ず復習を行うこと。小テストの問題は、復習課題の中から出題する。授業を欠席し小テストを受けていない場合や復習課題を提出していない場合は、欠席した日から1週間以内に小テストを受けるとともに復習課題を提出すること。演習の際は、髪を束ねる、爪を短く切ることに加え動きやすい服装の上に白衣を着用すること。

課題に対するフィードバック

復習課題は、オリエンテーション時に説明する方法により評価し、コメントを付けるなどして返却する。また、小テストは、教員が解答の解説を行うとともに、採点し返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 学校保健とは何か	予習：教科書P6-19を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第2回	学校保健行政と学校教育	予習：教科書P20-29を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第3回	学校保健計画	予習：教科書P30-43を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第4回	学校環境衛生Ⅰ 定期検査、日常点検、臨時点検	予習：教科書P162-173を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第5回	学校環境衛生Ⅱ 検査・点検基準と方法	予習：教科書P146-166を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第6回	学校環境衛生の実際Ⅰ 教室等の環境 ＊動画を視聴する	予習：教科書P95-166（教室等の環境）を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第7回	学校環境衛生の実際Ⅱ 飲料水等の水質及び施設・設備、水泳プール ＊動画を視聴する	予習：教科書P95-166（飲料水等の水質及び施設・設備、水泳プール）を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第8回	学校環境衛生の実際Ⅲ 学校の清潔、ネズミ、衛生害虫等及び教室の環境、日常点検 ＊動画を視聴する	予習：教科書P95-166（学校の清潔、ネズミ、衛生害虫等及び教室の環境、日常点検）を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第9回	健康観察	予習：教科書P70-72を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第10回	健康診断・保健調査	予習：教科書P72-83を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第11回	健康診断の実際Ⅰ 保健調査	予習：教科書P182-191を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第12回	健康診断の実際Ⅱ 身長、体重、視力、聴力 ＊動画を視聴する	予習：教科書2 P192-253（身長、体重、視力、聴力）を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第13回	健康診断の実際Ⅲ 内科、耳鼻科、眼科、歯科 ＊動画を視聴する	予習：教科書2 P192-253（内科、耳鼻科、眼科、歯科）を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第14回	健康診断の実際Ⅳ 総合評価・事後措置	予習：教科書2 P254-259, P262-284を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第15回	健康診断の実際Ⅴ 職員の健康診断	予習：教科書2 P297-325を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第16回	健康診断の実際Ⅵ 就学時の健康診断	予習：教科書2 P297-325を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第17回	健康相談	予習：教科書P84-95を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第18回	健康相談と保健指導の実際	予習：教科書2 P297-325を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第19回	学校における感染症の予防と対応	予習：教科書P104-113を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第20回	学校における結核対策	予習：教科書2 P467-478を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第21回	保健教育	予習：教科書P44-69を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第22回	発育・発達における現状と課題	予習：教科書P96-103を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第23回	特別支援教育と学校保健	予習：教科書P146-161を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第24回	学校保健組織活動	予習：教科書P25-28を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	B
第25回	学校安全と危機管理Ⅰ 安全管理	予習：教科書P174-189を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第26回	学校安全と危機管理Ⅱ スポーツ振興センター	予習：教科書P989-1075を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
第27回	学校安全と危機管理Ⅲ 安全教育	予習：教科書P1097-1154を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	D
第28回	現代的な健康課題への対応（学校での事故から考える）	予習：最近の学校におけるニュースに触れておく 復習：自身の主張や意見をまとめる	B

第29回	健康診断の実際Ⅶ 会場設営 [実技テスト] [演習] 保健指導	予習：教科書P192-253を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	C
第30回	文書管理 ○PowerPoint使用	予習：教科書P174-189を読む 復習：復習課題と学習内容をまとめる	A
	定期試験	学習内容を整理し、試験に備える	

看護技術の基礎

更新日：2024/02/21 15:43:40

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B110620	授業コード		
担当教員	近藤 由里子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5L212	授業形態	講義・演習	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	養護必修	授業時間+自習時間	60+30					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	看護師として病院勤務した経験をもとに講義や演習を通して教育の現場で役立つ基礎看護技術を教授する。この授業における学びは、卒業後に養護教諭としてだけでなく、生活の中でも活用することができる。						

授業概要

内容	養護教諭としての専門性を高めるため、数ある基礎看護技術から、「安楽技術」「環境調整技術」「安全管理技術」「感染予防技術」を中心に子どもの生活を整え、健康状態を維持・増進するための科学的知識に基づいた技術を習得するまた、子どもに関わる主な疾患の病態、症状、看護について学ぶ		
方法	講義・演習（コミュニケーション演習、感染予防技術演習、環境調整技術演習、活動・休息援助技術演習、身体観察法技術演習、創傷管理技術演習）		

到達目標

1	基礎看護技術の基本原理が説明できる
2	根拠に基づいた基礎看護技術が実施できる
3	子どもに関わる主な疾患や症状に対する看護について説明できる
4	感染予防について、養護教諭としてどのような役割があるか自己の考えを述べることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート/定期試験	25
到達目標②	実技試験/定期試験	25
到達目標③	レポート/定期試験	25
到達目標④	レポート/定期試験	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	養護教諭のための看護学 四訂版	大修館書店	藤井寿美子他
2	楽しく学ぶ！看護につながる解剖生理	照林社	小寺豊彦

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント	東山書房	山内豊明監修
2	最新Q&A教師のための救急百科 第2版	大修館書店	衛藤 隆 他

オープンな教育リソース

オフィスアワー

後期 毎週水曜日：10時40分～12時10分

学生へのメッセージ

この授業は2限続きです。1限は講義、2限は演習を予定しています。
技術演習時は、演習にふさわしい身だしなみ（マニキュア、アクセサリ禁止、長い髪はまとめる、実習着・靴、爪を切る）を整えてください。
演習中の学びや気づき等は適宜メモを取るなど積極的に学んでください。
提示した、予習、復習内容を確認し、レポート提出を行ってください。また、疾患についての講義の場合は、事前に解剖生理学について学習し、授業に参加してください。

課題に対するフィードバック

提出された課題、回答や質問に対しては内容を確認し、コメントをつけて返却する。また、翌週の授業で時間をとって説明を加え、学生全体の学びとなるようにフィードバックを行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション(演習時の身だしなみ、リフレクションシート記述方法等) 看護とは、看護職・養護教諭の倫理、看護の基本となるもの	予習：教科書第2章2「コミュニケーション」を熟読する 復習：演習時の身だしなみについて指定した用紙にチェックをする	A, B, C
第2回	コミュニケーションの基本 「友人や家族とのコミュニケーションの中で、印象に残っている場面について」レポート用紙に記述 【コミュニケーション演習】	予習：資料「プロセスレコード」についてを熟読し、記載方法を理解する 復習：『小児（幼児・学童）とのコミュニケーションの特徴』についてまとめ、リフレクション（振り返り）シートへ記入し第3回講義開始時提出する	D, C
第3回	感染予防技術 感染予防とその対応策 【衛生的手洗い演習】	予習：教科書第3章5「学校感染症」教科書第17章10-4「感染予防手指の洗浄・消毒法」を熟読する 復習：教科書、資料を読み知識確認テストに備える	A, C
第4回	【感染予防技術演習】 スタンダード・プリコーションとは 個人防護具（PPE）の着脱方法について ・手指衛生・マスク・エプロン・手袋 ・フェイスシールド	予習：個人防護具の着脱の順序についての根拠を調べる 復習：感染予防技術演習を経験しての気づきと学んだことをリフレクション（振り返り）シートへ記入し第5回講義開始時提出する	B, D
第5回	環境調整技術 ・環境とは ・実習室・保健室の環境調整（温度・湿度・採光・騒音・安全性） ・ベッドメイキング	予習：教科書第17章1「保健室の環境調整」を熟読する 復習：ベットメイキングについての資料を熟読する	A
第6回	【環境調整技術演習】 ・ベッドメイキング	予習：確実に何度も繰り返し実施できるよう想起する 復習：ベットメイキングを経験しての気づき、学んだことをリフレクション（振り返り）シートへ記入し、第7回講義開始時提出する	D
第7回	記録・報告・観察 ・記録の必要性和留意事項 ・報告の必要性和留意事項 ・観察の目的、手段、注意点（全体的な観察の視点、症状別にみる観察の視点）	予習：第2章2「観察」第2章3「記録」を熟読する 復習：教科書、資料を読み知識確認テストに備える	A
第8回	【観察、記録、報告演習】 ・観察とは ・体温 ・脈拍 ・呼吸 ・酸素飽和度	予習：体温、脈拍、呼吸、酸素飽和度の単位について調べる 復習：観察、記録、報告を経験し気づき、学んだことをリフレクション（振り返り）シートへの記入し、第9回講義開始時提出する	B, D
第9回	安楽への援助 ・ボディメカニクス ・安楽な体位 ・冷電法 ・温電法 ・保温	予習：教科書第17章2「安楽な体位」第17章8「電法」を熟読する 復習：教科書、資料を読み知識確認テストに備える	A
第10回	【安楽確保の技術演習】 ・安楽な体位の工夫 ・冷電法 ・温電法	予習：体位の種類について調べる 復習：安楽な体位、電法を経験し気づき、学んだことをリフレクション（振り返り）シートへの記入し、第11回講義開始時提出する	B, D
第11回	活動・休息援助技術① ・体位変換 ・移動介助の選択 ・車椅子への移乗、移送 ・松葉杖	予習：教科書第17章2「安楽な体位」教科書第17章3「移送」を熟読 復習：教科書、資料を読み知識確認テストに備える	A, B
第12回	【活動・休息援助技術①演習】 ・体位変換 ・ベットから車椅子への移乗 ・移送（車椅子・担架） ・松葉杖を使用した歩行	予習：車椅子の使用前点検について調べる 復習：体位変換、車椅子、移乗、移送松葉杖歩行を経験し気づき、学んだことをリフレクション（振り返り）シートへの記入し、第13回講義開始時提出する	B, D
第13回	活動・休息援助技術② ・水平移動 ・仰臥位から座位 ・座位から端座位 ・端座から座位 ・地面にうつ伏せに倒れている子どもを仰臥位にする	予習：事前配布資料を熟読する 復習：資料を読み体位変換に対する技術を確認する	A, B
第14回	【活動・休息援助技術②演習】	予習：回復体位、ショック体位について調べる	B, D

	<ul style="list-style-type: none"> ・仰臥位から座位 ・座位から端座位 ・端坐から立位 ・端座位から車椅子への移乗 ・車椅子移送 ・移動介助 ・地面にうつ伏せに倒れている子どもを仰臥位にする 	<p>復習：仰臥位から座位～端坐から立位、車椅子移乗、移送等を経験し気づき、学んだことをリフレクション（振り返り）シートへの記入し、第15回講義開始時提出する</p>	
第15回	<p>身体観察法技術①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体温測定法 ・脈拍測定法 ・呼吸測定法 ・血圧測定法 ・呼吸音聴取 ・心音聴取 ・酸素飽和度 	<p>予習：第17章11「バイタルサインの測定法」を熟読する 復習：教科書、資料を読み知識確認 テストに備える</p>	A, B
第16回	<p>【身体観察法技術演習①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体温、脈拍、呼吸、血圧計（自動）、酸素飽和度測定 ・呼吸音、心音聴取 ・運動前後のバイタルサインの値の比較 ・測定した値や一般状態や随伴症状の報告 	<p>予習：呼吸測定時の聴診器をあてる部位について調べる 復習：バイタルサインの測定方法を経験し、気づいたこと、学んだことをリフレクション（振り返り）シートへの記入し、第17回講義開始時提出する</p>	B, D
第17回	<p>実技テスト①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体温測定法 ・脈拍測定法 ・呼吸測定法 ・血圧測定法 	<p>予習：テスト前にバイタルサイン自己チェック表にチェックして実技でテストに臨む 復習：技術後自己の知識、技術、態度について課題を明確にする</p>	D
第18回	<p>実技テスト①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体温測定法 ・脈拍測定法 ・呼吸測定法 ・血圧測定法 	<p>予習：テスト前にバイタルサイン自己チェック表にチェックし、実技テストに臨む 復習：技術テスト後自己の知識、技術、態度について課題を明確にする チェックリストを第19回講義開始時提出する</p>	D
第19回	<p>創傷管理技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創傷の洗浄 ・無菌操作 ・感染性廃棄物の取り扱い 	<p>予習：教科書第17章10-6, 7「感染予防 鑷子、ガーゼの扱い方」第17章12「包帯法」を熟読する 復習：教科書、資料を読み知識確認 テストに備える</p>	A, B
第20回	<p>【創傷管理技術演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創傷の洗浄 ・巻綿子やガーゼ等の衛生材料の取り扱い（無菌操作） ・包帯法 	<p>予習：教科書17章12を熟読する 復習：創傷管理技術を経験し、気づいたこと、学んだことをリフレクション（振り返り）シートへの記入し、第21回講義開始時提出する</p>	B, D
第21回	<p>与薬の技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与薬の知識と管理 	<p>予習：教科書第17章9「薬の知識と管理」を熟読する 復習：教科書、資料を読み知識確認 テストに備える</p>	A, B
第22回	<p>食事の介助技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事摂取状況のアセスメント ・栄養状態のアセスメント ・食生活上の改善点 	<p>予習：教科書第17章7「食生活の援助」を熟読する。「現代の食生活の一般的な問題点」を調べる 復習：自己の栄養状態をアセスメントし、食生活上の改善点を記入第23回講義開始時提出する</p>	A, B
第23回	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠状態のアセスメント ・睡眠を促す援助 	<p>予習：教科書第4章4「思春期の健康障害、睡眠」を熟読する 復習：「睡眠を妨げる要因」にはどのようなものがあるか調べる</p>	A, B
第24回	<p>排泄援助技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄とは ・自然排泄を促す援助 ・失禁時のケア 	<p>予習：教科書第17章6「排泄」を熟読する 復習：「自己の睡眠状態をアセスメント」し、改善点を記入第25回講義開始時提出する</p>	A, B
第25回	<p>症状と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科的訴え ・外科的訴え ・その他の訴え 	<p>予習：教科書第11章「訴えや症状に対応する理解と看護」を熟読する 復習：講義資料から、臨床実習に活用する観察ポイントをまとめる</p>	A, B
第26回	<p>症状と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に必要な情報の収集 ・訴えや症状に対する看護の実際 ・情報からの判断 ・記録の記載 	<p>予習：教科書第11章1-2を熟読する 復習：「訴えや症状に対する看護」についての気づき、学びをリフレクション（振り返り）シートへの記入し、27回講義開始時提出する</p>	A, B
第27回	<p>疾患と看護</p> <p>糖尿病</p> <p>アレルギー性疾患（気管支喘息・アトピー性皮膚炎）</p>	<p>予習：解剖生理の「膀胱」「呼吸器」「皮膚」の仕組みと働きを熟読する 教科書の糖尿病、気管支喘息、アトピー性皮膚炎に関する頁を熟読する 復習：教科書、資料を読み知識確認 テストに備える</p>	A, B
第28回	<p>疾患と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患（先天性心疾患） 	<p>予習：解剖生理の循環器「心臓」「脳、神経」の仕組みと働きを熟読</p>	A, B

	・てんかん	教科書の先天性心疾患、てんかんを熟読する 復習：生活習慣病を予防する方法についてレポートし第29回講義開始時提出	
第29回	疾患と看護 ・ネフローゼ症候群 ・糖尿病	予習：解剖生理の泌尿器「腎臓」の仕組みと働きを熟読する 復習：教科書、資料を読み知識確認 テストに備える	A, B
第30回	基礎看護技術のまとめ	予習：再度経験したい（事前にアンケート調査して決定） 基礎看護技術を予習し、演習に臨む 復習：学修内容を復習し定期試験に備える	D
	定期試験		

看護概論

更新日：2024/02/22 10:32:25

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B110710	授業コード	
担当教員	舘 英津子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5L211	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	選択, 養護必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	看護師として病院勤務していた経験をもとに、身近な問題として実際の事例を紹介する。取り上げた問題や課題を解決するための問題解決能力を養う。					

授業概要

内容	看護とは、傷病者への手当、援助のみならず、広く健康を保持増進するための援助活動である。本講義では看護学の中から特に生活習慣や環境が健康に及ぼす影響に関する基礎的な知識、代表的な体調不良へのケア、性教育の源となる妊娠などについて学ぶ。また学校における養護活動の場面で子どもたちに必要な援助ができるような基本的な看護の考え方についても解説する。
方法	パワーポイントとワークシートを使用して授業を行う。学生は授業に先立ち当該ページを予習しておくこと。授業の中で理解度を確認するミニッツペーパーをFormsで提出してもらう。グループワークを行うことがある。

到達目標

1	健康と健康的な生活に関する基礎的な知識について説明できる。
2	代表的な体調不良について基本的な対処法について説明できる。
3	自分や身近な人の健康に関心を持ち、健康課題や改善案について具体的に述べることができる。
4	授業や調べたことをもとに健康や生命について自分なりの考えを記述することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験・ミニッツペーパー	50
到達目標②	定期試験・ミニッツペーパー	30
到達目標③	ミニッツペーパー	10
到達目標④	定期試験・レポート	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	養護教諭、看護師、保健師のための新版学校看護―すべての子供の健康実現を目指して―	東山書房	遠藤伸子、池添志乃、籠谷恵編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	ぜんぶわかる人体解剖図	成美堂出版	坂井建雄、橋本尚詞
2	いのちの夢―難病の子どもたちが願ったこと	草思社	矢貴隆

オープンな教育リソース

授業内で紹介する

オフィスアワー

月曜日 10時～12時 保健室

学生へのメッセージ

自分の身体とは一生付き合うものです。自分や人の身体や健康に興味・関心を持ち、楽しく意欲的に学んで欲しいと思っています。

課題に対するフィードバック

ミニッツペーパーに記載された質問等については次回の授業の中で時間を取ってフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	オリエンテーション 健康とは、ヘルスプロモーション、看護と養護	予習：教科書の該当箇所を読み理解する 復習：配布された資料を整理し復習する	A
第2回	ライフスタイルの形成 ライフスキルとは、コミュニケーションスキル	予習：アサーションについて調べわからない点を書き出す 復習：配布された資料を整理し復習する	D
第3回	生活習慣と疾患 健康診断、高血圧、糖尿病、脂質異常症、動脈硬化	予習：動脈硬化について調べわからない点を書き出す 復習：配布された資料を整理し復習する	A
第4回	基本的な生活習慣とセルフケア① 標準体重、肥満とやせ、メタボリックシンドローム	予習：BMIについて調べ、自分のBMI,標準体重を出す 復習：配布された資料を整理し復習する	A
第5回	基本的な生活習慣とセルフケア② 食習慣、食事バランスガイド、ビタミン・ミネラル、現代型栄養失調	予習：この3日間の自分の食べたものを書き出し特記事項も記載しておく 復習：ミニレポートを提出する。配布された資料を整理し復習する	A
第6回	基本的な生活習慣とセルフケア③ 活動と休息、運動、生活リズム	予習：この1週間の自分の就寝・起床時刻を書き出し特記事項も記載しておく 復習：生活を振り返りアクションペーパーを提出。配布された資料を整理し復習する	A
第7回	ニコチン依存、スマホ依存 依存症の種類、依存症による脳の変化、子どもへの影響	予習：喫煙率の推移について調べる 復習：スマホ依存症について深める	A
第8回	症状からみた病気とケア①発熱 子どもの健康観察、子どもの体温の特徴、発熱の原因となる主な病気、発熱時のケア、けいれん時のケア	予習：細菌とウイルスの違いについて調べわからない点を書き出す 復習：配布された資料を整理し復習する	A
第9回	症状からみた病気とケア②咳 結核、気管支喘息、咳のケア	予習：結核について結核予防会のHPの「結核とは」を読む 復習：配布された資料を整理し復習する	
第10回	症状からみた病気とケア③腹痛、嘔吐、下痢、脱水 脱水症状、標準予防策	予習：スタンダードプリコーションのベースとなる考え方を調べわからない点を書き出す 復習：配布された資料を整理し復習する	A
第11回	疾患をもつ子どもへの支援 さまざまな先天性疾患、疾患が子どもに及ぼす影響、キャリアオーバー、インクルーシブ教育	予習：先天性の疾患、小児のがんについて調べる 復習：授業後、アクションペーパー提出。配布された資料を整理し復習する	A
第12回	性感染症とその予防 主な性感染症、予防と治療	予習：若者に多い性感染症について調べる 復習：配布された資料を整理し復習する	A
第13回	避妊と人工妊娠中絶 主な避妊方法とそのメリット・デメリット、子どもを産まない選択、人工妊娠中絶	予習：海外の避妊法、米国の人工妊娠中絶政策について調べる 復習：配布された資料を整理し復習する	A
第14回	妊娠のしくみ リプロダクティブヘルス/ライツ、排卵から着床まで	予習：出生前診断に関する統計について調べる 復習：配布資料を整理し授業での感想をまとめておく。	A
第15回	出生前検査について 看護学概論のまとめ	予習：前回の授業の感想を発表できるようにしておく 復習：授業内に出された課題についてレポートを作成する	B
	定期試験		

学校救急看護Ⅰ

更新日：2024/01/31 08:11:34

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B110810	授業コード	
担当教員	矢野 由紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5L211	授業形態	講義・演習	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	選択, 養護必修	授業時間+自習時間	60+30				
		履修条件・留意点	演習を行うので爪を短く整え、長い髪は結ぶこと				
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、学校における救急看護について、実際に行っていた対応を踏まえた実践的な授業を行う。この授業における学びは、卒業後、養護教諭として学校での救急看護に応用することができる。					

授業概要

内容	学校現場で見られるけがや病気に対して、養護教諭として適切な観察・判断・対応ができる力を身につけるとともに、事故の予防や傷病の再発予防に向けた保健指導ができる力を身につける。
方法	テキストに基づき講義と演習を行う。学校における救急看護時の判断能力（バイタルサイン測定、フィジカルアセスメントする力や緊急度、重症度の判断力）を高めるための知識を学び、実践力を高めるため演習（ロールプレイング等）を行う。理解度を確認するため毎回小テストを行う。

到達目標

1	養護教諭として、児童生徒の健康生活への支援をするうえで必要な学校救急看護についての基礎知識を理解している
2	児童生徒の健康状態を適切に判断するためのバイタルサイン測定やフィジカルアセスメントの方法を理解し、実施することができる
3	学校現場で起こるけがや病気について理解し、適切な処置や保健指導を実施することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	50
到達目標②	演習への参加態度、小テスト	25
到達目標③	演習への参加態度、小テスト	25
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	新版 ここがポイント！学校救急処置	農文協	全養サ書籍編集委員会著
2	保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメントJ	東山書房	三村由香里・岡田加奈子

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	改訂 養護教諭のための診断学〈内科編〉	東山書房	杉浦守邦
2	改訂 養護教諭のための診断学〈外科編〉	東山書房	杉浦守邦

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月・火曜日 9:00～10:30 2号館2階 研究室2-3 メールアドレス yano@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

演習では学校現場を想定して、養護教諭が実際に児童生徒と接するように行うので、衛生的で清潔な身なりで行うことを厳守すること（詳細は第1回目の講義で説明する）

演習前に身だしなみチェックを行う。整えていない場合は演習に参加できないので、注意すること。

技術に関することは、実施しないと身につかないので、演習には積極的に参加すること。

課題に対するフィードバック

小テストや提出物はコメントをつけるなどしてフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画

	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 学校における救急処置と養護教諭の役割 救急処置で大切なこと 事例を読んだ後、グループワークディスカッションする	予習：経験したけがや病気と、その時受けた処置をA4用紙1枚にまとめ持参する（ノートPC使用） 復習：身体各部の名称を覚える。学習内容を復習し、小テストに備える	B
第2回	養護教諭にとってのフィジカルアセスメント PCを用いて説明	予習：テキスト①P12～P22、テキスト②P8～P32を読み、わからない専門用語を調べてまとめる（ノートPC使用） 復習：授業プリントを整理し、小テストに備える	B
第3回	フィジカルアセスメントに用いる技術Ⅰ 問診・視診・触診・聴診 PCを用いて説明後、実技演習	予習：テキスト②P34～P47を読み、フィジカルアセスメントとは何かまとめる（ノートPC使用） 復習：人体の骨格の名称を覚える。学習内容を復習し、小テストに備える	C
第4回	フィジカルアセスメントに用いる技術Ⅱ バイタルサインの測定（意識、呼吸、体温、脈拍、血圧、体温） PCを用いて説明後、実技演習	予習：テキスト②P48～P71を読み、バイタルサインとは何か調べてまとめる（ノートPC使用） 復習：学習内容を復習し、小テストに備える	D
第5回	救急処置の基本Ⅰ 心停止、呼吸停止時の処置、ショック、体位 PCを用いて説明後、実技演習	予習：テキスト①P159～P164を読み、一次救命処置の手順をまとめる（ノートPC使用） 復習：授業プリントを整理し、小テストに備える	D
第6回	救急処置の基本Ⅱ 心停止、呼吸停止時の処置、気道異物除去 PCを用いて説明後、実技演習	予習：テキスト①P159～P164を読み、一次救命処置の手順をまとめる（ノートPC使用） 復習：授業プリントを整理し、小テストに備える	D
第7回	救急処置の実際(外科的なもの) 創傷Ⅰ 創傷(傷)種類・特徴・処置 PCを用いて説明	予習：テキスト①P24～P29を読み、創傷の種類についてまとめる（ノートPC使用） 復習：学習内容を復習し、小テストに備える	C
第8回	救急処置の実際(外科的なもの) 創傷Ⅱ 湿潤療法 実技演習	予習：テキスト①P30～P39を読み、湿潤療法についてまとめる（ノートPC使用） 復習：授業プリントを整理し、小テストに備える	C, D
第9回	救急処置の実際(外科的なもの) 打撲Ⅰ 基本的な処置 PCを用いて説明	予習：テキスト①P40～P47を読み、頭部打撲についてまとめる（ノートPC使用）。頭の解剖図を描いて持参する 復習：学習内容を復習し、小テストに備える	B
第10回	救急処置の実際(外科的なもの) 打撲Ⅱ 部位別の対応と処置 実技演習	予習：テキスト①P40～P47を読み、各部位の打撲についてまとめる（ノートPC使用）。目の解剖図を描いて持参する 復習：授業プリントを整理し、小テストに備える	C, D
第11回	救急処置の実際(外科的なもの) 骨折・捻挫・突き指・脱臼Ⅰ 主な症状、観察 PCを用いて説明	予習：テキスト①P48～P54を読み、骨折の種類と特徴についてまとめる（ノートPC使用） 復習：学習内容を復習し、小テストに備える	C
第12回	救急処置の実際(外科的なもの) 骨折・捻挫・突き指・脱臼Ⅱ RICE処置 実技演習	予習：テキスト①P55～P60を読み、受診のめやすについてまとめる（ノートPC使用） 復習：授業プリントを整理し、小テストに備える	C, D
第13回	救急処置の実際(外科的なもの) 筋肉・腱・関節の痛み 成長に伴い起こりやすい痛み PCを用いて説明	予習：テキスト①P61～P76を読み、学校でよくみられる筋肉の痛みについてまとめる（ノートPC使用） 復習：学習内容を復習し、小テストに備える	C
第14回	救急処置の実際(外科的なもの) 鼻出血 鼻出血を止める手順 実技演習	予習：テキスト①P77～P81を読み、鼻の解剖図を描いて持参する 復習：授業プリントを整理し、小テストに備える	C, D
第15回	救急処置の実際(外科的なもの) 熱傷 熱傷の分類、基本的な処置 PCを用いて説明	予習：テキスト①P82～P91を読み、学校で起きた熱傷による負傷についてまとめる（ノートPC使用） 復習：学習内容を復習し、小テストに備える	C
第16回	救急処置の実際(外科的なもの) 異物混入・誤飲 基本的な処置 実技演習	予習：テキスト①P92～P98を読み、異物除去の処置についてまとめる（ノートPC使用） 復習：授業プリントを整理し、小テストに備える	C, D
第17回	救急処置の実際(外科的なもの) 野外活動での救急処置 PCを用いて説明	予習：テキスト①P99～P104を読み、野外活動で負傷した事例についてまとめる（ノートPC使用） 復習：学習内容を復習し、保健指導資料を作成する	C
第18回	保健室で行う救急処置の基本 PCを用いて説明後、実技演習	予習：日本スポーツ振興センターのHPを検索し気づいたことをまとめる（ノートPC使用） 復習：今までの学習内容を復習して、外科的処置の保健指導資料を作成する（ノートPC使用）	C, D
第19回	救急処置の実際(内科的なもの) 共通する救急処置 基本的な対応 PCを用いて説明	予習：テキスト①P106を読み、養護教諭の対応の流れをまとめる（ノートPC使用） 復習：学習内容を復習し、小テストに備える	C
第20回	救急処置の実際(内科的なもの) 頭痛・発熱 頭痛の原因として考えられるもの	予習：テキスト①P107～P113を読み、頭痛の種類についてまとめる（ノートPC使用） 復習：授業プリントを整理し、小テストに備える	C, D

第21回	救急処置の実際(内科的なもの) 腹痛・下痢Ⅰ 押さえておきたい問診項目 PCを用いて説明	予習：テキスト①P114～P119を読み、腹痛の原因についてまとめる(ノートPC使用) 復習：学習内容を復習し、小テストに備える	C
第22回	救急処置の実際(内科的なもの) 腹痛・下痢Ⅱ 感染性胃腸炎が疑われるとき 嘔吐物処理 実技演習	予習：テキスト①P120～P125を読み、感染性胃腸炎についてまとめる(ノートPC使用) 復習：授業プリントを整理し、小テストに備える	C, D
第23回	救急処置の実際(内科的なもの) 発疹・湿疹 発疹を起こすおもな疾病・異常 PCを用いて説明	予習：テキスト①P126～P128を読み、感染性疾患についてまとめる(ノートPC使用) 復習：学習内容を復習し、小テストに備える	C
第24回	救急処置の実際(内科的なもの) アレルギー疾患Ⅰ ぜんそく 食物アレルギー アナフィラキシー症状への対応	予習：テキスト①P129～P135を読み、アレルギー疾患についてまとめる(ノートPC使用) 復習：授業プリントを整理し、小テストに備える	C, D
第25回	救急処置の実際(内科的なもの) アレルギー疾患Ⅱ 食物アレルギー エピペンの使用 PCを用いて説明	予習：テキスト①P135～P140を読み、食物アレルギーの事例を調べまとめる(ノートPC使用) 復習：学習内容を復習し、小テストに備える	C
第26回	救急処置の実際(内科的なもの) 気分が悪いなどの訴えⅠ 悪心 めまい 息苦しい 実技演習	予習：テキスト①P141～P148を読み、過換気症候群についてまとめる(ノートPC使用) 復習：授業プリントを整理し、小テストに備える	C, D
第27回	救急処置の実際(内科的なもの) 気分が悪いなどの訴えⅡ 熱中症 実技演習	予習：テキスト①P149～P151を読み、学校での熱中症の事例を調べまとめる(ノートPC使用) 復習：学習内容を復習し、小テストに備える	C
第28回	救急処置の実際(内科的なもの) てんかん 発生時の観察ポイント 救急処置	予習：テキスト①P152～P155を読み、てんかんの種類についてまとめる(ノートPC使用) 復習：学習内容を復習し、小テストに備える	C, D
第29回	あなただったらどうしますか？Ⅰ 実際の場面を想定して救急処置を行う	予習：今まで学習した傷病について学校での事例を調べまとめる(ノートPC使用) 復習：学習内容を復習し、定期試験に備える	B, C, D
第30回	あなただったらどうしますか？Ⅱ 実際の場面を想定して救急処置を行う	予習：今まで学習した傷病について学校での事例を調べまとめる(ノートPC使用) 復習：学習内容を復習し、定期試験に備える	B, C, D
	定期試験		

学校救急看護Ⅱ

更新日：2024/02/28 15:06:03

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B110910	授業コード	
担当教員	渡辺 美恵						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	6L224	授業形態	講義・演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、学校における救急看護について、実際に行っていた取組を踏まえた実践的な授業を行う。この授業における学びは、卒業後、養護教諭として学校での救急体制づくりに生かすことができる。					

授業概要

内容	学校における救命救急の実際やその体制づくりについて学ぶ。学校救急看護に必要な適切な判断と対応について、養護教諭としてどう実践すべきか考える。
方法	学校救急看護に必要な適切な判断と対応について、グループワークやペアワークを取り入れながら実践的に行う。

到達目標

1	学校救急看護の実際の対応を想定し、積極的に演習に参加することができる。
2	学校において起こりやすい事故の予防と手当及び病気への対応を実践することができる。
3	学校における救命救急体制づくりについて、既習事項を生かして工夫することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業に対する意欲と態度	20
到達目標②	授業内で制作した成果物	60
到達目標③	授業プリント	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	学校組織で取り組む「危機管理」	東山書房	静岡県養護教諭研究会編
2	養護教諭の活動の実際 第3版	東山書房	静岡県養護教諭研究会編
3	新版・養護教諭 執務のてびき 第10版	東山書房	石川県養護教諭研究会編
4	ここがポイント！学校救急処置 新版	農文協	全養サ書籍編集委員会著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

体育活動時等における事故対応テキスト～A S U K Aモデル～ さいたま市教育委員会 平成24年9月30日

オフィスアワー

月曜日 9:00～12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

毎回の授業の取組状況や授業プリントのまとめ、グループワークなどによって作成した成果物によって評価をする。学校救急看護Ⅰでの学びにととまらず、臨床実習や養護実習での学びを生かして積極的に取り組むこと。また、指定する授業回においてノートPCを使用するため、準備すること。

課題に対するフィードバック

授業プリントや成果物は、事前に提供されるループリックにより評価し、コメントを付けるなどして返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	オリエンテーション 緊急度・重症度の判断と処置Ⅰ	予習：学校救急看護Ⅰので既習事項を復習する 復習：学習内容を整理する	D
第2回	救命処置が必要な傷病と学校Ⅰ 心停止，呼吸停止時の処置，A E Dを使った救急処置 ＊動画の視聴をする	予習：教科書4 P159-164を読む 復習：学習内容を整理する	B
第3回	救命処置が必要な傷病と学校Ⅱ アナフィラキシー ＊動画の視聴をする	予習：教科書4 P135-139を読む 復習：学習内容を整理する	B
第4回	学校における救命救急の体制づくりⅠ 危機管理体制	予習：教科書4 P171-174を読む 復習：学習内容を整理する	B
第5回	学校における救命救急の体制づくりⅡ 備品等の整備	予習：教科書1 P47-69を読む 復習：学習内容を整理する	B
第6回	学校における救命救急の体制づくりⅢ 教職員が行うシミュレーション研修の実際	予習：教科書2 P278を読む 復習：学習内容を整理する	B D
第7回	学校における救命救急の体制づくりⅣ シミュレーション研修用シナリオの作成	予習：養護実習の学びから実際の緊急時対応をイメージする 復習：シミュレーション研修のシナリオを作成する	C B
第8回	学校における救命救急の体制づくりⅤ シミュレーション研修用シナリオの作成	予習：養護実習の学びから実際の緊急時対応をイメージする 復習：学習内容を整理する	C B
第9回	学校における救命救急の体制づくりⅥ シミュレーション研修用シナリオを用いた演習 シミュレーション研修用シナリオの修正	予習：既習事項について整理し，実際の緊急時対応をイメージする 復習：学習内容を整理する	C B D
第10回	学校における救命救急の体制づくりⅦ 重大事故の未然防止 ＊動画を視聴する	予習：体育活動時等における事故対応テキスト～A S U K Aモデル～を読む 復習：学習内容を整理する	B D
第11回	学校における救命救急の体制づくりⅧ 重大事故発生時と発生後の対応 ＊動画を視聴する	予習：体育活動時等における事故対応テキスト～A S U K Aモデル～を読む 復習：学習内容を整理する	B D
第12回	災害時に養護教諭が行う対応Ⅰ 事例検討① 情報収集と健康観察	予習：教科書3 P164-187を読む 復習：学習内容を整理する	B
第13回	災害時に養護教諭が行う対応Ⅱ 事例検討② 場面設定とシミュレーション	予習：教科書3 P164-187を読む 復習：学習内容を整理する	B
第14回	緊急度・重症度の判断と処置Ⅱ	予習：第1回の授業内容，救急処置の判断基準などの既習 事項を復習する 復習：実技の振り返りをする	D
第15回	学校救急看護とは [グループワーク]	予習：これまでの学びについて振り返る 復習：学習内容を整理する	
	実施せず		

養護概説

更新日：2024/02/28 15:10:29

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B111010	授業コード		
担当教員	渡辺 美恵							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5L212	授業形態	講義	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	養護必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、養護教諭の職務や求められる役割から保健室経営の実際について紹介し考えさせる授業を行う。この授業における学びは、卒業後、養護教諭が行う保健室経営に生かすことができる。						

授業概要

内容	養護教諭の歴史や職務、役割の変遷から、「養護をつかさどる」の意味について考える。養護教諭の専門性と保健室の機能を生かした職務内容について学び、現代的な健康課題に適切に対応していくための知識や技術を習得する。
方法	教科書及び授業プリントに基づき講義を行う。予習レポートを用いて、グループワークもしくはペアワーク・発表・意見交換等を行い、養護教諭の専門性や保健室の機能について追究する。

到達目標

1	学校教育における養護教諭の役割を説明することができる。
2	養護教諭の歴史から、専門性とその職務内容について具体的に述べるができる。
3	養護教諭の職務の内容をもとに、養護活動について調べることができる。
4	養護活動について多角的に捉え、積極的に授業に参加することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業後のまとめ	22
到達目標②	定期試験	50
到達目標③	予習課題	13
到達目標④	授業に対する意欲と態度	15
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論—理論と実践—	東山書房	岡田加奈子他
2	学校保健の課題とその対応—令和2年度改訂—		日本学校保健会
3	学校保健実務必携	第一法規	学校保健・学校安全実務研究会編
4	新版・養護教諭 執務のてびき 第10版	東山書房	石川県養護教諭研究会編
5	保健室利用状況に関する調査報告書 平成28年度調査結果		日本学校保健会

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月曜日 9:00~12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

この授業を通して、今、養護教諭に求められる役割が見えてくるだろう。常に授業内容についての課題意識をもって取り組むことが大切である。各授業回において、前授業の終わりに予習課題のテーマを提示するので、自分の意見をまとめておくこと。また、次授業において予習課題を使用するため、必ず持参すること。予習課題は毎授業終了後提出を求める。

課題に対するフィードバック

予習課題は、オリエンテーション時に説明する方法により評価し、コメントを付けるなどして返却する。また、授業内で行うグループワークや発表等は、事前に提供されるルーブリックにより評価する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 養護教諭の専門性	予習：教科書①P20-24養護教諭の歴史について熟読する 復習：授業プリントを整理する	
第2回	養護の本質と概念	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	A
第3回	子どもの発達と健康	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	A・C
第4回	養護教諭と学校保健活動Ⅰ 学校保健活動	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	B
第5回	養護教諭と学校保健活動Ⅱ 学校保健計画	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	B
第6回	養護教諭と保健室・保健室経営Ⅰ 保健室の位置づけと役割、保健室という場の特性	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	B
第7回	養護教諭と保健室・保健室経営Ⅱ 保健室経営計画	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	D
第8回	養護活動の過程	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	
第9回	協働・連携並びに組織活動	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	B
第10回	学校の特性に応じた養護活動Ⅰ 学校種別，学校規模，地域の特性に応じた養護活動の特徴	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	B
第11回	学校の特性に応じた養護活動Ⅱ 養護教諭の複数配置	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	B
第12回	特別支援教育と養護教諭 ＊動画視聴	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	A
第13回	養護教諭と学校安全・危機管理	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	
第14回	養護教諭の倫理 養護教諭の行う研究と現職研修	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	A
第15回	養護とは	予習：前時に提示するテーマで予習課題をまとめる 復習：授業プリントを整理する	D
	定期試験	学習内容を整理し，試験に備える	

健康相談活動の理論及び方法

更新日：2024/02/21 09:22:18

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B111100	授業コード		
担当教員	矢野 由紀子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5L212	授業形態	講義	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	養護必修	授業時間+自習時間	60+30					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、児童生徒への身体面、心理面からのアプローチはもとより、人間関係や家庭の背景までも考慮したアセスメントを考えていく授業を行う。この授業における学びは、卒業後、養護教諭として行う健康相談に生かすことができる。						

授業概要

内容	養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談活動の基礎的な知識・技法を習得し、児童生徒の健康課題への支援のあり方を身につける。
方法	教科書及び授業プリントに基づき講義と演習を行う。いろいろな場面での対応について、ペアワークやグループワーク、ロールプレイを行う。

到達目標

1	健康相談活動の位置づけや法的根拠、目的を説明できる
2	養護教諭の職務の特質と保健室の機能、カウンセリングの知識や技術、連携を生かした健康相談活動の方法を理解し説明できる
3	養護教諭の職務の特質と保健室の機能、カウンセリングの知識や技術、連携を生かした健康相談活動の方法を行うことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	30
到達目標②	定期試験	50
到達目標③	演習への参加態度、振り返りシート	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	新版 養護教諭の行う健康相談	東山書房	大谷尚子・鈴木美智子・森田光子編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	教職員のための子どもの健康相談および保健指導	文部科学省	
2	子どものメンタルヘルスの理解とその対応	日本学校保健会	
3	子供たちを見守るために	日本学校保健会	

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月・火曜日 9:00~10:30 2号館2階 研究室 2-3 メールアドレス yano@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

講義の中に演習（ロールプレイ、ペアワーク、グループワーク）を組み込むので、積極的に取り組むこと。

課題に対するフィードバック

授業の振り返りシートは、コメントをつけるなどしてフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション 養護教諭の行う健康相談1	予習：テキストP3~P17を読み、養護教諭の行う健康相談をイメージする	C

	ある日の保健室 養護教諭と健康相談	復習：学習内容を整理し、定期試験に備える	
第2回	養護教諭の行う健康相談2 養護教諭の行う健康相談の概要	予習：テキストP17～P26を読み、わからない文言を調べ、 ノートにまとめる 復習：学習内容を整理し、定期試験に備える	C
第3回	養護教諭の行う健康相談3 健康相談と保健室 健康相談の法的根拠	予習：テキストP27～P37を読み、わからない文言を調べ、 ノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	C
第4回	健康相談の過程1 事例から見る健康相談の過程	予習：テキストP40～P48を読み、わからない文言を調べ、 ノートにまとめる 復習：学習内容を整理し、定期試験に備える	C
第5回	健康相談の過程2 対象理解と見立て 成長・発達過程にある子どもの理解	予習：テキストP49～P60を読み、わからない文言を調べ、 ノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	C
第6回	健康相談の過程3 子どもの気になる様子とその見立て方	予習：テキストP61～P64を読み、わからない文言を調べ、 ノートにまとめる 復習：学習内容を整理し、定期試験に備える	C
第7回	健康相談の過程4 支援目標と方法の選択	予習：テキストP65～P69を読み、わからない文言を調べ、 ノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	C
第8回	健康相談の過程5 支援のための連携と協働	予習：テキストP70～P82を読む 復習：学習内容を整理し、定期試験に備える	C
第9回	場面や「問題」に応じた健康相談のすすめ方1 いろいろな場面での対応① (1) 応急手当の場面での対応 (2) 複数来室者がいる場合の対応	予習：テキストP84～P87を読み、わからない文言を調べ、 ノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	B, D
第10回	場面や「問題」に応じた健康相談のすすめ方2 いろいろな場面での対応② (1) 頻回来室する子どもの対応	予習：テキストP88～P91を読み、わからない文言を調べ、 ノートにまとめる 復習：学習内容を整理し、定期試験に備える	B, D
第11回	場面や「問題」に応じた健康相談のすすめ方3 「問題」や個に応じた対応の原則 「問題」に応じた対応事例① (1) けがが多い子ども (2) 慢性疾患のある子ども	予習：テキストP92～P98読み、わからない文言を調べ、ノ ートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	C
第12回	場面や「問題」に応じた健康相談のすすめ方4 「問題」に応じた対応事例② (3) 発達障害が疑われる子どもの対応 (4) いじめ被害・加害・周囲の子どもへの対応	予習：テキストP98～P104読み、わからない文言を調べ、 ノートにまとめる 復習：学習内容を整理し、定期試験に備える	C
第13回	場面や「問題」に応じた健康相談のすすめ方5 「問題」に応じた対応事例③ (5) 虐待が疑われる子どもへの対応 (6) 境界性パーソナリティ障害が疑われる子どもの対応	予習：テキストP104～P110を読み、わからない文言を調 べ、ノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	C
第14回	場面や「問題」に応じた健康相談のすすめ方6 「問題」に応じた対応事例④ (7) 保健室登校をする子どもへの対応	予習：テキストP110～P113を読み、わからない文言を調 べ、ノートにまとめる 復習：学習内容を整理し、定期試験に備える	C
第15回	場面や「問題」に応じた健康相談のすすめ方7 プロセスに応じて変化する養護教諭の役割	予習：テキストP113～P115を読み、わからない文言を調 べ、ノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	C
第16回	健康相談に関わる記録	予習：テキストP116～P126を読み、わからない文言を調 べ、ノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	C
第17回	健康相談の実際 養護教諭の職務の特質を活用する実践	予習：健康相談をする養護教諭をイメージする 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	D
第18回	健康相談に必要な力量と学びの方法 事例検討のすすめ方	予習：テキストP128～P157を読み、わからない文言を調 べ、ノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	C
第19回	事例から健康相談を学ぶ1 運動制限を受けている児童	予習：「子どもの慢性疾患」について調べ、ノートにまと める 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	B,D
第20回	事例から健康相談を学ぶ2 喘息発作のため欠席が多くなった児童	予習：テキストP164～P165を読み、「喘息発作」について 調べノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	B,D
第21回	事例から健康相談を学ぶ3 自傷行為が懸念された生徒	予習：テキストP166～P167を読み、「自傷行為」について 調べノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	B,D
第22回	事例から健康相談を学ぶ4 ダイエットから摂食障害になった生徒	予習：テキストP168～P169を読み、「摂食障害」について 調べノートにまとめる	B,D

		復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	
第23回	事例から健康相談を学ぶ5 過呼吸発作で不安やストレスが表面化してきた生徒	予習：テキストP170～P171を読み、「過呼吸発作」について調べノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	B,D
第24回	事例から健康相談を学ぶ6 身体症状で健康相談を求めた統合失調症の生徒	予習：テキストP172～P173を読み、「統合失調症」について調べノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	B,D
第25回	事例から健康相談を学ぶ7 「ネットいじめ」から保健室登校になった生徒	予習：テキストP174～P175を読み、「ネットいじめ」について調べノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	B,D
第26回	事例から健康相談を学ぶ8 別室登校を経て保健室登校になった生徒	予習：テキストP176～P177を読み、「保健室登校」について調べノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	B,D
第27回	事例から健康相談を学ぶ9 部活動のプレッシャーから家出・飲酒を繰り返した生徒	予習：テキストP178～P179を読み、中学生の「家出・飲酒」について調べノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	B,D
第28回	事例から健康相談を学ぶ10 震災の状況を思い出し原因不明の頭痛を訴えていた生徒	予習：テキストP180～P181を読み、「心のケア」について調べノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	B,D
第29回	事例から健康相談を学ぶ11 性感染症の症状が現れた生徒	予習：テキストP182～P183を読み、「性感染症」について調べノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	B,D
第30回	事例から健康相談を学ぶ12 自殺念慮	予習：「子どもの自殺」について調べ、ノートにまとめる 復習：授業プリントを整理し、定期試験に備える	B,D
	定期試験		

精神保健

更新日：2024/03/01 14:48:11

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B111200	授業コード	
担当教員	永井 靖人						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5L223	授業形態	講義	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	生活文化専攻 卒業必修, 養護必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	こころの教室相談員, 児童虐待対応協力員として教育, 福祉現場で勤務していた経験をもとに, 教育相談や精神保健福祉の現状に即した実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは, 卒業後, 教員など社会人として, 自他の心の健康の推進に生かすことができる。					

授業概要

内容	乳幼児期から成人期にかけての不適応, 発達障害, 精神疾患について, 正しい知識・理解を得る。精神的健康を獲得するために, 個人とその周囲の人々に必要な取り組み, 働きかけを理解する。
方法	概要の説明の前後に, 話し合い, 調べ学習, Office365 (Forms, Whiteboard, Teams) を用いた振り返りや知識の共有などのグループワーク, アクティブラーニングを行う。

到達目標

1	こころの健康に関する課題について深く考え, 意見を表明することができる
2	自己のこころの健康を保健学, 心理学に基づいて考察することができる
3	精神保健の重要事項を理解, 説明できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	討論, 発表への参加度	33
到達目標②	授業課題, ポートフォリオ	33
到達目標③	期末課題	34
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	改訂2版 メンタルヘルス・マネジメント検定試験III種(セルフケアコース)重要ポイント&問題集	日本能率協会マネジメントセンター	見波 利幸

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない。必要に応じて資料を配布する。		

オープンな教育リソース

日本心理学会『心理学って何だろう』https://psych.or.jp/interest/lecture_hs/

オフィスアワー

月・水曜日12:20~12:50 2号館2階研究室2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

卒業必修であることを自覚してほしい。ノートは丁寧に書く, Office365を活用する, 積極的に話し合うなど, 誠実な態度で授業に臨むこと。

課題に対するフィードバック

提出された課題などの回答や質問に対して, Teamsで回答, 共有する

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題(予習・復習)の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	授業の進め方, 評価の方法について知る	予習: シラバスで学習内容を確認する	A

	メンタルヘルスの意義	復習：確認問題を解く	
第2回	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識①ストレスラー	予習：自分のストレス要因をまとめる 復習：確認問題を解く	A
第3回	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識②メンタルヘルス不調	予習：うつ病に関する動画を視聴する 復習：確認問題を解く	A
第4回	セルフケアの重要性	予習：ライフスタイルの見直し 復習：確認問題を解く	A
第5回	ストレスへの気づき方	予習：社会再適応評価尺度に答える 復習：確認問題を解く	A
第6回	ストレスへの対処とストレス軽減の方法①軽減，緩和	予習：ストレスに関する動画を視聴する 復習：確認問題を解く	A
第7回	ストレスへの対処とストレス軽減の方法②相談	予習：カウンセリングとは何かをまとめる 復習：確認問題を解く	A
第8回	ストレスへの対処とストレス軽減の方法③医療	予習：精神科医療についてまとめる 復習：確認問題を解く	A
第9回	発達障害	予習：発達障害についてまとめる 復習：確認問題を解く	A
第10回	ストレスと脳，神経系のはたらき	予習：自律神経についてまとめる 復習：確認問題を解く	A
第11回	心身症	予習：心身症についてまとめる 復習：確認問題を解く	A
第12回	ストレスのアセスメント	予習：ストレスチェックに答える 復習：確認問題を解く	A
第13回	リラクセーションの実践	予習：さまざまなリラクセーションを調べる 復習：確認問題を解く	A、D
第14回	薬物療法の基礎	予習：抗うつ薬について調べる 復習：確認問題を解く	A
第15回	認知行動療法	予習：認知行動療法に関する動画を視聴する 復習：確認問題を解く	A
	実施せず		

小児保健

更新日：2024/01/31 13:14:53

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B111300	授業コード		
担当教員	矢野 由紀子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻						
	配当時期	1年 2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5L224	授業形態	講義・演習	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	選択、養護教諭コース必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点	演習の授業は爪を短く整え、長い髪は結ぶこと					
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	・子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。・子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。・子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。・子どもの疾病とその予防法及び他職間の連携・協働の下での適切な対応について学ぶ。
方法	講義内容に沿ったペアワークやグループワーク、ロールプレイ等を通して具体的に理解する。

到達目標

1	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について説明できる
2	子どもの身体発育や発達及び生活習慣についてレポートにまとめることができる
3	子どもの健康状態の観察と体調不良時の対応方法について説明できる
4	子どもに多い疾患の特徴と適切な対応・予防方法について説明できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	グループワーク・振り返りシート・定期試験	25
到達目標②	グループワーク・振り返りシート	25
到達目標③	グループワーク・振り返りシート・定期試験	25
到達目標④	グループワーク・振り返りシート・定期試験	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	子どもの保健テキスト	診断と治療社	小林美由紀

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月・火曜日 9:00~10:30 2号館2階 研究室2-3 メールアドレス yano@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

子どもの健康に関するニュースに関心を持ち、積極的に情報収集してください。

課題に対するフィードバック

レポートは事前に提供されるルーブリックにより評価し、コメントを付けるなどして返却する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション 保健活動の意義と目的 PCを用いて説明	予習：これまでの学びを基に子どもの特徴を考えてくる 復習：振り返り問題で復習をする	

第2回	母子保健の意義と現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	予習：教科書第1章②③を読み「現代社会における子どもの健康に関する現状と課題」について調べる 復習：振り返り問題で復習をする	A, B, C
第3回	子どもの身体発育と運動機能の発達	予習：教科書第2章①を読む 復習：「子どもの体格は向上したが、体力・運動能力が低下傾向である理由についてレポートにまとめ、第4回講義開始時に提出する	A, B, C
第4回	子どもの生理機能の発達と生活習慣	予習：教科書第2章②を読む 復習：振り返り問題で復習する	A, B, C
第5回	地域における保健活動と子どもの虐待防止	予習：教科書第3章を読む 復習：「虐待防止の取り組みについて」をレポートにまとめ第6回講義開始時に提出する	A, B, C
第6回	子どもの健康状態の観察と体調不良時の対応	予習：教科書第4章を読む 復習：振り返り問題で復習する	A, B, C
第7回	子どもが罹りやすい感染症の特徴	予習：教科書第5章①を読む 復習：振り返り問題で復習する	A, B, C
第8回	感染症の予防および適切な対応	予習：教科書第5章②を読む 復習：振り返り問題で復習する	A, B, C
第9回	救急疾患の特徴と適切な対応	予習：教科書第5章③を読む 復習：救急疾患、事故や怪我の対応をまとめる	A, B, C
第10回	新生児の病気、先天性の病気の特徴と対応	予習：教科書第5章④を読む 復習：振り返り問題で復習する	A, B, C
第11回	アレルギー疾患および慢性疾患の特徴と適切な対応	予習：教科書第5章⑤⑥を読む 復習：振り返り問題で復習する	A, B, C
第12回	保護者との情報共有と家族の支援	予習：教科書第6章を読む 復習：振り返り問題で復習する	A, B, C
第13回	子どもの健康診断と関連機関との連携	予習：教科書第7章を読む 復習：振り返り問題で復習する	A, B, C
第14回	【小児救急の演習】 ・安全、安楽な体位（回復体位、ショック体位など） ・ピークフロー ・エピペン	予習：教科書第5章ピークフロー、エピペンの使い方を読み事前学習する 復習：ロールプレイを行い、気づいたこと学んだことをレポートし、第15回講義開始時に提出	B, D
第15回	【小児救急の演習】 ・誤嚥時の対応 ・小児の一次救命処置	予習：教科書第5章子どもの心肺蘇生法、子どもの誤嚥時の対応について読み事前学習する 復習：ロールプレイを行い、気づいたこと学んだことをレポートし提出	B, D
	定期試験		

衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。） 《養護》

更新日：2024/02/21 13:25:45

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B111400	授業コード		
担当教員	鷺野 嘉映							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	3L211	授業形態	講義	期待される学習成果	3			
コース別 必修・選択必修等	生活文化専攻 卒業必修, 養護必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	行政書士、薬剤師：行政書士事務所所長としての経験を生かし、公衆衛生学の理解において必須の医療・環境・行政関連法規について講義する。また、病院薬剤師（精神科・内科）としての経験を生かし、精神保健福祉や生活習慣病予防に関連する事項について事例を挙げて講義する。						

授業概要

内容	ヒトは、一つの個体として生きているのではなく、ヒトを取り巻く各種環境の中で存在しており、社会の変動やヒトの価値観の変化によって影響を受ける。公衆衛生学は、社会との関連における疾病の予防、健康の保持・増進を目的としており、養護教諭にとってその概念を習得することは重要である。本科目では、保健統計や健康の概念を知るとともに、身の回りの生活環境による健康影響を学ぶ。さらに生を受けて死に至るまで、関連法規のもとで健康的に生活する術を学ぶことで、養護教諭として必須の知識を習得する。
方法	テキストの予習範囲を中心に参考書等の資料を用いて講義を行う。 各授業においては、授業内容に関して、高校までの学習内容に基づき常にQ&Aにより授業を進行する。なお、回答においては、「分かりません」や安易な回答は認めません。 学生は、毎時間、保健衛生に関するトピックスについて、順に発表・ディスカッションを行う。

到達目標

1	健康・疾病・障害の概念を説明できる。
2	現在の健康に関する実態を説明できる。
3	健康の維持・増進のための方策を説明できる。
4	健康な社会生活を実践する方策を説明できる。
5	保健衛生について自ら発信し、ディスカッションを行うことができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	20
到達目標②	定期試験	20
到達目標③	定期試験	20
到達目標④	定期試験	20
到達目標⑤	授業態度（発表・ディスカッション）	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「わかりやすい 公衆衛生学」第4版	ヌーヴェルウヒロカワ	清水忠彦 他編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

厚生労働省HP：<https://www.mhlw.go.jp/index.html>文部科学省HP：<https://www.mext.go.jp/index.htm>

オフィスアワー

月曜日 12:10～12:55 研究室2-2

提示したオフィスアワーでの対応に加えて、メールwashino@mizuho-c.ac.jp（#を@に変更）で事前に予約することで適宜対応します。

学生へのメッセージ

公衆衛生学は生きた学問です。常に新聞やTV等のニュースにふれ、多くの情報から意味のある情報を得ることに心がけてください。

毎回予習復習に努めて、講義中での積極的な質問を期待します。

授業時における他の学生の授業を妨げる態度はマイナス評価となるので注意してください。

授業中に突っ伏して寝る等、体調不良が考えられる場合は、保健室での休養をお願いします。
授業の進行状況によっては、シラバスの内容に変更が生じる場合がありますが、その際は事前に通知します。

課題に対するフィードバック

授業時間中に口頭で多くの質問を課し、意見交換を行うとともに、講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	公衆衛生とは	予習：テキストの第1章を通読し、自らの健康について考える。 復習：健康の概念と社会との関わりを確認し、授業の理解を深める。	A
第2回	医療・介護の保障制度	予習：テキストの第7章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：家族や自分自身の社会保障制度を確認し、授業の理解に努める。	A,D
第3回	ヘルスサービスとヘルスプロモーション	予習：テキストの第8,13章を通読し、身近なヘルスサービスを確認する。 復習：身近なヘルスサービスについて確認し、授業の理解を深める。	A,D
第4回	疫学的方法	予習：テキストの第2章を通読し、身近な検診等につき確認する。 復習：健康に影響を及ぼす要因について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第5回	健康の指標I：人口動態統計、人口動態統計	予習：テキストの第3章を通読し、HP等で日本・世界の人口問題を確認する。 復習：人口統計について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第6回	健康の指標II：健康状態と受療状況	予習：テキストの第3章を通読し、自らの受療状況について確認する。 復習：現在の国内外の健康状態の現状と問題点について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第7回	感染症とその予防	予習：テキストの第4章を通読し、身の回りの感染症の問題について確認する。 復習：感染症の現状と関連法規を確認し、授業の理解を深める。	A,D
第8回	食品衛生と国民保健	予習：テキストの第5章を通読し、身近な食に関わる問題を確認する。 復習：食の健康に及ぼす影響と食中毒について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第9回	精神保健の現状と保健対策	予習：テキストの第14章を通読する。 復習：精神保健に関わる法律、精神保健福祉対策について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第10回	母子保健の現状と保健対策	予習：テキストの第9章を通読する。 復習：母子保健の現状と関連法規を確認し、授業の理解を深める。	A,D
第11回	学校保健の現状と保健対策	予習：テキストの第10章を通読する。 復習：学校保健における養護教諭の関わりを確認し、授業の理解を深める。	A,D
第12回	成人保健・高齢者保健の現状と保健対策	予習：テキストの第11,12章を通読する。 復習：生活習慣病、難病の現状と関連法規を確認し、授業の理解を深める。	A,D
第13回	産業保健の現状と保健対策	予習：テキストの第15章を通読する。 復習：労働者の健康問題の現状と関連法規を確認し、授業の理解を深める。	A,D
第14回	環境保健I：地球環境問題	予習：テキストの第6章を通読し、HP等で地球環境問題を確認する。 復習：現在の地球環境問題を産業保健との関連も含めて確認し、授業の理解を深める。	A,D
第15回	環境保健II：住環境・廃棄物問題	予習：テキストの第6章を通読し、自らの廃棄物の現状を確認する。 復習：環境の健康に及ぼす影響について確認し、授業の理解を深める。	A,D
	定期試験		

衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）《オフィス》

更新日：2024/02/21 13:22:30

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B111400	授業コード	
担当教員	鷺野 嘉映						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3L211	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	行政書士、薬剤師：行政書士事務所所長としての経験を生かし、公衆衛生学の理解において必須の医療・環境・行政関連法規について講義する。また、病院薬剤師（精神科・内科）としての経験を生かし、精神保健福祉や生活習慣病予防に関連する事項について事例を挙げて講義する。					

授業概要

内容	ヒトは、一つの個体として生きているのではなく、ヒトを取り巻く各種環境の中で存在しており、社会の変動やヒトの価値観の変化によって影響を受ける。公衆衛生学は、社会との関連における疾病の予防、健康の保持・増進を目的としている。本科目では、保健統計や健康の概念を知るとともに、身の回りの生活環境による健康影響を学ぶ。さらに生を受けて死に至るまで、関連法規のもとで健康的に生活する術を学ぶことで、これからの生活に必須の知識を習得する。
方法	テキストの予習範囲を中心に参考書等の資料を用いて講義を行う。 各授業においては、授業内容に関して、高校までの学習内容に基づき常にQ&Aにより授業を進行する。なお、回答においては、「分かりません」や安易な回答は認めません。 学生は、毎時間、保健衛生に関するトピックスについて、順に発表・ディスカッションを行う。

到達目標

1	健康・疾病・障害の概念を説明できる。
2	現在の健康に関する実態を説明できる。
3	健康の維持・増進のための方策を説明できる。
4	健康な社会生活を実践する方策を説明できる。
5	保健衛生について自ら発信し、ディスカッションを行うことができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	20
到達目標②	定期試験	20
到達目標③	定期試験	20
到達目標④	定期試験	20
到達目標⑤	授業態度	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「わかりやすい 公衆衛生学」第4版	ヌーヴェルウヒロカワ	清水忠彦 他編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

厚生労働省HP：<https://www.mhlw.go.jp/index.html>文部科学省HP：<https://www.mext.go.jp/index.htm>

オフィスアワー

月曜日 12:10～12:55 研究室2-2

提示したオフィスアワーでの対応に加えて、メールwashino@mizuho-c.ac.jp（#を@に変更）で事前に予約することで適宜対応します。

学生へのメッセージ

公衆衛生学は生きた学問です。常に新聞やTV等のニュースにふれ、多くの情報から意味のある情報を得ることに心がけてください。

毎回予習復習に努めて、講義中での積極的な質問を期待します。

授業時における他の学生の授業を妨げる態度はマイナス評価となるので注意してください。

授業中に突っ伏して寝る等、体調不良が考えられる場合は、保健室での休養をお願いします。
授業の進行状況によっては、シラバスの内容に変更が生じる場合がありますが、その際は事前に通知します。

課題に対するフィードバック

授業時間中に口頭で多くの質問を課し、意見交換を行うとともに、講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	公衆衛生とは	予習：テキストの第1章を通読し、自らの健康について考える。 復習：健康の概念と社会との関わりを確認し、授業の理解を深める。	A
第2回	医療・介護の保障制度	予習：テキストの第7章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：家族や自分自身の社会保障制度を確認し、授業の理解に努める。	A,D
第3回	ヘルスサービスとヘルスプロモーション	予習：テキストの第8,13章を通読し、身近なヘルスサービスを確認する。 復習：身近なヘルスサービスについて確認し、授業の理解を深める。	A,D
第4回	疫学的方法	予習：テキストの第2章を通読し、身近な検診等につき確認する。 復習：健康に影響を及ぼす要因について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第5回	健康の指標I：人口動態統計、人口動態統計	予習：テキストの第3章を通読し、HP等で日本・世界の人口問題を確認する。 復習：人口統計について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第6回	健康の指標II：健康状態と受療状況	予習：テキストの第3章を通読し、自らの受療状況について確認する。 復習：現在の国内外の健康状態の現状と問題点について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第7回	感染症とその予防	予習：テキストの第4章を通読し、身の回りの感染症の問題について確認する。 復習：感染症の現状と関連法規を確認し、授業の理解を深める。	A,D
第8回	食品衛生と国民保健	予習：テキストの第5章を通読し、身近な食に関わる問題を確認する。 復習：食の健康に及ぼす影響と食中毒について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第9回	精神保健の現状と保健対策	予習：テキストの第14章を通読する。 復習：精神保健に関わる法律、精神保健福祉対策について確認し、授業の理解を深める。	A,D
第10回	母子保健の現状と保健対策	予習：テキストの第9章を通読する。 復習：母子保健の現状と関連法規を確認し、授業の理解を深める。	A,D
第11回	学校保健の現状と保健対策	予習：テキストの第10章を通読する。 復習：学校保健における養護教諭の関わりを確認し、授業の理解を深める。	A,D
第12回	成人保健・高齢者保健の現状と保健対策	予習：テキストの第11,12章を通読する。 復習：生活習慣病、難病の現状と関連法規を確認し、授業の理解を深める。	A,D
第13回	産業保健の現状と保健対策	予習：テキストの第15章を通読する。 復習：労働者の健康問題の現状と関連法規を確認し、授業の理解を深める。	A,D
第14回	環境保健I：地球環境問題	予習：テキストの第6章を通読し、HP等で地球環境問題を確認する。 復習：現在の地球環境問題を産業保健との関連も含めて確認し、授業の理解を深める。	A,D
第15回	環境保健II：住環境・廃棄物問題	予習：テキストの第6章を通読し、自らの廃棄物の現状を確認する。 復習：環境の健康に及ぼす影響について確認し、授業の理解を深める。	A,D
	定期試験		

薬理概論

更新日：2024/02/21 13:24:12

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B111510	授業コード		
担当教員	鷺野 嘉映							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	3L212	授業形態	講義	期待される学習成果	3			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	薬剤師：病院薬剤師（精神科・内科）としての経験を生かし、病気と薬の関わりについて実例を挙げて講義する。						

授業概要

内容	薬の効き方と正しい使い方を理解するため、薬の種類と性質、作用機序、投与後の生体内での動き、薬効に及ぼす各種要因など、薬に関する基本的な知識を修得する。薬が病気を治す働きを知ることで、不適切な薬の使用を抑えることが可能となり、自らの健康の保持増進に対して責任を持つことが出来るようになる。 登録販売者試験を目指す学生の試験における基礎的な事項を学習する。
方法	教科書とともにパワーポイントを使用して講義する。 各授業においては、授業内容に関して、高校までの学習内容に基づき常にQ&Aにより授業を進行する。なお、回答においては、「分かりません」や安易な回答は認めません。

到達目標

1	薬の分類、薬理作用と薬の効く仕組み（作用機序）を説明できる。
2	薬の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）の各過程を説明できる。
3	薬の投与方法・経路、剤形とそれらの最近の進歩を説明できる。
4	薬理作用に影響を及ぼす各種因子を説明できる。
5	授業を通して疑問に思った事項を積極的に質問をして、計画的に自主学習ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	20
到達目標②	定期試験	20
到達目標③	定期試験	20
到達目標④	定期試験	20
到達目標⑤	授業態度（授業レポートを含む）	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	いちばんやさしい薬理学	成美堂出版	木澤靖夫

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	薬がみえる vol.1-vol.4	メディックメディア	医療情報科学研究所

オープンな教育リソース

「医薬品ができるまで」（くすりの適正使用協議会）<https://www.youtube.com/watch?v=VGnWWEjdzNM>
「くすりはどのように効くの？」（日本薬学会公式チャンネル）<https://www.youtube.com/watch?v=i3qVBeMU29s>

オフィスアワー

月曜日 12:10～12:55 研究室2-2

提示したオフィスアワーでの対応に加えて、メールwashino@mizuho-c.ac.jp（#を@に変更）で事前に予約することで適宜対応します。

学生へのメッセージ

薬の働きを理解するうえで、ヒトの体の構造や生理を知っていることが必要となります。そのため、高校で学習した生物基礎の教科書を再度熟読して理解しておくことが望まれます。

毎回予習復習に努めて、講義中での積極的な質問を期待します。

授業時における他の学生の授業を妨げる態度はマイナス評価となるので注意してください。

授業中に突っ伏して寝る等、体調不良が考えられる場合は、保健室での休養をお願いします。

授業の進行状況によっては、シラバスの内容に変更が生じる場合がありますが、その際は事前に通知します。

課題に対するフィードバック

授業時間中に口頭で多くの質問を課し、意見交換を行うとともに、講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	薬の分類、薬に関する取決め（法・制度）	予習：身の回りの医薬品の説明書・添付文書を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第2回	薬理作用と作用機序 薬はどのように効くのか？どのような薬が安全か？	予習：テキストの第1章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第3回	薬の体内動態Ⅰ：吸収・分布	予習：テキストの第1章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第4回	薬の体内動態Ⅱ：代謝・排泄	予習：テキストの第1章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第5回	薬の投与方法・経路と剤形	予習：テキストの第1章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第6回	薬理作用に影響を及ぼす因子	予習：テキストの第1章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第7回	感染症の薬Ⅰ：細菌	予習：テキストの第7章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第8回	感染症の薬Ⅱ：その他の微生物	予習：テキストの第7章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第9回	消化器の薬	予習：テキストの第4章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第10回	生活習慣病の薬Ⅰ：循環器	予習：テキストの第5章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第11回	生活習慣病の薬Ⅱ：内分泌	予習：テキストの第9章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第12回	炎症・免疫の薬	予習：テキストの第6章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第13回	神経の薬	予習：テキストの第2章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第14回	耳鼻咽喉の薬	予習：テキストの第11章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
第15回	悪性新生物の薬	予習：テキストの第10章を通読し、自らの医療保険を確認する。 復習：学習した内容を講義資料や講義ノートにまとめ、授業の理解を深める。	A
	定期試験		

臨床実習

更新日：2024/01/31 12:43:54

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B111700	授業コード		
担当教員	矢野 由紀子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	8L212	授業形態	実習	期待される学習成果	8			
コース別 必修・選択必修等	養護必修	授業時間+自習時間	90					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	医療機関において、医療体制・役割を知り、医療機関と学校との連携について考えるとともに、診断・治療の過程を理解する。また、コミュニケーションの実際、症状の観察及び看護の基本技術を見学・体験する。
方法	<ul style="list-style-type: none">事前指導では、臨床実習の意義や目的、実習内容について触れ、養護教諭を目指す学生の視点でどのような実習ができるかイメージする。具体的な実習目標を立て、達成するための事前学習を行う。2年生による臨床実習の報告会に参加する。医療機関で2週間の実習を行う。事後指導では、グループでのプレゼンテーションにより実習の報告を行う。

到達目標

1	自身の実習目標を立て、説明できる
2	病院ではどのようなことが行われているか説明できる
3	積極的に実習に臨み、養護教諭としてできることを記録にまとめることができる
4	児童生徒の保健管理や健康教育に役立てる視点を持ち、記録にまとめることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	10
到達目標②	臨床実習評価・臨床実習記録	30
到達目標③	臨床実習評価・臨床実習記録	30
到達目標④	臨床実習評価・臨床実習記録	30
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	子どもたちの未来のためにできること	バリューメディカル	あいち小児保健医療総合センター

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	改訂 養護教諭のための保健・医療・福祉系 実習ハンドブック	東山書房	中桐佐智子・岡田加奈子他

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月・火曜日 9:00~10:30 2号館2階 研究室2-3 メールアドレス yano@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

医療機関の医療や看護の見学を通して、学校における環境調整、救急看護等について考える。また、健康教育の推進にあたり、命や健康の尊さについて考える機会とする。

実習中は、日々の予習復習を確実にし、責任ある態度で誠実に積極的に臨むこと。

課題に対するフィードバック

臨床実習での学びを発表し、情報や意見交換をすることで学びを共有する。

授業計画

授業回	学修計画

	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	<事前指導> 臨床実習の意義、目的・方法、 各部門や各科での実習目標の設定 DVDを視聴し実習をイメージする	予習：教科書の内容と自身の経験から病院という場所をイメージし、ノートにまとめる 復習：臨床実習に際して不安なことをA4用紙1枚にまとめる（ノートPC使用）	A, B, C
第2回	<事前指導> 臨床実習記録と留意点 事前学習内容の指導 DVDを視聴し実習生の心得を学ぶ	予習：臨床実習要項を読み、実習目標を考え、ノートに書き出す 復習：臨床実習の予習として事前学習ノートを作成する	A, B, C
第3回	<事前指導> 2年生による臨床実習の報告会に参加	予習：事前資料をみて、質問内容をまとめる 専門用語・医学用語を調べる（ノートPC使用） 復習：参加しての学びをまとめる（ノートPC使用）	
第4回	臨床実習 1日目	予習：実習目標の設定と実習する科についてまとめる 復習：実習記録の記入と学習内容を整理する	D
第5回	臨床実習 2日目	予習：実習目標の設定と実習する科についてまとめる 復習：実習記録の記入と学習内容を整理する	D
第6回	臨床実習 3日目	予習：実習目標の設定と実習する科についてまとめる 復習：実習記録の記入と学習内容を整理する	D
第7回	臨床実習 4日目	予習：実習目標の設定と実習する科についてまとめる 復習：実習記録の記入と学習内容を整理する	D
第8回	臨床実習 5日目	予習：実習目標の設定と実習する科についてまとめる 復習：実習記録の記入と学習内容を整理する	D
第9回	臨床実習 6日目	予習：実習目標の設定と実習する科についてまとめる 復習：実習記録の記入と学習内容を整理する	D
第10回	臨床実習 7日目	予習：実習目標の設定と実習する科についてまとめる 復習：実習記録の記入と学習内容を整理する	D
第11回	臨床実習 8日目	予習：実習目標の設定と実習する科についてまとめる 復習：実習記録の記入と学習内容を整理する	D
第12回	臨床実習 9日目	予習：実習目標の設定と実習する科についてまとめる 復習：実習記録の記入と学習内容を整理する	D
第13回	臨床実習 10日目	予習：実習目標の設定と実習する科についてまとめる 復習：実習記録の記入と学習内容を整理する	D
第14回	<事後指導> 臨床実習の反省・実習記録のまとめと自己評価 今後に向けての課題をまとめる	予習：臨床実習記録内容を整理し、不足している点を追加する 復習：発表テーマを精選する	B
第15回	<事後指導> 臨床実習の報告会 プレゼンテーション発表をする	予習：発表テーマの資料準備をする（ノートPC使用） 復習：発表後の学びについてレポートを作成する	B
	実施せず		

情報社会論

更新日：2024/02/21 10:48:18

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B111800	授業コード	
担当教員	森屋 裕治						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1L211	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	情報のデジタル化が高度に進んだ現在、著作権を容易に侵害する、あるいは、される危険性が高まっている。ビジネスの場に限らず、日常生活においても、情報を利活用する際には注意が必要となる。加害者にも被害者にもならないよう、自分で判断できるように著作権に関する知識を学び、身につける。
方法	授業までに授業内容に関する予習をしてくる。授業ではテキスト等により基礎を学び、様々な事例について小テスト等により内容理解の確認を行う。授業後は、授業で学んだことを復習する。授業終了後には「ビジネス著作権検定BASIC」(4,200円)を受験し、学習の成果を確認する。

到達目標

1	著作権に関して、意欲的に学習に取り組むことができる。
2	著作権に関する問題に対して自分なりの判断をし、考えや意見を表現できる。
3	著作権に関する様々な情報を収集、整理して、著作権の全体像を理解することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	受講姿勢	20
到達目標②	学習課題・小テスト等	30
到達目標③	期末レポート	50
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	ビジネス著作権検定 BASIC 初級 公式テキスト(第3版)	ウイネット	一般社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	ビジネス著作・検定 初級問題集	ウイネット	一般社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会編著
2	ビジネス著作・検定 公式テキスト[初級・上級] 第3版	インプレス	和田 宏徳/坂本 優/藤原 正樹編著
3	ビジネス著作・検定テキスト(瞬解テキストシリーズ)	青月社	塩島 武徳 著

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業終了後に、教室または非常勤講師室で質問等を受け付ける。

メールアドレス：pteacher-tandai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

授業での様々な活動に対して、積極的な姿勢、参加を期待している。教科書は必ず購入し、授業用のノート、ファイル等を用意し整理すること。卒業後、著作権の大切さを周囲の人にも伝えられるよう、資格取得を目指す姿勢を求める。出題事例解答や課題レポート作成では、各自のノートパソコンを活用しよう。

課題に対するフィードバック

学習課題については、内容に応じて補足説明を行う。小テスト等の場合、意見をまとめ提出の後、解説等を行う。これらの課題は授業後に回収し、次回授業で適宜詳細な解説をする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 著作権とは何か 著作権の性質	予習：著作権とは何か、日常生活にどうかかわるか、調べてくる 復習：授業内で学んだことをまとめてくる	A,B
第2回	著作権で保護されるもの 著作権の定義、例示	予習：著作物とは何か、調べてくる 復習：授業内で学んだことをまとめてくる	
第3回	著作権は誰が持つ 作者の定義、例外	予習：著作権は誰の権利か、調べてくる 復習：授業内で学んだことをまとめてくる	
第4回	著作権の内容（1） 人格権	予習：著作権における人格権と財産権の違いを調べてくる 復習：授業内で学んだことをまとめてくる	
第5回	著作権の内容（2） 財産権	予習：侵害されやすい権利は何か、調べてくる 復習：授業内で学んだことをまとめてくる	
第6回	著作権の内容（3） 二次的著作物に関する権利	予習：二次的著作物に関する権利とは何か、調べてくる 復習：授業内で学んだことをまとめてくる	
第7回	著作権はいつまで保護される 著作権の保護期間	予習：著作権はどのように保護されるのか、調べてくる 復習：授業内で学んだことをまとめてくる	
第8回	他人の著作物は勝手に使えない 著作権の譲渡、利用許諾	予習：著作物を利用する際気をつけることは何か、調べてくる 復習：授業内で学んだことをまとめてくる	
第9回	勝手に使える場合がある（1） 私的使用、教育関係	予習：「私的使用」「教育関係」とは何か、調べてくる 復習：授業内で学んだことをまとめてくる	
第10回	勝手に使える場合がある（2） 図書館関係、非営利、引用転載	予習：「図書館関係」「非営利」等とは何か、調べてくる 復習：授業内で学んだことをまとめてくる	
第11回	著作物を伝達する者を保護する制度 著作隣接権	予習：著作隣接権、著作隣接権者とは何か、調べてくる 復習：授業内で学んだことをまとめてくる	
第12回	勝手に使うとどうなるか 著作権の侵害	予習：著作権侵害とはどのような罪になるのか調べてくる 復習：授業内で学んだことをまとめてくる	
第13回	著作権に関する制度 知的財産権制度	予習：知的財産権制度、情報モラルとは何か、調べてくる 復習：授業内で学んだことをまとめてくる	
第14回	総復習 確認問題による全体復習	予習：13回分の授業をまとめ、わからないことを調べ直してくる 復習：全体復習で学んだことをまとめてくる	A,B
第15回	ビジネス著作権検定BASIC受験 または 期末レポート課題提出	期末レポートの内容を確認し提出する 検定希望者は受験日とする	
	実施せず		

ビジネス実務演習

更新日：2024/02/21 11:54:58

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B112000	授業コード	
担当教員	上野 真由美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5L223	授業形態	演習	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等			授業時間+自習時間	30+60			
			履修条件・留意点				
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	企業で受付兼務秘書として勤務。企業勤務の経験からマナーについて、秘書技能検定準1級面接官の経験から検定試験について話をする。					

授業概要

内容	接遇の基礎知識を踏まえ、面接における基本言動や対応を自己表現する。サービス接遇検定面接試験を想定した演習でビジネスコミュニケーションのスキルアップを図る。		
方法	ビジネスにおける態度、振る舞い、言葉遣い、物腰、身なりなどの適性を考えたコミュニケーションを学習する。グループワークを中心に授業を進め、ビジネスを想定したロールプレイングを行う。授業の中で、接遇に必要な所作は実践練習を行う。		

到達目標

1	サービス接遇の役割を認識し、接客対応の自己表現ができる。
2	サービスについて理解しビジネスにおける課題を発見し、解決に取り組むことができる。
3	ビジネスのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を高め、あいさつ・接客の応答ができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ロールプレイング発表	25
到達目標②	レポート・提出物	50
到達目標③	ワーク・授業への取り組みの姿勢・協働性	25
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	サービス接遇検定受験ガイド準1級	早稲田教育出版	実務技能検定協会

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	サービス接遇検定実問題集1-2級	早稲田教育出版	実務技能検定協会
2	サービス接遇検定実問題集3級	早稲田教育出版	実務技能検定協会

オープンな教育リソース

オフィスアワー

水曜日 9:00~12:10の休み時間 非常勤講師室

学生へのメッセージ

面接における感じのよさを考え、言葉遣いや振る舞い等の表現に関心を持つ。授業で学んだことを実践し立ち居振る舞いの向上に努める。サービス接遇検定などの資格試験に挑戦する。

課題に対するフィードバック

授業内の課題について、授業内で発表し、情報や意見の交換、コメントを行う。授業中に提出された課題は希望者に返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス（授業の進め方と評価方法の確認）	予習：シラバスをよく読む 復習：授業の進め方と評価方法を振り返る	

第2回	サービス接客演習問題と目標の設定 (3級問題)	予習：サービス接客検定について考える 復習：演習問題を振り返る	
第3回	サービス接客検定の概要 サービスと思うものは？ 3級演習問題	予習：サービスと思うものを考える 復習：サービスとは何かを観察する	
第4回	サービス接客理論領域 3級・2級問題 過去問題解説 3級演習問題	予習：サービス接客検定理論領域に取り組む 復習：演習問題を振り返る	
第5回	サービス接客実技領域 3級・3級問題 過去問題解説 3級演習問題	予習：サービス接客検定実技領域に取り組む 復習：演習問題を振り返る	
第6回	サービス接客検定のながれDVD「サービス接客検定準1級/1級」20分	予習：サービス接客検定のながれを考える 復習：サービス接客検定のながれを振り返る	
第7回	あいさつ・基本言動のロールプレイング	予習：あいさつ・基本言動の振る舞いを考える 復習：あいさつ・基本言動の振る舞いを振り返る	D
第8回	接客応答のロールプレイング	予習：接客応答の振る舞いを考える 復習：接客応答の振る舞いを振り返る	D
第9回	接客対応のロールプレイング	予習：接客対応の振る舞いを考える 復習：接客対応の振る舞いを振り返る	D
第10回	ロールプレイングのリハーサル	予習：リハーサルの準備をする 復習：リハーサルを振り返る	D
第11回	ロールプレイングの発表・撮影 (スーツ着用)	予習：ロールプレイング発表を考える 復習：ロールプレイング発表を振り返る	D
第12回	ロールプレイング 視聴とふりかえり	予習：ロールプレイング視聴の準備をする 復習：ロールプレイングを視聴し振り返る	
第13回	サービスとおもてなしDVD「世界一のサービス」45分	予習：サービスとおもてなしを考える 復習：サービスとおもてなしを振り返る	
第14回	心を込めたサービス DVD「一瞬に、心を込めて」45分	予習：心を込めたサービスを考える 復習：心を込めたサービスを振り返る	
第15回	学習のまとめ (レポート)	予習：授業を振り返りレポートの準備をする 復習：これまでの自分を振り返る	
	実施せず		

情報活用演習(表計算)

更新日：2024/01/31 17:54:17

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B113000	授業コード		
担当教員	永井 靖人							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	6L223	授業形態	演習	期待される学習成果	6			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	表計算ソフト（Excel）について、データの集計の習得度を測る検定の合格に向けて実習を行う。 ①Excelの基本的な操作技術を身につける ②Excelの機能を理解しレベルアップを目指す ③検定試験の合格に必要な技術を身につける 目標とする：情報処理技能検定試験(表計算)検定試験準2級以上
方法	テキストの例題を一緒に完成させ、その後各自で実習問題に取り組む。完成した実習問題は定期的に提出する。

到達目標

1	データ集計の知識、方法の基礎を獲得する
2	受検する検定試験の合格レベルに到達する
3	必要な情報を収集し、データを集計する技術を修得する

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	提出課題への取り組み、精度	25
到達目標②	検定試験または代わりとなる定期試験	50
到達目標③	提出課題への取り組み、精度	25
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない		

オープンな教育リソース

日本情報処理検定協会「学習支援コンテンツ」https://www.goukaku.ne.jp/news_support.html

オフィスアワー

月・水曜日12:20～12:50 2号館2階研究室2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

原則として全員、情報処理技能検定試験(表計算)（日本情報処理検定協会主催）の準2級以上の取得を目指してほしい。準1級、1級、初段にもチャレンジしてほしい。日本情報処理検定協会のHP、本学の学習支援HPを活用してほしい。

課題に対するフィードバック

提出された課題は、採点後次回授業で返却し、解説する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション、検定試験の説明	予習：Excelの基本操作を確認してくる	D

		復習：授業の内容をまとめておく	
第2回	Excelの基本操作：グラフ表示，VLOOKUP関数	予習：指定された動画を視聴する 復習：基本操作と関数について整理しておく	D
第3回	Excelの基本操作：ネストの組み方	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第4回	Excelの基本操作：2つ以上のネストの組み方	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第5回	3級練習問題の解答方法 3級模擬問題1,2	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第6回	3級模擬問題3,4,5	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第7回	3級模擬問題6,7,8	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第8回	準2級練習問題の解答方法 準2級模擬問題1,2	予習：指定された動画を視聴する 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第9回	準2級模擬問題3,4,5	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第10回	準2級模擬問題6,7,8	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第11回	準2級模擬問題9,10,11,12	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第12回	2級模擬問題13,14,15	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第13回	2級練習問題の解答方法 2級模擬問題1,2	予習：指定された動画を視聴する 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第14回	2級模擬問題3,4,5	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第15回	2級模擬問題6,7,8	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
	実施せず		

情報活用演習（データ整理・解析）

更新日：2024/01/31 17:52:46

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B113100	授業コード	
担当教員	永井 靖人						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	6L224	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	データベースソフト（Microsoft Access）について、データの整理、統合、解析の習得度を測る検定の合格に向けて実習を行う。 ①Accessの基本的な操作技術を身につける ②Accessの機能を理解しレベルアップを目指す ③検定試験の合格に必要な技術を身につける 目標とする：情報処理技能検定試験(データベース)検定試験3級以上
方法	Accessの基本的な操作方法を学習後、検定試験の範囲に沿って解説を行う。その後は、各自で模擬問題の練習を行い、毎回完成した問題は提出する。

到達目標

1	データの整理、統合の知識、方法の基礎を獲得する
2	受検する検定試験の合格レベルに到達する
3	必要な情報を収集し、データを整理・解析する技術を修得する

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	提出課題への取り組み	25
到達目標②	期末課題	50
到達目標③	各種課題の精度	25
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない		

オープンな教育リソース

日本情報処理検定協会「学習支援コンテンツ」https://www.goukaku.ne.jp/news_support.html

オフィスアワー

月・水曜日12:20～12:50 2号館2階研究室2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

原則として全員、情報処理技能検定試験(データベース)（日本情報処理検定協会主催）の3級以上の取得を目指してほしい。日本情報処理検定協会のHP、本学の学習支援HPを活用してほしい。

課題に対するフィードバック

提出された課題は、採点後次回授業で返却し、解説する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	オリエンテーション, 検定試験の説明	予習: Accesstの基本操作を確認してくる 復習: 授業の内容をまとめておく	D
第2回	Accessの基本操作: データのインポート、クエリ(データの統合)の作成	予習: 指定された動画を視聴する 復習: 基本操作とクエリについて整理しておく	D
第3回	Accessの基本操作: 処理条件の付加	予習: 受検する級の練習問題を解く 復習: 間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第4回	4級模擬問題1, 2	予習: 受検する級の練習問題を解く 復習: 間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第5回	4級模擬問題3, 4, 5	予習: 受検する級の練習問題を解く 復習: 間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第6回	4級模擬問題6, 7, 8	予習: 受検する級の練習問題を解く 復習: 間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第7回	3級練習問題の解答方法 3級模擬問題1, 2	予習: 受検する級の練習問題を解く 復習: 間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第8回	3級模擬問題3, 4, 5	予習: 指定された動画を視聴する 復習: 間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第9回	3級模擬問題6, 7, 8	予習: 受検する級の練習問題を解く 復習: 間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第10回	UserLocalテキストマイニングを使った言語データの分析 ①: 活用方法の説明	予習: 利用するアプリの関連情報を知る 復習: 分析結果の修正	D
第11回	UserLocalテキストマイニングを使った言語データの分析 ②: 商品レビュー分析 (基礎)	予習: 利用するアプリの関連情報を知る 復習: 分析結果の修正	D
第12回	UserLocalテキストマイニングを使った言語データの分析 ③: 商品レビュー分析 (応用)	予習: 利用するアプリの関連情報を知る 復習: 分析結果の修正	D
第13回	AI情報収集・分析アプリの活用①: 活用方法の説明	予習: 利用するアプリの関連情報を知る 復習: 分析結果の修正	D
第14回	AI情報収集・分析アプリの活用②: 商品レビュー分析 (基礎)	予習: 利用するアプリの関連情報を知る 復習: 分析結果の修正	D
第15回	AI情報収集・分析アプリの活用③: 商品レビュー分析 (応用)	予習: 利用するアプリの関連情報を知る 復習: 分析結果の修正	D
	実施せず		

情報活用演習（プレゼンテーション）

更新日：2024/01/31 17:53:43

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B113200	授業コード	
担当教員	永井 靖人						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	6L212	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	①PowerPointの基本的な操作技術を身につける ②PowerPointの機能を理解しレベルアップを目指す ③検定試験の合格に必要な技術を身につける 目標とする：プレゼンテーション作成検定試験2級以上						
方法	PowerPointの基本的な操作方法を学習後に、検定試験の範囲に沿って解説を行う。その後は、各自で模擬問題の練習を行い、毎回完成した問題は提出する。						

到達目標

1	PowerPointの基本的な操作技術を習得する
2	総合的なPowerPointの操作法を習得する
3	受験する検定試験の合格レベルに到達する

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	提出課題への取り組み, 精度	25
到達目標②	提出課題への取り組み, 精度	25
到達目標③	検定試験または代わりとなる課題	50
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	指定しない		

オープンな教育リソース

日本情報処理検定協会「学習支援コンテンツ」https://www.goukaku.ne.jp/news_support.html

オフィスアワー

月・水曜日12:20～12:50 2号館2階研究室2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

原則としてプレゼンテーション作成検定試験（日本情報処理検定協会主催）の2級以上の取得を目指す。日本情報処理検定協会のHP、本学の学習支援HPを活用してほしい。

課題に対するフィードバック

提出された課題は、採点後次回授業で返却し、解説する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション, 検定試験の説明	予習：PowerPointの基本操作を確認してくる	D

		復習：授業の内容をまとめておく	
第2回	PowerPointの基本操作：テンプレートの活用	予習：指定された動画を視聴する 復習：基本操作とテンプレートについて整理しておく	D
第3回	新規プレゼンテーションの作成：作成・編集・実行・印刷	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第4回	効果的なスライド作成：配色・クリップアート	予習：指定された動画を視聴する 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第5回	2級練習問題の解答方法（前半部） 問題前半部の解説	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第6回	2級練習問題の解答方法（後半部） 問題後半部の解説	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第7回	模擬問題の練習 模擬問題1・2	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第8回	模擬問題の練習 模擬問題3・4	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第9回	模擬問題の練習 模擬問題5・6	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第10回	模擬問題の練習 模擬問題7・8	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第11回	模擬問題の練習 模擬問題9・10	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第12回	1級練習問題の解答方法（前半部） 問題前半部の解説	予習：指定された動画を視聴する 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第13回	1級練習問題の解答方法（後半部） 問題後半部の解説	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第14回	模擬問題の練習 模擬問題1・2	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
第15回	模擬問題の練習 模擬問題3・4	予習：受検する級の練習問題を解く 復習：間違えた操作を正しく実行できるように練習する	D
	実施せず		

Webデザイン演習

更新日：2024/02/21 10:47:50

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B113400	授業コード	
担当教員	森屋 裕治						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	6L223	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	インターネットの普及が進むにつれ、さまざまなジャンルのホームページが公開されるようになってきている。企業はもちろん個人のホームページを作って公開する人も増えてきた。この演習では、ホームページ作成ソフトとして広く使われている「ホームページ・ビルダー」を使って、基礎的な作り方から始め、表やスタイルシートなど、いろいろな機能を学習する。また授業終盤に実施する「ホームページ作成検定」の受験に備える。		
方法	授業までに授業内容に関する予習をしてくる。授業では問題集等により基礎を学び、模擬問題を利用して反復演習を行い、実践力を身に付ける。授業後は、授業で学んだことを復習し、実践演習を行う。定期試験として「ホームページ作成検定2級」(2,800円程度)を受験し、学習の成果を確認する。		

到達目標

1	ホームページ作成ソフトを使いこなすことができ、情報発信したいWebページを作成することができるようになる。
2	検定等に代表される、指示された課題について、内容を理解し制作することができるようになる。
3	自らが構築した思考に基づき、情報分野において創造力豊かに、自己表現ができるようになる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	受講姿勢	30
到達目標②	確認テスト	40
到達目標③	学習課題・課題制作	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	特に指定しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	ホームページ作成検定問題集 ※大学備付けのものを使用する。	日本情報処理検定協会	

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業終了後に、教室または非常勤講師室で質問等を受け付ける。

メールアドレス：pteacher-tandai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

授業での様々な活動に対して、積極な姿勢、参加を期待している。必要な問題集や教材は、毎回自身で準備し、授業に臨むこと。受講後や卒業後、Webページ制作に関わる際にこの授業の経験を活かし能力を証明できるよう、資格取得を目指す姿勢を求める。

課題に対するフィードバック

毎回の授業で行う演習によって完成した課題ファイルを提出してもらおう。提出されたファイルに対し注意点やポイントなどを次回授業で適宜解説する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	オリエンテーション ホームページのしくみ、構成	予習：Webページの構成について、調べてくる 復習：授業内で学んだことを実践する	
第2回	Webページ作成の基本（1） ホームページ・ビルダーの特長、基本操作	予習：Webページ制作ソフトについて、調べてくる 復習：授業内で学んだことを実践する	
第3回	Webページ作成の基本（2） ページ作成の基礎	予習：基本操作をよく確認しておく 復習：授業内で学んだことを実践する	
第4回	Webページ作成の基本（3） 文字や画像の入力と配置	予習：ページ作成の方法をよく確認しておく 復習：授業内で学んだことを実践する	
第5回	Webページ作成実践（1） リスト、リンクの設定	予習：ページ内の編集方法をよく確認しておく 復習：授業内で学んだことを実践する	
第6回	Webページ作成実践（2） 表の作成と編集	予習：各種設定方法をよく確認しておく 復習：授業内で学んだことを実践する	
第7回	Webページ作成実践（3） スタイルシートのリンク	予習：スタイルシートについてよく確認しておく 復習：授業内で学んだことを実践する	
第8回	デザインを意識したWebページ作成（1） リンクの設定	予習：リンクの設定方法をよく確認しておく 復習：授業内で学んだことを実践する	
第9回	デザインを意識したWebページ作成（2） スタイルシートの作成	予習：スタイルシートの設定方法をよく確認しておく 復習：授業内で学んだことを実践する	
第10回	検定受験対策（1）問題集 模擬問題	予習：問題集の問題内容をよく確認しておく 復習：授業内で学んだことを実践する	
第11回	検定受験対策（2）過去問題	予習：過去問題の内容をよく確認しておく 復習：授業内で学んだことを実践する	
第12回	検定受験対策（3）模擬試験	予習：問題集の問題や過去問題をよく確認しておく 復習：授業内で学んだことを実践する	
第13回	ホームページ作成検定 受験	予習：問題集の問題や過去問題をよく確認しておく 復習：検定問題で出題された内容を再度実践する	
第14回	Webページ自由課題（1）	予習：Webページのデザインについてよく確認しておく 復習：授業内で学んだことを実践する	
第15回	Webページ自由課題（2）	予習：Webページのや構成についてよく確認しておく 復習：授業内で学んだことを実践する	
	実施せず		

簿記会計Ⅰ

更新日：2024/02/21 12:49:59

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B113600	授業コード	
担当教員	林 秀樹						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	5L212	授業形態	演習	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	簿記会計は、企業における日々の経営活動を記録・計算・整理して経営成績と財政状態を示すために用いられる。この講義では、簿記会計の学修を通じて、ビジネスに必要な企業会計についての知識や、計数管理能力を身につけることを目的としている。「簿記会計Ⅱ」を履修し 日商簿記検定3級に合格できる知識を身につける。
方法	演習およびグループワーク

到達目標

1	①簿記の仕組みが理解できる
2	②仕訳ができる
3	③主要簿・補助簿が作成できる
4	④仕訳から転記、帳簿作成までの一連の作業を理解する

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト・課題	10
到達目標②	小テスト・課題	10
到達目標③	小テスト・課題	10
到達目標④	定期試験	70
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	日商簿記ゼミ 3級 教本 改訂版	実協出版	蛭川幹夫

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	日商簿記ゼミ 3級 問題演習 改訂版	実協出版	蛭川幹夫

オープンな教育リソース

オフィスアワー

毎回の授業終了後 非常勤講師室

学生へのメッセージ

授業内で出来なかった問題を解き、小テストに向けて必ず復習しておくこと。

講義には次のものが必要である。 ①電卓（スマートフォンのアプリは不可） ②ボールペン（赤） ③定規

課題に対するフィードバック

提出された課題や小テストは、回収、採点后、次回授業で返却し、解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	オリエンテーション、簿記を学ぶにあたって	予習：教科書 P.6～94を読んでくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	A

第2回	貸借対照表	予習：教科書 P.17～23を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第3回	損益計算書	予習：教科書 P.24～27を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第4回	簿記のしくみ、仕訳	予習：教科書 P.28～37を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	A
第5回	帳簿と転記	予習：教科書 P.38～42を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第6回	仕訳帳、総勘定元帳、試算表	予習：教科書 P.43～47を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第7回	現金、現金出納帳、現金過不足	予習：教科書 P.48～54を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第8回	当座預金、当座借越、当座預金出納帳	予習：教科書 P.55～59を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第9回	小口現金、小口現金出納帳、三分法	予習：教科書 P.60～67を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第10回	仕入帳、売上帳、商品有高帳(先入先出法)	予習：教科書 P.68～72を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第11回	商品有高帳(移動平均法)、掛け取引	予習：教科書 P.73～76を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第12回	売掛金元帳、買掛金元帳	予習：教科書 P.77～80を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第13回	クレジット売掛金、手形取引	予習：教科書 P.81～85を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第14回	手形記入帳、電子記録取引	予習：教科書 P.86～91を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第15回	有形固定資産取引	予習：教科書 P.92～94を読んてくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
	定期試験		

簿記会計Ⅱ

更新日：2024/02/21 12:52:08

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B113700	授業コード		
担当教員	林 秀樹							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	5L223	授業形態	演習	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+15					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	簿記会計は、企業における日々の経営活動を記録・計算・整理して経営成績と財政状態を示すために用いられる。この講義では、簿記会計の学修を通じて、ビジネスに必要な企業会計についての知識や、計数管理能力を身につけることを目的としている。「簿記会計Ⅰ」の知識をもとに日商簿記検定3級に合格できる知識を身につける。
方法	演習およびグループワーク

到達目標

1	①より高度な仕訳ができる
2	②決算整理ができる
3	③財務諸表が作成できる
4	④日商簿記検定3級に対応できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	小テスト・課題	10
到達目標②	小テスト・課題	10
到達目標③	小テスト・課題	10
到達目標④	定期試験	70
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	日商簿記ゼミ 3級 教本 改訂版	実協出版	蛭川幹夫

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	日商簿記ゼミ 3級 問題演習 改訂版	実協出版	蛭川幹夫

オープンな教育リソース

オフィスアワー

毎回の授業終了後 非常勤講師室

学生へのメッセージ

授業内で出来なかった問題を解き、小テストに向けて必ず復習しておくこと。

講義には次のものが必要である。 ①電卓（スマートフォンのアプリは不可） ②ボールペン（赤） ③定規

課題に対するフィードバック

提出された課題や小テストは、回収、採点后、次回授業で返却し、解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	その他の債権、債務取引(1)	予習：教科書 P.95～107を読んでくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	

第2回	その他の債権、債務取引(2)	予習：教科書 P.95～107を読んでくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第3回	その他の債権、債務取引(3)	予習：教科書 P.95～107を読んでくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第4回	税金の処理	予習：教科書 P.108～111を読んでくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	A
第5回	消費税、訂正仕訳	予習：教科書 P.112～115を読んでくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第6回	株式会社の会計	予習：教科書 P.116～120を読んでくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	A
第7回	決算整理仕訳(1)	予習：教科書 P.121～131を読んでくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第8回	決算整理仕訳(2)	予習：教科書 P.132～141を読んでくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第9回	収益、費用の見越し繰り延べ	予習：教科書 P.142～149を読んでくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第10回	その他の決算整理事項	予習：教科書 P.150～155を読んでくる 復習：本時の内容を配布された別プリントで復習する	
第11回	精算表	予習：教科書 P.156～160を読んでくる 復習：授業内で出来なかった問題を解き完成させる	
第12回	財務諸表(1)	予習：教科書 P.161～181を読んでくる 復習：授業内で出来なかった問題を解き完成させる	
第13回	財務諸表(2)	予習：教科書 P.161～181を読んでくる 復習：授業内で出来なかった問題を解き完成させる	
第14回	伝票	予習：教科書 P.182～191を読んでくる 復習：授業内で出来なかった問題を解き完成させる	
第15回	定期考査対策	予習：過去問題から傾向を予測する 復習：授業内で出来なかった問題を解き完成させる	
	定期試験		

秘書実務Ⅰ 〈オフィス〉

更新日：2024/02/21 11:40:40

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B114000	授業コード	
担当教員	上野 真由美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	5L212	授業形態	演習	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	企業で受付兼務秘書として勤務。企業勤務の経験からマナーについて、秘書技能検定準1級面接官の経験から検定試験について話をする。					

授業概要

内容	対面コミュニケーションおよび対人業務を中心に、働く心構えやマナーなど社会で必要となる基本的な考え方や実践的技能を習得する。
方法	授業の中で、接遇に必要な所作はグループワークを中心にロールプレイングを行う。授業で学んだことを実践し、次回の授業までに自分が立てた行動目標に取り組み達成度を測る。秘書検定やサービス接遇検定などの問題からロールプレイングを行う。

到達目標

1	接遇や状況対応の場面において、自己表現ができる。
2	マナーについて理解し知識を持ち、主体的に生活における課題を発見し、解決に取り組むことができる。
3	マナーを通して人とかかわる体験の中で、上司や同僚、お客様などの対外的な相手とのコミュニケーションについて、自分自身が素材となり気づきを思考することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ロールプレイング発表	25
到達目標②	レポート・提出物	50
到達目標③	ワーク・授業への取り組みの姿勢・協働性（ロールプレイング）	25
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	マナー&プロトコルの基礎知識	NPO法人日本マナー・プロトコル協会	NPO法人日本マナー・プロトコル協会

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	マナー・プロトコル検定 2級・3級問題集	日本マナー・プロトコル協会発行	日本マナー・プロトコル協会

オープンな教育リソース

オフィスアワー

水曜日 9:00~12:10の休み時間 非常勤講師室

学生へのメッセージ

生活の様々なマナーの機会をとらえ、立ち居振る舞いの向上に努める。秘書検定やサービス接遇検定などの資格試験に挑戦する。

課題に対するフィードバック

授業内の課題について、授業内で発表し、情報や意見の交換、コメントを行う。授業中に提出された課題は希望者に返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス（授業の進め方と評価方法の確認）	予習：シラバスをよく読む 復習：授業の進め方と評価方法を振り返る	

第2回	社会人に必要なマナー 立ち方・歩き方・座り方・あいさつ・お辞儀のしかた（スーツ着用）	予習：社会人に必要なマナーを考える 復習：社会人に必要なマナーを振り返る	D
第3回	身だしなみDVD「立ち居振る舞い・身だしなみ」16分 デイズニールック	予習：身だしなみを考える 復習：身だしなみを振り返る	
第4回	職場のコミュニケーション	予習：職場のコミュニケーションを考える 復習：職場のコミュニケーションを振り返る	D
第5回	話し方・言葉遣い・手紙のマナーDVD「あいさつ・言葉遣い」16分	予習：話し方・言葉遣い・手紙のマナーを考える 復習：話し方・言葉遣い・手紙のマナーを振り返る	
第6回	電話対応のマナーDVD「電話・携帯電話」18分	予習：電話対応のマナーを考える 復習：電話対応のマナーを振り返る	D
第7回	来客対応のマナー 名刺の受け取り方 「来客対応と他社訪問」17分	予習：来客対応のマナーを考える 復習：来客対応のマナーを振り返る	D
第8回	慶弔のマナー 筆ペン	予習：慶弔のマナーを考える 復習：慶弔のマナーを振り返る	
第9回	食事のマナーDVD「冠婚葬祭・贈答・接待（会食とパーティー）」18分	予習：食事のマナーを考える 復習：食事のマナーを振り返る	
第10回	マナーシナリオの作成「私が身につけたマナー」について ロールプレイング発表DVD「国際人としてのビジネスマナー」15分	予習：シナリオを考える 復習：シナリオを振り返る	D
第11回	ロールプレイングのリハーサル	予習：リハーサルの準備をする 復習：リハーサルを振り返る	D
第12回	ロールプレイングの発表・撮影	予習：発表の準備をする 復習：ロールプレイング発表を振り返る	D
第13回	マナーシナリオの完成・提出	予習：提出の準備をする 復習：シナリオを振り返る	D
第14回	ロールプレイング 視聴とふりかえり	予習：視聴の準備をする 復習：ロールプレイングを振り返る	D
第15回	学習のまとめ（レポート）	予習：授業を振り返りレポートの準備をする 復習：これまでの授業を振り返る	
	実施せず		

秘書実務Ⅱ 〈オフィス〉

更新日：2024/02/21 11:56:10

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B114100	授業コード	
担当教員	上野 真由美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	5L212	授業形態	演習	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	企業で受付兼務秘書として勤務。企業勤務の経験からマナーについて、秘書技能検定準1級面接官の経験から検定試験について話をします。					

授業概要

内容	秘書に求められる資質、言動、技能は、秘書だけでなくすべての社会人が身につけておくべき素養、つまり社会人基礎力といえる。秘書の仕事について学ぶことを通して自らの社会人基礎力を磨く。
方法	授業の中で、接遇に必要な所作はグループワークを中心にロールプレイングを行う。授業で学んだことを実践し、次回の授業までに自分が立てた行動目標に取り組み達成度を測る。秘書検定やサービス接遇検定などの問題からロールプレイングを行う。生活の様々なマナーの機会をとらえ、立ち居振る舞いの向上に努める。

到達目標

1	社会に出て働く人に求められる態度・振る舞いの自己表現ができる。
2	秘書的センスをもって、秘書業務の課題の解決に取り組むことができる。
3	対外的な人とのコミュニケーションについて、基本的な応対を身につける。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ロールプレイング発表	25
到達目標②	レポート・提出物	50
到達目標③	ワーク・授業への取り組みの姿勢・協働性（ロールプレイング）	25
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	マナー&プロトコルの基礎知識(秘書実務Ⅰから続けて使用する)	NPO法人日本マナー・プロトコル協会	NPO法人日本マナー・プロトコル協会

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	マナー・プロトコル検定 2級・3級問題集(秘書実務Ⅰから続けて使用する)	日本マナー・プロトコル協会発行	日本マナー・プロトコル協会

オープンな教育リソース

オフィスアワー

水曜日 9:00～12:10の休み時間 非常勤講師室

学生へのメッセージ

アルバイト先などの働いている人によく注意を向けて観察する。さらに社会人になった自分の姿をイメージする。授業で学んだことを実践し立ち居振る舞いの向上に努め、秘書検定やサービス接遇検定などの資格試験に挑戦する。

課題に対するフィードバック

授業内の課題について、授業内で発表し、情報や意見の交換、コメントを行う。授業中に提出された課題は希望者に返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	ガイダンス（授業の進め方と評価方法の確認）	予習：シラバスをよく読む 復習：授業の進め方と評価方法を振り返る	
第2回	接遇用語の表現（尊敬語・謙譲語）豊かな表情 フェイストレーニング DVD就職活動の基本1 22分	予習：接遇用語を考える 復習：接遇用語を振り返る	D
第3回	来客応対実践 DVD就職活動の基本2 25分	予習：来客応対実践を考える 復習：来客応対実践を振り返る	D
第4回	留守番電話の応対 DVD就職活動の基本3 26分	予習：留守番電話の応対を考える 復習：留守番電話の応対を振り返る	D
第5回	電話応対 言い回し グループワーク DVD就職活動の基本4 20分	予習：電話応対の言い回しを考える 復習：電話応対の言い回しを振り返る	D
第6回	電話応対実践 ペアワーク	予習：電話応対実践を考える 復習：電話応対実践を振り返る	D
第7回	模擬面接原稿作成 DVD就職活動の基本5 24分	予習：表情と敬語を考える 復習：表情と敬語を振り返る	D
第8回	美しい立ち居振る舞い ペアワーク 入室・挨拶・着席・名乗り・退室 DVD「ビジネスマナーの学び方・教え方」20分	予習：美しい立ち居振る舞いを考える 復習：美しい立ち居振る舞いを振り返る	D
第9回	私はどんな印象 グループワーク 自己評価	予習：印象を考える 復習：印象を振り返る	D
第10回	ロールプレイングリハーサル グループワーク	予習：リハーサルの準備をする 復習：リハーサルを振り返る	D
第11回	ロールプレイング発表・撮影（スーツ着用） グループワーク	予習：ロールプレイング発表の準備をする 復習：ロールプレイング発表を振り返る	D
第12回	ロールプレイングふりかえり 他者評価	予習：ロールプレイング視聴の準備をする 復習：ロールプレイングを視聴し振り返る	D
第13回	コミュニケーションの基本 DVD「ビジネス電話応対」22分	予習：第一印象とあいさつを考える 復習：第一印象とあいさつを振り返る	D
第14回	コミュニケーションのツール DVD「ビジネスツールの使い分けと使い方」24分 DVD「マナーが生まれる心遣い」20分	予習：自己表現を考える 復習：自己表現を振り返る	D
第15回	学習のまとめ（マナー演習問題）	予習：まとめの準備をする 復習：これまでの授業を振り返る	
	実施せず		

秘書総論

更新日：2024/02/21 11:58:30

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B114200	授業コード		
担当教員	上野 真由美							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	5L211	授業形態	講義	期待される学習成果	5			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	。	企業で受付兼務秘書として勤務。企業勤務の経験からマナーについて、秘書技能検定準1級面接官の経験から検定試験について話をする。						

授業概要

内容	秘書に関する基礎・専門知識について学習する。どのようなオフィスで働こうと、必ず問われる技能や資質、挨拶、接遇などのマナー、文書の作成や管理、仕事のスケジュール管理、またまじめに働く、気配りが利く、判断力がすぐれている等これらの基本技能や資質、職場で活躍できる能力を学習する。秘書検定の資格取得を目指す。		
方法	秘書または事務・営業・サービス・販売など、自分の仕事を持ちながら上司の補佐をする業務を行うために必要な知識・技能を身につける。授業の中で、秘書に必要な所作は実践練習を行う。授業内で演習問題を行い、取り組み状況をチェックシートに記入してふりかえる。秘書検定の問題から、オフィスワークの具体的な状況を知る。		

到達目標

1	秘書的業務について理解し、秘書としての知識を持つとともに秘書技能が実践できる。
2	秘書業務を遂行する上で専門的知識を理解し、秘書として技能に活用し問題解決ができる。
3	上司とのペアワークを中心とした秘書のコミュニケーションについて理解する。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	演習問題	25
到達目標②	チェックシート・提出物・レポート	50
到達目標③	授業への取り組みの姿勢・協働（ロールプレイング）	25
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	新秘書特講	早稲田教育出版	実務技能検定協会編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	秘書検定 実問題集 3級 2023年度版	早稲田教育出版	実務技能検定協会編
2	秘書検定 実問題集 2級 2023年度版	早稲田教育出版	実務技能検定協会編

オープンな教育リソース

オフィスアワー

水曜日 9:00～12:10の休み時間 非常勤講師室

学生へのメッセージ

日々の生活の中で身近な職業人に話を聞くことや調べることを通して、秘書のイメージと実際とを比べてみる。秘書検定などの資格試験に挑戦する。秘書検定合格を目指すため、毎回の課題として秘書検定実問題集や新秘書特講の問題、演習問題に取り組みチェックシートに記入する。

課題に対するフィードバック

授業内の課題について、チェックシートに基づいて指導を行う。授業中に提出された課題は希望者に返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	ガイダンス（授業の進め方と評価方法の確認）	予習：シラバスをよく読む 復習：授業の進め方と評価方法を振り返る	
第2回	演習問題と目標設定 秘書検定3級	予習：演習問題に取り組む準備をする 復習：答え合わせをして今後の目標を定める	
第3回	秘書と組織 チェックシート DVD「ビジネススキル秘書」25分	予習：目標級の問題集を準備する 復習：チェックシートに結果を記入し今後の計画を立てる	
第4回	秘書に必要とされる資質	予習：秘書に必要とされる資質を考える 復習：必要とされる資質の問題に取り組み、チェックシートに結果を記入する	
第5回	秘書の職務知識	予習：秘書の職務知識を考える 復習：職務知識の問題に取り組み、チェックシートに結果を記入する	
第6回	秘書の一般知識 理論領域の仕上げ・演習問題	予習：秘書の一般知識を考える 復習：一般知識・理論領域の問題に取り組み、チェックシートに結果を記入する	
第7回	秘書のマナー	予習：秘書のマナーを考える 復習：マナー・接遇の問題に取り組み、チェックシートに結果を記入する	
第8回	秘書の接遇	予習：秘書の接遇を考える 復習：マナー・接遇の問題に取り組み、チェックシートに結果を記入する	
第9回	秘書の技能	予習：秘書の技能を考える 復習：技能の問題に取り組みチェックシートに記入し振り返る	
第10回	実技領域の仕上げ・総合演習問題	予習：実技領域・総合演習問題に取り組む準備をする 復習：実技領域・総合演習問題の問題に取り組み、チェックシートに結果を記入する	
第11回	秘書業務の基本 DVD「秘書業務入門第1巻」25分・演習問題	予習：秘書業務の基本についてレポートの準備をする 復習：秘書業務の基本を振り返る	
第12回	秘書の話し方・電話対応 DVD「秘書業務入門第2巻」21分・演習問題	予習：秘書の話し方・電話対応についてレポートの準備をする 復習：秘書の話し方・電話対応を振り返る	
第13回	来客対応・慶弔の知識 DVD「秘書業務入門第2巻」DVD21分・演習問題	予習：来客対応・慶弔の知識についてレポートの準備をする 復習：来客対応・慶弔の知識を振り返る	
第14回	演習問題とチェックシート提出	予習：演習問題とチェックシート提出の準備をする 復習：演習問題を振り返る	
第15回	学習のまとめ（レポート）	予習：レポートの準備をする 復習：これまでの授業を振り返る	
	実施せず		

マーケティング基礎論

更新日：2024/02/21 01:26:36

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B114300	授業コード		
担当教員	岡本 純							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	7L223	授業形態	講義	期待される学習成果	7			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	私たちが生きていくためには製品・サービスを消費する必要がある。その製品・サービスを創造する活動がマーケティングである。社会は常に変化しており、企業はそのような状況の中で変化に対応することが求められる。講義では、企業がおこなうマーケティング活動の基本的な知識を理解するために、マーケティング政策を中心に講義を進めていく。動的に変化する環境の中で企業が展開するマーケティングについて理解する。さらに、マーケティングの基礎的知識を身につけ、現実におこなわれる企業のマーケティングについて実践的な考えを説明できることを目的とする。						
方法	テキストを中心に講義形式で進める。講義はスライドの映像を共有し、画像、映像などの事例を用いながら進める。Teams等を用いて資料の配布、課題の提出などを求めることもある。						

到達目標

1	マーケティングに係る基礎的な学習を通して、自身をとりまく企業活動について理解することができる。
2	マーケティングに係る諸課題に関して、積極的に考究する姿勢を身につけることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業毎のリアクションペーパー（小テスト含む）	50
到達目標②	レポート課題	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	マーケティング論	五紘舎	岡本純・脇田弘久

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	マーケティング・オン・ビジネス	新世社	有馬賢治・岡本純編著
2	現代のマーケティング論	ナカニシヤ出版	加藤 勇夫 / 宝多 国弘 / 尾碕 真

オープンな教育リソース

オフィスアワー

pteacher-tandai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

授業中は、積極的に質問するので、「考える」こと、「発言する」ことを恐れず、積極的な授業への参加を期待する。

予習・復習・授業中に分からなかったところは、積極的にメールやチャットなどで相談すること。

パソコン、TeamsなどのICT（情報通信技術）を積極的に活用して授業にのぞむこと。

課題に対するフィードバック

①授業毎のリアクションペーパーについては理解が深まるようにコメントうなどを入れたり重要な個所を再確認するなどしてフィードバックする。

②授業内の課題について、授業内で発表し、情報や意見の交換などをおこなう。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	オリエンテーション マーケティングの基本的役割	予習：テキスト第1章（P1～P5）を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第2回	マーケティングの変遷と概念	予習：テキスト第1章（P5～P9）を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第3回	マーケティング戦略	予習：テキスト第2章（P15～P27）を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第4回	マーケティング・リサーチ	予習：テキスト第3章（P31～P42）を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A,C
第5回	消費者の意思決定と消費者行動	予習：テキスト第4章（P45～P59）を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A,B
第6回	製品政策(1) 製品の分類と製品計画	予習：テキスト第5章（P61～P77）を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第7回	製品政策(2) 新製品開発	予習：テキスト第5章（P77～P84）を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A,B
第8回	価格政策(1) 価格設定	予習：配布資料(1)を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第9回	価格政策(2) 価格管理	予習：配布資料(2)を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第10回	マーケティング・チャネル政策(1) 流通の基本的役割	予習：テキスト第6章（P87～P93）を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第11回	マーケティング・チャネル政策(2) 設計と管理	予習：テキスト第6章（P93～P105）を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第12回	プロモーション政策(1) コミュニケーションと構成要素	予習：テキスト第7章（P111～P123）を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第13回	プロモーション政策(2) プロモーション・ミックス	予習：テキスト第7章（P123～P127）を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第14回	サービス・マーケティング	予習：テキスト第9章（P151～P166）を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第15回	現代のマーケティング グループ討議、レポート	予習：テキスト第10章（P169～P183）を読み込み、わからない語句等を調べる 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A,B,C
	実施せず		

文書デザイン

更新日：2024/01/30 20:05:28

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B114400	授業コード	
担当教員	山本 恭子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1L211	授業形態	演習	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	Wordを使用し、ビジネス文書やチラシ・リーフレットなどの作成に必要な知識や操作方法を学ぶ。文書の役割を理解し、実務の場面を想定しながら文書作成や作品制作を行うことで、表現力や訴求力の高い文書デザイン能力を身につける。さらにキーボード入力が高く正確にできるよう、毎回タイピング練習を行う。 目標とする検定試験：日本情報処理検定協会主催 文書デザイン検定試験2級以上、日本語ワープロ検定試験2級以上						
方法	授業プリントに基づきパソコンを活用した実習を中心に授業を展開する。課題はActive Portalの「レポート機能」を使ってWord形式で提出する。						

到達目標

1	①Wordの基本操作ができる。
2	②文書の決まりや形式を理解し、自ら考え目的に応じた文書作成ができる。
3	③図形（画像・グラフも含む）を効果的に利用した訴求力のある文書作成ができる。
4	④主体的に授業に取り組み、課題を期限内に提出することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題の提出	30
到達目標②	実技試験	30
到達目標③	作品制作	30
到達目標④	授業態度	10
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし。必要に応じてプリント等を配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	「文書デザイン検定試験 模擬問題集」（受験を希望する級のもの）		日本情報処理検定協会
2	「日本語ワープロ検定試験 模擬問題集」（受験を希望する級のもの）		日本情報処理検定協会

オープンな教育リソース

オフィスアワー

前期：月曜2限 1号館3階 非常勤講師室
連絡先：pteacher-tandai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

自宅など身近にある文書の構成や言葉遣いを意識的に見るように心掛け、文書作成や作品制作の参考にしてほしい。
日本情報処理検定協会主催 文書デザイン検定試験・日本語ワープロ検定試験の2級以上の取得を目指してほしい。
Word操作やタイピングのレベルアップを目指し、大学貸与のパソコンを大いに活用してほしい。

課題に対するフィードバック

提出された課題は、回収、採点后、次回授業で返却し、解説する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法） 検定の説明（出題範囲の確認） タイピング練習の方法	予習：これまでに学んだWordの基本操作を確認する 復習：ローマ字入力のキーボードの配列を覚える	
第2回	Wordの活用① 漢字・記号・特殊文字の入力、文字書式、ページ設定	予習：漢字や記号の入力方法を確認する 復習：授業で取り上げた機能を復習する	
第3回	Wordの活用② 表の挿入、セルの操作、均等割り付け、図形の描画、テキストボックス、ワードアート、図形のグループ化	予習：Wordの表作成やグラフィック機能を確認する 復習：授業で取り上げた機能を復習する	
第4回	Wordの活用③ 画像のダウンロード、画像の挿入、グラフ	予習：Wordのグラフ機能を確認する 復習：授業で取り上げた機能を復習する	
第5回	ビジネス文書の基礎知識 ・ビジネス文書の役割・種類 ・表記技能（用字用語の使い方） ・表現技能（正確な文章、わかりやすい文章、礼儀正しい文章）	予習：過去に学校や地域から配布された文書の内容を振り返る 復習：自宅など身近にある文書の構成や言葉遣いに注目してみる	
第6回	ビジネス文書の作成① 日本語ワープロ検定試験過去問題の練習 （前付け～本文までを効率的に入力する）	予習：制限時間内に完成できるように練習する 復習：補充問題を作成する	
第7回	ビジネス文書の作成② 日本語ワープロ検定試験過去問題の練習 （記書き～表・地図を効率的に入力する）	予習：制限時間内に完成できるように練習する 復習：補充問題を作成する	
第8回	実技試験(1) 社内文書・社外文書の作成 文書作成のまとめ（解説、振り返り）	予習：出題範囲のWord機能を効率よく使えるように練習する 復習：不得手な操作を復習する	
第9回	文書デザインの基礎知識 ・見栄えのよいデザイン ・著作権（写真や画像を使用する際の留意点）	予習：見栄えのよいデザインにするために必要な要素を考える、著作権とはどのような権利なのか調べる 復習：補充問題を作成する	
第10回	文書デザイン① 文書デザイン検定試験過去問題の練習 （文字を効率的に入力・配置する）	予習：制限時間内に完成できるように練習する 復習：補充問題を作成する	
第11回	文書デザイン② 文書デザイン検定試験過去問題の練習 （図形・画像を効率よく挿入・編集・配置する）	予習：制限時間内に完成できるように練習する 復習：補充問題を作成する	
第12回	実技試験(2) チラシの作成 文書デザインのまとめ（解説、振り返り）	予習：出題範囲のWord機能を効率よく使えるように練習する 復習：不得手な操作を復習する	
第13回	作品制作① チラシ・リーフレットの作成 テーマの選定、情報収集、素材の選定	予習：作品制作に備え、構想を練り、情報収集する 復習：表現力や訴求力を高めるために何が必要か考える	
第14回	作品制作② チラシ・リーフレットの作成	予習：伝えたいポイントが明確になるようなレイアウトを	

	レイアウト決め、素材の配置	考える 復習：表現力や訴求力を高めるために何が必要か考える	
第15回	作品制作③ チラシ・リーフレットの作成 作品の仕上げと提出、まとめ	予習：作品提出に備え、作品の手直しをする 復習：本授業で身につけた知識やスキルを振り返り、今後どのような場面で活用できるか考える	
	実施せず		

仕事と人生

更新日：2024/01/31 10:59:12

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B114620	授業コード	
担当教員	矢野 由紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2.0	
科目ナンバー	2L211	授業形態	演習	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	オフィス総合コース必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	この授業は就業体験と事前学習・事後学習で構成する。体験先で求められる態度、コミュニケーションスキルや社会人基礎力、ビジネスマナーを身に付け、しっかりとした具体的な目標を持って体験に臨めるように準備する。就業体験後は、報告会を通じて、他の学生の学びを共有する。		
方法	コミュニケーション・スキル、履歴書の作成、ビジネスマナー、就業体験での目標設定を授業内で行う。就職支援イベント「企業を知ろう」と報告会の参加を課す。		

到達目標

1	社会に適応するための基礎知識を身につけ、レポートにまとめることができる
2	自己理解を深め、履歴書を作成することができる
3	就業体験の目標を設定し、積極的に取り組むことができる
4	就業体験から気づきを獲得し、日誌にまとめ、発表することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業態度・振り返りレポート	30
到達目標②	履歴書・振り返りレポート	10
到達目標③	就業体験日誌・評価表	40
到達目標④	就業体験日誌、振り返りレポート、プレゼンテーション	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	新編 ワークで学ぶ インターンシップ・リテラシー	西文社	長谷川文代

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月・火曜日 9:00~10:30 2号館2階 研究室2-3 メールアドレス yano@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

就業体験を通じて、働くことの厳しさとこれまで学んできたことを生かす楽しさを実感しましょう。また、自分の意外な適正に気付くこともあります。自分の方向性を決めつけずに素直な気持ちで、積極的に取り組みましょう。

受講者全員の就業体験終了後、プレゼンテーションにより報告会を行います。日程は決まり次第連絡します（後期の予定）。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートや体験日誌、プレゼンテーションについては、事前に提供されるループリックにより評価しフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	ガイダンス	予習：短大卒業後どうなっていたいか、将来像、希望職種	A, B, C

	履修、概要説明、諸手続き、体験先、決定方法などについて	などをノートに書き出してくる 復習：本授業の概要を整理する	
第2回	第1章 就業体験とは	予習：教科書P6～P9を読み、ポイントをノートにまとめる 復習：理解度チェックで復習する	A, B, C
第3回	第2章 心を伝えるコミュニケーション・スキル	予習：教科書P10～P17を読み、ポイントをノートにまとめる 復習：理解度チェックで復習する	A, B, C
第4回	第3章 業種や職種を調べよう	予習：教科書P18～P23を読み、ポイントをノートにまとめる 復習：理解度チェックで復習する	A, B, C
第5回	就職支援イベント「企業を知ろう」(5/11)に参加する	予習：話を聞きたい企業について調べ、ノートにまとめる 復習：話を聞いた企業の特徴をまとめて整理する	D
第6回	第4・5章 先輩の体験からの学習 体験談・事例研究から学ぶ	予習：教科書P24～P34を読み、ポイントをノートにまとめる 復習：理解度チェックで復習する	A, B, C
第7回	第6章 就業体験のための履歴書	予習：教科書P35～P40を読み、ポイントをノートにまとめる 復習：理解度チェックで復習する	A, B, C
第8回	第7章 社会人としての自覚とコミュニケーション	予習：教科書P41～P49を読み、ポイントをノートにまとめる 復習：理解度チェックで復習する	A, B, C
第9回	第8章 事前訪問の目的と注意点	予習：教科書P50～P56を読み、ポイントをノートにまとめる 復習：理解度チェックで復習する	A, B, C
第10回	第9章 直前にすべきこと・体験中に気を付けること	予習：教科書P57～P64を読み、ポイントをノートにまとめる 復習：理解度チェックで復習する	A, B, C
第11回	第10章 就業体験終了後にすべきこと	予習：教科書P65～P72を読み、ポイントをノートにまとめる 復習：理解度チェックで復習する	A, B, C
第12回	まとめ(注意事項確認、レポート、報告会などについて)	予習：就業体験日誌を読む 復習：就業体験をするための準備をする	A, B, C
第13回	就業体験①	予習：体験内容を確認し、目標を設定する 復習：就業体験日誌を記入し体験を振り返る	D
第14回	就業体験②	予習：体験内容を確認し、目標を設定する 復習：就業体験日誌を記入し体験を振り返る	D
第15回	報告会 PCを活用し、プレゼンテーション発表する	予習：報告書をまとめ、プレゼンテーションの準備・練習をする 復習：自身の課題と、他の学生の発表から学んだことをノートにまとめる	A, B, D
	実施せず		

社会人基礎論

更新日：2024/02/11 21:40:33

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B114700	授業コード		
担当教員	加藤 佐千雄							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	3L211	授業形態	講義	期待される学習成果	3			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	企業で人材開発たずさわり、現在も人材開発・組織開発コンサルタントを行っている講師により、企業人で新入社員・若手社員向けに行っているプログラムを、学生向けにわかりやすく再構成して授業を行う。卒業後に企業で働く時だけでなく、クラブ活動や授業で仲間と活動する時にも役立つ内容です。						

授業概要

内容	この授業では、自分を成長させるために大切なこと、企業の中で働くための仕事の基本を学びます。単に知識として知るだけでなく、コミュニケーションゲーム、ブロックの組み立てを競うゲームなどを使って上達するように練習をします。更に、企業の困りごとについて、その解決策を考えて実行するなど、実際の仕事近いワークも行います。 毎回、授業体験をふり返ることを通じて自分の強み・弱みを発見して、自分をより成長させるにはどうしたらいいのかを考えます。
方法	授業プリントにもとづき、グループワーク、プレゼンテーション。 パソコン又はタブレット端末を使った作品づくりを行う。 毎回、授業をふり返り、この経験を自分の生活にどう活かすかを考え、簡単なレポートを作成する。

到達目標

1	①授業内でグループ活動に主体的・協力的に取り組むことができる
2	②様々な経験を通じて気づいたことを自分の言葉でまとめることができる
3	③取り組んだ課題に対して、粘り強く取り組むことができる
4	④発表やプレゼンテーションの場で自分の考えを述べることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	グループ討議・ワークでの役割・影響力の発揮状態の行動観察	25
到達目標②	ふり返りシート	25
到達目標③	ふり返りシート	25
到達目標④	発表資料内容・口頭発表	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし。プリントを配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし。プリントを配布する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業後14：30～15：00、pteacher-tandai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

この授業のねらいは、1) 会社で働くために必要なことは何か？を考える、2) 自分の強みを見つけて伸ばす、ことです。積極的にワークに取り組んで下さい。

課題に対するフィードバック

毎回、授業の最後に、今日のふり返りレポートを書いてもらいます。その内容は評価をして、次の授業でフィードバックします。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	オリエンテーション 授業のねらい・進め方について説明 自己紹介による相互理解 成長するために必要な考え方	予習：この授業に参加の動機を考える 復習：気づいたことを実践する	A
第2回	自分を磨いてレベルアップするために① 社会人が自分を磨くために読んでいる書籍「7つの習慣」を紹介し 自立するための3つの習慣	予習：実践してどうだったかを振り返る 復習：気づいたことを実践する	A
第3回	自分を磨いてレベルアップするために② 他者と協力する時に必要となる3つの習慣 自分を磨くための習慣	予習：実践してどうだったかを振り返る 復習：気づいたことを実践する	A
第4回	仕事シミュレーション① 全員で最高の結果を出す ブロックゲームにトライする	予習：実践できたかどうかを振り返る 復習：気づいたことを実践する	B
第5回	仕事の基本① 仕事とは？働くとは？ お客様に満足いただくために大切なことは？	予習：実践できたかどうかを振り返る 復習：気づいたことを実践する	B
第6回	仕事の基本② PDCAサイクルを回す 計画の立て方 報告・連絡・相談の基本	予習：実践できたかどうかを振り返る 復習：気づいたことを実践する	B
第7回	チームワーク演習① 話し合って意見をまとめる 一人ひとりが持っている情報を持ち寄って答えを考える	予習：実践できたかどうかを振り返る 復習：気づいたことを実践する	B
第8回	チームワーク演習② 言葉を使わずに協力する チームに貢献することの大切さ	予習：実践できたかどうかを振り返る 復習：気づいたことを実践する	B
第9回	仕事シミュレーション② 全員で最高の結果を出す これまでの学習を活かして再度ブロックゲームにトライする	予習：実践できたかどうかを振り返る 復習：気づいたことを実践する	B
第10回	仕事シミュレーション③・まとめ もう一度やるならどうするか？ 振り返って次に生かす	予習：実践できたかどうかを振り返る 復習：気づいたことを実践する	B
第11回	プロジェクト課題① 課題提示・プランの検討	予習：これまで学んだことを振り返る 復習：提示された課題について再度よく考える	D
第12回	プロジェクト課題② プランの中間報告、プランの実行（パソコン又はタブレットを使用した資料作成）	予習：課題の解決策をまとめる 復習：提示された課題について再度よく考える	D
第13回	プロジェクト課題③ プランの実行、発表準備（パソコン又はタブレットを使用した資料作成）	予習：アイデアを形にしてみる 復習：提示された課題について再度よく考える	D
第14回	プロジェクト課題④ プレゼンテーション審査	予習：発表できるようにする 復習：上手く行ったこと、上手く行かなかったことを振り返る	D
第15回	全体の振り返り これからの社会人に必要なことのまとめ	予習：将来の自分の姿を考えてみる 復習：気づいたことを、実践してみる	B
	実施せず		

社会実践

更新日：2024/01/31 08:09:48

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B114800	授業コード		
担当教員	矢野 由紀子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	4L212	授業形態	演習	期待される学習成果	4			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+15					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	子どもに関わる地域ボランティアや学校ボランティアの活動を通して、ボランティア活動の意義や必要性について学ぶ。実際の活動を通して、教育職員に求められる豊かな人間性を養う。
方法	ボランティア活動を通して、子どもを取り巻く環境について考える。また、学びの共有のため、レポート・ライティング、プレゼンテーションに取り組む。

到達目標

1	子どもとコミュニケーションをとる方法を知り、実践しようとしてすることができる
2	社会人としての自覚を高め、主体的に社会に貢献する態度や意欲をもつことができる
3	ボランティア活動記録や活動報告レポートの作成を通して、自己課題の発見や課題解決の方策を考えることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ボランティア活動記録	50
到達目標②	活動報告レポート	25
到達目標③	プレゼンテーション	25
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月・火曜日 9:00~10:30 2号館2階 研究室2-3 メールアドレス yano@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

養護実習や臨床実習の前に、子どもを取り巻く人的・物的環境について理解しておくことが望ましい。そこで、本科目においては、子どもに関わる地域ボランティアや学校ボランティアに参加することを必須とします。ここでの学びは、きっと後の実習に生かされます。ぜひ、積極的に取り組んでください。また、ボランティアの方法等についてはオリエンテーション時に説明する。ボランティアに参加する際の交通費等は学生個人の負担となるので、了承の上履修することが必要です。

課題に対するフィードバック

ボランティア活動記録には、コメントを入れて返却する。
活動報告レポート及び発表のプレゼンテーションは、ルーブリックを用いて評価する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	オリエンテーション ボランティア体験の意義と概要	予習：シラバスを読み内容をイメージする 復習：ボランティア活動記録の整備をする ボランティア先の概要を理解する	
第2回	ボランティア活動への参加Ⅰ 子どもを取り巻く環境の把握	予習：活動先の概要を調べ、ノートにまとめる 復習：ボランティア活動記録の整理をする	D
第3回	ボランティア活動への参加Ⅱ 子どもを取り巻く環境の把握	予習：活動先の概要を調べ、ノートにまとめる 復習：ボランティア活動記録の整理をする	D
第4回	ボランティア活動への参加Ⅲ 子どもを取り巻く環境の把握	予習：活動先の概要を調べ、ノートにまとめる 復習：ボランティア活動記録の整理をする	D
第5回	ボランティア活動への参加Ⅳ 自己課題の発見	予習：活動先の概要を調べ、ノートにまとめる 復習：ボランティア活動記録の整理をする	D
第6回	ボランティア活動への参加Ⅴ 自己課題の発見	予習：活動先の概要を調べ、ノートにまとめる 復習：ボランティア活動記録の整理をする	D
第7回	ボランティア活動への参加Ⅵ 自己課題の発見	予習：活動先の概要を調べ、ノートにまとめる 復習：ボランティア活動記録の整理をする	D
第8回	ボランティア活動への参加Ⅶ 自己課題の発見	予習：活動先の概要を調べ、ノートにまとめる 復習：ボランティア活動記録の整理をする	D
第9回	ボランティア活動への参加Ⅷ 課題解決の方策の検討	予習：活動先の概要を調べ、ノートにまとめる 復習：ボランティア活動記録の整理をする	D
第10回	ボランティア活動への参加Ⅸ 課題解決の方策の検討	予習：活動先の概要を調べ、ノートにまとめる 復習：ボランティア活動記録の整理をする	D
第11回	ボランティア活動への参加Ⅹ 課題解決の方策の検討	予習：活動先の概要を調べ、ノートにまとめる 復習：ボランティア活動記録の整理をする	D
第12回	ボランティア活動への参加Ⅺ 課題解決の方策の検討	予習：活動先の概要を調べ、ノートにまとめる 復習：ボランティア活動記録の整理をする	D
第13回	ボランティア活動への参加Ⅻ 課題解決の方策の検討	予習：活動先の概要を調べ、ノートにまとめる 復習：ボランティア活動記録の整理をする	D
第14回	活動報告レポートの作成 ○Wordを用いてレポート作成 [レポート・ライティング]	予習：活動報告レポートの内容を考え、ノートにまとめたものを持参する 復習：活動報告レポートを完成させる	A, B
第15回	子どもに関わるボランティアの体験発表 ○PowerPointを用いて発表 [プレゼンテーション]	予習：体験発表の内容を考える 復習：自己課題と今後の取組についてまとめる	A, B
	実施せず		

社会実践

更新日：2024/01/31 17:50:57

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B114800	授業コード		
担当教員	永井 靖人							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	7L212	授業形態	演習	期待される学習成果	7			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+15					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	自営業の経験があり、学校教育と実社会とのつながりに問題意識を強く持っている。近年の企業は、社会貢献が盛んであり、学生にはこの授業を準備段階として経験を積ませたい。また公務員を志望する学生には、共助、コミュニティの重要性を認識させたい。そのために、コミュニケーション能力、チャレンジ精神、主体性を育成するための活動、演習を取り入れた授業を行う。						

授業概要

内容	連携する名古屋市瑞穂区内の社会福祉施設におけるボランティア活動に個人またはチームで取り組み、社会貢献に対する意識、行動力を獲得するとともに、ビジネスチャンスや行政の課題、解決策を考える。
方法	事前学習(4回)▶施設での活動(180分の活動×4日=8回分)▶事後学習、発表(3回) ・活動する施設、単位(個人、グループ)、日時は、施設や学生により異なる ・実践記録やコミュニケーションはMicrosoft Teams, OneNoteなどのPCツールを用いる

到達目標

1	対人基礎力(親和力・協働力・統率力)：一緒に働く仲間と信頼関係を築き、目標に向けてチームと協働することができる
2	對自己基礎力(自信創出力・行動持続力・実践力)：行動し、それを習慣付ける。やり抜く力・自己コントロールすることができる
3	対課題基礎力(課題発見力・計画立案力)：多様な情報をもとに仕事の段取りを組み立て、推進することができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	ボランティア活動の実践計画	33
到達目標②	毎回の実践記録	33
到達目標③	全回の振り返りレポート	34
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月・水曜日12:20~12:50 2号館2階研究室2-2 メールアドレス ya-nagai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

- ・オフィス総合コースと食物栄養専攻の学生がコラボレーションで取り組むことがあります。
- ・「自分でがんばる&みんなでがんばる、すぐに役立つ&いつか役立つ、自分のため&あの人のため&社会のため、学ぶ中で楽しむ&楽しむ中で学ぶ」を motto に学びを深めましょう。

課題に対するフィードバック

フィードバックとして実践記録にコメントします。成果の発表後、施設の担当者から講評を受けます。活動中の相談は主にMicrosoft Teamsで応えます。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題(予習・復習)の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	授業の概要説明	予習：シラバスを読み，全体像をつかむ 復習：次回の授業で質問したいことを挙げる	A、D
第2回	事前学習①：社会貢献活動について理解する	予習：社会貢献活動について調べる 復習：授業で知ったことについて，さらに調べる	A、D
第3回	事前学習②：活動予定の施設の実践内容を知る	予習：活動予定の施設について調べる 復習：授業で知ったことについて，さらに調べる	A、D
第4回	事前学習③：ボランティアに望まれる役割を知る	予習：ボランティアの意義，問題点について調べる 復習：授業で知ったことについて，さらに調べる	A、D
第5回	施設における活動①	予習：予定された活動のシミュレーション，リハーサル 復習：実践記録に記入，振り返る	D
第6回	施設における活動②	予習：予定された活動のシミュレーション，リハーサル 復習：実践記録に記入，振り返る	D
第7回	施設における活動③	予習：予定された活動のシミュレーション，リハーサル 復習：実践記録に記入，振り返る	D
第8回	施設における活動④	予習：予定された活動のシミュレーション，リハーサル 復習：実践記録に記入，振り返る	D
第9回	施設における活動⑤	予習：予定された活動のシミュレーション，リハーサル 復習：実践記録に記入，振り返る	D
第10回	施設における活動⑥	予習：予定された活動のシミュレーション，リハーサル 復習：実践記録に記入，振り返る	D
第11回	施設における活動⑦	予習：予定された活動のシミュレーション，リハーサル 復習：実践記録に記入，振り返る	D
第12回	施設における活動⑧	予習：予定された活動のシミュレーション，リハーサル 復習：実践記録に記入，振り返る	D
第13回	事後学習①：発表資料を作成する	予習：資料を収集する 復習：作成した資料を修正する	B、D
第14回	事後学習②：発表資料をまとめる	予習：作成した資料を修正する 復習：作成した資料，台本をさらに修正する	B、D
第15回	事後学習③：発表会	予習：発表会のシミュレーション，リハーサル 復習：活動全体と発表会を振り返る	B、D
	実施せず		

基礎造形

更新日：2024/02/21 13:44:14

開講年度	2024	学期	前期, 後期	科目コード	3B115000	授業コード		
担当教員	鈴木 安由美							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	1L223, 1L224	授業形態	実習	期待される学習成果	1			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	公立小学校教諭の実務経験をもとに、学内掲示や子どもが喜ぶものづくりの知識や技術を指導する。						

授業概要

内容	この授業で得た知識や体得した技術を活用して、豊かな人生を送ることができるようにする。 具体的には、はさみやカッターナイフ、色鉛筆などの基本的な道具の使い方を理解し、作品作りに応用していく。						
方法	道具の使い方や本時の活動内容などの解説の後、実際に作品を制作する。 グループワークで意見交換や鑑賞活動をし、自分と他者との表現方法の違いやよさを発見する。						

到達目標

1	ものづくりに関わる道具の使い方や素材の特性を理解することができる。						
2	学びを作品制作に生かすことができる。						
3	表現することを楽しみながら、主体的に学ぶことができる。						

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	作品	50
到達目標②	小レポート	30
到達目標③	授業への取り組み	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業時間の前後で対応する。（授業時間外は1号館2階研究室）

a-suzuki@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

授業で制作する作品は、第三者に著作権があるキャラクターを取り入れたデザインは不可としている。
自分で考えたオリジナルのデザインで作品を制作すること。

課題に対するフィードバック

授業内の制作課題は、採点后に返却する。

課題についての質問は個別に対応し、受講生全員に共有すべきことがあればその都度連絡をする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	道具の使い方	予習：シラバスを熟読する。	A

		復習：はさみ・カッターナイフを使って紙を切る練習をする。	
第2回	切り紙 折って、切る	予習：「切り紙」について調べる。 復習：振り返りプリントをまとめる。	A
第3回	切り絵Ⅰ 下絵の作成	予習：「切り絵」について調べる。 復習：下絵を完成させる。	A
第4回	切り絵Ⅱ 制作	予習：カッターナイフを使う練習をする。 復習：着色の構想を立てる。	A
第5回	切り絵Ⅲ 仕上げ	予習：制作の手順を確認しておく。 復習：作品を完成させる。	A
第6回	切り絵Ⅳ 鑑賞会	予習：作品を完成させる。 復習：制作を振り返り、気づいたことをまとめる。	A
第7回	ポップアップカードⅠ 基礎技法	予習：「ポップアップカード」について調べる。 復習：制作工程を振り返る。	A
第8回	ポップアップカードⅡ 試作	予習：オリジナルカードのデザインを考える。 復習：作品に必要なカードの仕組みについて理解する。	A
第9回	ポップアップカードⅢ 応用作品の制作	予習：作品に必要な部品を制作する。 復習：作品を完成させる。	A
第10回	ポップアップカードⅣ 作品集の製本	予習：これまでの作品を確認し、不備があれば整える。 復習：制作を振り返り、気づいたことをまとめる。	A
第11回	季節のアートⅠ ※前期と後期で内容は異なる	予習：課題内容について調べる。 復習：作品を完成させる。	A,B
第12回	季節のアートⅡ ※前期と後期で内容は異なる	予習：課題内容について調べる。 復習：作品を完成させる。	A,B
第13回	ゼンタングルⅠ 制作	予習：「ゼンタングル」について調べる。 復習：下絵を完成させる。	A
第14回	ゼンタングルⅡ 仕上げ	予習：下絵を完成させる。 復習：作品を完成させる。	A
第15回	色鉛筆の表現技法	予習：色鉛筆を使った作品や技法について調べる。 復習：制作を振り返り、気づいたことをまとめる。	A
定期試験	実施せず		

社会福祉論

更新日：2024/02/21 16:24:56

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B115100	授業コード	
担当教員	長谷中崇志						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3L224	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	選択, 栄養士必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	私たちの生活を支える社会福祉に関する基本的視点および知識を身につけることを目的としている。私たちは日常生活の中で、自身や家族の努力だけでは解決できない様々な生活課題（虐待、介護、貧困など）を抱える可能性がある。社会福祉は、多岐にわたる生活課題の解決・改善を図っていく取り組みであり、すべての人の幸せ（well-being for all）の創出を目指していく。講義を通して、社会福祉が自分の生活に密接に関連していることを理解するとともに、これからの社会福祉のあり方について考えていく。						
方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワークやグループワーク、DVDの視聴を取り入れる。						

到達目標

1	現代社会の特徴を理解したうえで、社会福祉に関する基本的視点・知識を説明できる。
2	社会福祉の理念や法制度について理解し、説明できる。
3	社会福祉の援助方法について理解し、説明できる。
4	社会福祉の必要性・意義について自分の生活と関連させながら説明できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題レポート・小テスト	40
到達目標②	小テスト	20
到達目標③	小テスト	20
到達目標④	課題レポート	20
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	レジュメを配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	適宜授業の中で紹介する。		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業の前後（研究室で対応する）

学生へのメッセージ

「双方向的」な講義にするために、随時、学生に発言を求めたり、毎回配布するリアクションペーパーに質問・要望等を記入してもらおう。積極的に参加し、発言することを期待している。また、テレビ等をみたり新聞を読む際に、社会福祉・社会保障の動向に関心を持ち、それらの事象について複眼的視点から考えることを大切にしてほしい。

課題に対するフィードバック

講義の冒頭において回答するとともに、毎回の講義の最後に質問等の時間を設ける。ペアワークやグループワークでは適宜、そのねらいや解説を行うことにより学びを深める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	オリエンテーション 社会福祉を学ぶ意義	予習：シラバスを確認し、授業の概要などを理解しておく。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第2回	現代の地域社会における生活課題①社会的孤立・孤独	予習：孤独・孤立対策推進法について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, C
第3回	現代の地域社会における生活課題②生活困窮（貧困）	予習：日本の相対的貧困率について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第4回	高齢者福祉①高齢者を取り巻く環境	予習：高齢化率の推移について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第5回	高齢者福祉②認知症と介護問題	予習：高齢者福祉施設について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第6回	子ども家庭福祉①理念、制度	予習：子どもの権利条約について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, C
第7回	子ども家庭福祉②児童虐待	予習：児童虐待の種類について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, B
第8回	障害者福祉①障害の概念	予習：障害の3種別について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, C
第9回	障害者福祉②支援の実際	予習：障害者権利条約について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, B
第10回	低所得者福祉	予習：生活保護制度について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第11回	社会福祉の歴史の変遷と法制度	予習：福祉三法・六法について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第12回	社会福祉の実施機関	予習：福祉事務所、社会福祉協議会について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第13回	地域福祉の推進と社会資源	予習：ソーシャル・インクルージョンについて調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A, B
第14回	社会福祉とは何か	予習：日本国憲法第13条及び第25条について調べる。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
第15回	これからの社会福祉	予習：これまで学んだ授業内容を踏まえて、これからの社会福祉のあり方について考える。 復習：授業内容を自らの理解によりまとめる。	A
	実施せず		

女性学

更新日：2024/01/31 08:12:04

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B115200	授業コード	
担当教員	矢野 由紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	2L212	授業形態	講義	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	「女性」の心理や特性から捉えた、性と生に関わる身体構造と機能の概要を知ることにより、自分を大切にしたい生き方や他への思いやりについて考える。 「女性」を取り巻く問題点を、歴史、経済、教育、法律、文化など、多面的に学んでいくことで、現状への理解をより深めていき、直面する様々な問題に対し、解決へ向け方策を示す。						
方法	テキストと授業プリントに基づき講義を行う。毎回、この授業でとりあげる課題について、グループディスカッションを行い、女性にとっての問題点等を追及する。						

到達目標

1	女性の身体的特徴や機能について理解しレポートにまとめることができる
2	自分を大切にしようとする気持ちを高めることができる
3	直面する様々な問題に対し、解決へ向け方策を示し行動することができる
4	習得した知識を生かし、自身のキャリア・デザインができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	振り返りシート	25
到達目標②	グループディスカッション参加態度、振り返りシート	25
到達目標③	グループディスカッション参加態度、振り返りシート	25
到達目標④	課題レポート	25
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	ティーンズ・ボディーブック	中央公論新社	北村邦夫

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月・火曜日 9:00~10:30 2号館2階 研究室2-3 メールアドレス yano@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

毎回の講義テーマを自身への問題提起として捉え、自分ならどうするかを考えてみましょう。

質問やコメントなどの発言を通して、積極的に授業に参加してください。

課題に対するフィードバック

振り返りシートは事前に提出されたループリックにより評価する。

毎授業ごとに提出した振り返りシートは次回コメントを付けるなどして返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	女性学とは 女と男を分けるもの ジェンダー PCを用いて説明後、グループディスカッション	予習：「女であることの、男であることの損・得を考えてみる」 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第2回	性を考える セクシュアリティ 性の多様性 PCを用いて説明後、グループディスカッション	予習：「性という言葉から思いつくことを書き出す」 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第3回	自分のからだを好きになろう 女性生殖器の形態・機能 PCを用いて説明後、グループディスカッション	予習：テキストP6～P27を読む 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第4回	月経を正しく知ろう PCを用いて説明後、グループディスカッション	予習：テキストP28～P37を読む 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第5回	男性のからだを知っておこう 男性生殖器の形態・機能 PCを用いて説明後、グループディスカッション	予習：テキストP38～P47を読む 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第6回	妊娠と胎児の性分化 PCを用いて説明後、グループディスカッション	予習：テキストP48～P65を読む 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第7回	自分の体に合わせて選びたい避妊法 緊急避妊法 PCを用いて説明後、グループディスカッション	予習：テキストP66～P87を読む 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第8回	妊娠したかも・・・と思ったとき PCを用いて説明後、グループディスカッション	予習：テキストP88～P97を読む 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第9回	中絶について学ぼう PCを用いて説明後、グループディスカッション	予習：テキストP98～P105を読む 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第10回	誰だってかかる可能性のある性感染症とその予防 PCを用いて説明後、水を使った実験	予習：テキストP106～P125を読む 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第11回	からだのトラブルを乗り切ろう PCを用いて説明後、グループディスカッション	予習：テキストP126～P137を読む 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第12回	DV デートDV 性暴力 子どもの性暴力 性の商品化 PCを用いて説明後、グループディスカッション	予習：最近の恋愛事情や性暴力について調べる 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第13回	母になるということ 出産と母の就業 子育ての負担 PCを用いて説明後、グループディスカッション	予習：出産と最近の子育て事情を調べる 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第14回	児童虐待の予防 PCを用いて説明後、グループディスカッション	予習：児童虐待について調べる 復習：学習した内容を振り返りシートにまとめ、課題レポートに備える	B,C
第15回	自分史を作ろう（出生から未来へ）	予習：子どもの頃の写真やエピソードを聞き取り、準備をする 復習：自分の未来に向けどんな行動をとればよいのか考える	
	実施せず		

食生活論

更新日：2024/01/30 19:31:10

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B115300	授業コード	
担当教員	高賀 敦子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1L223	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	食生活は社会や経済の変動、環境、食文化といった多様な要因が大きくかかわっている。日本や世界の食文化の特徴について学習するとともに、食環境の変遷によって食生活が変化していく要因について学習する。また、食の安全・安心、食環境に関して、一人ひとりの食行動、意識決定が大きくかかわっていることを学習し、望ましい食行動がとれる力を養う。
方法	テキストに基づき、パワーポイントを用いて講義をおこなう。 適宜、調べ学習やグループディスカッションなどを取り入れながら、食に関する正しい知識や判断力を共有する。 テーマについて調べたことをレポートにまとめ、Active Portalの「レポート機能」を使ってWord形式で提出する。 Microsoft Formsを使って、アンケートや小テストを実施する。 毎回授業終了後、スライド資料をTeamsに掲載する。

到達目標

1	社会の変化に伴い、わが国の食生活はどのように変化したか理解し、説明することができる。
2	食生活にかかわる諸問題や食環境の変化を理解し、説明することができる。
3	日本の食文化形成と自然環境、日常食の変遷について理解し、説明することができる。
4	世界の食事・食文化について調査・発表し、多様な食文化について知識を共有することができる。
5	食品表示を正しく理解し、食品の安全性に関する知識と判断力を修得することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	20
到達目標②	定期試験	20
到達目標③	定期試験	20
到達目標④	レポート、プレゼンテーション	20
到達目標⑤	レポート、ディスカッションへの参加態度	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	食生活論	光生館	岡崎光子 編著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

火曜日 12:15~13:00 1号館 3階 研究室3
a-kouga@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

食は私たちにとって大変重要なものです。日頃から、食と健康に関心をもち、食をとりまく諸課題について目を向けるようにしましょう。学んだ知識を基に自分自身の食生活を振り返り、健康な食生活を実現しようとする知識や態度を身につけていきましょう。

課題に対するフィードバック

小テストは、採点後次回授業で返却し解説する。
課題レポートはルーブリックにより評価する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション 食生活の概念	予習：シラバスに目をとおり、学習内容を理解しておく 教科書p.1～6を読んで、食生活を支える力についてまとめておく 復習：食生活の現状についてまとめ、定期試験に備える	
第2回	社会の変化と食生活	予習：教科書p.6～11、p.69～81を読んで、経済成長の発展と食生活の変化についてまとめておく 復習：経済成長や食産業の発展と食生活の変化についてまとめ、定期試験に備える	
第3回	食生活にかかわる諸問題（1） ～食行動～	予習：教科書p.11～14を読んで、朝食欠食、こ食等の問題点についてまとめておく 復習：朝食欠食、こ食・共食、栄養状態についてまとめ、定期試験に備える	B
第4回	食生活にかかわる諸問題（2） ～食の安全・安心～	予習：食の不祥事について新聞やテレビ等で聞いたこと、知っていることをまとめておく 復習：食の安全を揺るがす問題についてまとめて、定期試験に備える	
第5回	食生活にかかわる諸問題（3） ～情報としての食品表示～	予習：生鮮食品や加工食品の表示について調べておく 復習：食品表示法や品質表示、遺伝子組換え食品についてまとめ、定期試験に備える	C
第6回	食生活にかかわる諸問題（4） ～食品表示と選択～	予習：身近にある特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品について調べておく 復習：食品添加物、保健機能食品についてまとめ、定期試験に備える事前資料に目とおしておく	B
第7回	世界の食文化（1） ～食材料の選択～	予習：世界の主食について調べてくる 復習：食料の選択と起源についてまとめ、定期試験に備える	
第8回	世界の食文化（2） ～文化を反映する食生活～	予習：三大食法について調べてくる 復習：世界各地に伝わる食は、それぞれの気候、風土や歴史、宗教等に基づいて発展したものであることをまとめ、定期試験に備える	
第9回	世界の食文化（3） ～世界の食事調査～	予習：興味がある国の食事について調べておく 復習：世界の食事の特徴をまとめ、定期試験に備える	
第10回	日本の食生活について（1） ～日本の食文化と自然環境、異文化の融合～	予習：教科書p.24～30を読んで、日本の自然環境と食文化形成についてまとめておく 復習：日本の食文化と自然環境、異文化の融合についてまとめ、定期試験に備える	
第11回	日本の食生活について（2） ～行事・儀礼食と食事形式～	予習：出身地の行事食、儀礼食について調べておく 復習：わが国の日常食の始まり、日常食の変遷についてまとめ、定期試験に備える	D
第12回	食環境と食生活（1） ～食料自給率の変遷、家庭・社会環境の変化と国際化～	予習：教科書p.47～54を読んで、わが国の食料自給率からみる問題点と課題についてまとめておく 復習：食料自給率の変遷と食意識・食志向、食のグローバル化についてまとめ、定期試験に備える	
第13回	食環境と食生活（2） ～食品産業の発達と食生活、環境問題と食生活～	予習：教科書p.54～p.67を読んで、食生活と環境問題について考えておく 復習：食品産業の発達、環境問題と食生活についてまとめ、定期試験に備える	
第14回	ライフスタイルと食生活 ～日本人の生活時間と食生活、生活に伴う情報機器の変化、価値観と食生活～	予習：教科書p.82～88を読んで、産業構造、家事労働の変化についてまとめておく 復習：ライフスタイルに及ぼした要因と食生活の変容についてまとめ、定期試験に備える	
第15回	食生活の未来 ～これからの日本の食生活～ 半年間の学習内容の復習とまとめ	予習：これからの食生活についてまとめておく 復習：これからの日本の食生活についてまとめ、定期試験に備える 半年間の学習内容を復習し、定期試験に備える	C
	定期試験		

食文化論

更新日：2024/02/21 10:09:24

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B115800	授業コード	
担当教員	水野 早苗						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	1L223	授業形態	講義	期待される学習成果	1		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	日本の食文化について、その成り立ちや宗教による食文化の違いなどを正しく理解する。また、地域で伝承されてきた郷土食、通過儀礼や年中行事などの意味にも触れ、食文化を次の世代へ継承していくことの大切さを学ぶ。						
方法	講義を主とする。DVDやパワーポイントを使用する。 一つのテーマについて、ディスカッションで理解を深める。 毎時間後、Teamsを使って授業内容について感想や質問を提出してもらい、それをもとに次回振り返りをする。						

到達目標

1	講義内容を理解し、食文化に対して正しい知識を身につけることができる
2	課題に対して、自分の考えをまとめて記述できる
3	授業に真剣に取り組むことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	60
到達目標②	課題レポート	30
到達目標③	毎回の授業に対する記述内容	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日1限（研究室2-1）
E-mail：s-mizuno@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

授業は教科書を使用せず資料をもとにおこなう。使用する資料を事前にTeamsに掲載するので、授業にパソコンを持参するか、各自で資料をプリントアウトして持ってくる。

課題に対するフィードバック

定期試験および課題レポートは、採点后返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	食文化とは（ユネスコ無形文化遺産）：パワーポイント、	予習：ユネスコ無形文化遺産（食）について調べる	A

	DVD使用	復習：食文化についてまとめる	
第2回	日本料理の特徴（行事食）：パワーポイント、DVD使用	予習：行事食について調べる 復習：行事食の種類についてまとめる	A
第3回	日本料理の特徴（通過儀礼と食）：パワーポイント使用	予習：通過儀礼について調べる 復習：世界の通過儀礼についてまとめる	A
第4回	日本料理の特徴（祝儀に用いられる食材）：パワーポイント使用	予習：祝儀に用いられる食材を調べる 復習：祝儀に用いられる理由についてまとめる	A
第5回	日本料理の特徴（料理形式）：パワーポイント使用	予習：料理形式の種類を調べる 復習：料理形式の違いをまとめる	A
第6回	日本料理の特徴（米、漬物、出汁）：パワーポイント、DVD使用	予習：出汁の種類について調べる 復習：出汁の効果についてまとめる	A
第7回	日本料理の特徴（発酵食品）：パワーポイント使用	予習：発酵食品とは何かについて調べる 復習：発酵食品の種類についてまとめる	A
第8回	食事作法と箸のマナー：パワーポイント使用 正しい箸の持ち方を実践する	予習：正しい箸の使い方について調べる 復習：箸の使い方と食事作法についてまとめる	A
第9回	宗教と食、菜食主義：パワーポイント使用	予習：世界の宗教分布について調べる 復習：宗教と料理の関係についてまとめる	A
第10回	郷土食・伝統食（北海道および東北地方）：パワーポイント使用	予習：東北地方の特徴について調べてくる 復習：東北地方の郷土料理についてまとめる	A
第11回	郷土食・伝統食（関東地方および中部地方）：パワーポイント使用	予習：関東・中部地方の特徴について調べてくる 復習：関東・中部地方の郷土料理についてまとめる	A
第12回	郷土食・伝統食（近畿地方および四国地方）：パワーポイント使用	予習：近畿・四国地方の特徴について調べてくる 復習：近畿・四国地方の郷土料理についてまとめる	A
第13回	郷土食・伝統食（中国地方および九州地方）：パワーポイント使用	予習：中国・九州地方の特徴について調べてくる 復習：中国・九州地方の郷土料理についてまとめる	A
第14回	郷土食・伝統食（沖縄県）：パワーポイント使用	予習：沖縄県の特徴について調べてくる 復習：沖縄県の郷土料理についてまとめる	A
第15回	食文化の継承について考える（ディスカッション）	予習：食文化を継承することについて考え、まとめる 復習：学んだことを復習する	A・B
	定期試験		

比較食物学

更新日：2024/02/21 10:11:20

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B115900	授業コード	
担当教員	水野 早苗						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3L224	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	日本の食生活を、縄文時代から現代までの歴史的変遷と、諸外国との比較という2つの面から学ぶ。また、SDGsや環境問題を食の面から考える。その学びの中で、現代日本の抱える食生活の問題点を理解し、自らどう解決に向けて努力すれば良いかを考える。						
方法	講義を主とする。講義は資料をもとにおこない、DVDやパワーポイントを使用する。 一つのテーマについて、ディスカッションで理解を深める。 毎授業後、Teamsを使って授業内容について感想や質問を提出してもらい、それをもとに次回振り返りをする。						

到達目標

1	講義内容を理解し、正しい知識を身につけることができる
2	課題に対して、自分の考えをまとめて記述できる
3	授業に真剣に取り組むことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	60
到達目標②	課題	30
到達目標③	毎回の授業に対する記述内容	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日1限（研究室2-1）
E-mail：s-mizuno@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

使用する資料を事前にTeamsに掲載するので、授業にパソコンを持参するか、各自で資料をプリントアウトして持ってくる。

課題に対するフィードバック

定期試験および課題レポートは、採点后返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	日本の食生活：縄文・弥生・古墳時代（パワーポイント、DVD使用）	予習：縄文・弥生・古墳時代の概要を調べる 復習：縄文・弥生・古墳時代の食生活をまとめる	A

第2回	日本の食生活：飛鳥・奈良・平安時代（パワーポイント、DVD使用）	予習：飛鳥・奈良・平安時代の概要を調べる 復習：飛鳥・奈良・平安時代の食生活をまとめる	A
第3回	日本の食生活：鎌倉・室町時代（パワーポイント使用）	予習：鎌倉・室町・安土桃山時代の概要を調べる 復習：鎌倉・室町・安土桃山時代の食生活をまとめる	A
第4回	日本の食生活：江戸時代（パワーポイント使用）	予習：江戸時代の概要を調べる 復習：江戸時代の食生活をまとめる	A
第5回	日本の食生活：明治・大正時代（パワーポイント使用）	予習：明治・大正時代の概要を調べる 復習：明治・大正時代の食生活をまとめる	A
第6回	日本の食生活：第二次世界大戦まで（パワーポイント使用）	予習：昭和（第二次世界大戦まで）の概要を調べる 復習：昭和（戦前）の食生活をまとめる	A
第7回	日本の食生活：第二次世界大戦から現代（パワーポイント使用）	予習：第二次世界大戦以降、現代までの概要を調べる 復習：昭和（戦後）～現代の食生活をまとめる	A
第8回	学校給食の歴史（パワーポイント使用）	予習：学校給食の歴史について調べてまとめる 復習：学校給食の意義についてまとめる	A
第9回	食に関する公害の歴史（パワーポイント使用）	予習：三大公害について調べる 復習：水俣病についてまとめる	A
第10回	調理器具の変遷（パワーポイント使用）	予習：現代の調理器具の種類について調べる 復習：電子レンジの原理についてまとめる	A
第11回	現代日本が抱える食の問題－食品ロス－（DVD使用）	予習：日本の環境への取り組みについて調べる 復習：食品ロスへの対策についてまとめる	A
第12回	現代日本が抱える食の問題－食料自給率を考える－	予習：日本の環境への取り組みについて調べる 復習：食料自給率についてまとめる	A
第13回	世界の食生活：和食と世界三大料理（パワーポイント、DVD使用）	予習：世界三大料理について調べる 復習：和食と世界三大料理の特徴をまとめる	A
第14回	世界の食生活との比較：食習慣、主食と食具（パワーポイント使用）	予習：世界の食具について調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第15回	和食の魅力とは ディスカッション	予習：和食の魅力について考えまとめる 復習：学んだことをまとめる	A・B
	定期試験		

保育学

更新日：2024/02/19 10:17:41

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B116100	授業コード	
担当教員	谷口 良美						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	2L224	授業形態	講義	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	保育士・保育園長として勤務していた経験をもとに、乳幼児の発達やあそびについて実践的な授業を行う。また現在の保育施設が抱える課題などについても学びを深める。					

授業概要

内容	子どもや家庭を取り巻く環境や、乳幼児期の心身の発育・発達に関する学びをとおして、保育や子どもの育ちへの理解を深める。また、保育内容について実践的に理解を深め、現代に求められる保育の役割について学ぶ。		
方法	現代の子どもや家庭を取り巻く環境や、乳幼児期の育ちの姿について、主に講義によって理解を深める。保育教材や遊びについての調査や製作、実践をとおして、保育の内容や方法のあり方を探求する。		

到達目標

1	乳幼児期の育ちと保育について理解する。
2	現代の保育に求められる役割を理解する。
3	保育教材や子どもの遊びについて、調査・準備・実践できる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート	40
到達目標②	レポート	30
到達目標③	提出物や発表	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じてプリントを配布する。		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じてプリントを配布する。		

オープンな教育リソース

- ・保育所保育指針（厚生労働省ホームページ）<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf>
- ・子ども・子育て支援新制度（内閣府ホームページ）<https://www8.cao.go.jp/shoushi/index.html>

オフィスアワー

金曜1限 研究室1-5
E-mail：taniguchi@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

現代社会の状況を考えながら、子どもの育ちに何が必要とされるか考えながら受講してほしい。

課題に対するフィードバック

理解状況は受講コメントやレポートにて確認し、必要に応じて授業においてフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション・保育学について	予習：自身の幼少期を振り返る	B

		復習：授業内容を振り返って整理する	
第2回	保育とは①歴史的経緯	予習：保育や教育の歴史を調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	
第3回	保育とは②現代の状況や制度	予習：子ども・子育て支援新制度を調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	
第4回	保育とは③基本的な理念	予習：保育所保育指針（第1章）を読む 復習：授業内容を振り返って整理する	
第5回	乳幼児期の育ち①子どもとは	予習：子ども観について調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	
第6回	乳幼児期の育ち②心理・社会的発達	予習：アタッチメント（愛着）について調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	
第7回	乳幼児期の育ち③身体や運動の発育・発達	予習：乳幼児期の運動発達について調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	
第8回	乳幼児期の育ち④遊びの理論的な理解	予習：子どもの遊びについて調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	
第9回	保育内容の探究①児童文化の視点から	予習：親しんだ遊びや絵本などを調べておく 復習：授業内容を振り返って整理する	B
第10回	保育内容の探究②保育教材・遊びの調査	予習：保育における子どもの遊びについて調べる 復習：授業内容を振り返って整理する	B
第11回	保育内容の探究③伝承的なあそび	予習：伝承遊びを調べておく 復習：実践内容の振り返り	B
第12回	保育内容の探究④運動による遊び	予習：実践・実演に向けて準備する 復習：実践内容の振り返り	B
第13回	保育内容の探究⑤製作による遊び	予習：実践・実演に向けて準備する 復習：実践内容の振り返り	B
第14回	保育内容の探究⑥子どもの育ちと遊び	予習：各実践・実演を振り返る 復習：授業内容を振り返って整理する	
第15回	半期の振り返りとまとめ	予習：全回の内容を振り返る 復習：授業内容を振り返って整理する	
	実施せず		

栄養学（食品学を含む。）

更新日：2024/02/21 11:15:56

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B116300	授業コード		
担当教員	横山 洋子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	3L223	授業形態	講義	期待される学習成果	3			
コース別 必修・選択必修等	養護必修	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	私たちが健康な食生活を営むためには、適切な栄養素をバランスよく摂取する必要がある。この授業では、食品に含まれる栄養素やその他の成分の役割、また、体内における変化など栄養についての基礎的な知識を修得する。						
方法	<ul style="list-style-type: none">教科書に基づいてパワーポイントを用いて講義を行う。事前学習用の講義資料をTeamsに掲載するので、授業前までに確認する。各回の講義の最後にMicrosoft Forms を使い、小テストおよびリアクションペーパーの提出を行う。レポートは、Microsoft Teamsの「課題」機能を使って提出する。						

到達目標

1	栄養学の知識を身につけることができる。
2	学習した内容についてまとめることができる。
3	真剣に授業に取り組み、各回のポイントを理解することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	50
到達目標②	レポート	20
到達目標③	小テスト・リアクションペーパー	30
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	基礎栄養学-食生活と健康について考えるための基礎～第3版（はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ5）	化学同人	杉山英子他2名

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	授業中に適宜紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日 9:30～11:30

2号館1階「研究室2-1」

メールアドレス：y-yokoyama@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

- ・栄養学の基礎を学び、自分の食生活を見直してみましょう。
- ・わからないことはいつでも質問してください。

課題に対するフィードバック

- ・小テストおよびリアクションペーパーは、採点后、次回の授業で解説する。
- ・レポートは添削し、コメントをつけるなどして返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	栄養とは	予習：自分の食生活について考える 復習：学んだことをまとめる	A
第2回	五大栄養素の役割 健康と栄養のかかわり	予習：五大栄養素について調べる 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
第3回	現代社会が抱える栄養問題	予習：現代社会が抱える栄養問題を考える 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
第4回	栄養素とその働き (1) 糖質（糖質の分類）	予習：教科書 p.43～45 「糖質とは」「糖質の分類」を読む 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
第5回	栄養素とその働き (2) 糖質（糖質の体内利用）	予習：教科書 p.46～47 「糖質の体内利用」を読む 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
第6回	栄養素とその働き (3) 脂質（油脂の構造）	予習：教科書 p.48～52 「脂質」「エネルギー源になる脂質」を読む 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
第7回	栄養素とその働き (4) 脂質（脂質の上手な摂り方）	予習：教科書 p.52～54 「脂質の上手な摂り方」を読む 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
第8回	栄養素とその働き (5) たんぱく質（アミノ酸）	予習：教科書 p.55～56 「たんぱく質」を読む 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
第9回	栄養素とその働き (6) たんぱく質（たんぱく質の上手な摂り方）	予習：教科書 p.63～64 「たんぱく質の上手な摂り方」を読む 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
第10回	栄養素とその働き (7) ビタミン	予習：教科書 p.112 「ビタミンの分類」を読む 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
第11回	栄養素とその働き (8) ミネラル	予習：教科書 p.113 「ミネラルの分類」を読む 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
第12回	水の性質	予習：教科書 p.115～118 「水の性質を理解しよう」を読む 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
第13回	食物繊維の働き	予習：教科書 p.121～125 「食物繊維の働きを理解しよう」を読む 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
第14回	消化と吸収	予習：教科書 p.127～132 「消化と吸収」「消化のパターンを覚えよう」「消化の流れを理解しよう」を読む 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
第15回	ライフステージ・ライフスタイルと栄養	予習：学童期・成人期の栄養について調べる 復習：小テストを中心に学んだことをまとめる	A
	定期試験	予習：小テストを中心に復習し、定期試験に備える	

食育概論

更新日：2024/02/21 10:12:18

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B116400	授業コード	
担当教員	水野 早苗						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3L223	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	食育とは、子どもから高齢者にいたるまで、健康に生きるために必要な学びである。健康を維持するための正しい食生活のあり方を理解し、食物アレルギーや生活習慣病などの疾病と食との関係、食品ロス削減から考える環境問題、災害を想定した非常食など、現代の食の問題に対応した内容について幅広く学ぶ。
方法	講義を主体とする。パワーポイントを使用する。 一つのテーマについて、ディスカッションで理解を深める。 毎時間後、Teamsを使って授業内容について感想や質問を提出してもらい、それをもとに次回振り返りをする。

到達目標

1	講義内容を理解し、食育に対して正しい知識を身につけることができる
2	食育のための効果的な媒体を作ることができる
3	授業に真剣に取り組むことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	60
到達目標②	課題作成	30
到達目標③	毎回の授業に対する記述内容	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日1限（研究室2-1）

E-mail：s-mizuno@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

授業は教科書を使用せず資料をもとにおこなう。使用する資料を事前にTeamsに掲載するので、授業にパソコンを持参するか、各自で資料をプリントアウトして使用する。

課題に対するフィードバック

試験および課題は、採点后返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	子どもの食生活の現状：パワーポイント、ノートパソコン使用	予習：食育基本法について調べる 復習：授業の内容についてまとめる	A
第2回	子どもの食生活の現状（授乳期）：パワーポイント使用	予習：母乳と牛乳の栄養成分の違いを調べる 復習：授業の内容についてまとめる	A
第3回	子どもの食生活の現状（離乳期）：パワーポイント使用	予習：離乳食の進め方について調べる 復習：授業の内容についてまとめる	A
第4回	子どもの食生活の現状（幼児期）：パワーポイント使用	予習：孤食について調べる 復習：朝食欠食、偏食、孤食に対する対応をまとめる	A
第5回	子どもの食生活の現状（学童期～思春期）：パワーポイント使用	予習：痩身志向について現状を調べる 復習：過度なダイエットの影響についてまとめる	A
第6回	妊娠期・成人期・高齢期の食生活：パワーポイント使用、ディスカッション	予習：嚥下障害について調べる 復習：高齢期の食事の注意点についてまとめる	A,B
第7回	食育（学校給食の役割）：パワーポイント使用	予習：学校給食の歴史を調べる 復習：給食の役割についてまとめる	A
第8回	食育（子どもに伝えたい郷土の食文化）：パワーポイント使用	予習：居住地の郷土食を調べる 復習：学んだことをまとめる	A
第9回	食育（子どもに伝えたい食事のマナー）：パワーポイント使用	予習：嫌い箸について調べる 復習：子どもに教えるべき食のマナーについてまとめる	A
第10回	食育（家庭での食育）：パワーポイント使用、ディスカッション	予習：効果的な手伝いの内容について考える 復習：授業の内容についてまとめる	A,B
第11回	食の安全（食中毒と公害）：パワーポイント使用	予習：三大公害について調べる 復習：授業の内容についてまとめる	A
第12回	疾病と食事（糖尿病、貧血ほか）：パワーポイント使用	予習：糖尿病について調べる 復習：糖尿病に対する食事についてまとめる	A
第13回	疾病と食事（食物アレルギー）：パワーポイント使用	予習：子どもの食物アレルギーの現状について調べる 復習：食物アレルギーの対応についてまとめる	A
第14回	効果的な「食育」の方法とは ディスカッション	予習：自分が取り上げたい食育の内容を考える 復習：食育について、レポートにまとめる	A
第15回	自分の「食育」に使用する媒体を作成する：ノートパソコン使用	予習：食育の媒体を考える 復習：学んだことをまとめる	A,D
	定期試験		

食品衛生学

更新日：2024/02/21 13:26:48

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B116500	授業コード	
担当教員	鷺野 嘉映						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3L224	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	生活文化専攻 卒業必修	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	健康の保持増進のために、食の安全性の確保は重要である。本科目では、各個人が、健康被害を防ぎ、健康と安全を守るために必要不可欠な知識と考え方を習得して、将来にわたり安全な食生活を実践していく術を身につける。
方法	教科書もしくは資料に基づき講義を行う。 各授業においては、授業内容に関して、高校までの学習内容に基づき常にQ&Aにより授業を進行する。なお、回答においては、「分かりません」や安易な回答は認めません。

到達目標

1	真摯に授業に取り組み、各回のポイントを理解することができる。
2	食品の安全性に対する知識を身につけることができる。
3	食品の安全性を確保する技術を身につけることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業態度	20
到達目標②	定期試験	40
到達目標③	定期試験	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	食品衛生学（栄養科学イラストレイテッド）	羊土社	田崎達明

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月曜日 12:10～12:55 研究室2-2

提示したオフィスアワーでの対応に加えて、メールwashino@mizuho-c.ac.jp（#を@に変更）で事前に予約することで適宜対応します。

学生へのメッセージ

毎回予習復習に努めて、講義中での積極的な質問を期待します。

授業時における他の学生の授業を妨げる態度はマイナス評価となるので注意してください。

授業中に突っ伏して寝る等、体調不良が考えられる場合は、保健室での休養をお願いします。

授業の進行状況によっては、シラバスの内容に変更が生じる場合がありますが、その際は事前に通知します。

課題に対するフィードバック

授業時間中に口頭で多くの質問を課し、意見交換を行うとともに、講評を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	食品衛生学とは・本科目の目的 食品衛生と法規 (食品衛生の概要、わが国の法規、食品の安全性の確保、 食品安全基本法と食品衛生法)	予習：身の回りの安全・安心な食の重要性について考える。 テキストの該当箇所(第1章)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第2回	食品の変質 (食品の変質とは、微生物による変質、鮮度・腐敗度の判定法、 化学的変質、酸敗の判定法、食品成分の変化により生じる有害物質、 食品の変質防止法)	予習：テキストの該当箇所(第2章)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第3回	基礎微生物学 (食中毒細菌・ウイルス等の基礎)	予習：テキストの該当箇所(第3章)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第4回	食中毒Ⅰ (食中毒とは、食中毒の発生状況、細菌性感染型食中毒)	予習：テキストの該当箇所(第4章-1から-3)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第5回	食中毒Ⅱ (細菌性毒素型食中毒)	予習：テキストの該当箇所(第4章-4)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第6回	食中毒Ⅲ (ウイルス性食中毒、寄生虫疾患)	予習：テキストの該当箇所(第4章-5から-6)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第7回	食中毒Ⅲ (食品と寄生虫疾患、魚介類から感染する寄生虫)	予習：テキストの該当箇所(第4章-7から-8)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第8回	食中毒Ⅳ (肉類から感染する寄生虫、野菜・水から感染する寄生虫)	予習：テキストの該当箇所(第4章-8から-9)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第9回	食中毒Ⅴ (人畜共通感染症、化学物質による食中毒)	予習：テキストの該当箇所(第4章-10から-11)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第10回	食中毒Ⅵ (自然毒による食中毒)	予習：テキストの該当箇所(第4章-12から-13)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第11回	食品中の汚染物質Ⅰ (カビ毒、化学物質、有害元素)	予習：テキストの該当箇所(第5章-1から-3)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第12回	食品中の汚染物質Ⅱ (放射性物質、異物混入、アレルギー)	予習：テキストの該当箇所(第5章-4から-6)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第13回	食品添加物および残留農薬等 (分類と安全性、ポジティブリスト制度、器具および容器包装、 遺伝子組換え食品)	予習：テキストの該当箇所(第6章)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第14回	食品衛生管理 (食品衛生管理の重要性、食品工場等における一般的衛生管理とHACCP、 Codex委員会が定める食品衛生の一般原則の規範)	予習：テキストの該当箇所(第7章)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
第15回	食品表示制度 (保健事項に関する食品表示基準、保健機能食品) まとめ	予習：テキストの該当箇所(第8章)を確認しておく。 復習：授業で学んだことを、ノートに整理しておく。	A
	定期試験		

調理学

更新日：2024/02/21 15:42:18

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B117000	授業コード	
担当教員	高木 恵美子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3L223	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	食品素材の特性や調理における作業工程のなかで加熱操作・調理操作によって起こる種々の現象を科学的に考察し理解することで、食生活においておいしく安全な料理を作るために必要な知識を得る。
方法	教科書を中心に重要な内容はスライド（パワーポイント）で表示し講義を行う。内容を定着させるための確認テストを実施する。

到達目標

1	調理の目的を理解し、食べ物や調理操作の基本的な知識を習得し、説明することができる。
2	調理による食品の物性や栄養成分の変化を理解し、説明することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	確認テスト・定期試験	50
到達目標②	確認テスト・定期試験	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	「はじめて学ぶ 健康・栄養系教科書シリーズ⑩ 調理学」	化学同人	久木久美子・新田陽子・喜多野宣子著

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業後 研究室2-1

学生へのメッセージ

普段から食材・料理に興味をもって生活するように心がけておく。

課題に対するフィードバック

確認テストは添削して返却し、講義の中で解説する。

授業計画

授業回	学修計画	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
	学修内容		
第1回	調理の目的 食べ物のおいしさ（味・におい）※パワーポイント使用	予習：教科書2章P3～10を読んでおく 復習：学習した内容をまとめる	A
第2回	食べ物のおいしさ（色・テクスチャー・外観・温度） おいしさの評価	予習：教科書2章P11～21を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第3回	非加熱調理操作 ※パワーポイント使用	予習：教科書3章P23～34を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A

第4回	加熱調理操作 ※パワーポイント使用	予習：教科書3章P35～46を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第5回	米の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書4章P49～58を読んでおく。 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる。	A
第6回	小麦粉の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書4章P59～64を読んでおく。 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる。	A
第7回	いも類、豆類、種実類の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書4章P65～72を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第8回	野菜類、果物類の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書4章P73～82を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第9回	第1回～8回までに復習 きのこ類、藻類の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書4章P83～85を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第10回	食肉類、魚介類の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書5章P87～96を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第11回	卵類、牛乳・乳製品の調理 ※パワーポイント使用	予習：教科書5章P97～106を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第12回	油脂類の調理 ゲル化剤（ゼラチン・寒天）の調理性 ※パワーポイント使用	予習：教科書6章P109～114を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第13回	ゲル化剤・とろみ剤の調理特性 嗜好飲料の調理科学 ※パワーポイント使用	予習：教科書7章P117～129、9章P143～146を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第14回	調味料・香辛料の調理性 ※パワーポイント使用	予習：教科書8章P131～141を読んでおく 復習：確認テストを見直し、学習した内容をまとめる	A
第15回	料理様式別の食事構成 まとめ	予習：教科書10章P149～165を読んでおく 復習：学習した内容をまとめる	A
	定期試験		

調理実習Ⅰ

更新日：2024/02/21 13:37:45

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B117200	授業コード		
担当教員	高木 恵美子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	4L223	授業形態	実習	期待される学習成果	4			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	45					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	健康的で豊かな食生活を営むための基本的な知識・調理技術を身に付ける。 安全に調理するための衛生管理について学ぶ。
方法	1グループ3～4人程度で各回のテーマを中心に調理を行い、実習ノートを作成する。

到達目標

1	真剣に授業に取り組み、積極的に実習することができる
2	学習したことについてまとめることができる
3	調理実習の技術を身に付けることができる
4	実習内容についてまとめることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	身だしなみ・実習態度	10
到達目標②	レポート	20
到達目標③	実習態度	20
到達目標④	実習ノート	50
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	こちらで用意した【調理実習Ⅰノート】		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じ紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業後 研究室2-1

学生へのメッセージ

身だしなみ・実習態度の評価基準と方法については、第1回目の授業で説明する。

課題に対するフィードバック

提出された実習ノートは、添削して返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション	予習：調理実習の衛生管理について考えておく 復習：実習にあたっての注意点をまとめる	A、B

第2回	基本的な切り方 炊飯・出し汁の取り方	予習：実習ノート「基本の切り方」を読み、実践してみる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第3回	日本料理：白飯・汁物・煮物・酢の物	予習：実習ノート「実習1」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第4回	日本料理：白飯・汁物・焼き物・和え物	予習：実習ノート「実習2」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第5回	日本料理：丼物・汁物・煮物・寄せ物	予習：実習ノート「実習3」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第6回	日本料理：味付けご飯・汁物・焼き物・寄せ物	予習：実習ノート「実習4」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第7回	日本料理：白飯・汁物・揚げ物・寄せ物	予習：実習ノート「実習5」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第8回	日本料理：すし飯・汁物・寄せ物	予習：実習ノート「実習6」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第9回	日本料理：冷やしそうめん・揚げ物・和え物	予習：実習ノート「実習7」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第10回	中国料理：湯菜・拌菜・炒菜・甜茶	予習：実習ノート「実習8」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第11回	中国料理：炒菜・湯菜・炒菜・甜茶	予習：実習ノート「実習9」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第12回	西洋料理：スープ・魚料理・野菜料理・デザート	予習：実習ノート「実習10」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第13回	自由課題（メニュー選定）	予習：実習内容を踏まえたメニューを考えてく 復習：自由献立の内容をまとめる	B
第14回	自由課題	予習：自由献立の作業手順、ポイントをまとめてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第15回	質問・まとめ	予習：実習を終えた感想や反省点を考えてくる 復習：実習ノートにまとめて提出する	A、B
	実施せず		

調理実習Ⅱ

更新日：2024/02/21 13:33:08

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B117300	授業コード		
担当教員	高木 恵美子							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	3L224	授業形態	実習	期待される学習成果	3			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	45					
		履修条件・留意点	実習費として6,000円が必要です。					
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	健康的で豊かな食生活を営むための基本的な知識・調理技術を身に付ける。 安全に調理するための衛生管理について学ぶ。 日本料理・中国料理・西洋料理およびその他日本に定着しつつある世界各国の代表的な料理をとりあげ、基本的な実習を行う。
方法	1グループ3～4人程度で各回のテーマを中心に調理を行い、実習ノートを作成する。

到達目標

1	真剣に授業に取り組み、積極的に実習することができる
2	学習したことについてまとめることができる
3	調理実習の技術を身に付けることができる
4	実習内容についてまとめることができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	身だしなみ・実習態度	10
到達目標②	レポート	20
到達目標③	実習態度	20
到達目標④	実習ノート	50
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	こちらで用意した【調理実習Ⅱノート】		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	必要に応じ紹介する		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業終了後 研究室2-1

学生へのメッセージ

身だしなみ・実習態度の評価基準と方法については、第1回目の授業で説明する。

課題に対するフィードバック

提出された実習ノートは、添削して返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション	予習：調理実習の衛生管理について考えておく 復習：実習にあたっての注意点をまとめる	A、B

第2回	日本料理：丼物・汁物・和え物	予習：実習ノート「実習1」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第3回	日本料理：白飯・汁物・焼き物・和え物	予習：実習ノート「実習2」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第4回	日本料理：秋の献立	予習：実習ノート「実習3」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第5回	中国料理：鍋貼餃子・冬茹炒青梗菜・川鶴鵝蛋	予習：実習ノート「実習4」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第6回	中国料理：麻婆豆腐・乾炸鶏塊・腐竹清湯	予習：実習ノート「実習5」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第7回	韓国料理：ピビンバ・チゲ・ホットク	予習：実習ノート「実習6」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第8回	イタリア料理：ピッツァ・ミネストローネ・ティラミス	予習：実習ノート「実習7」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第9回	スペイン料理：パエリア・オムレツ・サングリア	予習：実習ノート「実習8」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第10回	インド料理：キーマカレー・ナン・ラッシュー	予習：実習ノート「実習9」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第11回	西洋料理：スープ・肉料理・野菜料理・デザート	予習：実習ノート「実習10」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第12回	西洋料理：オープン料理	予習：実習ノート「実習11」を読んてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第13回	自由課題（メニュー選定）	予習：実習内容を踏まえたメニューを考えてくる 復習：自由献立の内容をまとめる	B
第14回	自由課題	予習：自由献立の作業手順、ポイントをまとめてくる 復習：実習した内容をノートにまとめる	B
第15回	質問・まとめ	予習：実習を終えた感想や反省点を考えてくる 復習：実習ノートにまとめて提出する	A
	実施せず		

フードコーディネート論

更新日：2024/02/21 10:13:19

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B117400	授業コード	
担当教員	水野 早苗						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	3L223	授業形態	講義	期待される学習成果	8		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	食に関するさまざまな場面において必要な「もてなしの心」を理解し、周りの人が満足できる食の環境を演出する知識や技術を学ぶ。						
方法	講義を主とする。講義はパワーポイントを使用し、時にはDVD視聴もする。 最後に各自で取り組んだ課題について、発表・意見交換する。 毎授業後、Teamsを使って授業内容について感想や質問を提出してもらい、それをもとに次回振り返りをする。						

到達目標

1	フードコーディネートについて、基本的な内容を理解できる
2	課題に対して真剣に取り組み、作り上げることができる
3	授業に真剣に取り組むことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験	60
到達目標②	課題（食の企画）	30
到達目標③	毎回の授業に対する記述内容	10
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	三訂 フードコーディネート論	建帛社	日本フードスペシャリスト協会

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

金曜日1限（研究室2-1）
E-mail：s-mizuno@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

授業に使用する資料は予めTeamsにアップするので、予習復習に活用して欲しい。

課題に対するフィードバック

定期試験の答案用紙および課題レポートは、採点后返却する

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	フードコーディネートの基本理念：パワーポイント使用	予習：テキストp.2～13まで読んで、内容を理解してくる 復習：フードコーディネートの基本理念についてまとめる	A
第2回	食事の文化ー食のタブーと宗教、日本の食事の歴史ー：パ	予習：テキストp.15～27まで読んで、内容を理解する	A

	ワーポイント使用	復習：縄文時代からの食生活の変遷をまとめる	
第3回	食事の文化ー外国の食事ー：パワーポイント使用	予習：テキストp.27～33まで読んで、内容を理解する 復習：他国の食生活の特色についてまとめる	A
第4回	食卓のコーディネートー日本料理ー：パワーポイント使用	予習：テキストp.35～43まで読んで、内容を理解する 復習：日本料理のコーディネートについてまとめる	A
第5回	食卓のコーディネートー中国料理、西洋料理ー：パワーポイント使用	予習：テキストp.43～55まで読んで、内容を理解する 復習：中国料理、西洋料理のコーディネートについてまとめる	A
第6回	食卓のサービスとマナーー日本料理、中国料理ー：パワーポイント使用	予習：テキストp.57～69まで読んで、内容を理解してくる 復習：日本各地の食の特色をまとめる	A
第7回	食卓のサービスとマナーー西洋料理、パーティほかー：パワーポイント使用	予習：テキストp.69～80まで読んで、内容を理解する 復習：西洋料理、パーティについてまとめる	A
第8回	メニュープランニングの要件：パワーポイント使用	予習：テキストp.81～86まで読んで、内容を理解する 復習：メニュープランニングについてまとめる	A
第9回	メニュープランニングーメニュー開発の基礎ー：パワーポイント使用	予習：テキストp.87～98まで読んで、内容を理解する 復習：メニュー開発についてまとめる	A
第10回	食空間のコーディネート：パワーポイント使用	予習：テキストp.99～117まで読んで、内容を理解する 復習：食空間コーディネートについてまとめる	A
第11回	キッチンのコーディネート：パワーポイント使用：パワーポイント使用	予習：テキストp.118～121まで読んで、内容を理解する 復習：キッチンコーディネートについてまとめる	A
第12回	フードサービスマネジメントー基本ー：パワーポイント使用	予習：テキストp.123～129まで読んで、内容を理解する 復習：フードマネジメントについてまとめる	A
第13回	フードサービスマネジメントー企業、投資計画ほかー：パワーポイント使用	予習：テキストp.129～143まで読んで、内容を理解する 復習：フードマネジメント（企業）についてまとめる	A
第14回	各自で食企画を考え、チラシを作成する：ノートパソコン使用	予習：テキストp.145～162まで読んで、食企画を考える 復習：食企画の実践について考え、まとめる	A
第15回	食企画 発表と意見交換	予習：発表の準備 復習：テキスト全体を読んで見直し、理解する	A,D
	定期試験		

元気な子どもを育てる食事（食物アレルギーを含む。）

更新日：2024/02/21 10:15:46

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B117510	授業コード	
担当教員	水野 早苗						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	3L224	授業形態	講義	期待される学習成果	3		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	15+30				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	子どもの正しい食事のあり方について、日常の問題を取り上げながら学ぶ。また、食物アレルギーについて、発症の仕組みや家庭での正しい対応の仕方について学ぶ。
方法	講義、ワーク、ディスカッション、調理実習で構成する。講義にはパワーポイントやDVDを使用する。 毎授業後、Teamsを使って授業内容について感想や質問を提出してもらい、それをもとに次回振り返りをする。

到達目標

1	子どもの健康に必要な食生活のあり方について自分の意見をまとめ、記述できる
2	学んだことを振り返り、今後の生かし方について考え、まとめることができる
3	授業に真剣に取り組むことができる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	課題レポート	50
到達目標②	振り返りシート	30
到達目標③	毎回の授業に対する記述内容	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	使用しない		

オープンな教育リソース

食物アレルギーを動画で学ぶ部屋（藤田医科大学総合アレルギーセンター）<http://www.fujita-hu.ac.jp/general-allergy-center/information-station/movies/index.html>

オフィスアワー

金曜日1限（研究室2-1）
E-mail：s-mizuno@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

課題レポートおよび振り返りシートは、採点后返却する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	子どもの食生活の現状：パワーポイント使用	予習：子どもの食生活の現状について調べる 復習：子どもの食生活の現状についてまとめる	A
第2回	乳幼児の食事（離乳食の進め方）：DVD使用	予習：離乳食の進め方について調べる	A

		復習：離乳食の正しい進め方についてまとめる	
第3回	乳幼児の食事（幼児の食事と間食）	予習：幼児の食事の注意点を調べる 復習：幼児の間食の意義と与え方についてまとめる	A
第4回	食物アレルギー：パワーポイント使用	予習：食物アレルギーの原因食材と症状について調べる 復習：食物アレルギーについてまとめる	A
第5回	食物アレルギー：動画の検査法についてディスカッション	予習：食物アレルギーに関する動画を視聴し理解する 復習：食物アレルギーの検査法についてまとめる	A,B
第6回	子どもの疾病と食事：パワーポイント使用	予習：子どもが罹りやすい病気について調べる 復習：疾病に対する食事の内容についてまとめる	A
第7回	調理実習（食育：子どもと一緒に作るおやつ）	予習：調理実習の予習 復習：授業の内容についてまとめる	A,B
第8回	まとめ（振り返りシートを提出） ：ノートパソコン使用	予習：この授業で学んだことを振り返ってみる 復習：授業全体についてまとめる	
第9回	実施せず		
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

発達心理学

更新日：2024/01/29 19:28:02

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B117600	授業コード	
担当教員	杉山 佳菜子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	6L212	授業形態	講義	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	発達研究の基礎、発達の規定因について概説します。また、認知、感情、社会性、自己と他者の各領域において、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、中年期、老年期と生涯発達のあらましと各発達段階における課題を説明します。さらに、発達障がい等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方を取り上げます。
方法	講義が中心となるが、グループ討議を適宜実施する。また、毎回の授業の終わりに授業内容を振り返る簡単な課題を課す。この課題もレポート課題と同様、最終評価に反映される。予習課題の設問はオンラインで配信される。

到達目標

1	胎児期から老年期までの各発達段階の特徴と環境が与える影響を理解する。
2	それぞれの発達段階にある課題を理解し、その対応について考えることができる。
3	発達障がいや各種疾患の非定型発達について理解し、その支援について考えることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	定期試験および小テスト	60
到達目標②	小テスト・レポート課題	20
到達目標③	小テスト・レポート課題	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

心理学ミュージアム <https://psychmuseum.jp/>高校生のための心理学講座 You Tube版 https://psych.or.jp/interest/lecture_hs/

オフィスアワー

火曜日の5時限（1号館3階研究室）

学生へのメッセージ

授業で扱ったトピックについての参考資料は授業内で提示するので、興味を持った内容については積極的に学びを深めてもらいたい。毎回授業の最後に内容についての振り返り課題を課す。その際、ICTを活用することを推奨するが、意見を求められた際には、自分で感じたことや考えたことを自分の言葉で考えを述べることを評価する。

課題に対するフィードバック

提出された課題の回答や質問に対しては次回授業時に時間をとって対応する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	イントロダクション、発達とは（発達研究法、発達段階、横断的研究と縦断的研究、コホート）	予習：シラバスの内容を確認しておく 復習：授業内容に関連した事項を一つ選び、文献やインターネットで調べて小レポートを作成する	
第2回	発達に影響するもの－遺伝と環境（生物学的基礎、主働遺伝子、多働遺伝子、双生児研究、いろいろな学習）	予習：発達に遺伝と環境がどのように影響しているのか、これまでの研究を調べる。 復習：授業の内容を踏まえ、子どもの発達を促す環境を考える。	
第3回	胎児期－生まれる前の発達（胎児発達、臓器形成の臨界期、胎児期アルコール症候群、胎児期ストレス）	予習：新生生前診断について調べ、自分の意見をまとめておく。 復習：胎児期の発達の特徴を自分なりにまとめる。	A
第4回	乳児期－親子からの出発（新生児の認知能力、感情の分化、母子相互作用、愛着の形成と愛着タイプ）	予習：心理学ミュージアム「柔らかな肌触りは安心する」の資料を見て、設問に答える。 復習：ここまでの学びを振り返り、小テストの勉強をする。	B
第5回	幼児期1－イメージの世界（環境移行、前操作的思考、自己中心的思考、心の理論、満足遅延） 小テスト①	予習：心理学ミュージアム「心の理論」の発達」の資料を見て、設問に答える。 復習：ピアジェの認知発達理論についてまとめる。	
第6回	幼児期2－社会の拡がり（第一反抗期、自己主張と反抗、自己認知、仲間関係）	予習：心理学ミュージアム「よい人間関係を築く」の資料を見て、設問に答える。 復習：子ども同士の関わりが社会性に与える影響を整理する。	A
第7回	児童期1－他者視点の取得（具体的操作期、分数の計算、9歳の壁、知識の発達、内発的動機づけ）	予習：内発的動機づけと外発的動機づけについて調べ、自分の動機づけの高め方を考える。 復習：ここまでの学びを振り返り、小テストの勉強をする。	
第8回	児童期2－社会性の発達（友人関係、学級集団、ソシオメトリック・テスト、自己意識と自尊心） 小テスト②	予習：ソシオメトリックテストについて調べ、長所と短所をまとめる。 復習：小テスト①と小テスト②の結果をみて、自分の理解不足の部分について、学修する。	C
第9回	青年期1－破壊と創造(思春期、第二性徴、自我同一性、モラトリアム、引きこもり)	予習：アイデンティティとは何かを調べ、自分のアイデンティティについて考察する。 復習：青年期の危機との向き合い方について、自分の考えをまとめる。	C
第10回	青年期2－論理的思考（親子関係、疎外感、学校ストレス、形式的操作期、受験勉強と学習方略）	予習：高校生のための心理学講座YouTube版「ストレスと上手につきあおう！：心理学におけるストレス理論導入編」を視聴し、設問に答える。 復習：青年期の心の揺れについて、授業内容をまとめる。	B
第11回	成人期－独立の時期（社会的自立、人格の変容、結婚と夫婦関係、職業発達） 小テスト③	予習：自分のキャリアデザインを考える。 復習：ここまでの学びを振り返り、小テストの勉強をする。	
第12回	中年期－午後の陽差しの中で（知的発達、キャッテル・ホーン理論、家族の発達、ストレスと楽しみ）	予習：中年期の危機にはどのようなものが挙げられるか、調べる。 復習：中年期の危機との向かい方について、自分の考えをまとめる。	
第13回	老年期－人生を考える（老化、発達課題、ソーシャルサポート、社会的コンポイ、死の準備教育）	予習：心理学ミュージアム「お年寄りは幸せ？」の資料を見て、設問に答える。 復習：講義内容を踏まえ、自分のサクセスフルエイジングについて考える。	C
第14回	発達障がいとは（ASD、ADHD、LDなど）	予習：高校生のための心理学講座YouTube版「発達障がいの臨床心理学」を視聴し、設問に答える。 復習：ここまでの学びを振り返り、小テストの勉強をする。	
第15回	まとめ 小テスト④	予習：ここまでの14回の授業内容のポイントを整理する。 復習：定期試験に備え、本講義の学びをまとめる。	
	定期試験		

養護実践演習（保健管理）

更新日：2024/02/28 15:08:24

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B117700	授業コード		
担当教員	渡辺 美恵							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	7L223	授業形態	演習	期待される学習成果	7			
コース別 必修・選択必修等	授業時間+自習時間	30+15						
	履修条件・留意点	養護教諭免許取得希望者に限る						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、学校保健に関する様々な養護活動について実践的な演習や模擬授業の実施を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、学校保健の推進と養護活動の実践に生かすことができる。						

授業概要

内容	保健管理を実践的に学び、養護教諭として様々な人や機関との連携により推進される学校保健活動に対応できる力を養う。
方法	健康診断、健康観察、学校環境衛生などの具体的な養護活動の演習を中心に行う。

到達目標

1	現代的な健康課題について理解し、保健管理に活用することができる。
2	適切な保健管理について理解し、学校保健活動を実践することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業プリント及び作成資料（健康観察、健康状態の評価など）	30
到達目標②	授業プリント及び作成資料（健康診断、学校環境衛生など）	70
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論—理論と実践—	東山書房	岡田加奈子他
2	新版・養護教諭 執務のてびき 第10版	東山書房	石川県養護教諭研究会編
3	養護教諭の活動の実際 第3版	東山書房	静岡県養護教諭研究会編
4	学校保健実務必携	第一法規	学校保健・学校安全実務研究会編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	学校保健の課題とその対応—令和2年度改訂—		日本学校保健会

オープンな教育リソース

応用版 子供の健康管理プログラム 平成27年度版 (公財) 日本学校保健会推薦 <https://www.shobix.co.jp/paru/>

オフィスアワー

月曜日 9:00~12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

毎授業回貸与パソコンを準備してくること。
授業においては、提出期限を設けて課題の提出を求める。期限を過ぎてからの提出は受け付けない。
何らかの理由で授業を欠席した場合においても、指定した課題の提出や実技（演習）は必須とする。

課題に対するフィードバック

提出を求めるレポート等の課題には、評価を行うとともにコメントを付けるなどしてフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	学校保健目標と学校保健計画	予習：教科書2第2章を読む 復習：授業プリントを整理する	
第2回	健康観察における養護教諭の役割	予習：教科書1P145-146, 教科書2P109-115を読む 復習：授業プリントを整理する	A
第3回	健康観察結果の活用 *PCを活用して健康観察結果の集計表を作成する	予習：教科書1P146-148を読む 復習：授業プリントを整理する	A
第4回	特別な状況における健康観察 *PCを活用して, 文書の作成をする	予習：教科書1P148-152, 2P115-117を読む 復習：授業プリントを整理する	A
第5回	定期健康診断の実施計画 *PCを活用して, 実施計画を作成する	予習：教科書1P153-155, 教科書2P160-162を読む 復習：実施計画を完成させる(提出×切: 授業内で指示)	A
第6回	健康診断の各種測定や検査の方法	予習：教科書4P192-248を復習する 復習：授業プリントを整理する	C
第7回	健康診断結果の記録 健康診断票(一般)への記載	予習：教科書4P280-284を復習する 復習：授業プリントを整理する	A
第8回	健康診断結果の記録 健康診断票(歯・口腔)への記載	予習：教科書4P280-284を復習する 復習：授業プリントを整理する	A
第9回	健康診断結果のまとめ 結果の扱い方	予習：教科書2P154-157を読む 復習：授業プリントを整理する	A
第10回	健康診断結果のまとめ 統計処理の方法(学校保健統計)	予習：教科書2P154-157を読む 復習：授業プリントを整理する	A
第11回	健康診断結果の通知 *PCを活用して, 成長曲線を作成する	予習：教科書4P266-272を復習する 復習：授業プリントを整理する	A
第12回	学校環境衛生定期検査の実施	予習：教科書2第9章を読む 復習：授業プリントを整理する	D
第13回	学校環境衛生日常点検の実施	予習：教科書2第9章を読む 復習：授業プリントを整理する	D
第14回	学校環境衛生検査の実際と組織活動の推進(実技) *PCを活用して, 保健だよりを作成する	予習：学校環境衛生検査の実施方法を復習する 復習：授業プリントを整理する	D
第15回	学校環境衛生活動の事後措置	予習：教科書2第9章を読む 復習：授業プリントを整理する	A
	実施せず		

養護実践演習（保健教育）

更新日：2024/02/28 15:08:01

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B117800	授業コード		
担当教員	渡辺 美恵							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	7L223	授業形態	演習	期待される学習成果	7			
コース別 必修・選択必修等	授業時間+自習時間			30+15				
	履修条件・留意点	養護教諭免許取得希望者に限る						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、学校保健に関する様々な養護活動について実践的な演習や模擬授業の実施を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、学校保健の推進と養護活動の実践に生かすことができる。						

授業概要

内容	保健教育を実践的に学び、養護教諭として様々な人や機関との連携により推進される学校保健活動に対応できる力を養う。
方法	具体的な養護活動の演習を中心に、指導案の作成や模擬授業等を行う。

到達目標

1	現代的な健康課題を理解し、保健教育に応用することができる。
2	指導案および教材を作成し、健康教育を実践することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	中学校の保健体育（保健分野）学習内容マップ	30
到達目標②	指導案・指導資料・模擬授業	70
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論—理論と実践—	東山書房	岡田加奈子他
2	新版・養護教諭 執務のてびき 第10版	東山書房	石川県養護教諭研究会編
3	養護教諭の活動の実際 第3版	東山書房	静岡県養護教諭研究会編
4	学校保健実務必携	第一法規	学校保健・学校安全実務研究会編
5	新版 中学校保健体育	大日本図書	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	学校保健の課題とその対応—令和2年度改訂—		日本学校保健会

オープンな教育リソース

がん教育推進のための教材 補助教材 文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm

オフィスアワー

月曜日 9:00~12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

毎授業回貸与パソコンを準備してくること。
授業においては、提出期限を設けて課題の提出を求める。期限を過ぎてからの提出は受け付けない。
何らかの理由で授業を欠席した場合においても、指定した課題の提出や模擬授業の実施は必須とする。

課題に対するフィードバック

提出を求めるレポート等の課題には、評価を行うとともにコメントを付けるなどしてフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	教科における保健教育Ⅰ 保健学習の内容	予習：教科書 1P179-184を読む 復習：学習指導要領解説を読む	
第2回	教科における保健教育Ⅱ 内容マップの作成	予習：中学校学習指導要領解説の保健分野を熟読する 復習：キーワードや内容の抽出をし、マップのイメージをもつ	
第3回	教科における保健教育Ⅲ 内容マップの作成	予習：内容マップを作成する 復習：内容マップを完成させる（提出×切：授業内に指示）	
第4回	特別活動における保健指導Ⅰ 指導案作成 ＊図書館やPCを活用して資料を収集する	予習：教科書 1P184-187を読む 復習：必要な資料等の収集をする	D
第5回	特別活動における保健指導Ⅱ 指導案作成 ＊PCを活用して、指導案を作成する	予習：指導案の作成方法を復習する 復習：指導案の作成をする	D
第6回	特別活動における保健指導Ⅲ 教材作成 ＊PCを活用して、指導案を完成させる また、教材を作成する	予習：指導案の作成方法を復習する 復習：指導案を完成させる（提出×切：次の授業の前日）	D
第7回	特別活動における保健指導Ⅳ 模擬授業	予習：模擬保健指導の準備をする 復習：模擬保健指導の実施による学びを整理する	D
第8回	がん教育の推進Ⅰ 指導資料の作成	予習：文部科学省HPを閲覧する（ https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1370005.htm ） 復習：PowerPointを活用し資料を作成する	C
第9回	がん教育の推進Ⅱ 指導資料の作成	予習：文部科学省HPを閲覧する（ https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1370005.htm ） 復習：PowerPointを活用し資料を作成する	C
第10回	がん教育の推進Ⅲ 指導資料の完成	予習：文部科学省HPを閲覧する（ https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1370005.htm ） 復習：PowerPointを活用し資料を完成させる	B
第11回	教科における保健教育Ⅳ 指導案作成 ＊図書館やPCを活用して資料を収集する	予習：指導案の作成方法を復習する 復習：指導案を作成する	D・B
第12回	教科における保健教育Ⅴ 指導案作成 ＊PCを活用して、指導案を作成する	予習：指導案の作成方法を復習する 復習：指導案を完成させる（提出×切：次の授業の前日）	D・B
第13回	教科における保健教育Ⅵ 教材作成 ＊PCを活用して、指導案や教材を作成する	予習：指導案を完成させ、教材を準備する 復習：模擬授業の準備をする	D・B
第14回	教科における保健教育Ⅶ 模擬授業	予習：模擬授業の準備をする 復習：模擬授業の実施による学びを整理する	D・B
第15回	教科における保健教育Ⅷ 模擬授業	予習：模擬授業の準備をする 復習：模擬授業の実施による学びを整理する	D・B
	実施せず		

養護実践演習（保健組織活動）

更新日：2024/02/28 15:09:03

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B117900	授業コード		
担当教員	渡辺 美恵							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース						
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1		
科目ナンバー	7L223	授業形態	演習	期待される学習成果	7			
コース別 必修・選択必修等	授業時間+自習時間		30+15					
	履修条件・留意点		養護教諭免許取得希望者に限る					
実務経験のある教員による授業科目の配置	。 養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、学校保健に関する様々な養護活動について実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、学校保健の推進と養護活動の実践に生かすことができる。							

授業概要

内容	保健組織活動を実践的に学び、養護教諭として様々な人や機関との連携により推進される学校保健活動に対応できる力を養う。
方法	学校保健委員会、児童生徒委員会活動などの具体的な養護活動の演習を中心に行う。

到達目標

1	健康課題の把握から解決までのプロセスを具体的に述べることができる。
2	保健組織活動の運営案および資料を工夫することができる。
3	学校保健活動の推進に応用することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	模擬学校保健委員会の発表の成果および作成資料	20
到達目標②	成果物（学校保健委員会運営案及び資料・児童生徒保健委員会計画）	60
到達目標③	演習への取組状況（模擬学校保健委員会）・学校安全への取組状況	20
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論—理論と実践—	東山書房	岡田加奈子他
2	新版・養護教諭 執務のてびき 第10版	東山書房	石川県養護教諭研究会編
3	養護教諭の活動の実際 第3版	東山書房	静岡県養護教諭研究会編
4	学校保健実務必携	第一法規	学校保健・学校安全実務研究会編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	学校保健の課題とその対応—令和2年度改訂—		日本学校保健会

オープンな教育リソース

教職員のための学校安全eラーニング 文部科学省 <https://anzenyouiku.mext.go.jp/learning/index.html>

オフィスアワー

月曜日 9:00~12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

毎授業回ノートPCを準備してくること。

授業においては、提出期限を設けて課題の提出を求める。期限を過ぎてからの提出は受け付けない。

何らかの理由で授業を欠席した場合においても、指定した課題の提出や実技（演習）は必須とする。

課題に対するフィードバック

提出を求める課題には、評価を行うとともにコメントを付けるなどしてフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	これからの学校保健委員会	予習：教科書2P93-100を読む 復習：学校保健委員会の運営について考える	B
第2回	学校保健委員会の実際	予習：既習事項の復習をする 復習：学校保健委員会の運営について考える	B・D
第3回	地域や外部機関との連携	予習：既習事項の復習をする 復習：学校保健委員会の運営について考える	A
第4回	学校保健委員会の計画 年間計画案の作成 ＊図書館やPCを利用し資料を収集する	予習：教科書2P93-100を読む 復習：年間計画案を作成する	A
第5回	学校保健委員会の提案 提案文書の作成Ⅰ ＊PCを活用して、提案文書を作成する	予習：提案文書の作成について考える 復習：提案文書を作成する	A
第6回	学校保健委員会の提案 提案文書の作成Ⅱ ＊PCを活用して、資料を作成する	予習：提案文書を作成する 復習：提案文書を完成させる	A
第7回	学校保健委員会の提案 運営案の作成Ⅰ ＊図書館やPCを利用し資料を収集する	予習：運営案の作成について考える 復習：運営案を作成する	A
第8回	学校保健委員会の提案 運営案の作成Ⅱ ＊PCを活用して、運営案を作成する	予習：運営案の作成について考える 復習：運営案を作成する	A
第9回	学校保健委員会運営準備 資料の作成 ＊PCを活用して、資料を作成する	予習：必要な資料について考える 復習：資料を作成する	A
第10回	学校保健委員会の運営Ⅰ	予習：実際の運営について流れを考える 復習：運営案などを再修正する	
第11回	学校保健委員会の運営Ⅱ	予習：実際の運営について流れを考える 復習：運営案などを再修正する	
第12回	学校保健委員会の事後の取組Ⅰ ＊PCを活用して、資料を作成する	予習：事後の取組内容について考える 復習：必要な資料を作成する	A
第13回	学校保健委員会の事後の取組Ⅱ ＊PCを活用して、資料を作成する	予習：事後の取組内容について考える 復習：学校保健委員会開催のための資料を完成させる（提出×切は授業内で指示）	A
第14回	学校安全に関する教職員の組織活動Ⅰ ＊PCを活用してeラーニングに取り組む	予習：教科書4P983-1154を読む 復習：授業プリントを整理する	A
第15回	学校安全に関する教職員の組織活動Ⅱ ＊PCを活用してeラーニングに取り組む	予習：教科書4P983-1154を読む 復習：授業プリントを整理する	A
	実施せず		

養護実践演習（保健室経営）

更新日：2024/02/28 15:07:33

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B118000	授業コード	
担当教員	渡辺 美恵						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	1.0	
科目ナンバー	7L224	授業形態	演習	期待される学習成果	7		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点	養護教諭免許状取得希望者に限る				
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、保健室経営について実践的な演習を取り入れた授業を行う。この授業における学びは、卒業後、養護教諭として行う保健室経営に生かすことができる。					

授業概要

内容	保健管理・保健教育・保健組織活動・保健室経営・健康相談を実践的に学び、養護教諭が行う保健室経営のあり方について追求する。保健室経営にあたるための実践力を養う。
方法	配付するプリントに基づき講義を行うとともに、具体的な養護活動の演習を行うことで、実際の保健室経営のあり方について学ぶ。

到達目標

1	児童生徒の健康課題を把握し、養護教諭として保健室経営に生かすことができる。
2	適切な保健管理や保健教育を実施できるよう、資料作成や教材作成等を工夫することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業への参加意欲と態度，授業内での制作物	50
到達目標②	授業内での制作物，演習	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論—理論と実践—	東山書房	岡田加奈子他
2	新版・養護教諭 執務のてびき 第10版	東山書房	石川県養護教諭研究会編
3	養護教諭の活動の実際 第3版	東山書房	静岡県養護教諭研究会編
4	学校保健実務必携	第一法規	学校保健・学校安全実務研究会編

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	特になし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

月曜日 9:00~12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

授業内で様々な資料等を作成する。卒業後、養護教諭として働くための、即戦力となれるように準備するつもりで受講すること。

課題に対するフィードバック

授業内で作成した資料等については、評価を行いフィードバックする。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	養護実習で学んだ保健室経営の実際	予習：養護実習を振り返り意見を整理しておく 復習：必要な資料等の収集をする	B

第2回	健康観察の具体的な実施	予習：養護実習を振り返り意見を整理しておく 復習：必要な資料等の収集をする	B
第3回	職員会議等での提案	予習：養護実習を振り返り意見を整理しておく 復習：必要な資料等の収集をする	B
第4回	子どもへの対応方法と連絡・報告	予習：養護実習を振り返り意見を整理しておく 復習：必要な資料等の収集をする	B
第5回	保健だよりづくりⅠ テーマ：年度初め ＊PCを使用	予習：必要な資料等の収集をする 復習：保健だよりを完成させる	D
第6回	保健だよりづくりⅡ テーマ：健康診断 ＊PCを使用	予習：必要な資料等の収集をする 復習：保健だよりを完成させる	D
第7回	保健だよりづくりⅢ テーマ：熱中症予防 ＊PCを使用	予習：必要な資料等の収集をする 復習：保健だよりを完成させる	D
第8回	保健だよりづくりⅣ テーマ：歯と口腔の健康づくり ＊PCを使用	予習：必要な資料等の収集をする 復習：保健だよりを完成させる	D
第9回	掲示物づくりⅠ 構想図を描く	予習：必要な資料等の収集をする 復習：資料や材料を準備する	D
第10回	掲示物づくりⅡ 必要な材料の収集と制作	予習：みずほゼミⅠでの学びを確認する 復習：掲示物を作成する	D
第11回	掲示物づくりⅢ 制作	予習：掲示物を作成する 復習：掲示物を作成する	D
第12回	掲示物づくりⅣ 制作	予習：掲示物を作成する 復習：掲示物を完成させる	D
第13回	校内研修の推進者として	予習：養護実習を振り返り意見を整理しておく 復習：必要な資料等の収集をする	B
第14回	養護教諭としての研修と研究	予習：養護実習を振り返り意見を整理しておく 復習：必要な資料等の収集をする	B
第15回	引き継ぎ時に確認しておくべきこと	予習：養護実習を振り返り意見を整理しておく 復習：必要な資料等の収集をする	B
	実施せず		

養護教諭基礎演習

更新日：2024/02/28 15:09:31

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B118100	授業コード	
担当教員	渡辺 美恵 鷺野 嘉映 矢野 由紀子						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	2L211	授業形態	演習	期待される学習成果	2		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、教職に必要な基礎知識や技術を身につけさせる授業を行う。この授業における学びは、教員採用試験に対して力を発揮することにつながる。					

授業概要

内容	養護教諭をめざし、基礎知識や技術を身につけるとともに、教員採用試験に向けた問題や実技の演習に取り組むことで、基礎的な能力を身につける。さらに、教員採用試験対策に対する意欲を向上させるとともに、自己学習の習慣を定着させる。		
方法	教科書を用いて教員採用試験の問題演習に取り組む。授業内で確認テストを重ねながら基礎的な能力を確実に身につけるようにする。内容によって、ディスカッション、実技演習などにも取り組む。		

到達目標

1	養護教諭に求められる基礎知識を説明することができる。
2	教員採用試験に向けての学習計画を明確にし、積極的に自己学習に取り組むことができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	確認テスト・授業に対する意欲と態度	40
到達目標②	自己学習ノート	60
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	看護学校入学前ドリル	照林社	菊地 よしこ
2	専門教養Build Upシリーズ 25年度養護教諭の完全攻略	時事通信社	
3	Pass Line突破シリーズ 25年度一般教養30日完成	時事通信社	
4	Pass Line突破シリーズ 25年度教職教養30日完成	時事通信社	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	教員採用試験 ステップアップ問題集11 専門教科養護教諭	東京アカデミー	

オープンな教育リソース

オフィスアワー

【鷺野】月曜日 12:10～12:55 研究室2-2

【渡辺】月曜日 9:00～12:00 研究室2-3

【矢野】月曜日・火曜日 9:00～10:30 研究室2-3

学生へのメッセージ

基礎的な知識を定着させるとともに、並行して養護教諭専門科目や教職関連科目の内容の自己学習を進める。教員採用試験に向けて、着実に力をつけていけるように取組を積み重ねていくことが大切である。

課題に対するフィードバック

確認テストは、解答の説明を加えてフィードバックさせる。また、学習ノートは、期限を示しながら定期的に提出を求める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	養護教諭採用試験とは	予習：高等学校までの学習到達度を確認する 復習：養護教諭採用試験までのタイムスケジュールを作成する	
第2回	入学前学習課題の確認	予習：入学前学習課題の内容を整理する 復習：学習した内容をまとめる	C
第3回	入学前学習課題の確認	予習：入学前学習課題の内容を整理する 復習：学習した内容を整理する	C
第4回	看護に必要な基礎知識【国語編①】	予習：教科書1、P2～P3の問題を解き意味を調べる 復習：学習した内容を整理する	C
第5回	看護に必要な基礎知識【国語編②】	予習：教科書1、P4～P5の問題を解き意味を調べる 復習：学習した内容を整理する	C
第6回	看護に必要な基礎知識【数学編】	予習：教科書1、P20～P31の問題を解く 復習：学習した内容を整理する	C
第7回	看護に必要な基礎知識【理科編①】	予習：教科書1、P36～P43の問題を解きわからないところを調べる 復習：学習した内容を整理する	C
第8回	看護に必要な基礎知識【理科編②】	予習：教科書1、P44～P51の問題を解きわからないところを調べる 復習：学習した内容を整理する	C
第9回	看護に必要な基礎知識【地歴・公民編】	予習：教科書1、P54～P77の問題を解きわからないところを調べる 復習：学習した内容を整理する	C
第10回	教員採用試験の動向	予習：教養科目の進捗状況を確認する 復習：目指す自治体の試験内容をまとめる	
第11回	学校保健・学校安全	予習：教科書2を活用しながら自学をすすめる 復習：学校保健・学校安全の問題に挑戦する	
第12回	養護教諭の職務、学校保健関係職員 保健室、健康観察	予習：教科書2を活用しながら自学をすすめる 復習：養護教諭の職務、学校保健関係職員、保健室、健康観察の問題に挑戦する	
第13回	一般教養・教職教養の進捗状況の確認	予習：教科書全ての内容を再確認する 復習：自分の弱点項目を再学習する	
第14回	健康診断 学校環境衛生	予習：教科書2を活用しながら自学をすすめる 復習：健康診断、学校環境衛生の問題に挑戦する	
第15回	保健教育	予習：教科書2を活用しながら自学をすすめる 復習：保健教育の問題に挑戦する	
	実施せず		

養護教諭開発演習

更新日：2024/02/28 15:09:55

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B118200	授業コード	
担当教員	渡辺 美恵 鷺野 嘉映 丹下 洋吾						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 養護教諭コース					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	1	
科目ナンバー	6L212	授業形態	演習	期待される学習成果	6		
コース別 必修・選択必修等	授業時間+自習時間		30+15				
	履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置	○	養護教諭として学校現場で勤務していた経験をもとに、教職に関する動向を踏まえた教員採用試験対策の指導を行う。この授業における学びは、教員採用試験において力を発揮することにつながる。					

授業概要

内容	教員採用試験対策を中心に、養護教諭としての基礎的な能力をさらに発展させ、養護教諭という職業への責任と使命感を再確認するとともに、意欲的に自己学習を進められることをめざす。
方法	専門科目と教職科目ともに講義内で学んだ内容の定着を図るため、確認テストを実施する。教員採用試験の過去問題の演習に取り組む。また、内容によって、ディスカッション、実技演習などにも取り組む。学習ノートは、期限を示しながら定期的に提出を求める。

到達目標

1	教員採用試験に向けて、養護教諭に求められる発展的な知識を説明することができる。
2	教員採用試験に向けて、養護教諭に求められる発展的な技術を使用することができる。
3	健康課題に対する判断力・対応力を磨き、専門職としての資質を高めることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	提出課題・授業に対する意欲と態度	20
到達目標②	提出課題・授業に対する意欲と態度	20
到達目標③	学習ノート	60
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	教員採用試験 ステップアップ問題集11 専門教科養護教諭	東京アカデミー	
2	Pass Line突破シリーズ 25年度一般教養30日完成	時事通信社	
3	Pass Line突破シリーズ 25年度教職教養30日完成	時事通信社	

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	専門教養Build Upシリーズ 25年度養護教諭の完全攻略	時事通信社	

オープンな教育リソース

オフィスアワー

【丹下】木曜日 10:40～14:00 1号館3階 研究室1

【鷺野】月曜日 12:10～12:55 研究室2-2

【渡辺】月曜日 9:00～12:00 研究室2-3

学生へのメッセージ

既習事項を確実に身につけること。養護教諭としての専門的な知識・技術の習得を目指して取り組むこと。

課題に対するフィードバック

提出を求めた課題は、コメントをいれてフィードバックさせる。また、学習ノートは、期限を示しながら定期的に提出を求める。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法

第1回	教員採用試験に向けてⅠ	予習：前期の学習について自己評価する 復習：教員採用試験に向けてのスケジュールを再確認する	
第2回	教職教養・一般教養試験問題を解く①	予習：教科書の問題に挑戦する 復習：講義で挑戦した問題の復習をする	
第3回	小論文の書き方の基礎知識① 志望動機の論述	予習：自らの志望動機を確認する 復習：講義で配布された資料に基づき復習する	
第4回	令和7年度教員採用試験問題を解く①	予習：教科書の問題に挑戦する 復習：講義で挑戦した問題の復習をする	
第5回	教職教養・一般教養試験問題を解く②	予習：教科書の問題に挑戦する 復習：講義で挑戦した問題の復習をする	
第6回	小論文の書き方の基礎知識② 教員採用試験小論文過去問題の論述	予習：志望する自治体の過去問題を調べる 復習：添削された小論文を完成させる	
第7回	教員採用試験に向けてⅡ：今年度の動向	予習：志望する自治体の試験日や内容を調べる 復習：志望する自治体の今年度の試験動向を調べる	
第8回	教職教養・一般教養試験問題を解く③	予習：教科書の問題に挑戦する 復習：講義で挑戦した問題の復習をする	
第9回	小論文の書き方の基礎知識③ 教員採用試験小論文過去問題の論述	予習：志望する自治体の過去問題を調べる 復習：添削された小論文を完成させる	
第10回	令和7年度教員採用試験問題を解く②	予習：教科書の問題に挑戦する 復習：講義で挑戦した問題の復習をする	
第11回	教職教養・一般教養試験問題を解く④	予習：教科書の問題に挑戦する 復習：講義で挑戦した問題の復習をする	
第12回	小論文の書き方の基礎知識④ 教員採用試験小論文過去問題の論述	予習：志望する自治体の過去問題を調べる 復習：添削された小論文を完成させる	
第13回	令和7年度教員採用試験問題を解く③	予習：教科書の問題に挑戦する 復習：講義で挑戦した問題の復習をする	
第14回	小論文の書き方の基礎知識⑤ 教員採用試験小論文過去問題の論述	予習：志望する自治体の過去問題を調べる 復習：添削された小論文を完成させる	
第15回	教員採用試験に向けてⅢ：教育時事 各県の求める教員像を知る	予習：文部科学省のHPを通覧する 各県の求める教員像を確認する 復習：教育時事についてまとめる	B
	実施せず		

ファシリテーション

更新日：2024/02/28 15:21:15

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B118300	授業コード		
担当教員	上井 靖							
備考								
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻						
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2		
科目ナンバー	3L211	授業形態	演習	期待される学習成果	3			
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60					
		履修条件・留意点						
実務経験のある教員による授業科目の配置								

授業概要

内容	ファシリテーション（facilitation）とは、組織（チーム）の活動を支援し、成果の質が上がるよう舵取りする総合スキルを指す。チームの力を最大限に引き出し、アイデア創造や合意形成を促進するためのファシリテーションを身に着ける。						
方法	ファシリテーションの各技法に焦点を当てた理論と実践						

到達目標

1	場のデザインのスキルを理解し実践できる
2	対人関係のスキルを理解し実践できる
3	構造化のスキルを理解し実践できる
4	合意形成のスキルを理解し実践できる
5	対話のスキルを理解し実践できる

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	レポート、振り返りシート	20
到達目標②	レポート、振り返りシート	20
到達目標③	レポート、振り返りシート	20
到達目標④	レポート、振り返りシート	20
到達目標⑤	レポート、振り返りシート	20
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	ファシリテーション入門<第2版>	日経文庫	堀公俊

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	ファシリテーション・グラフィック	日本経済新聞出版	堀公俊・加藤彰

オープンな教育リソース

オフィスアワー

授業終了後昼休み uwai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

社会人に必要なスキルであるファシリテーションを楽しく学んでください。

課題に対するフィードバック

・自学自習課題について、授業内で発表し、情報や意見の交換を行う。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	オリエンテーション ファシリテーションとは？個の力・チーム力	予習：シラバスを確認する 復習：ファシリテーションを学ぶ意義を見出して記録する	B

第2回	場のデザインのスキル① 場とは？場のデザイン	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
第3回	場のデザインのスキル② グランドルール、アイスブレイク ＊レポート提出	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
第4回	対人関係のスキル① 聴く力、フィードバック	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
第5回	対人関係のスキル② チームビルディング	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
第6回	構造化のスキル① ロジカルシンキング	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
第7回	構造化のスキル② フレームワーク ＊レポート提出	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
第8回	構造化のスキル③ 見える化・ファシリテーショングラフィック	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
第9回	合意形成のスキル① 発散、ブレインストーミング	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
第10回	合意形成のスキル② 収束、振り返り ＊レポート提出	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
第11回	対話のスキル① 対話とは？	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
第12回	対話のスキル② ワールドカフェ	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
第13回	対話のスキル③ オープンスペーステクノロジーなど ＊レポート提出	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
第14回	ジェネレーターのスキル Feel度 Walk	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
第15回	ファシリテーションの可能性を探る 振り返り ＊レポート提出	予習：教科書の関連ページを読んでおく 復習：要点や気づきを整理する	B
	実施せず		

マーケティング実践

更新日：2024/02/21 01:27:54

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3B118400	授業コード	
担当教員	岡本 純						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース					
	配当時期	2年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー		授業形態	講義	期待される学習成果	7		
コース別 必修・選択必修等	選択	授業時間+自習時間	30+60				
		履修条件・留意点					
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	製品・サービスを創造する活動がマーケティングである。企業を取り巻く環境は常に変化しており、企業もそのような状況の中で対応していくことが求められる。本講義では、企業のマーケティング活動の基本的な知識を理解したうえで、実際の企業のマーケティング戦略の成功例と失敗例を取り上げ、戦略立案の側面からマーケティングの理解を深める。具体的には、マーケティングにおける競争の戦略を基軸とし、4つのタイプに分け、それぞれの競争優位を勝ち取る戦略のセオリーを考察する。					
方法	前半は、テキストを中心に講義形式で進め、PPを使用して用語、考え方を理解する。後半では実際の企業のマーケティング戦略の成功、失敗事例について個人ワークやペアワークなどを採り入れ知識の共有を図る。					

到達目標

1	マーケティングに係る基礎的な学習から実際の企業のマーケティング戦略を通して、自身をとりまく企業活動のマーケティングを深く知ることができる。
2	私たちの身の回りの企業についての製品、価格、場所、販売促進活動を通して世の中の仕組みを理解することができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	授業毎のリアクションペーパー（小テスト）	50
到達目標②	レポート課題	50
到達目標③		
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	マーケティング・オン・ビジネス	新世社	有馬賢治・岡本純

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	マーケティング論	五紘舎	岡本純・脇田弘久
2	現代のマーケティング論	ナカニシヤ出版	加藤 勇夫 / 宝多 国弘 / 尾碕 真

オープンな教育リソース

オフィスアワー

pteacher-tandai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

授業中は、積極的に質問するので、「考える」こと、「発言する」ことを恐れず、積極的な授業への参加を期待する。
予習・復習・授業中に分からなかったところは、積極的に質問し必ず理解をしておくこと。
パソコン、TeamsなどのICT（情報通信技術）を積極的に活用して授業にのぞむこと。

課題に対するフィードバック

- ①授業毎のリアクションペーパーについては理解が深まるようにコメントうなどを入れたり重要な個所を再確認するなどしてフィードバックする。
- ②授業内の課題について、授業内で発表し、情報や意見の交換などをおこなう

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニング

			グの実施方法
第1回	マーケティングのアウトライン	予習：テキスト第1章（P1～P15）を読み込み、わからない語句等を調べ内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第2回	企業活動とマーケティング	予習：テキスト第2章（P16～P30）を読み込み、わからない語句等を調べ内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第3回	競争とマーケティング	予習：テキスト第3章（P31～P48）を読み込み、わからない語句等を調べ内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第4回	マーケティング環境	予習：テキスト第4章（P49～P65）を読み込み、わからない語句等を調べ内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第5回	マーケティングプランニング	予習：テキスト第5章（P66～P78）を読み込み、わからない語句等を調べ内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第6回	プロダクトデザイン	予習：テキスト第6章（P79～P93）を読み込み、わからない語句等を調べ内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第7回	ブランディング	予習：テキスト第7章（P94～P108）を読み込み、わからない語句等を調べ内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第8回	コミュニケーション・デザイン	予習：テキスト第8章（P109～P124）を読み込み、わからない語句等を調べ内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第9回	マーケティング・チャネル	予習：テキスト第9章（P125～P139）を読み込み、わからない語句等を調べ内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第10回	プライシング	予習：テキスト第10章（P140～P158）を読み込み、わからない語句等を調べ内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A
第11回	企業のマーケティング戦略の成功事例（製品開発）	予習：配布プリントを読み込み、内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A、C
第12回	企業のマーケティング戦略の失敗事例（チャネル開発）	予習：配布プリントを読み込み、内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A,C
第13回	企業のマーケティング戦略の成功事例（プロモーション）	予習：配布プリントを読み込み、内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A,C
第14回	企業のマーケティング戦略の失敗事例（価格戦略）	予習：配布プリントを読み込み、内容を理解しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、リアクションペーパーを提出する	A,C
第15回	マーケティングについての全体討議、レポート作成	予習：テキストを読み返し、理解ができていない内容を読み返しておくこと 復習：講義内容の理解度を確認するために、マーケティングに全体についてのリアクションペーパーを提出する	A
	実施せず		

メディア実践

更新日：2024/01/24 17:39:31

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3B118500	授業コード	
担当教員	草野 圭一						
備考							
配当	学部/学科	短期大学 短期大学 生活学科 生活文化専攻 オフィス総合コース					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	
科目ナンバー	5L211	授業形態	演習	期待される学習成果	5		
コース別 必修・選択必修等	コース必修	授業時間+自習時間	30+15				
		履修条件・留意点	スマートフォン、パソコンを使用するので持参すること				
実務経験のある教員による授業科目の配置							

授業概要

内容	あらゆる情報が多種多様な方法で発信・受信が可能ななかで、メディアの役割は重要な位置にある。本授業はメディアの役割を考え、情報を整理しわかりやすく伝えるための思考と表現方法を学ぶ。
方法	情報のまとめ方、静止画や動画の撮影、編集の基本を、身近にあるスマートフォンやパソコンを使用し作品を制作する。作品を制作していきながら、発表や意見交換、グループディスカッションにより情報をどのように共有していくか、メディアの役割についての考えを深める。

到達目標

1	情報を整理しまとめる力を養うことができる。
2	静止画や動画の撮影、編集といった表現方法を習得できる。
3	多角的視点を持ち、メディアの役割について思考を深めることができる。

評価方法

	評価方法	割合
到達目標①	作品制作への取り組み、作品	30
到達目標②	作品制作への取り組み、作品	30
到達目標③	作品発表、レポート	40
到達目標④		
到達目標⑤		
到達目標⑥		

教科書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

参考書

	書籍名	出版社	著者
1	なし		

オープンな教育リソース

オフィスアワー

前期 金曜日 1限前後

問い合わせ先：pteacher-tandai@mizuho-c.ac.jp

学生へのメッセージ

普段自分自身が情報を得ているツール（SNSなど）に対し、異なる視点から見たときどう見えるのかを想像してみる。

課題に対するフィードバック

提出作品を授業内で講評する。

授業計画

授業回	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
第1回	メディアについて考える	予習：授業の内容を確認する	A

	パソコンなど端末機器類の作業環境について	復習：講義内容を意識して情報を読んでもる	
第2回	情報のまとめ方：図解・静止画・動画の活用について	予習：普段どのように情報を得ているかを確認する 復習：講義内容を意識して情報を読んでもる	
第3回	課題1「紹介する」：制作側の視点を持つ	予習：自分が撮影した静止画や動画を見直す 復習：制作を深める	
第4回	課題1の発表：様々な視点、表現について	予習：発表内容を確認する 復習：他者の視点、表現を自分ならどうするか考えてみる	A
第5回	撮影技法1：静止画の撮影と編集について	予習：静止画編集ソフトを調べる 復習：学んだ技法を試みる	
第6回	撮影技法2：動画の撮影と編集について	予習：動画編集ソフトを調べる 復習：学んだ技法を試みる	
第7回	課題2「ストーリーを考える」：動画制作の流れと組み立て方を知る	予習：ストーリー性を意識して動画（映画・TV・配信等）を見してみる 復習：制作を深める	
第8回	課題2の制作：各自制作を進める	予習：制作計画を立てる 復習：制作を深める	
第9回	課題2の発表：様々な視点、表現について	予習：発表内容を確認する 復習：他者の視点、表現を自分ならどうするか考えてみる	A
第10回	デザイン要素：色、文字、レイアウトについて	予習：普段目にしているモノの見やすさとは何かを意識してみる 復習：講義内容を意識して情報を読んでもる	
第11回	課題3「問いを立てる」：テーマに沿った動画表現をグループワークで試みる	予習：日常生活の中で疑問に思うことや気になることを書き出す 復習：制作を深める	B
第12回	課題3の制作1：情報を収集し整理する	予習：制作計画を立てる 復習：制作を深める	B
第13回	課題3の制作2：各グループ制作を進める	予習：制作計画を立てる 復習：制作を深める	B
第14回	課題3の発表：様々な視点、表現について	予習：発表内容を確認する 復習：他者の視点、表現を自分ならどうするか考えてみる	A
第15回	まとめ：メディアの役割について考えを深める	予習：これまでの授業を通して疑問点をまとめる 復習：学んだことをレポート制作を通して自身の考えに落とし込む	B
	実施せず。		